

挹翠軒遺稿  
訥齋先生集  
批選龜峰先生詩集

奎章閣

奎章閣叢書第三

挹翠軒遺稿  
訥齋先生集  
批選龜峰先生詩集

京城帝國大學法文學部

昭和十二年七月七日印刷  
昭和十二年七月十日發行

（奎章閣叢書第三冊 拙翠軒遺稿 附  
劉澗齋先生詩集 批選龜峰先生詩集）

# 京城帝國大學法文學部

印刷所 京城府蓬萊町三ノ六二  
朝鮮印刷株式會社

## 小引

### 挹翠軒遺稿

挹翠軒遺稿四卷、正祖十九年乙卯命して順川に於て付刊する所、王親ら序を冕す。挹翠軒朴闇の詩文集なり。

挹翠軒集は之より先既に初刊及再次の重刊あり。初刊は朴闇の歿後中宗卽位の後、心友容齋李苻遺什を蒐輯して一冊となし、挹翠軒遺稿と題して灾木せるもの、容齋自ら序を撰す、友情惻々人を動かすものあり。但し其書は未だ寓目するに及ばず。恐らくは既に湮びたるならん。宣祖、光海、仁祖の長き亂離を經、孝宗となり、吳竣、趙錫胤、蔡裕、後朴長遠及鄭斗卿の五名士、挹翠軒集の傳はるもの幾くもなく、久しからずして人間復た之を見る能はざるに至らんことを憂へ、相議し懇書を全南監司沈澤に送りて其の重刻を囑す。澤快諾し、完山に於て業を訖へ、鄭斗卿序を撰す。時に吳竣は禮曹判書、趙錫胤は吏曹參判、蔡裕後は大提學、朴長遠は承旨たりしこと、鄭斗卿の序

文に徴すべし。實錄に據れば、孝宗三年三月沈澤全南監司となり、四月蔡裕後大提學となり、七月趙錫胤吏曹參判となり、八月朴長遠承旨となる。而して其年十月五日には既に趙錫胤は護黨の咎に依りて杆城に遠竄せらる。故に挹翠軒遺稿の重刻せられしは孝宗三年八月か九月の事となる。而して此書亦た未だ觸目するに至らず。然るに此の重刻本亦年所を經るに從て漸く稀觀となり、有心者をして歎せしむ。俞得一其の知舊鄭弘佐の統制使として赴任するや懇託するに挹翠軒集再重刻を以てす。鄭弘佐之を諾す。是時詩文各々其類に從て之を改編し、且つ新に聯句の散落せるものを拾收して卷末に加へ、詩一卷文一卷となし、寫字官をして寫さしめ其業を畢ふ。時に己丑年なり。俞得一序を冕す。實錄を検するに、俞得一は肅宗朝の人にして其の卅五年己丑六月八日には戸曹判書に任せらる。然らば則此書灾木干支己丑は正に肅宗卅五年となる。但し鄭弘佐は何處の統制使なるか考なく、從て何地に於て工を成せるや知ること能はず。是れ今傳はる一冊本挹翠軒遺稿なり。弘齋正祖大王は朝鮮三朝歷王中隨一の尙文又能文の主なり。其の春邸在時嘗て弘文館所藏の舊籍を閲して挹翠軒遺稿所收の外彼の詩の散見するあるを見、得るに從つて之を寫し

類に循りて遺稿に加ふ。増す所賦一・五言古詩三・七言絶句十七・五言律詩一・七言律詩六・聯句七なり。新に卷を分ちて四卷となし。王親ら序文を撰し。平安道順川に於て工を成さしむ。實に其の十九年乙卯なり。是れ増訂挹翠軒二册本にして即本書なり。挹翠軒集是に於て完成す。亦弘齋王の輝かしき前代名著保存事業の一なり。

挹翠軒朴闇字は仲説、高靈の人、聃孫の子なり。成宗十年己亥生る。幼にして神秀眉眼書くが如く、四歳讀書を知り、八歳略ぼ大義を解し、十五にして文章を能くす。宰臣申用漑見て之を奇とし、女を以て妻はす。燕山二年丙辰文科に及第す。十八歳なり。特に暇を給はりて書を湖堂に讀む。承文院權知弘文館正字を経て修撰に進み、嘗て千秋使に隨つて燕京に赴きて華音を質す。主の經筵に侍すること五年、頗る直言を以て振ふ。然れども時主は彼の荒暴、滌亂の燕山君にして、秕政百出窮極なく、而して之を言ふ者皆罪せらる。獨り奸孽柳子光時を得主を誤まる。彼同僚と共に上疏して其の佞邪を斥言し、王の激怒に逢ひ、獄に下され、纔に刑を免る。彼深く世相の險を感じ、官を辭して廬を南山山下に結び、専ら詩酒山水の間に意を肆にす。二年にして復た學職に就き、翌年甲子知製教となる。是頃燕山の暴淫其極に達し、就中田獵に耽り、虎猪

を郊外に逐うて夜を徹す。遂に宰臣洪貴達等上疏して拒諫と打圍とを痛言す。燕山大に怒り、前後事を言ふ者皆一網打盡に重罰に處す。所謂甲子の慘禍是なり。彼亦東萊に謫せられ、未だ百日ならずして復た京獄に繋がれ、諫疏首發の一人として刑せらる。六月十五日なり。臨刑神色變せず、天を仰いで大笑するもの三度。享年二十六歳。後三年中宗即位するや、都承旨を追贈せられ、子孫世々官あり。友人李苻墓誌銘を撰す。

挹翠軒當時第一の青年作家を以て、共に詩酒徵逐する者李苻容齋南袞止亭洪彦忠寓庵等あり、集中容齋に寄する什最多く、止亭之に次ぎ、其の交誼の厚きを見る。容齋寓庵も亦彼と共に甲子慘禍の籍に入り、幸に死を免る。然れども後中宗己卯士禍作りて儒者趙靜庵等七十餘人一時に酷禍に罹るや、南袞實に其の謀首にして、容齋は靜庵等と合はず、反りて時を得て丁亥年には左議政となる。蓋し止亭容齋は所謂文士派に屬し、靜庵濯纓等の道學派と合はず、對立の形勢を成せるなり。爲に容齋其人も後道學全盛の世となるに至りて或は儒者によりて指斥せらる。挹翠軒も若し免れて壽己卯に及ばば果して何づれに黨せしならん。

挹翠軒の詩は彼が未だ而立に至らざること四年にして早世せるが爲に、猶圓熟大成期の作を遺すなしと雖、天才の光彩絢爛陸離として李朝五百年及ぶ者なしと稱せらる。固より詩の月旦は人各々好む所あるが故に容易に一致を見ること難しと雖、大體に於て公論此に歸すと謂ふを得べし。彼は範を宋詩に取る。當時にありては寧ろ異數なり。國初以來唐を學びて行詰らんとする朝鮮の詩道彼に由りて一度大に打開せらる。恐らく詩人としての天分を言へば朝鮮古今彼に及ぶ者なかるべし。挹翠の詩は李朝文學の大なる誇りの一なり。李雅亭の嬰處雜稿一に曰はく

詩推挹翠軒爲第一、是不易之論。

雅亭詩學深邃一時品藻の秤衡なり。以て全體を掩ふべし。

## 訥齋先生集

文簡公訥齋朴先生文集、原集七卷、續集四卷、別集一卷、附錄二卷、附集二卷、原集續集及別集は朴祥の詩文を收め、附錄は其の行狀遺事を載せ、附集は祥の兄禎、及祥の弟祐、祐の子漑、祥の子敏中の詩文を收む。



原集は第六峰祐が編輯する所。之を朴祥の詞友林億齡石川に託し、當時石川の任所錦山に於て附刊す。明宗二年丁未なり。六峰序を冕す。

續集は文谷金壽恒の肅宗元年乙卯靈巖謫裡編輯する所。原集と合して肅宗十年甲子全羅監司李師命に託して全州に於て灾木せしむ。然るに工未だ全く成らずして己巳の士禍起り、老論派の名人多く禍に罹り、工亦停頓す。後十年崔奎瑞全羅監司となるや工を繼いで終に之を訖ふ。是特別に祥の兄禎及第六峰祥の子敏中六峰の子溉の詩賦若干篇を編末に附刻す。附集是なり。文谷の子農巖昌協跋を撰す。蓋し壬辰の亂後文籍多く蕩盡し、訥齋集も亦讀書子の寓目すること至難となれり。事は沈守慶の遣閑雜錄に出づ。彼は唯だ訥齋の忠州の牧たりし時作る所の七律三首を傳録するのみ。文谷仍りて之を重刻せんとせるなり。

然れども年寢く久しうして文谷の重刊本亦漸く稀觀に屬せんとす。仍りて正祖弘齋王其の十九年乙卯、特に全羅監司徐鼎修に命して全州營に於て再次之を重刊せしめ、板を光州の明倫堂に藏す。憲宗七年辛丑此板燬く。翌々年憲宗三次の重刻を光州牧使趙徹永に命す。是特別に卷首別編若干葉を附し、又端敬王后復位疏行狀三印

臺碑文、徳山書院、月峰書院、享祀祝文を輯めて附録二卷となし、又原續集に逸せし所の詩文を拾遺して別集一卷となし、又初次の重刻の附集に漏れたる六峰及敏中の詩文若干篇を添加し趙徹永凡例を撰す。

本書は第三次重刻光州本に憑れるものなり。初刊重刊、再次重刊共に猶未だ觸目するを得ず。原本は正祖朝完營本の覆刻にはあらざるが如く、書體佳ならざるのみならず、往々魯魚の愆あり、善本と謂ふ能はざるを遺憾とす。

朴祥字は昌世、訥齋と號し、又自ら鳳山居士と稱す。忠州の人、父智興、成均進士。成宗五年甲午生る。幼にして英爽拔群、少時孤となり、主として兄禎に従て學ぶ。燕山七年辛酉文科に及第す。廿八歳なり。中宗朝に至りて司諫院獻納に調せられ、直言を以て執政に惡まれ、補外せらる。六年辛未、玉堂修撰に轉し、又應教に陞せらる。文名噴々たり。幾くならずして親齡高きを以て歸養を乞ひ、郷里光州に近き潭陽府使を得、治をなすこと二年、清勤を以て聞え、王特に褒賞を賜ふ。十年乙亥、章敬王后上賓し、妃位定まらず、時災屢至る。王廣く直言を求む。彼心交淳、昌郡守金淨と共に封事を上りて廢妃慎氏を復位せんことを請ふ。慎氏は守勤の女、中宗の糟糠の妻にして、琴瑟最相和す。

但だ父守勤は燕山時代主の暴を助け勢に乗して跋扈專横世の指彈を受け、主廢せらるゝと同時に擊殺せらる。仍りて中宗迎立の元勳朴元宗等強いて愼氏を離別せしむ。愼氏婦徳あり、有心者之を哀む。是に至りて彼の封事到る。時に李荇容齋大司諫たり。論駁して曰はく、章敬王后は元子を産みて昇遐す。若し愼氏を復位し後王子生まるゝあらば、愼氏は章敬の前の正妃なるが故に今の元子を如何になすべきかと。議遂に用ひられざるのみならず、彼反りて獄に下され、刑一等を減せられて南平の烏林驛の奴に配せらる。十一年丙子放宥せられ、其の翌年順天府使に拜せらる。既にして己卯の士禍起りて儒林多く禍に罹る。彼の心交大抵此中に没す。彼上書言ふ所あらんとして子弟親戚の切諫に依りて遂に其草を焚き、幸に禍網を免る。後尙州、忠州の牧を歴、廉能を以て褒賞せられ、廿一年丙戌重試に壯元となり、堂上階に陞せらる。晩年羅州の牧となり、上司に得ず、辭して郷に還り、病を得、遂に起たず。廿五年庚寅四月十一日なり。享年五十七歳。後吏曹判書を贈られ、文簡と諡せらる。

朴祥、僞大志あり、朝に立ちて風操凜然、古直臣の遺風あり。其の忠州に牧たるや、己卯の儒士の落郷せる者、彼の庇護に依りて生理をなせる者、金世弼、李延慶、李紆、金安

國等少からず。彼の慎氏復位の論は爾後儒者の支持を受け、肅宗の戊寅朝廷の議に上りしが猶決せず。英祖十五年己未に至りて再次朝議に上り、王之を衆議に詢ひ、一縣令の外皆之を可とす。乃ち端敬王后と追尊し、禮官に命じて復位の儀節を舉行せしむ。是に至りて彼益々士論に重せられ、歴代名臣の上列に伍す。

朴祥の當時、所謂己卯儒士の一派は其の政治論の極めて理想的にして時流と合はざるのみならず、文章にも亦専ら文は西京詩は盛唐と稱し、彼の屑々として宋を學ぶを以て流俗となす。朴祥は金淨と共に是派先達の一人なり。少時より百家を博覽し、既にして唐詩より遡りて文選楚辭、毛詩に沈潜し、恍然自得する所あり。其の作古氣森然、骨力雄剛と稱せらる。然れども訥齋の詩の洽く、斯界に認識せらるゝに至りしは弘齋正祖王の月旦に依るもの多しと謂はざるべからず。王は夙に訥齋の人物を悦び、又其詩の能く人力の到處を極めしを品藻し、居常文臣に語りて當に搥翠軒と匹敵并鑣すべしと謂ひ、其の評弘齋全書日省錄文學篇に屢出す。故に王は特に命じて訥齋集を光州營に於て重刻せしめしなり。或は沈鬱と云ひ、或は清高淡泊と云ひ、或は奇傑遒麗と云ひ、或は神爽鑪錘と云ひ、或は俗眼を以て看れば其好處を知る

能はずと云ふ。殊に

訥齋詩結構緻密。乍看艱晦難知。而久看其味漸雋。

と云ふに至りては王の如何に訥齋の詩を反覆熟玩せるかを證す。吾人は訥齋の詩と弘齋王の文と其の味一脈相通するものあるを感す。共に咀嚼し熟讀して始めて通するを得。訥齋の詩は朝鮮詩人の作中最艱晦なるものに屬す。吾人は朝鮮の博識家の此に注釋を施す者なかりしを遺憾とす。彼の詩の全部の快通は蓋し至難なり。然れども但だ其の必ずしも艱晦ならざるものに就いて玩味するも、彼が鬱然たる大家たるを知るに足る。其の苦心會得せる所唐以上にあるか。其の賦の瑰瑋壯麗なるも亦是が爲なり。彼の弟六峰訥齋原集に序七中に彼の詩を説いて曰く

非深於風雅騷李杜者、則難能會訥齋之詩矣。

と蓋し眞知の語なり。

### 批選龜峰先生詩集

批選龜峰先生詩集五卷、沈宗直の編する所、龜峰宋翼弼の詩集なり。宗直字は士敬、

竹西と號す、青松の人文科に及第し、官參議に至り、詩に名あり、金長生、徐潛、鄭暉、柳舜翼等と俱に龜峰門下の上足と稱せらる。又成牛溪の門にも遊ぶ。但し竹西の詩、今傳はるものなきは惜むべし。本書は龜峰歿後二十三年、光海君十四年壬戌、竹西鴻山縣監たる時、上木する所、同門の鄭暉之に序し、同じく金長生及申欽之に跋す。

龜峰宋翼弼字は雲長、礪山の人、高陽郡龜峰山下に居るが故に學者之を稱して龜峰先生と云ひ、其の知舊亦呼ぶに龜峰を以てす。祀連の子、中宗廿九年甲午に生る。幼より英發蚤歲にして、弟翰弼と共に初試に第す。父祀連は天文學の出身、中宗朝の大、臣安塘の父の婢の所生にして、安氏の家之を視ること、家族の如くす。然るに中宗の十六年辛巳、祀連は妻兄鄭錡と圖りて、安塘の子處謙は某々等と謀りて、大臣を害せんとすと密告す。所謂辛巳告變なり。爲に安氏及其親善者赤族せられ、祀連は功を以て僉樞に叙せられ、沒籍者の土田を賞賜せらる。然れども士類は之を視るに、奸佞邪豎を以てし、肯て齡せず。明宗丙寅に至り、安氏伸冤せられ、士論大に快となす。故に龜峰兄弟も志を世に得ること能はず。退いて高陽の龜峰山下に廬して、専ら講學授徒し、李栗谷、成牛溪と心交を締す。既にして黨論岐るゝや、彼専ら栗谷を援くるが故に

東人に憎まれ、栗谷の歿後益々甚し。安氏の遺族之に乗じて世讐を逞うせんと欲し、陳疏百方す。宣祖遂に彼の家を奴籍に還し、又彼兄弟を極邊に流す。壬辰の亂後、熙川の謫所より明文山中に避け、翌年放宥せらる。然れども戰亂未だ熄まず、安氏の宿怨猶霽れず、彼流離鎖尾知舊門人に托して、纔に生命を保つ。知舊門人争うて館待し、學徒亦來集す。沔川の金進礪の家に寓して、病を得、遂に起たず。宣祖卅二年己亥八月八日なり。享年六十六歲。後英祖廿八年壬申正月に至り、老論の勢家たる禮曹判書李益姪兵曹判書洪啓禧の啓に因りて、徐起と共に司憲府持平を追贈せらる。實に彼歿後百五十年なり。老論にありては、彼を以て先正名賢の一人となす。

龜峰蚤歲詞垣に出入し、文名揚り。時に李山海、崔慶昌、白光勳、崔崧、李純仁、尹卓然、河應臨と八文章の稱あり。又栗谷、牛溪と性理の學を講究し、學徒三門に出入し、門下英雋少からず。彼歿するや、竹西其詩の湮滅せんことを憂へ、拮据之を兵火飄散の餘に蒐輯し、詩を得ること、五言古詩十三首、七言古詩二首、五言律詩七十六首、五言排律五首、七言律詩五十五首、五言絕句十三首、七言絕句五十首、以て四卷となし、外に外錄として五言律詩十二首、七言律詩六首、五言絕句四首、七言絕句二十五首を加へ、第五卷と

なす。外録は正録の結集後更に拾遺したるものなり。是等の詩には每章竹西の品評を挿す。竹西の能詩を以て先師の遺什を評す。語々句々淨潔警發由りて以て詩趣を長すること甚多し。題して批選龜峰先生詩集と云ふ。

本集成りし後百四十年英祖卅八年壬午、金長生の六代孫金相聖、龜峰先生集十一卷を結集刊行して、金長生以來の宿債を果す。詩集二卷、雜著一卷、書二卷、禮問答一卷、家禮註說三卷、附錄一卷、雲谷集一卷、弟翰弼の詩文集、是なり。此の雜著及書等は龜峰の子就大の拾收して之を藏し、龜峰命して金長生に托せしめし所、詩集も龜峰の本草に據りて存刪を加へざりしものなり（金相聖龜峰先生後序）。されば本書の編者竹西は猶龜峰詩集の本草を見るに及ばざりしなり。龜峰集の收むる所の詩は、四言一首、五言古詩廿八首、五言絕句卅九首、七言絕句百廿三首、五言律詩百卅九首、五言排律八首、七言律詩百首、七言排律三首に上る。然れども予の見る所を以てすれば、龜峰の詩其の佳なるものは略ぼ皆本書に在りて之を網羅すと謂ふを得べく、又竹西の批評の加はるありて錦上更に花を添ふ。曩に大正五年韋庵張志淵が大東詩選十二卷を編選するや、龜峰にありては五言絕句一、七言絕句三、五言律六、七言律七、七言古詩一



を載せ皆本書より取る。亦具眼と謂ふべし。龜峰集の詩篇の文字本書と相合せざるもの尠からず。今一々欄外に記せり。南壺谷の箕雅と異なるもの亦然り。

龜峰の詩鄭曄申欽本書の序跋に於て盛唐の調情と宋の理義とを兼ねとなす。是れ確評なり。宋時烈の墓碣には遙に李太白に瓣香すと謂ひ、李雅亭の嬰處雜稿には瀛洛を帯びて色香を神化すと評す。蓋し明宣朝は朝鮮詩學の最振へる時代に屬し而も唐詩を學びて略ぼ其神を得るに至れりと稱せらる。彼の崔孤竹慶昌、白玉峰光勳、李蓀谷達三唐の出でしは卽是時なり。龜峰一時孤竹、玉峯と並べ稱せらる。龜峰の詩は予の最好む朝鮮詩の一なり。

昭和十二年二月廿日

於白岳山房  
高橋  
亨

挹翠軒遺稿



御製  
題增訂挹翠軒集卷首

詩者樂之餘也於詩可以攷樂夫詩思然後積々然後流々然後發故溫雅以廣文興喻以盡象慧竅通而聲調渾然天成真機返而格律犁然心契此詩之本也自詩之弊其思也規撫前人其發也掇拾陳跡竊々以浮音切響籟合乎排比之間而曰此詩也此而爲詩千古亦今也百粵亦燕也又惡知緣飾之終假而性情之不在是乎挹翠善於詩有國風之遺響爲東方絕學之倡而予特愛挹翠之於詩倘庶乎詩之本挹翠軒者故校理朴闇之號也大抵後世之名能詩者類皆標高揭已自謂執耳於騷壇獨挹翠之爲詩即挹翠之詩而已於是沉潛聲調咀嚼格律以及乎之思也之發也則其精神之所感召造化之所融脫勿忘勿助積之而不厭無固無滯流

之而不息如朱絃之疏越大羹之不致是果孰使之然哉意者作之者亦不知其所  
以作乎集本一卷嘗閱弘文舊籍見天磨蠶頭錄多有原集所不載者悉加采輯釐  
爲四卷夫樂之弊也久矣林放問禮之本而聖人大之予於斯卷亦云

是集之增訂在予春邸時尙留銅龍講篋聞其後孫作宰嶺縣用五山集印頒之  
近例命道臣刊行亦可謂有時存焉

上之十九年乙卯陽月之望資憲大夫吏曹判書兼同知 經筵成均館事 奎章

閣提學臣沈煥之奉

教謹書

# 挹翠軒遺稿總目

## 卷一

賦增一

四言一

五言古詩〇四增十七三

## 卷二

七言古詩六二十

五言絕句五

七言絕句增十六七〇

總目

卷三

五言律詩

○五增十三

七言律詩

○五增十二

聯句

○二增七

卷四

記一

祭文一

行狀四

附錄

墓誌銘

墓表

序  
三

挹翠軒遺稿總目終

總  
目





# 挹翠軒遺稿目錄

## 卷一

賦

次李白惜餘春賦增

四言

呈止亭

五言古詩

韓退之詩曰求觀衆丘小必上泰山岑分韻爲詩送李擇之朝燕之行首五

送安善之以質正官朝燕

用擇之前寄詩韻以記昨日之事呈士華兼示擇之求和教今在閑散庭戶寥  
落無一事相關唯有詩史可娛可能數引吾輩以諷詠心懷乎

奉和止亭先生

次韻題中朝鄉貢進士張定庵宗魯和別安善之詩後邀士華擇之同賦  
和擇之

金藏窟途中用擇之韻

宿金藏窟增

靈通寺記興

知足庵

曉起性海窟追記昨日之事增

登普賢峯用擇之韻

哲師欲還作詩寄雄首座增

辛亥自可輿移舟

舟過黎浦風雨暴至急棹過惡灘泊舟

癸丑移舟<sub>首二</sub>

雨止風勢猶怒不可解纜泊豆彌

甲寅解纜

霖雨十日門無來客悄悄有感於懷取舊雨來今雨不來爲韻投擇之乞和示

<sub>首七</sub>

七月既望與士華擇之泛舟蠶頭下占語韻各賦

前年六月廿一日夜擇之與僕同直玉堂有聯句數篇今年七月同遊蠶頭還

以聯句藁爲寄兼長句還和其韻

藏魚寺橋上中秋翫月用擇之韻

十月之望與擇之復遊蠶頭下占霧韻各賦

二十五日風雪甚惡閉戶獨臥山陰之興不可禦也而無騎難以自致又未有酒醪可以自慰問承擇之遺詩相要亦未如之何悒悒不樂家人忽謀酒來日已昏矣挑燈獨酌瓶空乃已醉中爲詩用記一時契濶之語非君不堪相示也

正月十九日與擇之飲止亭明日爲詩戲贈止亭兼奉容齋

昨飲萬里瀨劇談古今事扶醉而還夜半酒醒懷抱耿耿吟成古體詩七首呼燈書之明日投容齋以答前日七篇之惠

二十七日泛興陽浦晚登亭縱飲首二

二十九日出獵

九月生明之夜與誠之飲翠軒忽披容齋稿見第三詩有欲廢詩酒之語感而作詩因竝和其三詩囑誠之把筆書之時誠之失解

秋來與擇之相見益不數尙能與村巷故人爲菊花飲泥醉旬日甚可樂也夜中醉臥頗憶容齋學士感歎之間吟發成韻取燈書之

## 卷二

### 七言古詩

頃擇之惠我燕墨士華又惠官楮寒家一朝遽聚二寶爲幸難喻聊述長句致

謝意於二君而又從士華求臨池退毫不已贖乎

次韻呈士華詞伯兼示李擇之

次士華韻題李浩叔遊伽耶山錄後

與止亭夜赴容齋宿明日得詩一篇奉簡二君求和教

同擇之遊士華北園

東江書示擇之

宿觀音窟

夜宿神勒寺乘月飲壁塔下

宿葛山

癸丑移舟

舟次豆彌遇疾風暴雨舟不能進二首

廣津渡風雨甚惡力棹泊三田渡晚來波濤稍安乘月下楮子島宿狎鷗亭下

曉到漢江下岸

同遊李永元得近律一篇有今日蠶頭飲當年赤壁遊之句各占韻十首

題蠶頭錄後

七月廿五風雨甚急擇之折簡報云吾家釀熟可來一醉否僕促駕赴之善之亦來劇飲至夜乃罷明日寄此詩  
容齋先生止酒養明對菊不敢舉盃感歎有寄依韻和答

五言絕句

萬里瀨首二

昨日余從寓庵飲夜濺乃還擇之已先待于翠軒余醉甚不能對話擇之獨徘徊於黃花青竹之間留詩掛花枝曉鼓乃去明宵余酒醒菊間得詩寂寂發孤笑因次韻投擇之謝余之慢首三

七言絕句

送擇之朝燕首二

擇之前以唐棧遺我曰得詩一一見寄僕趨衙甚忙顧安有所得今朝偶成二

絕錄奉求教

士華前枉翠軒讀屈平賈生傳觀可度之書仁叟之詩數日絕無一句來起我雖云吏曹文墨亂其心清晨寂夜願無興乎是似太俗也朝奉清話乘雨而還偶得小詩奉呈但人不先我我輒冒之無亦過乎

洛河渡頭嶺上

記語增○  
六首

遊遮日巖增○  
八首

題壁增

夜飲性海窟前嶺枕占韻各賦增

庚戌自金灘放舟宿可興倉下增  
四首

約擇之同扣萬里瀨先簡一絕

容齋先生身雖繫於簪笏神未嘗不遊湖海之外夢之所發固有自也賤生十年塵土劇被憂患所困寸心灰死久矣豈復有一興夢中之人恐非我也聊依

原韻奉叙鄙懷增  
二首



今日竟夕獨臥姆憐之覓酒以饋對之不勝悲感輒書一絕以洩懷想擇之知我此時之情故書以相示

以烏几遺容齋

連夜失良月可恨可恨輕雲不雨清吹滿林可對臥一話君不能來我雖欲進無騎奈何送鞍馬則可進聞白擇之

次虛庵書贈韻增

## 卷三

### 五言律詩

舟中望神勒寺

癸丑移舟

山人行熙自神勒寺同載到廣津上下舟向檜巖臨別求詩書以與之

投容齋首二

六月十八夜與擇之善之宿興天寺擇之入夜乃赴蓋以官事自漢江來也首三  
七月四日夜與善之飲擇之家明朝遣以一詩

依靈通舊令首七

雨中感懷有作投擇之兼簡善之容齋酒熟曾有對床之約風雨可相負乎詩

用夜飲韻首二

題翫月錄後

雨中有懷擇之

翠軒夜飲明日擇之惠詩和奉

送李希剛以評事赴咸鏡北幕

頃宵不眠聞雪沉吟得之朝欲錄奉爲人事所困不自省記今曉酒醒恍然在

懷仲紙一揮馳奉擇之學士

既無馬又無酒有興不乘舐滾閉耳擇之能成我興耶蠶頭雖未尋欲一踏漢

水也

萬里瀨首二

對月有感寄擇之盍來同一觴乎

獨坐益使懷惡速來同此一觴雖無棒一觴可供

昨訪直卿還叙懷一律

曉望

曉坐

以雙竹盆寄容齋

寄山人惠枕

雨中被酒懷發爲詞聊復書呈擇之

與君阻已數日百年事已可知也益無一懷湏見叔達道我意幸甚僕曾與相

見煩未能出口吾計益踈奈何奈何闇白擇之

夜來無一寐自念百年事懷抱耿耿又料君進退實難想同余不眠取酒一酌

醺然因記舊韻輒成短律遲明投擇之足下

夜來被酒獨臥風雨中思轉無聊補外之計尤耿耿往來於懷所謂發於夢寐

者寧非然耶近日與君不見殊久世事益可笑也燈下醉書闇白擇之

讀詩未能下懷世間茲計從來難遂況天不曾饒吾輩耶僕憂患之後所慮益萬萬尤不願留近頃見叔達謀我堤川事世多以吾爲累人恐不能遂秬觸其厭欲觀叔達意使士華圖之也滿在近日故云聞白擇之

夜還被酒家僮進短簡乃擇之詩也伸紙一讀取筆書數句戒家僮待明報之九日簡擇之

宿三田渡

僕世故多不快意雖有秋花未能解余懷對之秬益自悲酒亦不可飲也故此奉投病眼尙一明如君之亦覆觴何此花可謂厄耳聞白容齋先生

容齋對菊與擇之同賦

首三

擇之辭病之計已得遂否聊以短詩相問

直卿尙抱舊病擇之養眼不出文酒之會日益寥落今朝對雪憂感忽至聊題五字一伸鄙懷奉贈二君

夜坐感懷和容齋學士立春見寄

首二

奉和擇之學士人日見寄

聞誠之得第甲子閏月廿七日雨中仲說被酒書于東萊謫舍首三

贈止亭增

### 七言律詩

將赴容齋夜話先簡一詩冀轉示止亭寓庵昨日之事十年來不可復再欲爲一詩以就後觀而昨夜醉甚曉又餘醒以動高興

病眼次友人韻簡擇之求和

再和擇之

次擇之韻首三

直卿將返嶺南舊居詩以寄之用擇之韻首二

遊鳳凰巖首二

松京途中增

遊樞巖

福靈寺

朗月寺盤松增

次靈通壁上韻增

大興洞途中用擇之韻

壬子自神勒寺下棹舟登清心樓次收隱韻此行風景甚奇恨不與故人同樂悄悄獨坐情益無聊因思擇之遊靈通詩惜無吾輩與同醉之句有懷其人作

詩寓意云

舟中對月

戲擇之

悼淳夫

依靈通舊令首二

十月四日與擇之約攜酒扣仁老擇之忽以病報不果獨坐有感於心終南故人偶以菊花見寄對之自慰妻輒呼小鐵鑪煮酒且酌且勸飲之不計巡釀然醉夜已再鼓矣取紙筆書數句爲詩待明寄擇之發病中一笑醉中書頗有所謂杳拖風氣末句聊以戲之耳呼韻增三首

李永元將返湖南以畫四幅求詠與擇之同賦首四

贈直卿

亂簡中偶見翠軒餞李永元聯句一篇讀之潑起感焉吾輩近日過從太踈豈此子不在故歟索酒高吟用原韻

爾來絕不作文字案上有擇之詩時時諷誦之餘有感於心和成三首

重和二首

夜臥誦曾來鳴字韻詩有感因和之聊復書以寄

和擇之

翠軒春睡之餘浩浩乎有興披詠前詩尤不能自禁明日之約可能諧否聊用

原韻呈容齋發興

營後亭子首五

僕一二年來頭有白毛始生之髮屢見素莖室婦嘗鑷以視我付之戲笑蓋偶然耳自經憂患種種見之眼昏復甚於曩日嗟乎在世者能幾何久而士華且箴以節飲乎風雨襲人獨坐長歎之餘情發爲詩吟罷有感於殘生故書以示

君君其謂何五月廿有八日闇再拜擇之先生

訪直卿

夜臥有懷士華承旨

前承惠詩使我懷益鬱鬱久而未敢和也時時披詠情發不能自禁因綴成章

奉寄容齊首二

十月十七日夜余過寓庵劇飲聯詩四篇明日頗省其韻賦此詩追記其事寄

寓庵首四

同李永元韻送竹墅主人下南

和擇之

黃嶺寺增

九巒別墅增

## 聯句

途中聯句增



挹翠軒遺稿

遊蠶頭首五

十三日首二

十四日首十二

十五日首三

夜直聯句增○  
六首

## 卷四

記

金仁老名行記

祭文

祭金仁老文

行狀

先祖考奉列大夫行交河縣監朴公府君行狀

先祖妣令人韓氏行狀

亡室高靈申氏行狀

故嘉善大夫工曹參判安公行狀

附錄

墓誌銘

墓表

序首三

挹翠軒遺稿目錄

終

挹翠軒遺稿卷一

賦

天李白惜餘春賦

增○出續  
東文選

青李白惜餘春將闌作賦頗道其意余以爲白本放曠之人也而猶咨嗟涕洟歎老惜年若迫塞者之爲豈可以爲達也余故用其韻爲賦以廣之云

春兮堂堂來既不識其誰使兮去又向之何方曾不足以少留兮竊獨悲此羣芳收麗日之妍和兮見綠陰之茫茫山野淡其若變兮蜂鳥颺而失行伊余心之多感兮怨東流之沅湘目千里兮欲極魂上下兮悠揚歌瓊詞兮紆懷思糾繚兮難展詞曰汀有蘭兮佩結石有蒲兮帶剪臨千尺之幽潭兮恨孰與之深淺若有客兮導余言予苟愁兮何能堪四時固各有定序兮比西北與東南春以生兮夏以長秋成冬實兮物續紛成功而迭謝兮若在空中之浮雲矧天地亦有所終窮兮則何恨夫一時之易改安得挾子而登仙兮睹桑田之變海予既

聞夫至論兮恍若愈其沉疾齊憂喜以泊然兮悟百年之一日悔向時之迷道兮同越駕而  
求秦登東嶽而遐觀兮招廣成之真人酌九霞之瓊觴兮就東君以爲別杳莽莽而無聞兮  
見羲車之西滅仍冷風以寄意兮夫孰云言不可結忽臨睨夫塵土兮曾夕零而朝華吾將  
泰初以爲隣兮與求至乎無涯

四言

呈止亭

我有尺璧遭驪龍睡以暗相投世必按劍誰歟受之止亭是歸居士不寶物無累鑑居士用  
筆如見羲絲居士爲詩不數賈孟晴窓寂寂白日悠悠牽輿如狂中酒如病旣拂我硯亦試  
我墨濡我毛君掃我溪楮盤礴不動昭然相得雲行雨施志逸氣紓莞爾一笑歲寒可保牙  
琴秋碁妙莫敢比我問止亭中有何好時養其餘以起挹翠自註歸  
用去聲

五言古詩

韓退之詩曰求觀衆丘小必上泰山岑分韻爲詩送李擇之朝燕之行

至人本無求，浩與雲俱出。高才遇大猷，萬事可取必。遐情思九州，刺刺羞一室。稽首辭冕旒，前驅啓雲日。

其二

煌煌象魏觀，縹緲雲漢上。文物百年煥，圭纁萬國王。朝廷集鷺鶴，佩裾聯揖讓。見子迭驚歎，吾邦重瞻仰。

其三

文章忌隨衆，務雅去其泰。古道日翳霧，萬口極譏議。上國植文棟，囁圖聞鳳噓。君歸應折衷，爲世醫昏瘴。

其四

不見蚊負山，可笑螻爲丘。力須千勻彎，與世作棟桴。已化霧豹影，且學溟鵬遊。舊功政循環，新見極冥搜。

其五

撮土積嶽峯，勺水成渺淼。巨浸與崇岑，本亦累微小。賤夫力不任，學問慚寡謏。未探滄海深，焉識泰華表。

送安善之以質正官朝燕

十月政風雪西路愁透迤善之將適燕揖我顏不怡我問胡爲愁欲語還長嘖高堂年喜懼  
二毛颯以垂尊公受闕寄迢遙三載期我又客異鄉奈此傷母慈更念失乳兒膝下嬌相嬉  
亦復挽衣裾悲啼不忍離王事有大義顧敢言其私黽勉就行役我懷人得知我聞亦多感  
默坐以深思人生在世間出處難自爲父生而君使理不容毫釐忠孝豈二事所遇皆可移  
養親貴養志口腹斯爲卑善之今青年高名誰等夷大科固其常抑亦天所資鑿坡聳履聲  
讜語驚天墀如聞鳳鳴岐識者迭嗟咨知君父母心亦謂吾有兒男兒四方志勿負少壯時  
上國文明地禮樂俱在茲士生願一見無路空起越君今應朝選動爲時所推丈夫義徇國  
家累要撥擔安心乃爲孝別離那更辭况有賢弟兄足視甘旨宜奮袂決行止去矣莫留遲  
采采黃金花泛君金屈卮酒盡誦吾詩聊以當箴規

用擇之前寄詩韻以記昨日之事呈士華兼示擇之求和教今在閑散庭戶寥  
落無一事相關唯有詩史可娛可能數引吾輩以諷詠心懷乎

君家張雀羅新釀熟春麥招攜李擇之脫我塵事役出城欲何爲善之有遠適遠適指幽燕  
路以千里隔我輩亦嘗試往來飽艱阨故欲酌一杯慰渠不煖席綠崖坐分鼎近出墮寒碧

端如逶俗士恐被傍人謔還將樵牧混守玄那更白善之久未過微溫生座石一笑驚挹袂  
雲日迫昏夕舉酒輒牽挽醉語動豪劇恩恩遽言別瞥爾如電隙歸來迭嗟惋三人齊履屐  
都門晚駢鬪車馬交轍跡分歧各異適步步目相逆默思宇宙間忽忽皆寓客少年喜交游  
中歲轉深癖自得數君子充然寶拱璧相逢復何事倡仲而和伯此味漸尤佳更念年數窄  
寒盟在不渝視彼庭前柏

奉和止亭先生

烹鮮在勿擾泥水待安靜治瘡要一快茲術非久永人皆曰予知胡爲自投弃漢法歌載清  
虞刑宥其嘗有抱向誰陳泯默但自靖故人詩書學亦以寬濟猛一行作吏事文字強修整  
進退隨尺寸跼躄志未逞常懷民無辜中夜眠屢警耿耿且如何有手未當柄要令數斗渾  
得容千尺井萬事豈易了自保斯爲幸况復二三士趣造頗同境相逢足解頤議論俱秀穎  
會合戒遲緩時節只俄頃如今便可耳莫待黃鸝請晝日縱未卜燈燭尙可秉遙知簿案間  
此語當笑領更念南山暮懷人時引頸

次韻題中朝鄉貢進士張定庵宗魯和別安善之詩後邀士華擇之同賦

宗魯名齊

古人貴尙友此道久已廢委靡日趣下天何爲憤憤况此海一隅泯默抱心肺欲求天下士

歲月屢遷代往年歷燕薊長者側餘歎京師首善地其人靡不在鬱鬱風塵中誰肯顧吾輩  
還家只垂橐腸肚若結縲今年安善之禹界窺外內是公我心親石交頗相耐歸來造其廬  
議論劇注漑自言得益友張君有古態班行偶相揖一笑接纓佩目擊道固存逸氣謝塵碎  
論心久愈信瑞世驚貝玳詩酒輒來往盃盤供鮭菜學問見新功稂莠資手刈邂逅四海交  
照膽兩無碍送行五字句古人端與配金玉以爲相可貴亦堪愛焚香靜時讀如與定庵對  
高名安可攀三舍我當退吾聞有道士自然秀羣穢光華雖欲晦粹盜見眉黛一見令人驚  
茲事曠前載沐芳勤三熏採蘭紉爲佩立身皎如此百年寡尤悔

和擇之

見事常恨晚取友常患早我生二十四細大乖素抱常恐寤寐頃逝者及耄老平生知心人  
散落塵埃道近日已堪驚門巷了如掃今古謾悠悠得喪何草草山林著賢俊錦繡被輿皂  
可憐強毅魂幾作澤畔槁變化乃糾纏我欲問穹昊天地不能久人壽那更保夸毗一日炎  
驟雨與行潦匹士安可輕短褐秀奇寶千秋當不朽金紫本非好詩來極悲慨使我得心惱  
黃鸝如助歎三瞬過簷櫳

金藏窟途中用擇之韻



風塵十年約此事未可輕杖藜纔入山便覺襟懷清日落滄海遠雲歸松嶽平得句掃巖石  
欲鑿吾輩名山靈儻有識頗驚今日行荒村傍林薄野花孤樹明黃鳥忽飛過求友更嚶嚶

宿金藏窟增

曉過滿月臺宿雲釀陰雨踏青未赴約坐使佳期誤十年勞夢想欲往迫塵務咫尺又見阻  
我亦不知故吾生甚薄相與物自多忤天公本戲劇倘亦神靈妬人厄又天窮棄置莫更數  
步竝松嶽麓從此理芒屨福靈新羅寺古木產虵蠹風雷時一掀洞壑助威怒像說自月支  
香火幾朝暮福地斯最勝山靈解呵護蒼蒼朗月前鬱鬱蛟龍驚植杖借餘陰巾袂濕寒露  
野老寧記年閱世鳥飛度留詩謝主僧莊語神豈吐小酌乘一醉落日試餘步凭高瞰滄溟  
極目翳飛霧前尋金藏窟更踏村邊路禪坊得坐憇清境引幽趣吾徒本三人物外偶相聚  
觀其適意處鵬鷄何足喻功名只一餉汝輩可分付唯有山水願無藥堪醫痼夜來不成寐  
燈下次新句

靈通寺記興

天磨國西雄五冠與之陪山前得淨土洞壑自環回伊昔全盛時梵宮金碧開結構最勝麗  
烟雨隱樓臺輪蹄逐奔波時見變興來至今馳道基傾側空山隈萬事迭成壞百年足悲哀

齋寮半摧落壯觀已塵埃唯有朽老材白日吼風雷斷碑字欲漫剝落愁莓苔高人不可問  
古柏應手栽土橋復何處蒼鬱空草萊居僧語恍惚舊跡信難該清溪堪濯纓湍瀑晴喧硤  
巖崖自成臼往往若尊疊千秋漫郎魂儻亦此徘徊何能挽長流與化葡萄醅酬君三百籌  
一洗胸崔嵬

知足庵

高人開寶坊半空得山勢西南當極目天海欲無際滄溟氣瀕洞白日多陰曠遠既不可窮  
近亦迷浦瀝羣山如蠟丘往往辨鬢髻清涼與普賢突兀若擁衛寺後千丈壁輕風動蘿荔  
其下清泠源蛟螭迹應滯千年銀杏樹道傍出根柢大材本瀼落百畝可蔭翳我來自靈通  
山中一攀桂登臨聊盪胸興逸故難制摩挲風雨壁古人留妙偈自足償清境真堪名萬世  
可憐千金寶塵埃久蒙蔽拂拭讀一快往事入凝睇江山但如此今古幾興替老僧寧識我  
捉臂謾睥睨

曉起性海窟追記昨日之事增

漸覺入山幽頗喜脫塵縛三生泉石魂今日乃無忤邂逅多勝事向來自不約時時會心處  
一盃更商略昨夜初月明中途得新樂臨危試一吟洞壑響唯諾蓬萊可飛過靡隔一水弱

因思十年事拙甚謾誤著只今發夢寐往往堪錯愕醉扶失歸路犖确度山脚怪鳥遺哀音  
迥若出寥廓生涯但一足莫要揚州鶴

登普賢峯用擇之韻

天磨唯普賢獨立欲無對萬古出鴻濛天地亦一塊數日在山腰仰視但眉黛今朝入足底  
冰雪生五內西南皆大海霧靄自千態變化有鷗鵬摩盪垂天背坤維本積厚造物豈見貸  
至今無完膚處處遭破碎細大只戲劇何異小兒輩茲山杳不言今古謾遷代奇遊天與幸  
偶一不可再平生萬里心一瀉無滯碍盃尊付淋漓文字更藻績

哲師欲還作詩寄雄首座增

迢迢知足庵乃是前朝寺傳載苦未詳歲月迷所自千尋舊石砌風雨半傾躓百年墮燕沒  
人境不相值吾師叢林秀少無塵俗意博施斯宿願好奇又少比登臨天磨峯福地愁廢棄  
摩挲井邊魚三歎爲灑淚名勝宛如昨寧與草木悴俄頃湧金碧色動伊庵記牛頭更崔崔  
象眼還泌泌我來許青眼一笑竟不忌宴坐清淨室欲問光明地賤生本鄙野懶散得天賜  
固窮今識味寒菹適大葢山水謾成癖詩酒應作祟師言生死場不足一鼾睡夢中有憂樂  
覺來誰喜悲擊節謝吾師斯言實厚饋道大可彌天細不容半字相對更莫論餘事付一醉

莽莽鳥飛外萬里供清視江風勢益駛林霧晴自媚地缺欲何極天低若將墜浮雲故自在  
古木真直遂攬物富新興吊古發長喟平生功名念輕不啻弊屣安得從師去永脫聲色累  
別後但茫然彼此俱夢寐唯有兜率境海白山自翠

清涼普賢兩對如牛角故謂之牛頭山壁下井謂之象眼穴也雄云

辛亥自可興移舟

急灘舟苦疾回灣舟苦遲舟行意不厭徐疾兩俱奇白沙沿浦直醜石臨岸欹巖處安妥帖  
此功謝篙師西北有雲山曉望纔半眉今見真面目亂影千丈垂日華漾波鱗着地如文龜  
笑彼鼃迎棹長年可能期平生喜臨水倚身弄清漪游儵戢戢聚羣避若驚疑愧我機心在

縮首默有思

自註鼃迎棹則長生江村語也

舟過黎浦風雨暴至急棹過惡灘泊舟

波濤忽變化雲霧相陵遲乃知風雨來氣像饒怪奇風勢西北駛雨脚東南欹天公號令嚴  
顛倒伯與師馮夷亦鼓舞蛟鱔露須眉直下萬仞湍但見舟尾垂利涉倚長年誰復鑽靈龜  
俄頃得一快已足愜心期前灣如鏡靜繫纜翫清漪便作魚蝦侶海鷗更不疑憂樂卒然境  
兀坐以淡思

癸丑移舟

山凝雨餘態江湧風前浪遠樹自短短宿羽迷兩兩地接楊根郡舟移月溪上雲陰欲解駁  
東眺日光盪

其二

大灘古稱惡未到己驚懾頃刻如不戒性命輕一葉叢祠疑有神紙錢風獵獵舟人薦蔬糲  
稽首祈利涉

雨止風勢猶怒不可解纜泊豆彌

風吹土囊口浪駕青山趾無奈鯨噴沫有似鵬北徙舟行失故道兩岸多觸抵邇莫敢前  
往來尋丈裏搖搖上江船疾若開千矢己專順風勢我愁渠獨喜不使兩俱得天意本如此  
落日迫海門下纜近漁市篙師傲驚濤鼾睡肩相倚畜眼未曾見我覺魂魄褫坐兀枯木形  
默禱望神理時於堆波頭踴躍出長鯉鳥飛不能高却碍檣烏歧閃閃踈篷底清影落枕几  
乃知月輪高開戶更瞪視江空渺萬頃天廓失纖滓舟人競報我怒勢差欲止明朝可解纜  
一下千百里

甲寅解纜

五更風始休黎明舟復行山與帆先後天兼波晦明小市魚氣腥孤村獠吠犂昨愁鯨濤怒

今喜雲日晴直過馬灘峯俯鑒明河清  
禿浦無百步廣津一葦橫  
庚庚白雲臺揖我若相迎  
數朝厭浮泛魂夢頗屢驚  
誰知生死寢本是一大瀛

霖雨十日門無來客悄悄有感於懷  
取舊雨來今雨不來爲韻投擇之  
乞和示  
杜子老羈旅糊口彌宇宙平生飢寒迫  
未見溝壑救窮秋長安城霖雨愁屋漏  
公侯門雜沓車馬所輻輳故人尙不來  
信覺吾居陋躑躑子魏子是我十年舊  
不憚窮巷泥載酒或相就  
庶可解幽憂餘子安足詬

其二

德公謝劉表釋耕去不願以安遣子孫  
貽厥有餘裕子雲空自苦坐草太玄數  
董傳未肯附美新胡爲賦不遇則龍蛇  
或被泥塗汗焉能如鴻鵠高飛無敢慕  
事固有不然聖賢非一趣  
出處要自重萬古涕如雨

其三

丈夫一發憤金石亦可摧  
當時魯連子東海小如盃  
人生會一死臨死或低徊  
此心苟能推餘風庶靡頹  
吾徒有餘愧非命豈不哀  
江流深莫測四山鬱崔嵬  
欲招平生魂千秋倘歸來

是年五月鄭淳  
夫自流江而歿

其四

燈火耿孤枕風雨驚遠林坐想觀音窟半夜擁被吟平生對床約細故日侵尋行藏可自保後當不如今

其五

故人何落落坐受世嘲侮一去非偶爾青紫何足取交游有斯人愈欲謝塵土白蓮昔曾約勝遊差可數秋風不相放社酒猶及酤遲回自未果懶氣誰當鼓長懷萬里客夢罷三更雨欲寄五字句安得南飛羽

時洪直卿解官  
退居嶺南農墅

其六

嗜好與人異衆棄我獨收愛畫如愛詩輒欲忘春秋翠軒無一物四壁可神遊笑庵湘江姿老氣之和柔冰霜摧折餘復見戢戢抽敗荷出蓮房蒲葦亦颼颼林生思最苦中有刷尾鷗可度乃前輩筆力益冥搜白雲浩如海青山淡欲浮晨光上危巘了了辨林丘孤舟斷崖下更着此翁不

其七

早歲欲止酒中年喜把盃此物有何好端爲胸崔嵬山妻朝報我小甕潑新醅獨酌不盡興

且待吾友來

七月既望與士華擇之泛舟蠶頭下占語韻各賦

平生湖海興浩浩誰能禦此日逝莫留未用雨相阻士華已宿諾擇之乃吾與歸來巾屨同  
漁樵混江渚是時雨新漲忽若沒羣嶼牽維傍巖崖施篙多齟齬老翁荷筠篋撥刺薦魴鱖  
細鱸侑盃酒夕殮助烹煮篙師巧生意搖艇向前去截斷千頃碧已泊白沙渚落日水色異  
長風帆可舉願天解雲霧列星如散炬少焉出皎月明可鑒毛緒扣舷順流光一棹無違拒  
登臨蠶頭峯洗盞屬村醕庶酬曾跌宕少解神悽楚白鳥忽飛過似欲牋吾語

前年六月廿一日夜擇之與僕同直玉堂有聯句數篇今年七月同遊蠶頭還  
以聯句藁爲寄兼長句還和其韻

玉堂昔同官狂言屢驚世嘲評聊任汝莊叟自知惠心如虛舟泛身似一毛細拔去安足惜  
攀援非所逮未起秋風思長懷歲寒契詩酒頗追隨湖山得休憩時爭漁釣隈誰識天香袂  
當時行樂處落月度清砌共被發新興會心無外係淋漓文字飲慷慨風騷製邇來能幾許  
日月如傳遞遺句未可披百年寧更繼恍然真一夢宛若出千歲祗宜付餘笑亦復不能涕  
吾徒有聚散世道自隆替古今盡悠悠此事由天制吟成感舊篇恨望浮雲逝



藏魚寺橋上中秋翫月用擇之韻

皎皎九霄光滔滔千里遠圓者有時缺逝者不容返誰遣水與月今宵媚且婉天公真不俗  
爲余似繾綣風生松夜鳴火發魚驚遁擁被倚石缸開尊潑渾沌我生愛清境輒似飢得飯  
從君十年遊一事不見損君詩如源泉浩浩自有本孟行催拙句不及借推挽醉語那更刪  
祗以寫深懇

鄭淳夫喜濁酒名曰渾沌酒

十月之望與擇之復遊蠶頭下占霽韻各賦

輕陰作晚雨斷霞成曉霽蕭蕭楊柳陰淡淡息波勢舟人如待我短篷在巖澗舊遊曾幾何  
未覺日月逝當時掛帆處仰視但決背故人來苦遲落景不可掣是日士華有約竟不果來羣鳧秭相近似  
有平生契與奇作字大談久傳孟細飄飄下水帆一瞥杳無帶嗟我不比渠局促過半世今  
年無小恨好事靡不濟或陰而或晴勝絕俱一例緬懷赤壁仙宇宙了睥睨豪氣之所洩二  
賦自凌厲醉去更高吟皎月掃蒙翳

二十五日風雪甚惡閉戶獨臥山陰之興不可禦也而無騎難以自致又未有  
酒醪可以自慰間承擇之遺詩相要亦末如之何悒悒不樂家人忽謀酒來日  
已昏矣挑燈獨酌瓶空乃已醉中爲詩用記一時契濶之語非君不堪相示也

欲出旣無乘欲飲又無酒雨雪滿南山清風方瀏瀏好懷未自勝落景在西牖故人寄新句  
短筇速相扣徒步豈不可曾從遺補後輟書輒向隅咄咄心語口婦見怪顏色問子亦何有  
屬耳戒赤脚忽已致一斗籠燈照丈室再拜爲我壽爾來窘炊玉生理劇可否杯尊久闕供  
愧於子多負村釀殊未佳一醉那易取鐙杓尙安用霜皮政堪剖肴核雖云無雪缸發寒韭  
何能馳折簡邀子平生友高談來侑酒解愁如解紐但恐昏夜黑門巷煩鷄狗獨酌任傾尊  
感君意良厚我欲謝城郭攜君饑南畝禾黍登秋場白濁盈村缶後圃摘嘉蔬前溪收弊笱  
父老治比隣兒孫羅座右歡笑日爲樂寧計烏兔走顧君當此時頗能親井臼女生亦何須  
升堂奉箕箒嗟我苟不然敢承子爲偶聽此益多感相期到白首伏枕無寸夢苦吟如牛吼

正月十九日與擇之飲止亭明日爲詩戲贈止亭兼奉容齋

孰謂王子猷風流端不朽但賞主人竹不飲主人酒對竹飲佳酒吾於爾何有京師塵霧中  
陸隘難舉首北山水石勝南家占十九興來每獨往索酒先呌吼無主不加少有主不加厚  
取醉輒徑出適意斯不負昨過萬里瀨偶逢春雪後老兵失亦可猶幸得吾友溪山自青眼  
禽鳥如相詠舉盃聯好詩未覺日已酉松間聞喝道幽趣忽鹵莽迫則斯可耳寧更踰垣走  
相持還劇飲蒙不辨誰某坐見玉山摧旁人爭拍手真率乃如此浮生能耐久幸爲報主人

更置酒一斗

自註每與擇之扣萬里瀨呼酒痛飲談笑爲樂不知更有賓主主人爲官事所縻輒不諧故以此詩戲之耳

昨飲萬里瀨劇談古今事扶醉而還夜半酒醒懷抱耿耿吟成古體詩七首呼

燈書之明日投容齋以答前日七篇之惠

用有懷何必到壺頭爲韻

造化無停機一奇還一偶功成付萬物天亦不自有丈夫小勦業時來聊下手卓哉張子房更與赤松友

其二

世亂托耕稼白頭憂國懷烏猶能擇木自進誠類俳管樂亦何人惟尹乃吾儕常悲星夜隕大業忽中乖

其三

獸有齒遇害烏能言見羅禍福本自取亦無於汝何彭澤舊邑宰歲月醉裏過誰知胸中有諸葛不爲多

其四

行藏百年事無固亦無必來如浮雲出去若浮雲沒用舍故在人本非吾所恤先師道如此陋巷與之匹

其五

卑而不可污高亦不可傲萬卷讀未盡筆力應未到千年斯文柄授子以高蹈賤生於古人豈足供灑掃

其六

材未能乘障智不如挈壺脚底有危機直視而徑趨祗今那更思冰雪起髮膚百畝苟可辦吾欲從田夫

其七

酒醒三更月夢失五湖舟襟懷忽不樂松韻亦颼颼攜燈照四壁古書在床頭讀罷有雋味可以遣百憂

二十七日泛輿陽浦晚登亭縱飲

朝來忽有輿白鷗如導吾小舟泝輕潮風浪渾無虞大海本無窮羣山自相紆愈進境愈異天水倏模糊鷗鵬謾顛倒拍拍舞天吳有羞從滿盤有酤亦盈壺相逢幸無事不飲非我徒急角競清簫古琴與之俱篙師密廻艇共迷南北隅勝事恐備盡綏棹且踟躕落日更登樓屢舞雜歌呼顛狂遽如許早悔學寒儒醉罷吐錦茵歸路須人扶三更始蘇醒細雨鳴枯株

曾懷清耿耿轉覺此身孤行藏未可謀聖哲欲乘桴

其二

我本愛酒人著處醉如泥醉輒遺形骸萬事眼前迷宦學京師塵十年困推擠胸襟諒須此  
若聘千里蹄場來西海隅控引雄山谿羣校欲娛我畫船駕鯨鯢微風浪妥帖極目明玻瓈  
放棹未覺遠已出青天倪平生不平心對境益淒淒酒尊政堪近山鳥亦勸提相逢盡知已  
渠豈不足攜痛飲各促膝落日忽在西憑虛拍手舞泛泛然鳧鷖傍人驚我狂柝攀雲梯  
明朝恍如夢一笑那更稽人寰何太隘醉鄉真可棲

二十九日出獵

春草綠未長春樹葉未敷轅門日岑寂部伍飽歡娛有勇思一試鼓角以前驅平原忽迢迢  
亂山鬱崎嶇因高植置網林表看獵徒得雋競相誇初不數封狐山前有窮雉出沒依林隅  
蒼鷹攫身起逸翮與風俱盤回惜不擊狙伏未能趁一攫足爲健令人生壯圖適意斯可已  
禽獸戒盡屠巨觥酌無算洗我詩腸枯醉中走馬回豪氣彌九區男兒始墮地蓬矢與桑弧  
固將北防狄亦當西戍胡何爲守窓牖空成淺丈夫

九月生明之夜與誠之飲翠軒忽披容齋稿見第三詩有欲廢詩酒之語感而

作詩因并和其三詩囑誠之把筆書之時誠之失解

痛飲夜張燭苦吟曉未已平生非二物未知吾所止擇之百年友久與論茲事奇言真偶爾  
佳處自能至

其二

坐伴孤燈影臥聽寒蟲音更無人相對只有愁來尋平生南畝約遽已罷瑟琴人命豈能久  
易竭如牛溲

其三

誠之少年日自無人與羣得喪不關人三十歎無君大材本濩落兒輩徒紛紜明年大庭策  
要獻仲舒文

秋來與擇之相見益不數尙能與村巷故人爲菊花飲泥醉旬日甚可樂也夜  
中醉臥頗憶容齋學士感歎之間吟發成韻取燈書之

我少不喜酒謂此乃狂藥每與安誠之爭以酒美惡自從去年來稍稍親杯杓今年復太甚  
不醉不爲樂醉狂初有悔漸亦無愧怍生涯半憂患萬事空落拓未赴寬閑耕聊將麴蘖託  
涼颺掃瑤空新菊弄金萼逸興想登臨晚懷悲搖落雖無會心人未可踈一酌相逢卽痛飲

寧更事表襮連日醉如泥孰謂吾寂寞青雲安可思中路或失脚不見塞外遷曩時勢熏灼  
寄言玉堂友速來洗塵爵

挹翠軒遺稿卷一





挹翠軒遺稿卷二

七言古詩

頃擇之惠我燕墨士華又惠官楮寒家一朝遽聚二寶爲幸難喻聊述長句致謝意於二君而又從士華求臨池退毫不已贖乎

我持不貪以爲寶了無一物掛心膈金珠在前視如泥視猶不見况更擲松煤楮膚有何好乃獨令吾手未釋此心有欲皆不廉於此戀戀無奈癖人生愚達孰無累蠟屐障簾本懸隔百年知己李擇之嗜好相同爲莫逆經行易水過幽燕遺我一螺玄圓壁拂塵開硯惜不磨猶想廷珪舊手迹故人復知余所愛官紙聯翩來惠百云從選曹除詔餘淨披几案雪勝白此物雖爲俗眼輕古今好者非俗客二公用意謝甚勤願匪其人亦何益爾來搖落愁南山翠軒日日添蕭索寂寞雖非草玄手推敲頗識安排格誰能更借一毫兔寫我平生方寸赤

次韻呈士華詞伯兼示李擇之

君才在古亦無偶佳賦人人誦王粲生能富貴死泯沒雖有萬鍾吾不換歲晚被劾坐詩慵  
榮辱紛紛豈容愧知心獨許容齋翁醉來倡答成楚亂容齋自是天上人俗士齷齪那可伴  
文章高分與生俱勁氣猶能金石貫銅鏤萬象不少暇造物反爲子所斲我識二豪亦天幸  
論道如今百歲半相知貴在意氣合縱時不逮應恕懦尙恨簪紳各纏拘涉世茫茫迷彼岸  
昨日偶逢南山下袖出新詩共驚歎歸臥翠軒更一吟明月寂寂生几案

次士華韻題李浩叔遊伽耶山錄後

融然爲海峙爲山山自奇秀水結蟠舊聞方丈三韓外元氣到此應作團試登伽耶頂上望  
峯繆海空雲自還神仙可尋有靈迹欲將足躡遍松蒼歸來袖裡攜山還異事豈不驚俗闌  
徑扣南華借綺語南子實非塵世顏詩成亦一伽耶山筆底綰結千髻鬢嗟君得詩喜欲狂  
又辱翠軒墻屏間我本平生飽懶散十載爲官官亦漫吾鄉高靈置田舍亦在伽耶五國班  
縣去耶山路無百年年欲往計未完覽君遊錄誦南句與駕神馬馳烟巒從來異境固深闕  
肯許漁舟經淺灣歲晚山分或未去儻乘一便南出關當尋浩叔經行處足先飛猿超雲端  
憑虛長嘯盪奇氣杳杳衆山登豆看嗟哉好事豈終遂漸使灰木形神頑題詩謝君愧未工  
悵望李杜天上壇

與止亭夜赴容齋宿明日得詩一篇奉簡二君求和教

吏部郎官古稱劇簿領牽挽如山堆玉堂近日復多事累被臺劾來相推人生名字落朝版  
鬱鬱不識天網恢豈有一事能自由踟高踏厚憂禍灾交游屈指且幾人日日車轍迷塵埃  
十日何能一見面咫尺真成千里遙昨來休沐占小閒暮對南山愁寂寥故人折簡偶見招  
云與止亭久相要徑移一笑忘主賓邂逅鼎坐同清宵相持調謔去禮教短髮不冠紛飄蕭  
那教一語及塵俗往往高談頻到詩曉來鐘鼓催朝衙門外空聞與馬馳捉衾熟睡更高枕  
此事願非人間奇百年離合自難料一會忽忽誰復追題詩擬續同宿聯爲報今時韓退之

同擇之遊士華北園白嶽麓也

主人有峯巒吾家之熏爐主人有澗谷吾家之簷溜主人官貴勢熏灼門前車馬多伺候三  
年一日不窺園儻有山靈應受詬客來非異人曾與主人舊過門不入亦不忍沿溪返棹計  
亦謬巖間得少憩景物真邂逅湍藏霧斂爲我開鶴唳猿啼不驚透主人有金玉什襲豈輕  
授絨膝固鐻守夜半未信溪山移白晝坐久日向晚白雲生遠岵無心我不如有迹誠自疚  
是日君與苻攜酒遊士華舍後園士華不之覺也君名其巖曰大隱瀨曰萬里乃調戲之也蓋巖未爲主人所知所以爲大隱而瀨若在萬里之遠故云耳題此詩于巖石而還

東江書示擇之

千里爲赴鷄黍約終宵更聽風雨聲江山百年偶入手得失何物能關情聚散悠悠雲去來  
生死忽忽燈滅明適然會意聊一笑此身不譬金石貞強將此身供役役駟馬高蓋取勳名  
何異木生願爲材不悟終爲禍所嬰我觀梧桐材最良山陽日日斤斧爭朱絃金柱已不可  
有時析爲薪樵火中鳴古來枯甲十襲藏未及曳尾泥中生與君相從總角時東里西隣荷  
衣行不知憂樂長坦坦萬事當前有目盲彫真毀朴至今日俛屈人間學曲擎恍我以禍美  
我以榮真成畏首復畏尾地厚猶畏陷天高猶畏傾從前十年事儻身幾墮坑猶如病後思  
昔痛恍然如夢心自驚近者天脫鞵頗哀老子脫朝評子亦官閑來壽母可以棲遲臥柴荆  
昨來各青眼屢約今乃成朝登鳳凰巖萬景疲將迎海雲捲日開鏡奩天風撼壑酣歌笙千  
層躑躅山若畫十里波濤帆上征痛飲不復惜巖間臥數瓶海鷗相近不知避野老爭席來  
繞縈從今與子駕扁舟鴟夷去作歲寒盟我已脫塵土累臨流何用濯冠纓

宿觀音窟

朝登普賢萬仞峯又入大興千古境高林叅天不見日古木閱世皆成癭長溪湛湛清徹底  
白沙亂石欹復整整恨我未及重九時不見丹楓紅照影湍流直下朴生淵落勢懸空極奔騁  
淵光霽霽不敢窺魂魄辟易先縮頸山僧戒我莫近步自古性命在俄頃爲君少憇鉢錫潭

唯覺肅肅毛髮冷雷霆白日天欲裂如在大江浮舴艋一笑領意豈不奇十年懷抱今始逞  
暮投古寺藉團蒲照壁尙憐燈耿耿風雨淒淒來襲人半夜無眠但澆省

夜宿神勒寺乘月飲壁塔下

自註僧法照信連義  
照處寬等四人從

亭亭神勒寺前塔晚來明月掛上頭柁樓望望故相近拱揖如將招我遊追隨野僧忽三四  
一笑莫逆許青眸未覺足力先飛鳥似疑巾屢馭風輶長巖平怙可盤脚青楓銀杏高林幽  
俯視澄潭百尺強清嘯劃然驚陽侯僧言六月霖雨時湖沒茲巖塔欲浮只今尙見波濤痕  
壯觀恨不與吾謀吾生自憐誰更憐市朝一夢困囁啾大車駟馬安用渠好山秀水真菟裘  
招提名勝自前朝浮雲白日空悠悠牧翁流落謾陳迹月軒寂滅何因求語錄猶傳竺丘書  
詩句却記清心樓千年心賞偶一遂大臥便欲忘去留何人爲余傍崖广手種桃李萬木稠  
遲我春風復來過胡琴鐵笛橫輕舟烟霞指點出圖畫十里映江雲錦幃桃源亦合在人境  
武陵向來非仙丘坐中應有好事僧儻記我言今日不自註當時所言如此僧家瓶錫本不住四海飄  
飄唯所投我是浮沉世上人平生寡陋絕朋儔那知異境得邂逅無奈天或爲幻譁夜半淒  
淒風露寒斗柄欹側西南陬大魚吹浪小魚跳恠鳥哀鳴如有憂醉陟雲梯不要扶詩成更  
作商聲謳

宿葛山

昨夜踏月懶翁塔今朝避雨葛山口西江落景亂金箭東嶽怒雲駢蒼狗鷓鴣窺魚立漁磯  
人語舟行忽驚飛靈靈自入烟霧裏我不如君早見幾

癸丑移舟

舟下大灘容一瞥棹入月溪履平地樹齊峽東影凌亂鷗沒魚嬉俱得意石戴村居巧粘蟻  
臯散牛驢杳行蟻已經危峽荷衆力高倚篷牕愜清睡

舟次豆彌遇疾風暴雨舟不能進

龍津西赴豆彌灣水鍾北拱三角山疾棹汗漫如入峽崩崖合匝欲成關交飛白鳥十分潔  
蓬起黑雲何太頑驟雨飄風忽顛泊落帆下訂覺安閑

其二

寸進尺退豆彌下愁殺昨日今日風我今如此將安歸百丈牽挽勞舟童白沙環廻巖石老  
峽裏繫纜多青楓天晶雲散雨聲歇落日暈倒千頃紅掛帆栗浦豈不樂正奈波濤高沒空  
我行真似古人詩篷窗况與胡僧同百年清境忽眼底始覺詩人苦語工生前憂樂本不較  
身後萬事徒夢夢備經艱崐益自奮剛腸兀肆齊華嵩

廣津渡風雨甚惡力棹泊三田渡晚來波濤稍安乘月下楮子島宿狎鷗亭下  
曉到漢江下岸

百尺先爭廣津風一霎相催夢村雨我行無日不風波今日又如昨日苦巨浪如屋倏如山  
誰遣長鯨恣呼吸未上分寸落尋尺有似魚躍龍門級操舟若神黃帽郎獨立洄洄騁千巧  
亦如壯士挽强弩氣力欲盡猶稍稍三田渡口聊繫篷舉眼華山對親故雲霧蓬勃東南陲  
塵沙瀆洞牛馬路齋心血面棧天翁寧不爲我借一便末勢蕭蕭暫拗怒散漫微瀾蹙輕練  
移舟欸欸趁落日互歌軋軋驚水府蒼茫烟樹楮子島掩葺漁村豆毛浦長年三老且緩棹  
瓦盆濁酒要勸汝對余一笑言不忤唯有愚民容齟齬依依月色墮巾袂湛湛空明鑒毛髮  
西邊長星太爛熳飛過驚烏何倉卒狎鷗下纜欲三更鳴臚更侵鷄犬曉黃鸝惱人忽數聲  
短短長長楊柳杪天公向我故多事風雨不惡晴亦可已向湖山飽絕勝遮莫平生饒轆轤  
同遊李永元得近律一篇有今日蠶頭飲當年赤壁遊之句各占韻

滄波擬比酒尊濃斷嶺眞如斗柄斟醉著篷窻聊擁衾蕭蕭踈雨百年心百年相就儻如今  
短棹輕舟要更尋

其二

淡淡輕暉出雲日飄飄急勢驅帆颿快雨過江一陣疾黛螺隨潮千點失擇之放談坐捫蝨  
士華高吟危抱膝

其三

世事從來吾不堪強將百慮憂如倏出絲自繞如春蠶不如山高水涵涵與君枕藉取雄酣  
下視紛紛結舌瘖

其四

天下奇觀蠶嶺頭百年勝絕蠶嶺遊渺渺烟波湖上舟蕭蕭風雨海門秋何處飛來雙白鷗  
忽復爲我回青眸

其五

水氣欲雨雲淦淦江風吹鬢寒懷懷縹緲青山俱斂衽橫亘赤虹方俯飲被酒聊成曲肱枕  
海日忽放千頃錦

其六

昨夜帶月搖兩槳今朝帶雨繫孤航晚潮急漲不可當舟高忽在千尺強垂篷淺樹與自長  
日暮歸騎未遽忙



其七

我酌我酒勸長年  
汝齊汝權惟迺沿  
五更鷄犬榮福前  
落日風雨蠶頭邊  
一年此樂借詩傳  
只恐他時却茫然

其八

欲取功名吾手赤  
欲對世人吾眼白  
我本無分豈天厄  
汝自嘔點汝可惜  
文章百年謾相迫  
海山萬里真吾宅

其九

雨如銀箭散珠璣  
波如瓮盎驚霹靂  
篙師斂楫不敢擊  
弱纜故與風相激  
醉去屣蹤散蒼壁  
落日透雲明的皜

其十

試問蠶頭風雨秋  
何如赤壁月明舟  
古今俯仰一奇遊  
未可屑屑相疵尤  
欲酌東坡魂在不  
更挽長江添酒籌

題蠶頭錄後

四海文章蘇子瞻  
宇宙不能容氣岸  
乃至名高禍爲祟  
据撫詩句皆入案  
三年東坡拾瓦礫

獨行顧影誰我館村婆野嫗笑相語昔日富貴春夢斷先生一介不掛懷高臥只以文辭翫  
時時偶發山水興駕言出遊亦無筭赤壁之下七月秋月色既望愈清煥扁舟一葉白露橫  
擬挾飛仙跨汗漫扣絃浩歌和曹公洞簫哀怨不成亂匏尊與客累相屬枕藉不知東方缺  
當時江神助豪詞隻字偶與人間散至今飄飄尙凌雲我昔寓目更三歎今年幸值闍茂辰  
勝事古今同一貫西湖奇絕蠶嶺頭盍往觀乎嗟我伴吾徒三人俱一笑從者二客來共祭  
場從麻浦理孤棹江水初生方渙渙輕波不動風力微己覺好景輸清觀興在士華眉宇間  
座中盤礴頭不冠一斗便掃五百字字字龍蛇不可絆是日士華書蘇子瞻赤壁賦知音千載知有人天上  
蘇仙應自愧黃昏放舟擊流光西望滄波無界畔篙師止棹報余言若過蠶頭波更悍漁村  
繫纜倚商舶唯聞鼾睡聲如鍛天公似亦惜明月故遣微雲綴清漢楊柳茫茫旄纛立燈火  
點點星斗燦快雨西來忽一聲大魚劈浪皆奔竄是時擁褐促傳觴喜君秀句驚發彈靈通  
舊令今復徵令嚴才窘我欲道舉觴問月喚蘇仙浩浩憑虛生羽翰東方欲曉水氣漲正如  
混沌初未判鳴榔又侵烟霧去草遠沙長亂鵝鶴楊花渡邊終日雨篷底清詩富璀璨歸來  
十日閉門臥回頭舊遊堪扼腕英雄袞袞天地老蘇仙死後歲幾換古來人事每如此吾徒  
各已百年半莫將此樂墮空虛有興攜酒更相喚

七月廿五風雨甚急擇之折簡報云吾家釀熟可來一醉否僕促駕赴之善之亦來劇飲至夜乃罷明日寄此詩

容齋晝寂闌風雨雨聲便和糟床注獨臥聞香不敢酌一歡尙憶平生故詩來招我可憐人  
興到不厭泥水路披簑徑扣雀羅門又喜與寧會斯趣天生此物豈無用似是爲吾談笑具  
初筵我亦頗羞澁舉盃未免煩屢訴醉後推擠且不去觴遲往往遭噴怒我本顛狂乃如此  
君輩風流足分付要須吸盡瓮中綠瓮中雖盡有村醪近村能續酒尊空更好憑君誦佳句  
夜靜時聞隔簾彈四座相驚迭回顧雨自蕭蕭琴自遲主人愛客興無斁飲罷殘更忽三鼓  
歸途肯惜衣沾露明朝遣詩謝厚意猶願過從莫辭屢

自註近村能續酒尊空乃擇之  
詩句頃與僕飲萬里瀨有此句

容齋先生止酒養明對菊不敢舉盃感歎有寄依韻和答

窮子患眼已三年中間且與憂患併君今收視獨關門詎可同心又同病視物不省亦未害  
胷中自有明如鏡更莫見書道之餘塵編蠹簡甘長屏天公聊欲戲吾輩此事從來豈關命  
清晨真露步東籬籬外黃花粲相映叫酒連傾三兩觥少年狂氣猶豪橫人言茲是喪明具  
日醉昏昏亦非正椎碎盃尊莫自親善而養之有餘慶秋花行復就殘謝未見一枝鮮且靚  
我生明日卽云老更有一衰能再盛強爲微痾便戒酒亦如畏謗廢詩詠死生共是百年間

戚戚安能抱憂恹徑湏相對開大尊然後此論乃可竟

五言絕句

萬里瀨

雪添春澗水鳥趁暮山雲清境渾醒醉新詩更憶君

其二

鵝飛右軍宅草滿惠連池有客來空立無人和此詩

昨日余從寓庵飲夜深乃還擇之己先待于翠軒余醉甚不能對話擇之獨徘徊於黃花青竹之間留詩掛花枝曉鼓乃去明宵余酒醒菊間得詩寂寂發孤笑因次韻投擇之謝余之慢

今宵聊得醒清月滿空軒何以逢之子胃懷更細論

其二

菊花渾被月清絕自無邪終夜不能寐解添詩課多

其三

心從醒後皎愁對此君無今夜知清味還須戒酒徒

### 七言絕句

#### 送擇之朝燕

寂寞龍灣舊翰林只今漁牧與相參  
星霜一臥看三變送故迎新已不堪  
時鄭淳夫謫義州

#### 其二

浮碧樓前簇茜裙統軍亭下蔚胡雲  
去年詩酒曾牽挽今日風流付與君  
自註因君之行頗憶舊遊不能無情

擇之前以唐牋遺我曰得詩一一見  
寄僕趨衙甚忙願安有所得今朝偶成二

#### 絕錄奉求教

經行萬里弊裘茸踈宕平生雲夢曾  
還臥容齋悅如夢半窓紅日出前峯

#### 其二

葉盡園林掛老槎吾軒從此得山多  
情無車馬紛紛過還有詩功日日加

士華前枉翠軒讀屈平賈生傳觀可度之書  
仁叟之詩數日絕無一句來起我  
雖云吏曹文墨亂其心清晨寂夜願無興乎  
是似太俗也朝奉清話乘雨而還

偶得小詩奉呈但人不先我我輒冒之無亦過乎

此心無處與深論知我濠梁獨有君談罷歸來乘小雨翠軒半落一鑪熏  
洛河渡頭嶺上

澹澹長江落日邊飄飄客袖晚風前山如蝘蛭麗平地帆作鴈行來遠天

記語增

勸農長下十行書禮士頻催駟馬車制作百年宵旰外梯航千里笑談餘

其二

御羹分賜瀛洲士宸翰能開瘴地靈天與百年無禮樂小臣欲叩白雲扃

其三

風塵蓬勃漁陽塞旗鼓侵尋函谷關制勝自歸神算遠折衝應有虎臣桓

其四

鍾室終須一力士淮陰本是萬夫才欲知夜半天心喜袖裏珊瑚分酒盃

其五

躬藉三推供祖廟大酺終日在儒宮八珍屢徹祈時雨清燕惟歌解慍風

其六

七十老翁雙白鬢  
眼看時事佚勞中  
前朝功德猶能說  
只在憂勤惠困窮

遊遮日巖增

誰教出處偶同時  
天與溪山此崛奇  
故國興亡還要酒  
百年風雨可無詩

其二

登山臨水少年時  
歲晚提携更識奇  
不分野僧從我醉  
等閑啼鳥和君詩

其三

已過重三唯一日  
却教茲會更添奇  
風流曲水漫千古  
付與佳期唯此詩

其四

十年坐了溪山興  
一日偶成今古奇  
世事悠悠付兒輩  
清遊處處屬吾詩

其五

一盛一衰俱一時  
千山千水自千奇  
溪雲漠漠本無與  
過客年年空有詩

其六

到頭心事謾違時  
入手湖山寧好奇  
風雨相乘莫催去  
杯尊欲罷又題詩

其七

茲遊倘亦得天時不爾更無今日奇風雨黃昏催落筆溪山從古要新詩

其八

前朝舊迹靈通寺山勢已無三土橋唯有清流似憐客一壺啼鳥解相邀

題壁增

潦倒真成一老夫犂鉏返我十年初頭衙莫道玉堂舊要許野僧來挽鬚

夜飲性海窟前嶺枕占韻各賦增

古木千尋上蔦蘿春山好事自能多一杯取醉便歸去更奈天磨明月何

庚戌自金灘放舟宿可興倉下

是年夏四月自忠州水路還京紀行之作

月灘險似瞿唐峽狠石高兼灑潏堆舟人首尾相持過風勢愁從西北來

其二

龍淵清亦未見底極目漫漫菱鑑寒舟回不進若相挽落日已無三兩竿

其三

水赴豬灘若壺口波山高欲沒篷牕百年仄足渾生梗肯爲風濤心少降



其四

惡灘更數可與前亂石奔流疾欲顛無上沙工不放棹如神妙手最周旋  
約擇之同扣萬里瀨先簡一絕

興發不能深閉戶閑騎快馬似船行去時乘雪來乘月未覺山陰獨也清

容齋先生身雖繫於簪笏神未嘗不遊湖海之外夢之所發固有自也賤生十  
年塵土劇被憂患所困寸心灰死久矣豈復有一興夢中之人恐非我也聊依

原韻奉叙鄙懷

我今夢豈到湖海君自幽閑非俗羣白日神遊化人國歸來清境與相分

其二

夢中詩畫元非幻世外江山思獨依紅蓼無心能喚我白鷗有約肯相揮

今日竟夕獨臥姆憐之覓酒以饋對之不勝悲感輒書一絕以洩懷想擇之知  
我此時之情故書以相示

平生懷抱秣須酒今日還無婦可謀偶對一盃那忍倒莫言此物爲忘憂

以烏几遺容齋

容齋寥落無長物，唯有平生萬卷書。  
獨倚烏皮對賢聖，晚風晴日鳥聲餘。

連夜失良月，可恨可恨輕雲不雨清。  
吹滿林可對臥，一話君不能來我雖欲進。  
無騎奈何送鞍馬，則可進間白擇之。

尊酒漫孤前夜月，柴門空返故人書。  
北窓獨掃清風榻，黃鳥三聲午寢餘。

次虛庵書贈韻

增○出  
虛庵集

故國迢迢隔萬山，荒村寂寞客種寒。  
風霜湖海長年別，夜雨尊前一日歡。

挹翠軒遺稿 卷二

挹翠軒遺稿卷三

五言律詩

舟中望神勒寺

借問神勒寺直指黃驪江灘聲近詩詠山色映篷窗飛棹疾歸鳥斜暉餘半杠奇遊元不約  
勝絕舊無雙

癸丑移舟

夜雨鳴篷急朝雲出壑新磨舟石鑿鑿腰客魚鱗鱗敢有乘桴志長懷擊楫人夢中過上院  
瞥眼失龍津

山人行熙自神勒寺同載到廣津上下舟向檜巖臨別求詩書以與之

衆中聊識面昨夜偶同舟湖海俱爲客賢愚自一丘謾成岐路別期我檜巖秋聚散堪餘笑  
長江日日流

投容齋

十日不見面數詩猶和遲蕭然知者寡久矣我之衰聽雨無燈夜看雲落日時君能頗相憶  
莫以簡書辭

其二

頃醉萬里瀨初無疇昔期主人來頗早塵事忽如遺既雨知泉漲高林見月遲清談差一勝  
最恨欠君詩

六月十八夜與擇之善之宿興天寺擇之入夜乃赴蓋以官事自漢江來也

盤松舍利閣雲月夜清涼偶作三人對誰言萬事忙解衣唯取適把酒欲成狂應被居僧恠  
高談又叵量

自註是夜擇之吟兩句云萬事  
侵尋唯一醉百年懷抱更三人

其二

尋僧過古寺待月倚松陰夜氣來相襲清風爲散襟知音俱在此自古少如今更盡開懷抱  
寧教一事侵

其三

敲門夜政急有客來忽忽却帶漢江雨滿袖南山風久訝佳期誤悠然一笑同茲遊無不遂

但恐酒尊空

七月四日夜與善之飲擇之家明朝遣以一詩

昨過容齋飲重構寂寞人任真唯一笑共世豈前因今古功名事風塵老大身醉來騎馬出  
不怕屬宵巡

依靈通舊令

在世吾堪笑真如急水舠浮沉多白眼出處誤青袍湖海差容我波濤恰受篙來遊得清興  
半夜鳥相啼

其二

月照浪不動夜涼風肅然高談元出世佳句欲侵仙孤舟唯所止百丈更誰牽欲記今宵樂  
秋風壬戌年

其三

汀洲海潮落未覺海門遙帆影輕風過山光宿霧銷人家面勢好村稚語音驕藜杖爭相問  
波濤異昨宵

其四

秋風又今日勝事已千年未用愁無月猶宜歌扣舷吾徒行逝矣萬事復茫然惟有相逢地  
沈冥此興全

其五

尊酒未相放江山如有期不風潮自急既雨月添奇村倚傾崖構舟從淺閘移平生諱新句  
對此更無詩

其六

峻嶺烟霞外孤村楊柳根操舟真有道舉網謾相喧詩用靈通律人傾赤壁尊古今惟自適  
澤鷄與溟鷗

其七

雨罷月如晝鴈聲江已秋心知寧更負境外有斯遊詩句催相就盃尊爛不收乘桴百年興  
欲慕聖門由

雨中感懷有作投擇之兼簡善之容齋酒熟曾有對床之約風雨可相負乎詩  
用夜飲韻

逢秋轉多事聽雨更懷人生死風塵裏詩書歲月因竹殘餘苦節楓老濕全身寂寞真同調

空簷謾自巡

其二

謾抱支離病俱爲潦倒人  
詩尊元有約風雨豈無因  
明日未可卜百年非我身  
此懷曾領略徑進不逡巡

題翫月錄後

中秋一尊酒看月共招邀  
九日數枝菊登高還寂寥  
事如飛鳥散興復與年銷  
獨坐披塵簡愁來自不聊

雨中有懷擇之

寒雨不宜菊小尊知近人  
閉門紅葉落得句白頭新  
歡憶情親友愁添寂寞晨  
何當青眼對一笑見陽春

翠軒夜飲明日擇之惠詩和奉

早喜交情淡今知此味甘  
月生前夜白人復舊時  
三子與侵佳句吾衰屬  
半酣菊花真不負寒後更相叅

送李希剛以評事赴咸鏡北幕

幕府湏名士朝廷共薦賢風雲生草檄瀚海可投鞭極北春鴻絕他鄉夜月懸奇勳當早建  
離別更誰憐

頃宵不眠聞雪沉吟得之朝欲錄奉爲人事所困不自省記今曉酒醒恍然在  
懷伸紙一揮馳奉擇之學士

塞比前宵甚風從五鼓吹隣鷄應廢曉宿鳥未安枝多恠侵牕影稀聞落地時來年占大熟  
夜雪不見知

既無馬又無酒有興不乘舄深閉耳擇之能成我興耶蠶頭雖未尋欲一踏漢  
水也

無事覺日永不眠愁夜遙邇來殊寂寞勝處廢招邀雪積大地白江空天宇寥曾遊已疇昔  
高興發今朝

萬里瀨

大隱巖前雪春來又一奇偶因清興出不與主人期獨立鳴禽近長吟下筆遲君家容放曠  
却恐駭今時

其二



醉嚼巖間雪狂遺頭上巾時應投懶散境自着清真澗曲音生石松高影落茵小詩儉勝景

君婦豈余嘔

自註君不知有此景恐婦嘔也  
醉中稗言多涉狂僭死罪死罪

對月有感寄擇之盍來同一觴乎

佳期真有數人力故難爭湖海空陳迹光陰已自驚寒從人日減月過上弦明未用憂僮僕

應門守二更

獨坐益使懷惡速來同此一觴雖無俸一觴可供

且與風塵混聊將詩酒爭醉來唯興適奇處要人驚雪盡山凝碧軒空月獨明幽懷誰說似  
高枕聽寒更

昨訪直卿還叙懷一律

此老無人愛身猶與病爭半年渾得臥瘦骨儘堪驚未見空愁思相逢尙眼明論心一盃酒  
歸路欲嚴更

曉望

曉望星垂海樓高寒襲人乾坤身外大鼓角坐來頻遠岵看如霧喧禽覺已春宿醒應自解  
詩興謾相因

曉坐

客裏多愁思，春宵亦苦長。更無燈照壁，豈有夢歸鄉。忽忽如相待，漫漫自未央。鷄聲真慰我，

三叫轉悠揚。

自註懷抱甚惡，竟夜不交睫，踏青日之曉。

以雙竹盆寄容齋

我有雙竿碧，聊貽御史家。託根從淺土，不語謝春華。竝立心無附，干雲事尙賒。煩公更扶護，

莫使雪霜加。

寄山人惠忱

忱君之山水友也，曾與君同遊天磨。

借問懶雲子，何方爲轉蓬。夢尋知足月，秋憶朴淵楓。消息因人報，心懷祗自通。相逢真不分，

願我尙塵籠。

雨中被酒懷發爲詞聊復書呈擇之

殘暑更一雨，短燈喧小蟲。愁懷無處寫，酒醖與君同。數過信知已，多言從此翁。醉眠禁不覺，

半夜有歸鴻。

與君阻已數日，百年事已可知也。益無一懷，湏見叔達道我意，幸甚。僕曾與相

見，煩未能出口，吾計益踈，奈何奈何。聞白擇之。

吾非戀榮宦借問爲誰留欲作絃歌宰聊爲歸去謀世應踈濶落天與足悲憂半夜驚孤夢涼風已入秋

夜來無一寐自念百年事懷抱耿耿又料君進退實難想同余不眠取酒一酌  
醺然因記舊韻輒成短律遲明投擇之足下

推擠已堪去牽挽更須留可不故難料行藏眞拙謀長吟應失睡獨臥自尋憂星漢微微曉  
風林颯颯秋

夜來被酒獨臥風雨中思轉無聊補外之計尤耿耿往來於懷所謂發於夢寐者寧非然耶近日與君不見殊久世事益可笑也燈下醉書間白擇之

我不如陶令無心任去留浮沈隨俗化用舍與人謀殘夢驚千里孤懷繞百憂何當遂吾願  
醉臥菊花秋

讀詩未能下懷世間茲計從來難遂况天不曾饒吾輩耶僕憂患之後所慮益萬萬尤不願留近須見叔達謀我堤川事世多以吾爲累人恐不能遂祗觸其厭欲觀叔達意使士華圖之也滿在近日故云間白擇之

欲往知何處無田且自由十年隨俗老幾度就君謀莫把詩相惱難憑酒解憂夢中催歲月

已復故山秋

夜還被酒家僮進短簡乃擇之詩也伸紙一讀取筆書數句戒家僮待明報之  
世應如夢裏身欲老愁邊祗可謀長醉何須問逝年燈火寥寥處更籌箇箇傳故人詩在眼  
一讀一凄然

九日簡擇之

前年重九日君獨在中原忠州也把酒仁王後憑誰懷抱論佳期今復至舊興尙能存攜子西

郊外黃花插滿尊

宿三田渡

寓庵初被酒箭串晚乘風白雨時時墮黃花處處同詩篇半行李秋色一衰翁獨問漁村宿  
平江月影空

僕世故多不快意雖有秋花未能解余懷對之秬益自悲酒亦不可飲也故此  
奉投病眼尙一明如君之亦覆觴何此花可謂厄耳聞白容齋先生

對花空自歎有酒爲誰煎寄與詩人宅應同驛使傳愁懷謾今日細酌記前年獨閉寒齋臥  
生涯轉索然

容齋對菊與擇之同賦

終朝對秋菊詩句襲餘香作意邀同志論心報一章酒酣宜笑謔事往謾悲傷莫把行藏話  
塵埃自渺茫

其二

吾生憂患後對酒轉悲傷忍與容齋叟泛茲三徑香作歡無舊興舒恨有新章短僕能扶醉  
黃昏路更茫

其三

秋熟容齋酒霜留黃菊香來成爛熳醉浪詠寂寥章此興可能久餘生那更傷南山倦歸鳥  
落日點微茫

擇之辭病之計已得遂否聊以短詩相問

宦路忌孤立天公憎兩眸本無當世志併與一官休出處湏料理飢寒難自謀依然菊花月  
似是舊山秋

直卿尙抱舊病擇之養眼不出文酒之會日益寥落今朝對雪憂感忽至聊題  
五字一伸鄙懷奉贈二君

故人多抱病我獨與誰邀閉戶聽寒雪呼兒問濁醪人猶嫌放達天亦忌風騷今古渾如此  
塵埃孰可逃

夜坐感懷和容齋學士立春見寄

懶絕交遊問愁將文字調風光雖可喜世事不吾饒欲去田廬薄無眠春夜遙懸知李夫子  
解聽寂寥謠

其二

明日有何喜燈花應我調不堪春睡少政奈客愁饒累豈平生盡人今咫尺遙風前嘶老馬  
似欲和長謠

奉和擇之學士人日見寄

南山朝有興晴日破輕陰忽把新詩句深知故友心春光行漸滿鳥語已難禁可但逢佳節  
獨醒還獨吟

聞誠之得第甲子閏月廿七日雨中仲說被酒書于東萊謫舍

大器成非晚高才運必亨應爲公室慶豈但我家榮昔夢知今驗愁吟失笑聲憑君付門事  
不恨作遐萌

自註謫中言夢君  
登第故第五及之

其二

吾家君是弟年序爾爲兄早結許心友更深同爨情荆和貴晚售糠粃悔前程獨臥東南徼  
羈魂覺屢驚

其三

萱室思吾淚還應爲子懸悲歡情兩極男女愛何偏酒食邀親舊笙歌作慶筵何人披綵服  
起舞壽觴前

贈止亭

增○出  
虛庵集

今古成嗟咄行藏飽苦心知皆遠謫面識少相親樂事年年減塵機日日新邇來秋釀熟  
邀醉止亭人

七言律詩

將赴容齋夜話先簡一詩冀轉示止亭寓庵

共生宇宙已堪誇室邇誰言人自遐晝日縱忙猶卜夜推擠不去更投車雲山在近忘朝市  
麴孽逃身任歲華却怕詩軍嚴舊律屢逢金谷罰籌加

昨日之事十年來不可復再欲爲一詩以就後觀而昨夜醉甚曉又餘醒以動

高興是日玉堂諸公登濟川亭爲避暑之飲

偶與漁翁借釣竿恐教鷗鳥駭朝冠神仙未覺瀛洲遠伏熱能侵水府寒更有何人嘲一餉  
自驚勝會竝三難唯堪付子百年事不可無詩記此歡自註一餉三難皆昨日醉中語

病眼次友人韻簡擇之求和

閉眼深居不啓關翠軒閑却半簾山孤如籠鳥長思侶癡似秋蠅更怯寒豈有顛狂舊時興  
漸成枯槁老容顏百年身世誰非寓出處悠悠涕自潛

再和擇之

深秋木落葉侵關戶牖全輸一面山縱有盃尊誰共對已愁風雨欲催寒天應於我賦窮相  
菊亦與人無好顏撥棄憂懷真達士莫教病眼謾長潛

次擇之韻

一笑汝曹猶不滿百年吾道果終窮浮名如此無多取造物於人豈未公白首詩書今有味  
明珠薏苡久相蒙隣雞接響還高枕門外輪蹄轉覺忽

其二



賤嗜何堪與同臭，虛名不奈喜招仇。固知造物真多戲，可愛吾生得自休。中歲輒懷三日惡，丈夫更有一朝憂。呼牛呼馬從人指，無罪無尤藉躡丘。

自註與君將別故用三日惡語

### 其三

與人無怨自相累，報國有懷今未成。歸計悠悠知便得，春愁鬱鬱故難平。一盃可負中宵約，佳句恐教塵俗驚。如此猶堪百年盡，吾曹久不要時名。

### 直卿將返嶺南舊居詩以寄之用擇之韻

奔走更堪塵土叢，歸來便覺毀譽空。百年未可辦茲事，一代有能憐此公。枕上功名俱逆旅，壺中歲月屬仙翁。秋風欲赴白蓮社，魂夢頻驚南去鴻。

### 其二

投絀寧須鬢髮斑，浮名不足笑談間。十年冠蓋少相識，千里江山作好顏。鷄黍屢同隣舍會，詩尊肯許俗人攀。短懷未遣中宵惡，明日誰家更扣關。

### 遊鳳凰巖

我醉醺醺已十分，江頭風物盡輸君。不妨佳句催斜日，可是歸鴻叫遠雲。兒輩豈知吾輩樂，今人猶與古人羣。百年此地春光裏，赤壁秋風只斷魂。

其二

一歲春風得二分佳期千里又逢君江湖漠漠送孤艇今古紛紛唯斷雲萬事不關青眼裏  
無心可入白鷗羣登臨壬戌猶堪賦欲喚蘇仙儻有魂

松京途中增

春風鴈鷺斷雲前故國興亡空百年事往秣堪詢野老愁來可更入詩篇當時疆場關河外  
此日牛羊丘壠邊生死古今俱若是吾儕一醉莫深憐

遊樾巖

滿月臺前從敗意廣明寺後更幽尋地藏故國應千載詩得吾曹偶一吟怒瀑自成空外響  
愁雲欲結日邊陰且湏盃酒洒胸臆不盡興亡今古心

福靈寺

伽藍却是新羅舊千佛皆從西竺來終古神人迷大隗至今福地似天台春陰欲雨鳥相語  
老樹無情風自哀萬事不堪供一笑青山閱世只浮埃

朗月寺盤松增

山深古物自成奇更許吾儕添一詩蝶螳空侵十圍榦蛟螭欲死百年枝秋風車輦塵埃路

萬里關西鞍馬時到底始知今日樂從茲歸去復誰疑

次靈通壁上韻增

山花躑躅自成林古寺松杉晴亦陰分付樵人與爭席追隨谷鳥要同吟頭陀一笑更無語  
泉石百年應似今歲晚會尋香火社從前塵土謾浮沈

大興洞途中用擇之韻

青楓白石大興洞勝事有期寧更違細雨與人催妙句清流隨處洗塵機從今便了百年計  
相對莫言前日非晚着芒鞋朴澗下密林無路鎖烟霏

壬子自神勒寺下棹舟登清心樓次牧隱韻

可使登臨無好句恐教魚鳥駭塵顏鬱蔥神勒寺前塔縹緲楊根郭外山江路迂如環半月  
灘流疾似發黃間扁舟又被催歸去未遣浮生終日閒

此行風景甚奇恨不與故人同樂悄悄獨坐情益無聊因思擇之遊靈通詩惜  
無吾輩與同醉之句有懷其人作詩寓意云

知己卽今真不數此身在世轉如疣却因羈旅聊成興多謝天公偶見收浙瀝檜杉神勒月  
蒼茫風雨豆彌舟惜無吾輩與同醉回首靈通憶舊遊

舟中對月

對月悠悠憶故人一盃寂寂更誰親  
淒涼風露驚棲鳥蒼莽江湖寄此身  
瞥眼乾坤幾今古回頭塵土足悲辛  
漁人舟子都無管我獨憐渠意甚真

戲擇之

朝廷今要詩書學冠蓋誰憐潦倒翁  
幽夢每回驚啄木小軒終日掃清風  
酒盃款款無違拒憂喜悠悠併一空  
身自低徊心已決舊山松筍謾成叢

悼淳夫

半世已能了人事早年悔不學神仙  
朱絃寂寂爲誰絕黃鳥嚶嚶空屢遷  
無復經墟把盃酒更堪對客誦新篇  
夜來風雨添愁思尙憶西湖舊日顛

依靈通舊令

未覺舟行驚岸轉已知月出見波明  
戲深頻聽游魚湧惱客誰教短笛橫  
半日江湖真不分十年簪組困虛聲  
一觴一詠無輕廢此是吾家舊法程

其二

疎雨過江生急韻小燈替月占孤明  
乾坤自笑蜉蝣寄萬頃真同一葦橫  
此日偶逢聊舉酒

古人不見只聞聲風流千載還吾輩鄙語麤言不復程

十月四日與擇之約攜酒叩仁老擇之忽以病報不果獨坐有感於心終南故人偶以菊花見寄對之自慰妻輒呼小鐵鑪煮酒且酌且勸飲之不計巡醺然醉夜已再鼓矣取紙筆書數句爲詩待明寄擇之發病中一笑醉中書頗有所謂杳拖風氣末句聊以戲之耳

黃菊花來撥懷抱青雲人遠廢追尋風從木葉蕭蕭過酒許山妻淺淺斟使有兩螯吾易足誰將一事更相侵知君擁被寒如鐵夢不能成只獨吟

呼韻增

鴈行落盡日斜時閑傍江臯杖屨移海口月明開勝絕山形葉脫露新奇未嫌佳句饒君興生怕飛觴到手遲商略百年多少事如今不樂老如期

其二

天上月輪如許高海門羣鳥若秋毫數聲浦口雙雙鴈十里潮頭箇箇舳白露初橫清襲夜驚風欲起勢兼濤偶逢知己攜相過此興平生未易遭

其三

年年此會豈非天又是月明蠶嶺前事與江流俱逝矣興催盃酒轉悠然平生不接紅塵夢  
萬古擬招黃鶴仙堪笑英雄終寂寞文章小技更須傳

李永元將返湖南以畫四幅求詠與擇之同賦

我欲手栽千樹花結廬更在大江涯春風把酒待仙客暮雨艤舟隨落葩苦遭世事不相放  
何處雲山空自斜今日對君真似夢未知身與境俱遐

其二

君去湖南篁竹叢舍東舍北自相同畫圖更着風霜面襟抱何曾塵土中爽籟蕭蕭山寂寞  
晴陰瓊瓊日曛曛最前稚子雙眸秀似指孤村說與翁

其三

最愛山前楓樹林蕭蕭影落大江深一年秋色今如此千里歸心自不禁古木不材空老大  
虛舟盡日謾浮沈幽人曳杖斜陽外唯看白雲生遠岑

其四

故人歲晚饒清興祇愛天涯雪落初排戶尚憐寒後竹披簾知有釣來魚能教山海長相對  
未害蠶鹽亦不餘他日爲尋溪上棹筍籬茅屋是君居

贈直卿

秋來屈指待君回，準擬盃尊日日開。  
誰料相逢不相見，祇應堪笑亦堪哀。  
知君羸病今何似，奈我清狂未自裁。  
後夜雪晴乘興去，寓庵燈火聽談雷。

亂簡中偶見翠軒餞李永元聯句一篇，讀之深起感焉。吾輩近日過從太踈，豈此子不在故歟。索酒高吟，用原韻。

幽興發時禁不得，今朝聊爲洗塵盃。  
窮年雪遜無蹤跡，終日風扉自闔開。  
咫尺故人難數面，湖南遠客幾時來。  
生涯索寞誰料理，更耐流光與老催。

爾來絕不作文字，案上有擇之詩。時時諷誦之餘，有感於心和成三首。

詩情往往猶能爾，酒興時時未要禁。  
晚向此中聊可托，曾於世事已無心。  
青臨書帙山長近，寒擁柴荆雪政深。  
誰識微醺發清詠，北風吹日欲西沈。

其二

窮歲門庭渾似掃，故人車馬絕相求。  
益知懷抱終難盡，更奈顛狂尙不收。  
自分踈慵湏落魄，爲誰牽挽且淹留。  
孤燈半夜清無睡，已負田園黃菊秋。

其三

自笑殘生知我寡容齋只有歲寒交一官汨沒聊同趣二老歸來許共巢平世功名那足辦  
爾時山水莫輕拋有詩有酒還相報看雪看花輒往敲

自註此詩落韻幸勿訝

重和

朝來詩句劇多感令我長吟難更禁歲晚憐渠不負子生平唯酒可論心悠悠涉世久知倦  
寂寂避人今已深誰載鴟夷輒相問青山繞屋凍雲沈

其二

蠶頭嶺上今何似萬里瀨邊猶可求縱有主人差未惡興當新雪益難收重遊端爲尋詩去  
欲散還湏愛酒留行樂吾寧不汲汲一年光景已過秋

自註曾約乘雪遊蠶頭明月又將叩萬里瀨故云

夜臥誦曾來鳴字韻詩有感因和之聊付書以寄

枕上得詩吟不輟羸驂伏櫪更長鳴夜深纖月初生影山靜寒松自作聲老婢撥灰明兀兀  
孺人挹酒勸卿卿醉來捉被還高臥未覺曾中有不平

和擇之

圖書未厭徘徊地形影空憐寂寞宵萬事維鳩渾得拙暮年病驥不能驕觸寒見雪頻開戶  
對境懷人坐待朝襟抱若爲寬使好一軒風物謾蕭蕭



翠軒春睡之餘浩浩乎有興披詠前詩尤不能自禁明日之約可能諧否聊用  
原韻呈容齋發興

轉添春氣着朝眠夢裏鳴禽在枕邊跨馬從知興不盡見山聊復座頻遷此懷耿耿君應識  
勝處時時我欲顛未賦歸來且行樂還憑綺語謝催鵲

營後亭子

癸亥二月余南歸謁舅氏廿有二日到保寧營淹留十餘日每遇山海勝處  
輒痛飲爲樂酒醒必爲詩以記而亦有不暇者故所得不多

地迫未窮千頃海山開猶納一頭潮急風吹霧水如鏡近渚無人禽自謠客裏每爲清境惱  
日邊更覺故園遙苦吟不去乏新語愁見落暉沉遠霄

其二

晚潮來處暫欹枕擡眼忽看洲渚生朝暮應誰事呼吸乾坤終亦有虧盈南人浮海如行馬  
澤國逢春更少晴日日倚樓渾不下怪聲時聽白鷗鳴

其三

平生病眼怯遐矚尋丈之間殊不分鳥過猶憐一點雪山橫但覺萬堆雲西邊落日劇相盪

空裏玄花尤自紛  
隱几茫茫輒成睡  
琅然鐵撥只堪聞

其四

地如拍拍將飛翼  
樓似搖搖不繫篷  
北望雲山欲何極  
南來襟帶此爲雄  
海氛作霧因成雨  
浪勢翻天自起風  
暝裏如聞鳥相叫  
坐間渾覺境俱空

其五

憐我朝來獨吟處  
一竿初日照簾旌  
風颿飽與潮俱上  
漁戶渾臨岸欲傾  
雨後海山皆秀色  
春還禽鳥自和聲  
客中奇勝猶湏句  
平世文章不要名

僕一二年來頭有白毛始生之髮屢見素莖室婦嘗鑷以視我付之戲笑蓋偶然耳自經憂患種種見之眼昏復甚於曩日嗟乎在世者能幾何久而士華且箴以節飲乎風雨襲人獨坐長歎之餘情發爲詩吟罷有感於殘生故書以示君君其謂何五月廿有八日閏再拜擇之先生

憂患祇應關己事  
心懷尙欲爲誰寬  
鬢毛颯颯生秋氣  
風雨淒淒作曉寒  
萬事可能辭爛醉  
十年端悔做微官  
遽然罷却湖山夢  
依舊塵埃自滿冠

訪直卿

與病君今謀契濶於時我亦作蘧條十年知己偶同此一笑相看聊自如坐久都忘刻漏盡  
談間已了毀譽虛主人留客故多事更出平生未見書

夜臥有懷士華承旨

故人自致青雲上老我孤吟黃菊邊高盖何堪容陋巷酒盃終不負新篇一年秋與南山色  
獨夜悲懷缺月懸旅鴈似知無伴侶數聲飛過沈寥天

前承惠詩使我懷益鬱鬱久而未敢和也時時披詠情發不能自禁因綴成章  
奉寄容齋

臨風高詠七言詩歲晚襟懷兩轉依我已思歸江海遠君今謝病往來稀早知有命非人力  
何遽將身與酒違嶺月籬花宵寂寂不堪愁緒作重圍

其二

山月着人渾悄悄菊花與我正依依未成清睡愁將墮欲泛孤觴惜漸稀殘歲風光真可愛  
故人談笑謾相違幽憂自爾難驅去狂興時來若決圍

十月十七日夜余過寓庵劇飲聯詩四篇明日頗省其韻賦此詩追記其事寄

寓庵

閒人厭客還慵出，乘興時時獨問君。  
盃酒自能饒我輩，菊花元不受塵氛。  
未愁落景嶠山去，驚喜清光入座紛。  
更把長檝留一句，醉中書字若屯雲。

其二

殘年計活千窮裏，今日君家一笑開。  
痛飲高談猶舊興，落英寒月撥新懷。  
相知且盡終誰在，此樂能長可再來。  
莫對孤燈悲感劇，從前人事自多乖。

其三

萬事問天還自笑，一心與世不相謀。  
偶乘明月從君話，能有深尊慰我愁。  
卒歲優游差足樂，平時落魄更誰尤。  
已酣尙爲黃花飲，欲去仍將好句留。

其四

人世豈知今日樂，老來未減少年狂。  
交游有幾真能數，存沒皆虛莫更傷。  
千古襟懷空濩落，十年出處要商量。  
何因學道金華客，萬事驅除但牧羊。

同李永元韻送竹墅主人下南

湖南千畝萬鍾卿，飽臥春牛政欲耕。  
鄉思忽生歸鳥外，行裝自與曉雲輕。  
竹林過臘猶無恙，山色迎人大有情。  
夜月敲門來父老，滿瓶清濁更縱橫。

和擇之

江山在眼情俱迳香火關門歲欲窮自笑如今無一興更憐有約不相同空尊何可對新雪  
病騎轉愁當暮風終日寂寥長抱膝和君詩罷覺忽忽

黃嶺寺

增○出海  
東墨蹟

吟筇陟盡萬山西忽有琳宮翼瓦齊積葉埋蹊團古樹寒流注缺引清溪華鯨正吼茶烟起  
宿鳥催歸落照低他日木蘭重到處紗籠應拂壁間題

九轡別墅

增○出海  
東墨蹟

判缺烟霞占地靈晚將清福寄殘齡泉鳴絕壑琮琤玉雨洗層崖曲曲屏亂石自成垂釣渚  
萬松高作聚星亭他年杖屨從遊處好向林間煮茯苓

聯句

途中聯句增

滿山松檜暮鐘聲時遇樵童問寺名忙急雨不妨乘一快擇高吟最是屬微醒說

遊蠶頭

月轉三更近蠶頭望未遙波平舟自動華坐久酒頻銷雲過山光失風高雨響驕說只應無此興萬古幾今宵擇

其二

一笑更吾輩擇江聲知幾年停盃問明月橫脚叩舡舷華生死復何許賢愚俱渺然顛狂天付與說我自樂其全擇

其三

與世既無益一名初不期擇從前徒夢想今日偶成奇夜久江添濶華雲歸月欲移未宜容易罷張燭更題詩說

其四

待月問牛斗繫船蒼壁根清遊得天借擇勝地謝人喧舫動那伊唱江留漫浪尊華醉來狂更甚劇飲跨鵬鷗說

其五

急灘聲撼曉說涼雨勢兼秋觴詠修前事江山卽舊遊擇褰篷迎月入下碇待潮收去去江湖大華吾生得自由說

十三日

月掛蠶頭嶺烟橫麻浦村歸舟潮共退說宿鴈夜爭喧萬事寧  
湏問茲遊得再論擇猶宜催  
妙句未可負深尊說

其二

舟燈欲爭月說螺酒解催詩勝事還如昨吾人豈待期擇  
百年應易了此樂更誰知醉罷宵  
將半說顛狂付爾爲擇

十四日

昨夜月正好今朝雨更奇擇風前看掛席湖色暎踈籬襟抱清難勝說  
天遊喜可知一尊相  
對處不醉復何爲擇

其二

瘴海悲公子西湖只舊廬盛衰那更怪說得失本來虛佳境如相待  
茲遊肯作踈擇三盃不  
成醉落日嚮黃蘆說

其三

一名能累子說萬事總關天千首堪傳後斯人孰更憐擇  
盃尊久寥落今古自推遷且對西

湖月說悠悠憶去年擇

其四

一諾終難保丁寧作報書擇能來共開口此外更求餘月小知山迥說江明覺夜虛往時同樂處今日且何如擇

其五

青衫終不補數耐可無飢江海送君日說風塵失意時浮生餘幾許白首坐相離擇惜別湏憑酒論心要借詩說

其六

人隨南鴈去說意與大江深暮雨蕭蕭過殘尊細細斟擇別離中歲抱出處百年心從此增寥落說悲歌自不禁擇

其七

吾生少儔侶與爾每同攜擇藏魚月皎皎蠶嶺雨淒淒詩酒輒相泥說風塵期不迷歲寒湖海約何日是幽棲擇

其八



近山日落雨如洗歸艇潮平風與驅得句遲時盃不放說行雲斷處月偏孤肯教俗物敗新  
興稍喜滄江優老夫擇君自清狂渾似舊我於茲事未曾迂

其九

記得秋風繫舫時說三人詩酒共佳期如今夜月登高處一笑江山卽舊知擇餘興豈隨租  
歲盡歸心更帶去帆馳斷鴻憂憂煩相喚說獨立蒼茫有所思

其十

滄江欲雨歸帆疾落日無風斷鴈高擇萬事行雲兼逝水清遊把酒更持螯興闌恐被兒曹  
覺說意得真成一世豪辭罷悠悠都不省夜窓魂夢殷寒濤

其十一

月影冷侵湖影動鷄聲曉雜鴈聲高蒼茫宿霧開歸櫓說寂寞沙汀沒早濤十月重來猶是  
歲一尊相屬更吾曹擇聽使奚奴發清彈輸君醉興看揮毫

其十二

朝日初飛水氣澄說羣帆欲上海潮增故人已有歸來約蠶嶺終須一再登擇壬戌重逢豈  
天幸東坡千載笑吾曾從知俯仰成今古八十相尋缺力能說

十五日

一盃相屬我當歌醉後清詩子最多  
擇落日散雲明見海急風吹月迥生波  
說三人共對終誰憾是歲重逢奈晚何  
擇爲報玉堂今學士向來茲事自東坡  
李永元

其二

海口落暉餘匹練風前逝艇沒輕鳧  
說清江肯受俗人汙高興不湏明月俱  
擇苒苒黑雲縈鬢髮蕭蕭白雨散尊壺  
巖下撥琴聲更壯說扣舷時復和鳴鳴  
擇

其三

我恨不如子田園歸興長那堪風雨夜  
更憶水雲鄉說共泛楊花舫同傾蠶嶺觴  
他時待明月此樂莫相忘  
擇

夜直聯句

增○出  
容齋集

微涼颯颯屬埤梧擇落影看看閃晚烏  
伴直有人非孟浩說賦詩餘興自西湖  
多生幾被功名誤擇知已如今出處殊  
且對一盃君莫負說玉堂何幸着寒儒  
擇

其二

玉堂文酒徵遺事說會意猶能三兩人  
邂逅一官真自幸擇吟哦二載亦前因  
却愁兒輩知

歡趣說與挽清流洗俗塵儻放中宵半輪影擇更思孤艇下龍津說

其三

十年隨俗漫浮沉擇有口紛紛我欲瘖青眼逢君惟一笑說長天對月且高吟舊遊落落參辰隔擇世事凄凄風雨侵只可心思已悽切說匣中誰拂斷絃琴擇

其四

黃昏秉燭碧梧陰說一簾天風爲散襟勝事不妨仍卜夜擇小詩猶喜細論心何曾燈火愁寒冷說且對官壺較淺深世故相違君會否擇百年能復幾追尋說

其五

相對如今少一人擇勝遊剛被鬼神嘖事無可意唯長歎說興到忘言但任真短漏漸看星斗側擇近山遲步月芽新漫空風露添清冷說身世茫茫更岸巾擇

其六

長憶庭前臘月魂說只今烟雨自黃昏久嫌苦節難孤立擇頗賴清名尙獨存造物豈會解憐汝說春風未敢與稱冤蓬萊山下真筌斷擇青鳥冥冥却不言說

挹  
翠  
軒  
遺  
稿  
卷  
三

# 挹翠軒遺稿 卷四

記

## 金仁老名行記

成廟在宥急人才重學校優餽寬條擇人爲師長以待四方士四方之士雲集澤宮咸自淬礪相觀爲善其仰而慕之強而附之猶恐不吾收者皆曰仁老上之踐阼求士第二科得君爲壯元自公卿以下高其才敬其名願與之遊而不敢與之狎者皆曰金君其歿也知者傷之不知者惜之皆曰善人亡矣送財幣具棺槨以窆旣窆也間謂君所與遊者曰仁老已矣其藏無記其墓無樹其名行無奈久而湮乎皆曰然爲余道君平日事得其一二又從君從父兄爲佐郎禮曹者引齡徵其世兼得其內行仍竝取其表表聞於人者序而文之以遺其後人且使載筆者取焉君諱千齡慶州金氏也慶之金出自新羅敬順王傳其裔有諱稠當麗季翊我太祖開國賜封鷄林君有孫曰從舜以清德致顯位卒諡恭胡恭胡之子曰致

世歷官終洪州通判通判娶安氏女生君其歲己丑其月建未其日庚辰生十一喪父十八喪母子才無與爲依而穎秀異羣學術天就早以詩賦試進士爲冠爲上舍生與諸生伏闕門抗疏駁朝廷事者再士大夫間往往稱君名名遂大振以大用期之弘治丙辰君年廿八未甚屈而論者皆言君屈掌學者惟失君之恐旣拔君魁一榜以得人爲國家慶君旣少孤無父兄之資而能自樹立強學爲文章取科第不一落人後非所受卓出於人能及是乎例授成均館典籍選佐吏曹郎兼史職參修成廟實錄秩遷校書館校理改戶曹正郎銓曹以君文學宜居侍從米鹽非所處薦除弘文館校理未幾陞副應教君外和以容內剛以斷發言侃侃臨事斬斬聞善如恐不能援見惡如恐不及去其性然也館中每言事取羣議人各顧忌持同異君一言折之不以浮辭撓故欲言者倚君爲重嘗與同列疏沿邊築城利害語侵首議者教問之俄釋不問已又言事忤宰相或罷或左貶君左貶爲承文院校勘隨聖節使質華語于燕還入司憲府爲掌令陞對援比經典證據今昔明白剴切不爲支離無益語語皆聳上聽老宰相聞者相顧竊歎曰眞臺官退嘖嘖語子弟不休會以病未入對者有日上問曰近何不見金某久歟請辭不許賜告給藥少間卽起供職銓曹欲令君久在憲臺庶朝廷紀綱張振仍陞執義病再辭允其請然謂君不當外除以弘文館直提學遷之以藝

文館應教兼之應教選也非將執文柄者莫宜居君釋褐纔八年凡九遷爲今官宰相位可指日取而素恬退恥榮進每一遷官輒不豫于懷又以病辭臺職不外授而內遷欲辭之病因竟不能以終夫名者士之所趨也仕宦者人之所榮也彼雖不來吾將力而求況其自來而求避乎推君之心豈非千百人而一乎君居甚貧筮仕皆莅清要至三品官不作一箇產業所居先人之廬僅容妻子而已無垣墻之限賓客之位尙能爲其孤弟辦資裝娶婦不失時人稱之至是殯無所庇喪無所具歛藏之費皆出於朋友君於是乎爲益賢也君自正月遽疾沉淹不痊至八月甲辰卒九月乙酉葬其地實高陽治之東大慈山之下昇甫里之原去通判官府君塋十許步生三十五年弘治十六年癸亥也其配宗室女父曰金丁明山副守有男五人女一人女未及笄幾年男大者始十一歲姆負之哭於位弔客益傷之聞君之榜下及第也其官弘文也余爲修撰其左遷也余亦罷故寂爲知君君貌簡靜見之若不可接而與人居言笑臺臺使聽之忘倦或把酒論今古胃懷曠然無芥蒂畛域眞愷悌君子也贊曰行非不修也世非不用也而年獨莫之與也將誰尤其尤天乎

嗚呼名譽之不揚朋友之過也仁老之賢而其名泯無傳焉則豈非吾輩之耻耶吾之爲此文非敢必其傳於後世而其知仁老亦不過一二烏足以盡之有知仁老者繼而書之

書之而不已則仁老之事庶乎盡而其傳者廣矣遂騰兩紙一以遺宜春南君士華一以遺德水李君擇之二君皆仁老之友也弘治癸亥冬十月日高靈朴聞書

祭文

祭金仁老文

維弘治十六年歲次癸亥九月朔甲子越七日庚午高靈朴聞謹以清酌蔬果之奠祭于亡友仁老之靈曰始我幼時寡陋而蒙不齒長者在儕輩中往往有聞仁老之名及遊儒庠所聞益驚心竊願交而不一逢寤寐思之有鬱於胷丙辰之第哀然首舉聲華藹如達于王所余亦旅進隨君之後望見其貌知德之厚卿士大夫凡在搢紳翕翕稱道咸曰斯人可試以劇亦處以雅無往不可何取何捨擢于郎署付以史翰或筆或否有條有貫翰林諸公縮手享成置之玉堂衆莫與爭余時忝竊爲君下寮其氣方銳強聒囂囂人或吾嘖愾不自省君獨肯許我助我警衆懷有疑於君爲證羣議方紛一辭而定進必危言袖盈諫草豈無他人與我同好同對于吏唯一無貳楷拳在身慷慨抗志中夜相就握手語心吾忠不昧天聽孔臨我遂譴罷君亦左移我寓中原君朝京師追寄一句鳴江之涘君還之日余同安李交轡



過君月色在門萬里之興一笑而論是冬十月前望一夕更約擇之佩酒往適擇之病報余亦敗意獨酌有詩恨不相示其後通之新命于廷儼屋僑居與君對扁攜李夜扣君來杖藜君呼我釀我亦有攜故人偶偕今夜最樂秉燭痛飲安用杯杓余醉鼾睡君戒鷄鳴豈以私廢臺中之評一歡雲散徂春不見余遭家患悲憂展轉四月維夏隻身唯已扶護妻喪奔走百里乞銘於南其文崛奇擇之許我倩寫燒甕君時抱病強起操管冥冥九原庶解冤懣囊事而返君疾未痊屢以病告朝莫肯遷君在烏臺紀綱不亂陞前讜諤左右驚歎斯人雖病寧投外職優游調護尙昇翰墨廷論所歸上恩殊異居寵若驚如奔失轡我往候君七月之初步履雖艱精神自如念子方壯勿藥有喜寧知旬日遽判生死始聞凶訃疑非實語徑赴容齋相對惻楚嗟君平日不事贏餘弊廬數楹妻孥與居客至無位倚門之扇中心所安會莫少變衆雛依依嫠婦子子載念後事枯腸欲裂天道與善蓋非其然獨於吾輩何酷斯偏粹然之貌溫然之談耳若相盈眼若相參寃結於懷想發於夢一盃酌魂已焉號慟嗚呼哀哉尙饗

## 行狀

先祖考奉列大夫行交河縣監朴公府君行狀

公諱秀林字榮甫舊諱旄慶尙道高靈縣人遠祖諱之順在麗朝以征討江西功起家爲大將軍大將軍生諱秀華秀華生諱暹俱登麗朝第暹生諱允晶承奉郎通禮門舍人舍人生諱暉正順大夫判宗簿寺事於公爲高祖判事生諱思謙通直郎版圖正郎知春州事於公爲曾祖春州生諱原厚中直大夫內贍尹於公爲祖考尹生諱持以通德郎行清河縣監告病居家以終性抗直廉介不能容人之過嘗爲合浦兵馬都事一箇不煩郡邑馬鞍勒絕唯以繩索繫之舊例營中蒐獵所獲節度使與都事分取之每校獵各陳于廳事前遂成弊事至公獨曰寧呈于節使不可呈于我節使初亦愧謝國初職田之制不立爲戶部者例自擇國田納其稅公爲佐郎一無所取同寮頗自戢是公顯考配曰恭人安氏籍竹山戶曹判書諱仲老之女文貞公諱克仁之孫僖靖公諱祉卿之曾孫是公顯妣歲己亥正月日生公公筮仕歷西部令終交河縣監階奉列大夫 成宗朝以議親賜原從功臣號成化甲午壽五十六以病卒實四月十三日也諸子以禮奉厝于陽智縣治南金谷村之原實是年六月日也公性沉毅嚴恪不言而人自畏諸子女雖幼必教以禮法閨門之間截然如朝廷久滯小官居其位必廉謹在交河時未嘗法外用官物常取家儲以給衙用交河本殘弊號難治而

公處之裕如也世業在高靈頗饒公壻李公陸少落拓攜友生遊智異山入高靈發積供宴樂幾盡公略不介意人服其量天性甚孝少喪考以至誠事安氏及安氏卽世奉其喪歸高靈先塋服三年畢以事抵白川農墅未及返而卒聞公之訃一門皆曰天道無知孝子亦未得壽嗚呼痛哉聞不及事先祖考及事先祖妣韓氏韓氏嘗教諸子及孫曰汝曹能以汝父汝祖之心爲心則朴氏之門其庶幾矣姑氏之喪諸姊妹分遺財無一介及於汝父汝父處之怡然人亦無間言吾三歲失母及長嫁送之事貲產之分或不如兄弟嘗對汝父爲言以試其意汝父默然怒曰吾常以卿爲賢今乃不賢耶父母之恩與天罔極顧不念生養之勤劬而反以此爲歎耶自今觀之世之人以財貨臧獲不顧父母不恤兄弟者多未有如汝父汝祖之爲心者也汝曹能以汝父汝祖之心爲心則吾朴氏之門不其庶幾乎韓氏卽公之配也籍清州曾祖諱方信前朝封西原府院君祖諱休本朝贈兵曹判書考諱季復贈議政府左贊成母廉氏前朝密直司事諱廷秀女朴氏自大將軍以下皆以一子承緒至清河公有三子一女至公又有三子四女內外孫曾孫高孫男女并百有餘人公沉靜自守不汲汲於權勢故卒不至顯仕唯畜陰德以遺後人嘗曰蛙縮遠步至今日本支繁衍內外成門豈非公之所遺耶亦豈知公之所遺甚大愈遠而愈發耶男長諱始孫從仕郎先公早卒次諱

彥孫行司勇次諱聃孫通訓大夫前水原判官女長適高敞縣監李宜修次適兵曹參判李陸封貞夫人次適全山君李壽男封貞夫人次適忠勳府都事權佶從仕娶某官趙致中女生二男長謹義陵參奉次誠司勇司勇娶某官李塾女生三男幾女男長誼次讚次幼女長適鄭俊德次適呂公望餘在室判官娶濟用監直長李菽女生一男三女男閻前弘文館修撰女長適生員安處誠次適金錫胤次在室高敞生二男四女男長荏四山監役次葵生員女長適奉事尹响次適上護軍李諱次適羅孟聃次適鄭世賢參判生三男二女男長嶼漢城府判官次嶮司果次業進士女長適監察安邦彥次適竹山縣監南俶都事生一男二女男愚司直女長適奉事李綱次適尹享孫側室有一女適忠贊衛徐俊生男女幾人

先祖妣令人韓氏行狀

夫人姓韓氏系出清州高祖諱某某官曾祖諱方信前朝輸忠秉義協贊功臣重大匡政堂文學修文殿大提學知春秋館事西原府院君祖諱体本朝贈正憲大夫兵曹判書考諱季復通政大夫古阜郡事贈崇政大夫議政府右贊成妣廉氏貞敬夫人前朝奉翊大夫密直司事兼司憲府大司憲右文館大提學諱廷秀之女以己亥二月日生夫人生三歲廉氏亡養于外王母某氏外家諸伯姑咸奇愛之以爲後必爲賢婦人雖婢僕亦皆敬異王母以女

功教諸孫女夫人時甚幼能循其教無諱諸孫女雖年長未有如夫人者九歲王母亡及笄歸于我祖考交河府君府君諱秀林階至奉列大夫官至交河縣監府君之考曰通德郎清河縣監諱持祖考曰中直大夫內贍尹諱原厚曾祖考曰通直郎版圖正郎知春州事諱思謙妣曰安氏戶曹判書諱仲老女夫人之初來也貌甚莊言甚溫動有禮則清河府君聆其言喜曰此婦必興吾門府君性嚴諸子婦無可意及得夫人甚敬重每曰吾婦吾婦府君能知大期常語夫人曰吾死能事爾姑乎夫人敬受命曰唯夫人之來三歲府君亡夫人事姑氏益敬以孝事君子承其志罔愆應接賓族撫使奴婢皆稱情合禮自夫人之來朴氏之孝益聞朴氏之門益重交河公遊宦四方顧親老未嘗一日安賴夫人頗自解夫人能順適起居不失其時甘旨必手自和芼褻衣必手自澣濯夫人在則姑氏安夫人出則姑氏不安贊成公之喪夫人留廣州數月姑氏貌甚頽曰不見吾婦幾不能生及歸復如初在交河時姑氏卒中暑氣息絕公號擗不省事夫人親抱姑氏不釋呼蓼湯浴之得復蘇夫人事姑氏幾四十年訖無怠宗黨之言孝婦者皆歸夫人姑氏每祝曰願吾子吾婦子孫千億介壽萬年多福多慶益久益延臨卒之日亦然姑氏歿時壽九十三又四歲而交河公卽世識者皆曰以夫人之孝卒不受其報耶後二十七歲而夫人卽世享年八十有三親見孫曾孫高孫內

外百有餘人於是識者又曰天道之報施庶不僭乎爲善者可以自勸夫人性端嚴沈重聰敏靜一於事理豁然無所碍教子以義方教女以婦則待兒孫雖極慈愛有不可必峻責至不見改而後已嘗教鬪曰朴氏貴族以清白相授爾其庶幾無忝爾先汝爲不義吾雖死靈其不知乎琅琅之訓在耳如平日不覺涕泗之交頤也夫人於安順王后從大姑行內宴必命之入賜坐一品命婦上甚見優寵子孫衆盛各自成家餽獻不絕于門對之輒流涕曰吾與而翁辛勤立門戶而翁不幸早世而吾獨享此其何能自堪耶雖微物必先奠于廟月朔及望必行奠曰庶幾其來享耶交河公清河公之季子朴氏先世之廟屬大宗子孫散落中外夫人於家祀清河以上三世遇仲月諱日題紙爲位而祭祀必誠必潔前一日終夕不寐親具饌惟謹雖年踰八旬猶不懈諸子進曰子女不乏僕隸皆具夫人又年高何至自苦夫人曰婦人之職唯在中饋余其敢忽耶且汝父平日非吾手所具未肯下筋余其敢忘耶公有賤息女在高靈公卒後夫人取而嫁之恩比己出待贊成公諸庶一如同母一門稱之夫人雖甚老精神不衰治門戶事無少倦朴氏自清河以上墳塋皆在高靈又世業所在事須有經紀者在辛酉秋九月命我家君以往家君亟以遠定省辭夫人固責以義家君臨行戒子闡曰吾行不泆旬以返汝其視甘旨之奉闡惟愚頑不慧不能起居適飲食藥餌不知

大故之及於此將闇之罪惡通天天故降之罰歟天不可問鬼神幽遠號咷茫茫欲死無所夫人以是年九月甲午卽世越十月壬申安厝于陽智治南金谷村之原與交河公瑩兆並峙而異原嗚呼痛哉夫人有三子四女冢子始孫次子彥孫次女李公陸之配先夫人卒餘具于先祖考行狀弘治十四年十二月日孫宣教郎前弘文館修撰知製教兼經筵檢討官春秋館記事官闇謹承嚴君之命撰行狀

具銜高靈朴闇再拜弘文館應教南君士華學士執事闇雖不肖側聞先聖賢遺訓非忠無君非孝無親忠孝要非二事求忠臣於孝子之門立身揚名以顯父母孝之終也闇得罪于朝名敗身辱願於二者何居中夜以念不能不介于懷竊念先祖考在甲午歲卽世先祖妣又於今年棄背俱未遑於隧中之文以焯諸幽日月其邁恒懼失墜闇旣不能有以顯吾先而又使懿德懿行泯沒不章則罪又重焉茲敢煩諸執事執事儻垂矜閱無使闇重獲戾于天則不勝幸甚謹錄行狀于左闇再拜 應教學士執事

亡室高靈申氏行狀

闇白亡室宜人姓申氏系高靈有高靈府院君諱叔舟事 世宗文宗世祖睿宗成宗策勳爲靖難翊戴佐翊佐理功臣位議政府領議政卒諡文忠配享 成宗廟庭生子諱澗爲咸

吉道觀察使死於丁亥之亂朝廷褒贈議政府左贊成寔生諱用漑前年冬由承政院都承旨出節度忠清道水軍君其長女也妣密山朴氏今議政府左贊成樾外王父也君以成化己亥正月日生始生而育于外家幼英爽端潔嬉戲之事皆合女儀贊成公賢之愛若親子癸丑之春君年十五歸于闇生於簪纓之族而無驕惰之容入於舅姑之門而盡禮敬之實與闇羣妹侍親之側怡怡然言笑融融然和樂父母甚悅之丙辰歲闇獲忝科第丁巳歲分產以居自女紅之事以暨垣墻室廬內外君無不治皆委曲詳盡馭婢僕少不如禮嚴加訶禁上下截然闇內肅然闇非但性本疎懶以君之賢於家事邈如也時闇內外王母俱無恙君具時鮮以供汲汲若不及內王母韓氏閨範甚高知人若神亟語於人曰吾孫婦賢矣哉外王母李氏今尙康強詔闇曰汝生之時吾年及六十豈知今日受汝婦之養耶闇不自檢喜與人詩酒爲樂不曾問有無君極力營辦務悅其意猶恐違有所施與亦樂爲之從家雖貧不使闇知也平居相與約曰安得與君共挽鹿車歸鄉村結廬上承父母下撫兒孫以遂百年之樂耶君輒欣然曰是吾意也若夫山水之費吾其辦也故闇得官君不喜失官君不戚情義誠有合於闇也夫人誰不資內輔者若闇之愚實有加焉今年二月闇南行謁舅氏於保寧之營三月之旬聞君之疾疾驅而還則疾已深矣君視我不能言我亦淚流欲拭不



可久而言曰來何遲耶幾不及面訣矣然豈料一朝奄忽乎病亟手爲書遺閭諸妹以兒輩爲託且云生不能孝於舅姑願不爲不孝病今不救奈何吾死之後視此書如視我也書畢令閭讀而聽之聽畢長歎臨絕顧閭曰好在好在吾今逝矣精神之不爽如此君生六兒長兒寅亮始九歲而長者咸稱有奇質隨嚴於廬所不食肉今三年嘗疾爲肉汁以遺輒却之後雖菜羹亦未肯飲也次兒大春始八歲次兒大鵬生二歲而天次女女順始五歲次女女恒始三歲次兒同叔生未三月閭與君俱亥年而兒生亦亥故名生而妍妙君美之病中歎曰吾兒甚佳冀見其長成其終不能乎君卒之日三月十六日癸未也葬之日五月初七日壬申也痛矣哉伉儷之義大矣生則偕老死則偕逝猶不能無憾自癸丑至今歲星亦未周也百年之計其止於斯而已乎縱未能偕老偕逝猶更延一二十年以見男娶女歸庶亦可矣呱呱者皆在襁褓君獨棄而不顧重貽我父母之憂皆閭之不肖有以致之君其如命何卜其宅兆得於先祖考交河府君塋域之下實陽智縣南金谷村之原也厝君於左虛其右以待閭之逝爲合塋之規庶幾骨肉同歸于土少慰我無窮之思也竊傷吾人於人世之樂若此其奄忽而平日之行又掩而不章則逝者何恨生者獨可忍耶古人云葬不得韓君銘猶無葬也閭葬婦顧無吾士華一語乎謹奉狀以請不宣

故嘉善大夫工曹參判兼五衛都摠府副摠管安公行狀

曾祖從約通政大夫海州牧使

祖玖通訓大夫判軍資監事

考知歸嘉善大夫全州府尹

本貫順興府今屬慶尙道豐基郡

安氏之先出順興其顯自文成公始文成諱某當高麗盛際以文章事業致位僉議中贊憂庠序道衰人才無所養納減獲置錢以贍學又於中朝求先聖賢畫像及祭樂器以來學之類而復振公功是賴從祀文廟越今不廢文成之後至公九世蟬冕爲時聞家曰于器大司憲曰牧曰元崇皆政堂文學曰援入我朝爲開城留後曰知歸全州府尹此其寂顯者也公諱瑚字某府尹公胤子也妣朴氏封尙州夫人外王父以昌有名世宗朝以刑曹參判終公之生器宇有異府尹公撫之曰吾家八世皆用科舉顯以清儉傳此子其不墜世業乎旣冠中己卯進士府尹公卒光廟錄其後補公司宰監參奉成化丙戌取第二名及第拜藝文館奉教春秋館記事官例陞長興庫主簿上親御策儒臣公文入等賜一級成廟二年庚寅以司憲府監察充書狀官朝聖節于燕還改司饗院判官出佐平安觀察幕爲都事

會昌城有火災守坐罷公以朝命留鎮用司憲府持平召還改戶曹正郎徙吏曹未幾選議政府檢詳因陞舍人知製教遷司宰監副正除司諫院司諫移司導寺副正又徙司宰監辛丑夏承傳之全羅道視耕秋往忠清道踏驗災傷後二年連往賑之累遷軍器掌樂軍資正預修軍籍丁未入弘文館爲直提學俄陞堂上官爲副提學階通政大夫弘治戊申改司諫院大司諫移掌隸院判決事以承政院左副承旨左遷僉知中樞府事尋拜兵曹參知充管押使朝燕還拜禮曹參議與大臣李克增等撰大典續錄再爲大司諫左遷僉知中樞府事甲寅出爲全州府尹有疾今上命遣醫藥調視乃異恩也考滿還朝拜刑禮兩曹參議出爲黃海道觀察使入拜兵曹參知掌隸院判決事復以司諫院大司諫左遷僉知中樞府事改禮曹參議癸亥九月御書公名爲工曹參判階嘉善大夫公四朝舊臣勞閱甚備爲堂上官不遷秩者凡十七年朝議多以沈滯爲公恨至是聞者相慶以爲上誠知臣也是年十二月十九日以病卒于第享年六十七訃聞命官賻祭如禮公資稟醇美器度寬裕加以簡嚴笑語不苟平居竟日端坐衣裳不皺其與人接則藹然和氣也少而入仕孜孜奉公雖小官卑職夙夜不懈事無巨細唯務合義不以人言輕爲是非唯吾所守也屢爲臺諫不矯不激隨事進戒聽者皆服其爲大司諫也院中紛然言語相侵各執己見終不可合則遂伏閣相駁

公獨不少動有命召問始以實對其得體類此其爲全州也寬不至縱威有所制夙興夜寐以民事爲念春秋躬行鄉射教以禮讓城中爲小庠擇人爲師使未冠者聚學多所成就州多士夫公錄有老親者時節惠以魚酒民興於孝馬瘦或曰何不罪主者公笑曰其可以畜罪人乎及其還也裝載如其始往人服其清惟公父子繼爲此州惟清惟簡愛存于民州之父老至今歌之公性無所喜惟喜杯酒每遇宗黨賓友談笑爲樂不知日之夕也其自言曰吾無喜事亦無怒事無欲上人無欲毀人亦無欲教人故年幾七十氣力不衰須髮如漆嗚呼古所謂長者非公其人歟公篤於孝友府尹公之卒諸弟皆幼公經營嫁娶卒以成立季弟官未達早歿公與諸弟分子女以養門庭之內兄弟之間和樂融融終始若一士大夫家取以爲法公臨絕促具冠帶命酌酒公飲夫人飲逼子姪小兒長笑良久曰人生七十古來稀命把筆欲爲書與其弟忠清道觀察使訣卒未果觀察公拜請奔喪朝廷以故無此例不許觀察公諱琛於次爲三公夫人金氏考諱哲鉤典農主簿無子以觀察公第二子處善爲後登丁巳科爲兵曹佐郎前娶崔氏生一男一女後娶宋氏將以甲子二月二十七日葬于廣州望月洞之原進勇校尉龍驤衛司果知製教朴闇謹狀

## 附錄

### 墓誌銘

朴君仲說被害之三年今 上卽位贈承政院都承旨明年丁卯春三月某甲其家人以禮葬于陽智縣之東金谷村之原夫人墓之右同塋友人德永李荇詣哭之哀不能文又有埃也以荇之不肖罪積幽明旋及大酷不卽死亡旣練君之妹婿興寧安處誠誠之抵荇曰仲說之葬已三年壙無誌墓無碣仲說之友子與南君士華在碣文唯士華托子宜誌之敢以請荇辭以不能且不可繼又自念曰荇於仲說其生一歲以差居同里學同業志又同嘗又同官又同罪朝夕未嘗不相同平生辱以爲知己嗚呼荇之不肖宜死也久而今幸後之若又默默使仲說之志之行不大彰徹而一朝奄然先朝露則是負仲說於冥冥之中其又忍諸於是焉強以書言不暇文其辭朴朴令追而納諸壙以告諸幽且令後世知荇罪云君諱閻高靈人十世祖之順仕高麗用武功至大將軍其後世繼有名位不絕曾大父持清河縣監大父秀林交河縣監父聃孫今漢城府判官母慶州李氏濟用監直長苴之女君於成化己亥某月某甲生穎秀異常神骨透澈眉眼如畫望之若不似塵世中人四歲而知讀書八歲

略解大義十五而能文章今吏曹判書藝文館大提學申公用溉見而奇之歸以女弘治乙卯舉進士丙辰擢及第年十八矣君學裕而藝成以童年取科第如引手捨地芥而滿足之心絕乎中驕矜之容去乎外自視常慊慊然也時朝廷擇文學之士賜休暇溫習于龍山之讀書堂君寔膺其選與岳溪洪彥忠直卿同在暇會天變聯名上封事論時政十餘條指陳剴切事雖不施行士林洽然稱之隨千秋使質華訓于中朝中朝人以君年少易之及見君作驚曰奇才奇才君自登第卽補承文院權知未幾選入弘文館爲正字四遷至修撰在經筵者五年慨然以遺補爲己任遇事有不可必率先言之不少避燕山主頗憚之雖宰相亦不悅也館員嘗論西邊築城不利忤權臣意被問君時省親于外及還朝聞之卽其日陳其不可問狀疏筭日三四上語皆激烈人人所畏諱者君獨爲之盡踰旬日不止在列咸恐君奮曰禍福者天也吾無如彼何而臣道之所當盡者忠也盡吾道以得禍亦非所懼爭之愈力主竟允其請直聲振朝廷然不悅者滋衆君又與同列上疏極詆柳子光陰邪之狀且論成俊李克均阿庇子光不正議爲負國俊克均大怒詣朝堂請問又屬目於君構以他事君與同列皆下獄獄官承風鍛鍊幾不測君獨以直對坐罷職自是已知不爲流俗所容遂放意山水間以文酒爲樂窮日夜不休醉輒把筆爲文章皆出人意表若有物來相之者縱橫

裨闔金聲玉振一倡而三歎有三百篇之遺音宜春南衮士華常嘖嘖曰其天才也吾東方來無此作久矣君於書無所不讀聰明強記上下古今尙論人物氣節之高下事業之醇駁文章之正變以至禮文之損益風俗之異同周徧普博若取諸左右而不少失聽之每使人爽然又善於料量衆人所難處而不能決者卒然問之而君應答如響施之無不當其可癸亥春以散官帶學職甲子春知製教非其志也黽勉供職甚不樂每歎曰安得山水寬閑之地卜宅一區墾田數頃農圃其中日與村老往來結酒社優游猖狂以終吾餘齒乎是時國昏滋甚清明之士殆不得自全夏四月君竄配東萊縣慶尙道之極裔也將行與荇訣曰噫吾無返期矣子亦必不久於朝若從我於南者幸甚旣已荇果又出竄而以道里之隔絕竟不得相聞嗚呼天運之厲耶造物者之忍耶使斯人也而生斯時不自先後上帝茫茫號哭無所君就配未百日追繫京獄拷掠酷至卒就刑是年六月之十五日也臨死神色不變仰天笑者再而已痛矣哉天耶地耶寧有是耶家籍竝被舉沒錮子男不得留止京師錄嘗所與交游者各杖配遠地痛矣哉天耶地耶爲善之禍一至於此耶君孩提而學弱冠而成處心正持己簡事父母以色養待諸妹以睦妻子和室門之內融融然怡悅與朋友交信而不苟見人善若己有之其不善者恐將免焉又不喜紛華於聲色泊如也居第在南山下名其

軒曰挹翠四壁唯圖書嗚呼世之論者率以君爲文章之士而豈知君之所得於己者又如  
是卓犖乎然一時能知君文章者亦鮮今而稍稍知貴之後世亦必有因是而知其所得者  
矣夫人申氏亦高靈人賢而有內行克承君德先君一歲卒南士華誌其葬生四男二女男  
曰寅亮今十五歲幼有奇相君嘗曰此兒必有成曰大春今十四歲曰大鵬天曰同叔今七  
歲女曰某今十二歲曰某今十歲今年實正德己巳銘曰

哀哉仲說生不淑兮澡身爲善神莫福兮君在羈貫皎冰玉兮學以爲己善自牧兮履仁佩  
禮蹈義躅兮澹如泊如遺外慾兮年寔幼弱德則熟兮大科奮庸進非速兮玉堂經帷專講  
讀兮危言正色樂忠告兮有逆之鱗戒莫觸兮君曰不然諂斯辱兮額額權門衆趨伏兮君  
發其奸抗累牘兮何負於朝繫牢獄兮人二其行君愈篤兮自我捐之反而縮兮彷徨優游  
樂自足兮耽嗜典墳夜又夙兮高挹勳華追軒韻兮下窮三代逮季叔兮六經之正濯而暴  
兮百家之長芬馥郁兮包括旁羅靡不畜兮倬爲文章揚穆穆兮山之五嶽水四瀆兮龍驤  
天行絕凡俗兮空花現相駭衆囑兮才患其多禍之逐兮上天薈昧孰究鞠兮金朱燿耀被  
輿僕兮妻子煦濡澤九族兮哀哉仲說胡不穀兮淑人早殞塊處獨兮重以竄遷南海曲兮  
毒霧冥冥亘墊溽兮魑魅嘯羣吁虺蜮兮狂狴狴鱗骸棘兮鷗梟刺天嚇鳳鵠兮哀哉仲



說踏且跼兮時耶命耶及桎梏兮東市日迫天地覆兮仰空再笑神色肅兮哀哉仲說逢此  
毒兮屈埋魚腹胥獨鹿兮漢害范滂晉殪陸兮古豈無之君寂酷兮壽止二十又才六兮天  
胡忍斯不少贖兮彼之反覆生亦僂兮唯死無愧榮袞服兮 聖神出治枯以肉兮爵命追  
加光紀錄兮斂以新衣魂氣復兮父母悲啼子女哭兮何以葬之鑿金谷兮婦左夫右君先  
卜兮友人李苻義以屬兮儉生既多顏則慝兮湖海之遊逝莫續兮哀曷有極徒匍匐兮文  
以銘之非爲瀆兮哀哉仲說安斧屋兮

### 墓表

孟子曰誦其詩讀其書不知其人可乎是以論其世也余嘗讀翠軒詩常愛其神情灑落氣  
格縱逸類不爲物縛至其傷時閔俗感憤無聊往往有悲歌豪筑之音意其爲奇偉倜儻非  
常之士而觀其友容齋李公所爲誌文又盛稱其學博行高余於是益知其爲不世人物而  
獨惜其遭時不祥身不容於昏亂之世橫罹奇禍以死豈不悲哉始公十八而登第選爲弘  
文館正字賜暇湖堂至修撰當是時暴君在上凶黨鴟張衆正莫不氣死公以眇然少年正  
色玉立以爲禍福天也吾無如彼何而盡忠所事人臣之義也隨事盡言不少避初館僚以  
西邊築城不利論首議權奸燕山怒命按治公適在外還卽抗章極爭日三四至踰旬不止

終脫諸公於禍又進大疏暴柳子光成俊李克均陰邪負國之罪坐下獄獄官承風鍛鍊幾不測公對以直得罷職去公既去燕山滄荒益甚日逐虎豕於國門外輒冒夜還公益憂慨與同列聯筭極諫大觸主怒於是凶黨之欲逞者又益亟矣至甲子子光追發前事起大獄克均謂首發可誅時有欲委公而免者公奮然自當無幾微色燕山猶不忍加誅竄東萊縣已而逮繫京獄竟以六月十五日被極禍臨死神氣不變仰天笑者再而已時其年厯二十六世道衰士不講仁義所明者利害耳一朝臨死生鮮有不相隨狼狽而莫知耻如公之不行其君不私其身蹈白刃而無悔使人知仁義之可慕者可不謂豪傑之士乎嗚呼夫以公所有而得時行志其筮鏞一世以鳴國家之盛者豈異哉天既生如此人而又生子光之徒任其魚肉而如不知惜何也然羣凶之惡雖逞于一時至今人人欲食其肉而談公之死者未有不拊心流涕其巍名峻節百世誦之而不衰此固天之意歟福善而禍淫者果在此而不在彼歟余莫得以詰也公有遺稿一卷崔簡易權石洲諸公皆推服甚盛吾祖文簡公亦以爲天才極高東國絕調由是公之文章益大行于世雖然此豈足以掩其人乎公諱閻字仲說姓朴氏世稱挹翠軒先生高靈人高麗大將軍諱之順之後也曾祖諱持祖諱秀林皆縣監考諱聃孫司宰正妣李氏直長茲之女正公爲人剛介始公之將論三凶也以親在未

敢決正公曰與其竊祿而苟容不如死諫之爲榮身旣許國不可以親故沮公遂論之嗚呼宜其爲公父也公配申氏左議政用漑之女有行狀見公集中公沒三年丙寅中廟改玉贈都承旨愍其寃也有男四人長寅亮僉正次公亮參判次宗亮次天女長適李元禎承義副尉次適金礪參奉孫曰懋郡守贈判書愈別座恕進士長房出仲叔兩房竝無后有庶支曾孫曰慶業參判贈右贊成劾仁弘爾瞻洪汝諄諸凶以直節名弘業郡守自茲以往朝家猶累推恤典衣冠世世不絕公葬在陽智縣東金谷村某坐之原公沒今百八十餘年而墓無刻其八世孫縣監君敬鎮始謀樹石以記來乞文余不足以不朽公獨心慕其義而哀其不幸也敢以告于來者曰此挹翠軒之墓慎毋傷墓前一草云爾通政大夫成均館祭酒兼

世孫侍講院贊善金元行撰



# 挹翠軒遺稿序

太上立德德之傳待乎言文章者言之粹也故立德以傳後者又由是假道焉其不可偏廢也如是夫吾友仲說氏盡之矣其學正其守確事親孝與人交以信位於朝直己盡言卒以是遇禍余雖未及見古之所謂立德者斯亦庶幾乎性情之發藹如也自然成章不假雕飾清廟之瑟一倡而三歎有遺音者矣邈乎不可尙已有德者有言信哉嗚呼君之遇禍也家又被沒寸簡尺牘略無遺者而平生辱以余可與言數酬唱和復余得之輒歛衽端坐以讀敬之若神明寶之如金玉什襲而藏之惟謹雖在奔竄流離亦不敢失墜君之死其文益可貴重及余逢恩還朝思其人不可見則出而披之痛哭嗚咽不自禁思至亦復如是繼而歎曰其人已矣其文又亡矣今雖存者僅千百之一二烏足以傳諸後復痛哭嗚咽既又自解曰崑山之片玉桂林之半枝具眼者皆尙之不必翫其全體而後識其貴也於是編次其列又求散落於諸交游間者合爲一帙名曰挹翠軒遺稿詩凡若干篇文凡若干篇嗚呼仲說之德不克施于時所存者特其文章緒餘而又不過一二非謂是足以盡仲說之美也然後

之欲知仲說者亦可因是而求其有得於己此正所謂可與達者道也友人德水李荇擇之  
謹序

# 重刊挹翠軒遺稿序

挹翠朴先生以直道死燕山朝甲子時年二十六其時事尙忍言哉尙忍言哉先生遭慘禍所著散失容齋李相國掇拾十一二行于世世已遠矣集將滅矣余喟然歎曰嗟乎天地間安可無挹翠軒集哉少時嘗聞崔簡易權石洲兩公推挹翠文章東國第一後見良然其詩氣格放逸可與黃太史鴈行文亦雅健大逼西漢其亡室申氏行狀雖韓昌黎復作何以加哉噫噫天下奇才也有才如此又以直道死天地間安可無挹翠軒集哉於是與禮曹判書吳公竣吏曹參判趙公錫胤大提學蔡公裕後承旨朴公長遠相議抵書于湖南伯沈公澤請重刻沈公曰諾卽鈔諸梓挹翠集自今大行於世其亦幸矣夫文集之傳必刻刻必藉人力苟無其力雖有志不成勢也是集之行倡雖自吾輩五人畢竟刻之者沈公力也沈公亦可謂愛文慕義者矣役既畢沈公請序羣公屬余溫城鄭斗卿遂爲之序





# 重刊挹翠軒遺稿序

前輩稱翠軒文章爲東國第一真確論也余亦酷好而絕愛之恒置刀几間輒盥手以讀妄謂公之詩出於天機不假人工而遇境抒情曲寫人所不能言較之中華作家如簡齋放翁猶有所遜於公者況吾東乎文亦爲然噫噫奇哉昔趙樂靜諸公重刊公遺藁于湖南之完山以壽其傳而今其板本剝缺黠昧多有不堪看者余爲之喟然曰公之詩文僅存千百之一於齟齬之餘零星金片玉焜耀後人而時移世遠重刊者又將漫滅其誰續而鉺之以爲不朽圖耶統制使鄭君弘佐過辭於余余以是懂懂屬之鄭君曰諾遂就公遺集中古律絕句及狀記之錯雜者各以類編且接聯句之散落者附于卷末使槐院之善寫者寫之稍大其字樣印圈以貽之俾入剞劂而亦不可無一語以相其役此正蘇氏獲序范文正遺藁之宿願也覽者當有以恕之歲在己丑孟秋上浣昌原俞得一題

## 挹翠軒遺稿 卷四終



訥齋先生集



崇禎四癸卯

文簡公訥齋  
朴先生文集

光州開刊



# 訥齋先生集凡例

一 正廟朝傳教 御製賜祭文 弘齋全書日得錄記載于第一卷之上以爲

## 卷首

一 肅廟朝備忘記 英廟朝傳教 正廟朝傳教 英廟朝賜祭文 正廟朝賜祭文 英廟朝賜祭金文簡公文 正廟朝賜祭金文簡公文及參奉金聖泰疏 批謹載于卷首別編

一 舊本原集先生弟六峯所編 嘉靖丁未刊于錦山林石川億齡任所續集附集文谷金文忠公所編合原集 肅廟甲子刊于完營李公師命任所 正廟乙卯特 命道臣徐鼎修重刻于完營藏之光州明倫堂今 上辛丑板燬癸卯亟圖鈔梓仰副 聖祖命刊之至意

一 端敬王后復位疏不載舊本今載附錄

一行狀三印臺碑文德山書院月峯書院享祀祝文諸家敘述編爲附錄

一原續集逸詩文哀爲別集

一舊本六峯及先生子進士公遺文附于卷末今又添附畧干編

一原集詩分類而續集詩不爲分類今併仍舊 上之九年癸卯後學通訓大夫

光州牧使豐壤趙徹永謹識

# 訥齋先生集凡例



# 訥齋先生集卷首

傳教正宗乙卯湖南儒生上言文簡公朴祥道學之純正節義之卓絕實爲百世之師範建當中廟與文簡

公臣金淨請復端敬王后其危忠大節可以爭日月之精光樹宇宙之綱常至今披讀遺章凜然若秋

霜烈日溫陵復位以後惟此兩先正褒崇之一體併施乞蒙祠版不禱

朝家於文簡公朴祥實有別般曠感者其危忠高操嘗所歎服言議志槩之見於文字事爲之際者有非匹夫一時慷慨之思最是奇壯濃郁不失三百篇之遺意者其詩已然世降俗下禮壞樂缺坐今之世求古之俗則樂之教當於詩放之此尤所以深契於文簡之詩嘗以爲讀其詩想其人其造詣不知至於何域云爾勳臣外不祧法無所載間因特教多有另施於節行則獨於曠感深契之朴文簡若斬一兪烏在其表此心之義哉特許不祧遣官賜祭

判付既言之詩者樂之餘詩之扶世教者豈云小哉我國之詩惟知故校理朴闇贈吏判朴祥二人而已闇之詩曾爲拾取零金編成一部者而文簡之詩板本刳缺不堪悉閱令內閣行會道伯訥齋集重刻印進

御製賜祭文正宗己未七月十七日遣左副承旨尹光顏致祭

太平無象風聲以云大賚示勸由鼓作軍忠義在人蹈之者庶卿任潭州同德爲隣三印其臺萬古不磷我扶坤維彼誰廷囂論定必百自己未年先王曰咨愀如朱紘索笏錄後遺直罔捐古則行之今可忽焉祠版永享雲仍世官太室庭食禮重且觀是歲一酌爲感支干握管懷韻松栢丸

正宗大王弘齋全書日得錄所載

訥齋詩清高淡泊自有無限趣味謂之韻頗挹翠未爲過也原任直閣臣李秉模乙巳錄

我東詩律多數石洲東岳翠軒簡易而簡易文勝翠軒往往甚高着然亦有些欠處東岳半是酬唱調石洲太軟媚獨朴訥齋兼有諸能當爲第一耳待教臣金祖淳己酉錄

我東詩學世不乏人而挹翠軒朴闇之天成訥齋朴祥之沈鬱皆盛世風雅之遺非後來擅名詞垣者之比也兩集遂命刊印以進原任直提學臣尹著東丙辰錄

朴訥齋詩後人無稱道者而嘗見其遺集奇傑迥麗儘是東詩中第一家數原任直提學臣徐龍輔丙辰錄近見朴訥齋詩人力到底處可與翠軒伯仲非中世諸詩人所可企及如帝魄秋枝欸欸賡句何等神爽何等鑪錘予於訥齋別有曠感者存今讀其詩如見其人原任直提學臣李晚秀丙辰錄

朴祥詩往往有恰似俗所謂百聯鈔體然其古健處非後人所能及如以俗眼看之必不

能知其好處

原任直閣臣金相淳丁巳錄

訥齋詩結構緻密乍看艱晦難知而久看其味漸雋

原任直閣臣李始源丁巳錄

# 訥齋先生集卷首



# 訥齋先生集卷首別編

備忘記 肅宗戊寅命祀慎氏別廟時

先正之疏可謂復位之善機會而伊時下政院之 教未有開納之意抑未知別有不可復之事勢耶何以則能不悖於禮而合於稍加尊奉之道小慰抑鬱之人心耶

傳教 英宗己未 敬王后復位時

今日復位之議先倡者兩人 朴祥 金淨 也一脈正義予所嘉尙分付該曹求得嗣孫別爲調用

傳教 英宗戊寅 陵誌狀纂輯時

朴祥以一府使金淨以一郡守其能聯名抗章辭嚴義正百代之下令人凜然

傳教 正宗庚戌 金淨不禱時

故名臣朴祥同功一體之名賢其後孫在於朝廷乎名節後裔收用之道太不如古其家藏舊蹟子孫姓名年歲何年旋閩與否一一登聞

傳教 正宗己未

朴文簡公祥金文簡公淨宣謚賜祭於年前而今年則既致祭於信度公况兩文簡公乎  
令該曹卜日致祭奉祀孫則金文簡公家收用而朴文簡公家鄉薦外尙不收用都政窠  
初仕一窠權付軍職今日政訪問擬入

先生十代孫孝德曾以鄉薦授繕工監役

傳教

正宗己未溫陵幸行時

今年何年卽 溫陵聖后復位之年也今欲於謁 陵時提論而姑未能焉兩臣

朴淨樹金淨樹

立果何如文簡公朴祥後孫近雖調用文簡公金淨後孫尙未收用齋郎適有窠口傳擬

入

賜祭文

英宗己未七月二十日遣禮曹佐郎韓濟致祭

撰進人未詳

昔我 中廟作興羣哲卿於時也士類中一孝友出天聲名動人早歲登第爲國鳳麟爲  
親求外養以專城諫省秉直玉署蜚英冰玉之操簡抗其性併世同朝有若臣淨 壺極  
失位共切悲鬱齊聲抗章言甚直截扶綱正倫忠義凜然羣壬煽毒禍色彌天羅織孔慘  
縲紲非罪羣情咸懼文正獨啓 聖恩寬容暫被薄譴言雖見斥忠則愈顯喉院留章厥  
有 聖意逮我 先朝追感遘事未及復位久作欠典吾至今日承教 慈殿爰遵 先  
志追復 壺儀翟菲增光寶冊重輝追念卿疏寔倡斯議克修廢章肇舉大義卿之一言

今始得行情不令見倍憶忠貞有待于今慶關 宗祊禮祔纔訖褒答詎忘顧瞻 溫陵  
感慕深切想卿故邱愴懷尤激茲遣禮官酌以椒漿神其有知庶歆我觴

賜祭文

正宗乙卯十二月初十日  
遣禮曹佐郎金裕已致祭撰進入未詳

節起頑懦詞叶咸灌我懷若人如可朝暮 聖祖龍飛黃裳中正誰秉國成德音不覺卿  
一墨綬叫閣瀝血樹紀將頽誅奸既骨直辭正氣摩切穹玄壁立千仞遺風凜然歸讀其  
詩一何溫厚二南性情正始音族惠風一扇穆如清微薰腴徹肺凱康以熙言不期工節  
不期苦善養而發餘事文藻藐爾六尺撐柱民常手決雲漢翩然大荒瞻彼 溫陵象設  
將將天樞崇崇無誦不伸三印之臺松老石皴英靈不泯酒與詞隲

英宗己未 賜祭金文簡公淨文節錄

曰有臣祥乃與卿同扶倫斥奸懇懇誠忠大義昭森日烈霜肅言卒不行乃有扞格留章  
喉省是 聖祖心 寧考追恨我承 慈音 列聖於昭精誠上通天若默相啓予之衷  
述我 兩聖光復亟舉云誰是倡有感卿疏 壺儀重昭寶冊肇揚百年曠典 宗祊之  
光

正宗己未 御製賜祭金文簡公淨文節錄

乙亥聯章尤卿大節淳潭接壤傾盖有緒百年父老咨嗟磨折人雖月古義傳秋烈 寧  
考曠感枚典咸秩崇報於卿則予繼述廟不世祧恩乃孤恤獨有未遑大享庭裕禮在必  
嚴事恐或踣 溫寢象設今周一甲慨念雙忠親綴仵攝

正宗己未金文簡公後孫參奉臣聖泰三勳臣黜享疏 批節錄

昔我 靖陵之世金朴二文簡公共登小邱議上長秋之封事及琅函之徹也義聲動庭  
中而南國之士懷其節名其邱曰學士之臺至今有指點咨嗟者

# 訥齋先生集卷首別編



# 訥齋先生集序

三百篇發於性情文章之祖昉於屈宋詩道之興極於盛唐非深於風雅騷李杜者則難能會訥齋之詩矣公天才卓越抱蓄甚鉅平生著述殆千百餘篇衆體兼備雄剛且奇駕古作者每欲被梓不朽久矣林公大樹好古博雅於名家無所不讀尤喜此集適宰錦溪募工鳩材圖刊祐亦得完山與錦近朱墨之暇蒐葺詩文併若干卷以送且補役不數月功訖嗚呼玉光斂氣直出人間麟角鳳毛終爲瑞世雖不得之於一時亦可炳顯於萬禩豈不偉哉

嘉靖丁未孟夏弟六峰祐謹序



# 訥齋先生集 卷第一

弟 六 峯 編

賦

黃鍾賦

粵遼古之初兮寂無名兮無聲七竅薶薶爲混沌兮目孰睇而耳孰聆二者儀呈而分割兮  
重乎濁而輕乎清雷風交盪而發舒兮自然之韻生於是流鍾乎三百羽蟲之長兮婉婉文  
離兮則乃轟訇訕世德之光赫兮雄雌噉噉乎其鳴遡三畫之權輿兮未嘗不爲藍於律法  
緬惟軒轅之妙獨造兮超太昊而窮制作聞嚶嚶於阿閣兮聽瑩乎氣母之吹噓入臣倫于  
嶰之谷兮予以獲琅玕之清虛製出樂器曰黃鍾兮斡乾元之資始陽固朕玄鼠而旺青虎  
兮宜聲配于天一位也然則長寸九而圍九分兮曷知錯之營營夫天數凝一而漸進兮至  
于九而成累分積寸之不僭兮實八百而零什集氣機而闔關兮分派委於燥濕相生錯

賦

一

確疑增

乎正變兮五六根括而環旋信律呂之大極兮一陰一陽焉舛其後先故時而陽兮冬之中  
百昌是戶兮魁天功象而君兮人所宗尊無兩大兮卑不攻聲濁兮行之土數首兮音之宮  
吹焉而靡律不應候之而有氣必叶量演五兮于父子母事做萬兮伊管伊轄此聖人探天  
地之和以寓夫無窮之理兮歷帝二王三而不易夫何樂移於龜蒙兮世襲訛而異說庚庚  
彼曹劉之荒駁兮正聲晦蝕而窒明古法崩裂於開皇兮弘農布衣兮其如樂何曉曉乎通  
典禮疏之鬪靡兮慨二子之穿穴自多仰觀夫建隆皇祐之治際兮議亦確駁於諸賢况崇  
宣黥涅之無稽兮不可以語律之大全咄哉夔也黃祇克諧誰聞三分兮膠加損益兮無文  
商剛而擊宮兮陵君之端肅微而衝角兮殘毗之心盈神人兮易和衡權兮奚平目周兮天  
之下瓦釜兮長爲雷黃鍾壞棄兮埋沒塵埃乃爲倡曰明明帝心寔黃鍾兮推心上之黃鍾  
兮製律中之黃鍾心非帝心孰折衷兮昧者不知徵諸律兮聖人有作採吾說兮

登泰山小天下賦

井蛙不可以語海兮甕鷄何足以知天拘居偏而習成兮非稟有之誠然况吾靈於萬物兮  
又豈二虫之區區痛睇聽之孤束兮耳若障而目若塗思憑危而敝余貽兮一盪陋而殫奇  
岱宗帝拔而截截兮臣妾衆山以處夷積翠分蘸於黃河兮崇椒高刺乎重霄仰而幾千萬

丈兮藤骨蚪屈而示橋三尺斷筇就冒垂堂兮攀冢首而逍遙挺髀超鵠不能出吾上兮雲  
煙躡於趾脚豈曰天之高高兮金烏咫尺而扣翼表獨立兮山之上卷方輿於瞬息洋洋  
四海可頽而唾之兮九坑兮堵中物冀充青徐虱竄於裳積兮雖離婁其莫能分岫嶼燕代  
眞贅疣兮時出滅於尺雲楊荆小於塊凸兮江淮細於杯決秦關八水兮蹄涔禹貢名山兮  
蟻垤南北窮霜露之所墜兮東西極日月之出入遠則蠻封戎聚近則侯邦列國大則千雉  
百雉小則三里七里或若案上之釘釘或若着面之黑痣或若枯碁之列方罫或若疊空之  
泛大澤十九代帝王之疆理兮若坐靜室撫圖畫之歷歷孰云九州之弘博兮收來一日而  
不足彼費脛於周跡兮窮十霜而或逸若夫舉秋毫而記大兮異子休之詭軼子休之學兮  
豈吾之學也小天下而不有兮聞夫子之宏廓夫子之目兮亦吾之目也揖精神於無言兮  
索氣象於彷彿恢臂襟而盡納八荒兮襲餘麟而躑躅身非昔我兮恍然有獲右眼鬼乎扶  
桑兮左眼橫乎若木衡霍不得以岿岿兮洞庭巨野之瀾漫兮亦一污瀟潁下土之茫茫兮  
掛半目而未足芥也抑茲嶺之峻嶽兮拓銀海以增大者乎傍有大人先生聞言詰之曰子  
徒知山之不知吾道之大也夫天能覆而不能載也地能載而不能覆也載天之所不載  
而覆地之所不覆兮道之極於溥也山能高而不能深也水能深而不能高也深山之所不

深而高水之所不高兮道之入於毫也此則天地乃吾道中之一物而泰山又一物中之芥子棗葉也嘗中既有此道而天地爲吾嘗中之一大塊則吾之嘗中不知幾泰山之巍業也然則泰山不敢爲大兮而况小於泰山者乎縱不嘗喘吻歎徘徊白雲之巔兮茅茨之下申床褥可以知天下一彈丸也伊子輿之評確兮信在此而不在彼吾將携子而探討兮邀東門之夫子

擬自悼賦并序

昔班婕妤賦自悼蓋班災聯嬰祿感弘秋扇其爲悼最然予比班又慘焉余早失怙學於兄兄又逝及癸亥冬哭女往年夏哭女與男冬又哭妻噫自戊申至丙寅歲未再周而茲禍及六之酷雖曰脩短有分劑猶恐已作之召而自反不獲叙懷著賦配班之後

閱余生之艱頓兮夫何天命之不純曩承規於面墻兮遵庭教之諄諄歲黃猿之孟陬兮罪上通而降酷幸棘心之未枯兮循凱風之長育從伯氏以北學兮當宣陵之初陟寄澤宮而忝養兮觀春月之再朏累司馬而擢錄兮慰倚閭於鶴髮里閨稱其有子兮謬云三珠之復出暨黃駒之徂暑兮秋颺忽折其連枝縱強寬其哭震兮實潛痛乎孤嫠念衰門之覺崇兮

愍余蹤之惴危歌杖杜於道周兮勢孑孑其疇依猶竭力於稽古兮綿日月以不敢衰涉詩書之園林兮拈芬豔以咀嚼處婁憲而不嘖兮敢遑遑於封殖登邦選于南宮兮汚桂籍以賤名摛春暉於堂萱兮有庭荆之欣榮玷鸞班以蹙躡兮懷柳下之遺直惡雕樸以騰華兮全純素而內植果齟齬於世軌兮雷羣昧於耳側揖既戀而步癡兮無時俗之嫵媚孰能奪其至拙兮眷授余以巧智山豈無蕨薇之甘脆兮養不肖之殘軀幼之學兮壯而行招前靈以並驅誓不矯余之初度兮依洙泗之矩矱歷宦途之九折兮恆怖襲爲身疾風雨蓂蓂乎甲子兮百草盡變而無芳區區蕭艾固不足誅兮咲芷蘭之冗長采洲若與僻芷兮芳閭闔其撐袖覽霜雪之質質兮撫篁松之特秀登周道而儻個兮斬神天之錫吉痛疫魅之闖闖兮競鼓牙而呶舌漫毒涎於瓦璋兮魂相踵而飄騰裁卜子之沉悲兮殉達軌於延陵喜吾夫婦之無恙兮歌谷風之育鞠曰裔儒踈伏於蓬蒿兮資章句以曠跡乃強顏而久竊位兮今六變其涼燠內揣分而實逾兮媿妨能於裔列食君之祿圖豐弘兮非余心之汲汲瞻荷洞之瀾迤兮有數間之破屋况負郭之尙存兮非凶歲不失饋粥願遂麋鹿之恆性兮白首相保於丘壑侍慈闈以奉養兮飽吾力之菽粟計實勤而不究兮忽恠夢之凶謁徵斷絃之曷休兮悟永拋乎琴瑟瞻歲躔之未周兮蟾馭轉其冰轂廿九年真一瞥兮委環佩其若遺

悼幽蹤之日遯兮號無聞以招不知雖圓厚之久長兮痛更覲之何時疾余中之酸楚兮嗑  
袞袞之情悲抱遺雛於膝上兮淚浪浪其交頤洞房黝昧以塵凝兮風徐徐以振帷幄關綺  
䟽以喟息兮邈聲容之不可接逗春雨於園梅兮存精神之彷彿時曖曖其曠曠兮矐靈俄  
而西沒情澹沸以若炊兮慘潘懷之恠鬱噫福善禍淫理又玄玄彼何人斯心似涌泉恣睢  
盱以貪饕兮溷欲海之無津反有俱存之慶兮冒白日以驕人天胡使我早紆何怙之憾彼  
何人斯行駢鬼蜮外雖寬而內深兮幽毒弩以潛射反有無故之樂兮裕飲食以望腹天胡  
使我忙隕哭昆之淚有人於此圮族而傷類鴿原不見其急難兮葛藟徒聞其終遠安富尊  
榮兮能育胞胎之蔓天胡使我頻困東野之厄有人於此穢義饑德患失之靡所不至兮綵  
兄臂以奪食戴冠曳履兮能享借老之福天胡使我忽鼓子休之盆信蒼高之難謹兮中閔  
替而煩冤吉與凶固不自謀兮又何必問夫鄭詹塊獨處而無聊兮百憂芸芸其來添系曰  
有母無父身苦孤兮噫人皆有兄我獨無兮噫三兒登幽塚半燕兮噫妻又繼逝不可呼兮  
噫我罪伊何罹此虞兮噫

古

詩

五言



止石歌

浩浩永平江巨石盤回洑入漫幾尺尋見者纔丈足長鯨振響起大鵬寰味浴跪伏旁趨附  
或婢而或僕下其魚龍家上也鷓鴣屋雲霧喜冥蒼造化鍾奇特浪春不磨堅困澗孰搖腹  
繞波蔚藍團測深蔓難續形模怪經過詭殊千古獨立馬究厥初擬發豔雞惑氣母孕坤滓  
卵播甚龜酷媧皇嗣庖帝鬼神鍊五色補缺繼日夜雷電功程督一片落隨風浩蕩東海曲  
浮漂汨瀦內猶人去失族鯀子脛無毛天一定四隕向來同梗汎乃止江之目名豈以此得  
水經漏荒服官家據爲窟網罟利密數

希剛相公奉使京師昌世在潭州遙贈三十三韻

希剛李琴  
齊長坤

仲尼魯大夫季札吳公子飄飄離下邦入近天王所三絨採厚箴大樂傳盡美所得出常途  
實但非啣使我具兩眼者更不睹如此典刑猶有存悠悠撫遐軌希剛聖賢徒不紆苟青紫  
効造拔凡汙擬作善人紀尙友追古先充腸咀書史或抽牛弩臂屹若長城峙安危將相才  
九萬脫泥滓朝正選專對物議推李氏欣然豈憚遠拜命駕不埃孟冬日之吉京師幾千里  
保州過鴨綠玄菟窮西鄙遼城聞鶴語令威討未死半洋訪義窟倘酌五百士漁陽帶遺臭  
至今沼沼水感慨燕趙風陵遲見遷毀草蔓望諸墓興哀在續誅居庸抗秦關金湯俯萬禩

走集梯且航遶羶奔螻螳呀呀奉天門宮觀參差是垂衣高帝孫一統孰奸宄腹心壯朝廷  
廟謀協經理春仗想頌朔黃麻演詔紙隨班漢衣冠穆穆顏有喜天子重東藩寵錫定無比  
延陵與闕里古今同一揆夫何韓安國聘術用摩揣括囊携圖書有能謗蕙苾故人繫嶠南  
多病歌茆苴將詩代面目呱呱情何已

宣傳官契軸

國家設宣傳武西之清秩簡選極其精才非甲則乙實員準八卦兼官配十日分番直大內  
形名掌機密皆學萬人敵區區謝刀筆翼衛者又倍間以文士匹矯矯龍與虎氣意何茁茁  
並生君子國事主同委質肝膽非楚越借入又借出睨彼陞楯郎眇然是蠙蛭慙釵擁寶座  
高步青雲秩常棣孰過之契固甚膠漆莫伏馬陵弩庾尹乃法律僞爲於言笑鬼神窺心術  
有過各互謂去若髮施櫛得善勉相嗜甘甜必如蜜交道全與否畢竟凶或吉漢庭賣友者  
千載加斧鑕

奉酬石川

林檎節  
大樹韻

秋毫亦非細太山亦非巨巨細出於名無名乃其母獨立嘯宇宙白雲空去去灼灼者蓁蓁  
英華沒平楚惜春屬何人謳吟苦李杜豈如齊物翁逍遙大春樹余思在蒼洲三山何處有

願言解簪紱，昧昧謝揚著。同心絕世無，呀然莫吾子。樓上射明者，招禍由麝鼠。所以七賢輩，但傾竹林酒。孟氏貴養氣，此氣何時沮。携君問夫子，遵彼洙泗渚。碩果幸不食，拾之收我莒。

和適菴韻前者鄭生傳疊八詩多故未答今時及之故少發於數句云

適菴曹叔奮仲

久食忠州飯，已見燕田園。南望金陵叟，清風懷也繁。好士世無人，買絲繡平原。爛看輕薄子，雲雨隨覆翻。鄭生自南來，八詩仍動魂。此邦乃都會，迎將遞蹄轡。月嶽借爲豆，金江添作樽。擾擾闕相答，招怨桃源村。再附十一韻，漢魏披軒軒。稽首謝不敏，更寄潛夫論。

八音歌遺張檢詳玉鄭翰林萬鍾

金母拍手笑蟠桃，千遍華石梁。海不駕人間，空鮑車絲聲。哀以怨客愁，知多少。竹勿頌瑟僮，鳩莫歌窈窕。匏尊閱世故，死合爲麴神。土爨幾彭祖，不見長生人。革車三百兩，願盡輸酒姑。木瓢酌饜飧，仰天呼嗚嗚。

金人本不言，三絨豈徒哉。石羊立蓬窠，聖凡同枯骸。絲非千句紐，強引者莫量。竹葉可自晦，達士終發狂。匏繫且不惡，賤生於無用。土梗貴乘早，遇潦還自訟。革罷百年恨，一生堪長醺。木馬擇處之，往問逍遙君。

藥名體遺張檢詳玉子剛父

寄生於茲世畢竟螻蟻翫山林安之所逍遙甘遂意故園屬當歸不待秋風起百草霜既下  
六雪已覆地如何白頭翁泯默食文字堂堂張景陽磊砢有遠志前胡巧相違空灑天涯淚  
區區非附子白絲隨染異

古風十韻

雄虺闖我左老梟窺我右兩頭蟠我前九尾踈我後四凶處之蕃一身眇然小真由地勢痺  
毒物萃不少赤螳大如駒飛蜂或似鶴巨細雖別科施害則同酷此間寂難宅騷魂等秋蓬  
巫陽在寥廓虎關何蒙蒙起立發浩嘆烏雀猶酸悲巡簷繼以歌行路亦遲遲

送星山李進士入國學

爲水不爲海安得凌天波爲士不爲山未免牛羊坡丈夫厭淺痺立志如鑿龍用力學問問  
屹屹求大宗星山李氏子軒輊非常儔身雖圉一邦曠懷橫九州乃翁諶醇儒祭酒推虞庠  
斥去滿籛金却遣書幾箱漢家有韋賢父子俱明經孔云畏後生豈貴年華青富人厚積財  
百用無不給貧者瘠其有朝夕且告急不見韓子書溉根以勉人莫摠宋人苗湏斷齊扁輪  
文章與經術一本寧二途由源自達流聖賢存規模去去赴東學子真得所歸請言東學制  
細聽無我違尊經起在北大成面陽高明倫正當中祈祈多白袍

客况無聊偶成古風二十五韻錄似崔詞伯子真兼簡和之求和

悞持魏王瓠漑落於茲世熟讀問服篇日斜庚子際君門洞呀呀不敢裁薜荔竭來公卿閒  
未蒙一言惠長撫倚天劍太山若毫細往既萬萬古來又隔千歲七尺費大塊汎汎舟不繫  
詩書揖聖賢眷密三生契孤驅坦闔途徑蹊茅盡荆真有容堅臣豈無勛華帝妻羣高崗柯  
朝露何泥泥夷猶終南下願廢卷阿製江津滌滅圻招招孰予濟青春白日昇雲鎖藤燕渚  
美人忽以遠黃昏愁決背瓊枝不可詒更樹百晦蕙邂逅城南公東京才子裔蝓蚪附脩鯤  
美盼回青睞慷慨讎風騷快哉撤氛翳玉缸瀉似泉許盪埃壤診醉拈扛鼎筆文瀾簸溶瀆  
珠貝散闌干鯨鱗狂莫制鬼物膽盡裂兒隊駭若獬仲稟旁張軍詞鋒且愈銳我勞擊布鼓  
雷門非所逮

巢疑巢

和尹亭仲求題申元亮墨竹韻

亭仲尹  
橋亭衛

皇天有老眼此君靈海塵豈不一眷閱於焉遣高人醉哦墨竹賦滿目淇園春南土賤霜碧  
斬伐無長身籬腰束直節爨下燒勁神靈川所憤痛拂箋移天真子孫蕃且衆種種幅幅新  
遙然文與可邂逅如隔晨橘亭得之喜暗結虛心親自茲廢屈頌萬寶難爲珍

國家做古制置牧場於諸路皆在洋中每三歲遣朝臣點閱其數籍以藏之太

僕今年秋星山李孝叔甫受是命巡湖南右界入海島逾半月吾州之別乘  
慎斯立以監牧隨行備言菅蒯之危遂作古風一首粗叙其事仰慰征懷仍求

和教

大麓舜不迷黃龍禹豈驚聖人有定操蹈險如由庚李侯金閨彥高挹姚姒英上以輔  
明主下以樹令名衆星有北斗衆鳥有鷓鴣漢使覓天馬飄飄啓南征沙苑渺炎洲遠搜房星  
精危檣拂朱雀鰲背青縱橫適遇大鵬徙溟波激三更雪嶽湧坐隅颺威摧珠纓先生寄笑  
傲緬懷二聖行宗慙是小豎長風劔映聲叱咤伏狂螭鞭笞逐奔鯨百怪盡遁跡萬里俄澄  
清挺身南海中壯氣高崢嶸孰云爲物最一杯輸雙明怯夫臥吐沫脾睨真蚊蠱至信出縣  
水聖言垂千齡莫道誇心膽以彼求平生超入雲錦屯昂首皆悲鳴一一採龍種天旣從此  
盈無復至神骨飢立嚙枯萃王事且旣濟烟雲收橐囊衰病徒凝竚數月不出城一片井蛙  
天形影何慄慄將以遺遠者江臯宰杜蘅

縣一本  
作懸

奉和石川韻容非正韻敢改之

我亦宋玉徒風懷大王雄蘭臺坐超忽胡爲乎泥中明月且按劔嫫母寧惱公去去披薜荔  
雨雪迷故山倘有同心子采芝於其間錦城誰云樂街頭多毒螫龍蛇不可擾蝸蜥生坐榻

窮亦不須送貧亦不須逐退將復脩初數頃食吾力寶鏡墮江底濁浪靈光瑩松聲颯然至  
中霄奏古磬石川有佳士投詩助發興門前無荷蕢俗耳那解聽霄一本作宵

送祖熙入山用孟浩韻

仙山望縹緲東溟半沉翠隨風萬里雲飛行先人至夢登毗盧峯茫茫撫一氣時有喬松曹  
借乘鶴一騎冉冉過帝居闔闔扣冲邃九虎忽叫怒驚墜卽宵寐豈非夙所慕神遊討秀異  
熙也往觀之來自寶林寺欲從不可得附耳以微意方期采藥去火急解綬棄

奉和適菴

七年見佳詩故人情如何高聲一再讀起舞堪婆娑又從鎮海軍湖霜衰髮多少睡守短夜  
漏板驚蝦蟆此物奚爲至珎瑀穿復羅千金不足重永言終靡他  
有緘自東來疾於凌雲翰受者吾舊僚却又憑驛官君子遠行役久失夫婦歡如得塞外耗  
慰到蘭蕙肝何方快施鋒削平嶺路難尋君無蔽碍坦坦我車安

詮次兒問荅奉酬適菴婦言篇

兒問東園蔬勝此西江魚求魚必蹈險豈有濡足蔬二物審取舍利害信異問荅云汝言辯  
孟子或不如臨江魚敢睨平地尋園居六籍盡束閣新翻種蔬書

兒問天何故於物亦加禍赤蠹鑄桂皮白蛾飛橘菓彼無心受之未聞叫坎珂苔云汝達理懷沙者計左人苟蘊貞明任他水與火上帝公之主未必私毒我

兒問翁無罪如何黜王所名聲日仆滅疵謫必播著追隨遁叛孤鴈若失侶苔云汝未知州使亦顯署推移附炎羣雲聚散於嶼衆咻不足驚正路吾叱馭

兒問適菴叟綉扈果何服鄭重眷吾翁珠什幾枉辱不肖窺一斑薰然得私穀苔云非常人嗜好唯可欲青氈無長物風月擁書屋從今汝嚴事分契必彌篤

兒問海鉅物附地悅就下人胡將一稊爭上欲波瀾不問河中鬼啾啾慕大雅苔云此說在可與談草野莫誦宦路頭話怒奚獨捨適叟真自會他日往告也

訥齋先生集 卷第一



訥齋先生集 卷第二

弟 六 峯 編

古 詩 七 言

賞梅

我憤淡墨落素屏雲昏玉色終不晴  
萬里闕樹到山中冰雪生面何分明  
炯炯光芒照心鏡  
十載塵襟慙近暎幻化誕妄罪書師  
拜此真身自發興性本愛梅任蓬飄  
遠探庾嶺窮南條  
老聃西行適戎狄况被兄也相招邀  
洛陽城東萬箇李天爲富貴全林昇  
雖近王家不足着  
鑽核門前競持似清標結盟寂寞濱  
玉立亭亭蘊漣漪平生心賞忽此諧  
脉脉無言誰得知  
愴然忘歸迷出處逡巡索笑和調度  
逋仙已去放翁亡千古空傳宋生賦  
披荒訪幽若欣迎  
起送暗香非無情四海無人嘆猶吾  
向來白眼今爲青箕山潁水謾回首  
借作高人對舉酒  
風來且怯一點飛有笛莫吹聊袖手

着一本  
作看

夾谷悼三歌

憶昔與君爲夫婦期以百齡同白首書生計活太酸寒炊爨剪鬢墮窮白一朝釋褐喜稍康  
就食京華共升斗提携歸來舊粉社恠底直星丁陽九春風律谷忽罷暖洞房幽幽鎖閉久  
相思明月不見人短分偏傷晉陽柳嗚呼一歌兮歌最苦脉脉我懷君知否

兩箇好女生參差用桃醜面知淑姬去年且喜得岐嶷襁褓人稱麒麟兒蒼蒼不遺目前去  
夫何旣與還奪之荒陵纍纍母子同宰木瑟瑟西風吹嗚呼再歌兮歌裂竹獨向殘燈晨已  
移

嗟君此別何忙忙泉重路阻不可尋遺得呱呱傍我耳慙慙拊摩長欽欽飢當呼食渴覓飲  
晝必同孟昏共衾惻惻無母汝何恃徹夜不寐沾余襟嗚呼三歌兮歌激烈五更杜宇山正  
深

秋病嘆

天不畀我以一能獨予多愁兼衆疾世上才藝掉臂步冷笑謳吟老蝸室雖然名也集猜謗  
二者於身誰送嫉捩屣紫金餌入神何況樽盃望芬苾甲第紛紛茅蓋頭俯仰且度百年日  
君不見杜陵拾遺翁詩書滿腹終飢跌

奉和欽之詩

金皇勇跨白於菟雲旂撒蘸厚地山城踈雨度脩篁秋涼瑟瑟啼窓紙娟娟美人幾隔水  
贈青玉案憑信使合作君王窈窕妃有底絕代虛老彼玉纖幾回彈朱絲陽春白雪輕下里  
指點蓬萊渺何許鰲波不借乘赤鯉世惱便入蛾眉嘔春風秦虢桃花騎心旂搖來定蕞辰  
霞裾月佩塵埃裏堅貞結習在歲寒充陽且采瓊芝賦笑殺姑蘇落越軻十年等閑君思醉

蕞疑

和欽之先生季子益恂韻

欽詩有蕞細賦語  
故詩中微發其意

深山巨澤龍蛇蕃釋氏抱送光暎地十五翩翩富文史揮毫鯨淚凝滿紙詩句搜來造化窟  
分明鬼神困驅使天縱之聖畏後生况我區區豈易彼代隼秋雛毛盡赤驥子早已無萬里  
人間實少萬金產學術又跨趨庭鯉大科終能拾異等才名直出班散騎吾家於此媿生豚  
累月妄置鞭笞裏老形已具人所遠沾泥絮肯著細膩書籍欲付王公孫首回壺山愁若醉  
啓彥至昌平再馳箋卽書十韻爲荅

昌平兩緘及老夫綿州萬里汗血駒美人娟娟隔一水脉脉不語非湏臾筆彈錦瑟五十絃  
折楊不敢聒座隅楚地開拓濶無垠瀟湘洞庭相縈紆鼃鼃蛟龍暨魚鼈往往出沒幽在輪

安得白雲以爲颿勇擢蘭舟馬若驅造物細兒猜老健散遣百恙圖身孤何況時鍾門痛駢  
北堂灑淚連朝晡萊衣酸慘帶愁悼罷斷吟哦硯墨枯行潦倒盡溝澮虛向來著力徒區區  
知君囊有黃昏湯倘乞一滴許我蘇

錦江謠

錦江之水流彎環詢于且樂盍往觀方舟汎汎駕秋風十里海門寬復寬芳尊酌我發清狂  
俛仰古今聊徜徉王建樓船下天南鐵原王氣風淒涼青絲白馬誰家子虎踞完山一片地  
那知老奸敗赤壁終啓松京五百禩故壘蕭蕭何處尋時時夜月秋猿吟我逢四海爲家日  
無事褰芳沿碧潯沈沙折戟不須磨但添酒籌窮年華身世風前短焰燈是非聒聒汚池蛙

古今一本  
作今古

錦江吟

徐掉蘭舟隨所之白蘋洲上與佳期始離木浦行將遠纔到鷓巖去復遲秋日燥昭如闕里  
暮江平淡似陶詩客懷惓惓終難遣羌笛夫何作意吹  
小舟簫鼓聒巖根湫底神姦怒不言莫喜隨波甘就下且謀回棹必窮源網投沙窟潛魚駭  
舷憂蘭枝夕露鱗歸路好燒千萬炬丁當鍾漏出譙門

驪江長短歌贈玄穆上人歸彌勒寺

一本國之下  
有一字

驪之江水浩浩千古萬古長不枯北流同爲漢江波終南積翠鬱岬中盤紆窮源必闕五臺  
椒臺陵縹緲濊國之隅我不如中江鷗從波泛泛往來乎湏臾去年辛巳一之日翰林唐給  
事史聯鑣來上都新天子卽位奉天殿武皇大弓遺鼎湖賦七子觀鄭志列國交聘猶爲此  
規模况今文明天朝誦詩三百者頌詔殷太師文獻區王與相相謀不擇內外前選才學徒  
中原駭汗丞驛召寒沙百草驪江江上驅是時天晴暖似春波帖不興藍光十里看平鋪林  
間白塔迥出八十丈藥珠殿閣軒稜觚彷彿楓橋仰見寒山寺繫纜柳根仍踟躕入門老僧  
手執雉尾帚淨掃禪房薦用蒲木盤茶果造次示私款因說東臺清景殊相携徐步覓蘭徑  
首訪古碑七尺巉龜趺陶牧文章聞天下風雨吹磨黃蘗幼婦苔半燕移筇繞塔又三匝累  
甃千層唐突羲和烏臨江靠臺抵黃昏西望蒼茫官樹三萬株炊烟冉冉生處白暮帆欲落  
嗷嘈皆買胡英陵隔雲不可睹翁仲吞冤依然泣瞑途健陵之孫太宗子赫赫海東堯舜尊  
訐謔沒世不忘信古人稽首遙拜三歎增於戲俄頃月出山漸多南飛魏鵠可憐寒影孤歸  
濤過鱸兩軼軼此時未有陶謝風月誰枝梧魂骸冷慄柰予衰病何促回丈室呼竹鑪燒酒  
半鍾謀就寐鈴舌楚楚激激還不諛明朝留別七字句到今夢裏彷彿三金軀天棘江蓮每

在想再窺不果塵事常攀抱穆也昨日膜拜庭中請上謁陞堂叙澗顏敷腴落彩蒙伽利動  
幾紀空寂學道心得剡仲將墨法且傳妙往往用此見邀於吾儒挽置州司刮燈烟劑出一  
點之染燻我尖頭奴迢迢結夏赴神勒曉汲清江松花香飯調相濡出牧遷轉二州空畫蛇  
吾民不肥吾貌癯細索根源亦不得問著吾師猶然笑云非同趁驢之江水浩浩短舸尋汝  
隨輕舫

題李晉州兄弟榮親圖

斑衣且作悅親具况此釋褐穿錦袍存者以宴歿者祭推恩所生均寵褒龍駒蟬媽指李孫  
大小二難俱僑髦東堂邵桂擢兩枝青雲發軔車已膏一朝捧檄下嶺海魯衛連城常棣高  
魚軒大家往來穩怡愉不識南征勞昨日春官上啓目門下奉教申地曹遙賜榮筵古康州  
申一本作伸

九重聖澤傾滔滔鳳鳴朱樓壓城敞紫霞萬瓮醞仙醪陸海狼籍物其備刲羊擊豕將空牢  
白幕扶雲覆廣庭半千歌舞森週遭彩棚曠兀移造化三山彷彿浮金鰲是時清和屬夏官  
扶一本作扶

初柳冥冥迷塹壕鴈行袍笏擁雙盖宮花獵獵翻隨臚依然放榜金門廻了童百隊聲呀嘈  
優人散落奏伎倆來觀九里奔波濤夫人自慶懷抱中做得兩箇名世豪津津色笑舉壽杯  
鶴髮炯炯顏如桃頭流拱翠飛瑞氣青鶴仙人環羽旄鼙鼓逢逢幾通雷鯤絃鐵撥轟檀槽

抑六龍首頓羲轡窮歡已到棲鴉號聞者不量才品殊累月笞兒還怨眺人間勝事不可泯  
丹青忽落秋兔毫菁川夜夜鬼神泣文物江山無一毛傳家科第是青氈雲仍興感承風騷

明清歌

病夫跼蒿蓬塵翳深濛濛此物痛目耳目何由明耳何聰至明天有月至清天有風有時值  
良宵策杖遶門東耳也得其清目也得其明清乎洗耳兮耳去垢成桑柝奏能渾聲明乎刮  
目兮目無昧離鷗萬里形模呈嗚呼人皆兩目且兩耳視聞有八竝快貞赤壁得者未必齋  
區區不過誇聲色豈似安樂窩中叟天心水面超相索

草蕪徑歌

吾心大天地磅礴六合表天地小吾心盡圈方寸妙吾心豈不大天地豈不小人間孰不失  
赤子救之大人少回首叫助華鳳去九霄孔孟香門外蕭蕭草蕪徑齊山濯赤秋稍稍南坊  
北里夢作場四顧茫茫夜未曉狂歌一拊絃清吹颯爽聲林杪

送權質正景信父隨 聖節使如京師行

華嶽秋光遠拱萬壽山闔闔天門開咫尺君王稽首金鏡節扶桑曉旭心抗赤白哲何人隨  
使者南曹員外權景信暨疊綵服辭具慶西風萬里凌鳥迅平生刺刺等醢鷄舉足已蹴醫

巫閭荆軻山南須駐馬黃金臺下須停車一杯一吊慷慨魂一杯一賀招賢王卸鞍脩容玉  
河館奉天殿前龔躡趨天子高皇八世孫雨露偏我詩書地胷中袞袞足萬卷攢此往質真  
能事濟濟朝廷是鴈海淵源豈乏雲谷子但將六籍叅性理莫喫吏語與譯釋君不見益城  
博雅金季雲得依程愈傳小學又不見麗人尊重楊龜山宋史特書談至今延吳入聘採陶  
唐聖人且記三緘箴金陵貨寶列帝肆鄙夫過之咸朶願往往黃昏潛抱布久矣睡輕於有  
知人心好惡太逕廷可憐義利紛晦明嗟君秉執非草草孚尹旁達鍾山貞磨亦不磷沮不  
緇畢竟不墜么麼科歸來正值遼城雪處處厭聽黃竹歌病夫孤負子長游盤跚不出蛙窩  
白安得兩腋生羽翰凌九天兮頰九有

宣川紫石硯歌

金成之出鎮義州得宣川紫石硯梅竹交根制極工因南學諭越并詩以寄  
當時在艱棘不可吟韻不果報卒喪還朝則成之又按鎮南

宣城石工手握昆吾刀夜沒萬丈碧玉寒隱隱如聞地下哭剝出千年赤龍肝龍鱗食丹  
砂肉腥血未醜頑復頑磨刀琢削天爲驚排空列星落斑斑風漪瑟瑟含秋色泉眼納納天  
池寬琅玕涓骨補精彩交帶大庾春前信金聲玉德配君子六丁將過龍灣鎮龍灣將軍拔



劔奪紫氣漫空霹靂震婆律香水百過洗玉露曉瀉銀蟾蝓春薰松麝玄雲起鴨江晝昏無  
日車將軍生怯疑怪物什襲萬里遙示余鳳山居士再拜受珍重不下金錯刀銅雀斷瓦忽  
無顏寬剗孔硯猶爭高呼爲唾面待乾客遲鈍不數輕銳曹

苦熱行弘文館月課

九虎拏關下嚴詔炎帝稽首承赤符鞭奔燭龍抗莫制鬱攸回祿朋挾鞫驅雲爲炭蕪不盡  
六合囊鑰噓洪爐箕伯折慄閉竅寶扶桑曉葉焦未蘇三足金烏渴欲死亭午飲啄銀潢枯  
層水亦融凍鼠爛喘殺吳牛真須臾琅玕半燒鳳凰實敲埃翳束騏驎途王孫肯保小山叢  
河上漫瀉袁公壺百萬襪穢叫甌甌逝濯安得傾五湖老子無方劑雪丸東走有似廬陵歐  
陽華慘烈腸內蒸索涼尺紉非良圖漢宮玉露偏衛霍斬筭孰許寧吾軀乘時侮我足蠅蝸  
勇逐錯擬抽轆轤雷霆何處空霹靂揮汗未作秋江菰

錦南贈仲野行二十韻

韓山稼收聞天下歐蘇異代遙相望文章壓倒圭齋翁劉向父子慚聯芳梗楠杞梓世不盡  
球琳琅玕相暎光仲野昆友乃苗裔元方季方翹鴈行三尺秋水磨復磨驥騏白日鳴軒昂  
江陵移拜耽羅侯王用玉汝非尋常直將大膽出都門腰下獵獵銀龜揚鵬池眼中小似杯

深一本  
作探

創一本  
作瘡

鼃鼃稽首修通梁錦館秋雨發軔遲按莎晚菊吞別觴佳人莫奏渭城三離愁乙乙頻廻腸  
嗟我螿蟪蝻蝓窟羨君蹈海如康莊束取扶桑備長楫西斬鄧林裁征航南極老人充水手  
颯母斂避蟲象藏椒樽儻酌挈山神三姓舊穴深榛荒龍戶馬戶在循撫官柑私橋休彫傷  
蜺俗難馭不可急龍蛇赤子須相將至今欲食陸張肉嘔呻未罷多宿創刺疵荆弊還本醇

立談之間能更張孰飢無食寒無裘流徙亦共需絮種鯨朝勿忘明月浦有時詰戎巡關防  
朝一本  
作潮

送正朝使黃同樞獻之父大將衛之子

綠眼將軍生將家短小精悍擊霜隼已破兵書用兵神且誦三百酬對敏殿前召作朝正使  
燕山萬里催華軫身携斗膽出都門陞楯諸郎摠蛭蟻遼城十月塞草荒初雪覆地風力緊  
陰山驕子莫梗行一鳴弓走霜折茵義氣感激望諸陵剛腸不搖燕趙鬣朝廷鴈海有賞音  
曠古數君頗與贖

古風一首二十韻

金龍紀歲春之初鳳山居士遊武州迦智高入朱雀宮鮫人窟宅西南幽其中迦藍有寶林  
棟宇始自東京脩風雨荒碑字半非普照逝跡雲悠悠同行卓犖二三子出入危磴窮冥搜

烟霞泱泱千萬重雷靈白日窺靈湫老蠹盤蚪弄造化幾番曾祝沈豪牛豈無快飛斬蛟劍  
畏威不果還逗遛山僧來侑白勝湯掃蕩百年無盡愁四壁屢屢錦作苔紫巖磊落披千頭  
苦竹叢叢度幾霜矮松挺挺寒颼颼側耳不聞有鳴鳥莫黑之烏爭飄浮知心淵谷李和之  
文彩恰恰珊瑚鉤貪收萬像抵不廉木客爲我吟啾啾歸來丈室月正午晏公炷燈回青眸  
上元明朝薦糯飯雞林故事因可求無錢不辦買官酒法庭德水猶宜杯脚底安得生蓮花  
稽拜金仙空傴僂老醜到處人笑罵憐渠誠意勤綢繆春寒不可解我衣答以荒句非琅璆

# 訥齋先生集卷第二



訥齋先生集 卷第三

弟 六 峯 編

律 詩

題愛蓮軒

濂溪遺所愛有目謾紛如濯濯淤泥上  
亭亭風雨餘長來人折直通處我知渠  
臭味真深會猶須自作踈

次柳主簿詠落葉韻

族飛迷夕看蕞韻亂宵聞地地斑斑墜  
枝箇箇分人行真鑿說雨過亦虛云誰  
管榮枯得無心造化君

述懷投淵谷

若箇萋萋草王孫恨不歸層陰恒閉晝  
白日且無輝燕沒芝蘭晚淒涼薜荔衣  
功名付餘子

邁軸莫相違

擬古

滴滴空塔雨空塔滴徹晨秋花卽有艷枯葉正搖春妾泣長思主虫啼底訴人傾瓶難拾水  
點點鬢霜新長一作常

右秋

玉漏冬宵永灑灑雪暗晨別衾寒出鐵歌殿曖融春恩冷誰溫妾爐存借爨人宮車聞隱隱  
何所寵方新

右冬

轆轤金井轉燈盡洞房晨草暗長門日花明上苑春誰將割愛刃翻作薄情人寒食鞦韆會  
虛瞻召命新

右春

離宮愁黯黯夏夜易回晨蒲葉無端雨榴花別樣春鴛鴦會背儷鸚鵡定讒人何以消長日  
綉針刺繡新

右夏

次獨秀軒韻

勁翠彫常後浮紅媿早芳  
晚軒明秀色苔逕落寒光  
鶴立又還隰風吹子更香  
滿園無限樹搖落一番霜

種玉虛心契娟娟看長成  
露光和眼碧秋韻入絃清  
客榻還相照碁檠影獨明  
至今邁軸地新笋又生生

宿洛東驛

少喫防寒酒移燈鴉定棲  
松悲孤館冷月過小墻低  
地主通伴問僮人有抱携  
何時罷行役側甕灌山畦

江原監司權希孟挽

冠玉貂行立通神入座時  
節巡青海道身出白雲司  
寵極崇三代賢勞竭一暮  
那知蛇直歲夜半壑舟移

特達權廉使英聲斗以南  
陽春知蕩蕩大厦見潭潭  
民獻叅夫十吾交備益三  
不聞言慷慨泉道阻容音

李牧使成之甫挽詞

易良眞長者人世泛虛舟三作周常正連爲漢牧州青氈猶自守負郭不謀優草草牛車葬  
清風凜九秋

甲子當而立初登丙午科素餐期伐輻丹悃仰卷阿栢府飛騰晚薇垣獻納多百年無限恨  
牢落忽蓬窠

鐵硯輸螢雪詩書幾咬咀桂林俄棹鞅芸閣遂飄裾監察朝天子拾遺奉乘輿孰知終齟齬  
官位竟屯如

前春伽智寺解后眼回青連理看常棣飛鳴對脊鴿共傾安範酒同聽上方鈴不謂都門外  
西風哭縞駟

當年正月李牧同弟正郎君至伽智寺安範亦携酒來故詩中叙之

昔殿陽城考悵燕彭澤園何年還舊隱再命荷新恩康健如平日朝叅望禁闈一朝嬰二豎  
長臥寂無言

歸葬冠山麓遙遙海極南庀喪看令弟寧感有賢男秋月當重八郵亭屬十三浮休元袞袞  
天地幾彭聃

鍾樓初罷漏厥馭出西門祖奠賓車集哀歌薤曲喧永辭江北國遙向海南村脉脉休人事  
榮枯不復論



烏兒萬里客以淚送鄉關迢遞重原道淒涼振鷺班  
雁行秋斷絕鸞影鏡闌殘聖凡同黃土  
征西不足觀

蘊籍由天性風流實可人三珠寧後勳一桂最先詵  
外帶青巖質中含白璧醇可憐無善相  
終不聘騏驎

蒿里千人競聞君返故都  
竭來關塞渺飄蕩客魂孤  
書劔催收匣田園摠付孥  
永拋湖海酒  
愁入菊花枯

次東軒韻康津

金陵雖小縣形勢漢南無  
石郭山因儉湯地海不枯  
入餐魚有婢登貢木爲奴  
但接元戎府  
居人病召呼因一作仍

海氣蒸成瘴冬溫雪欲無  
潮高鯨噴薄月小蚌憔悴  
野市通蛟客村氓雜蠅奴  
夕烽城上舉  
屯戍競喧呼

和高宜寧雲字彥龍號霞川

杲杲昇東旭蒼蒼海啓晨  
已回連夜雨方盡一年春  
我飽三州飯民飢幾戶人  
淹留待小滿  
吾賴泚添新

臥近窗前樹鵲聲聽到晨少  
悵愁閱歲多告病經春飲池牛觥翠探穴虎謀人悔殺歸來晚  
田園草闢新

衰朽仍成懶衙遲不及晨一錢終謝客千首祇收春詩任名貪吏形從號瘦人倒君徵酒母  
官瓮發醅新

暗解房招夜明知牖納晨龍蛇真占候禽鳥但憐春有底尋常地猶爲旅泊人南平纔削跡  
曉語一番新

問獄咸平去昏將蓐食晨小兒言染疾吾氣驗愆春路榜回前驛行謀輟僕人醫巫交請致  
憂慮自然新

默然懷耿耿殘月照窓晨磊落三千卷淒涼五十春壯心還做錯奇數例窮人何物凌烟上  
丹青煥揭新

夢伯氏

伯氏戊午秋捐館幽明入變炎涼當年冬自湖南至京師之五日入夢後又  
如是者三豈兄弟至情雖冥冥猶念客路風雪故歟

一別無由近鴿原草獨深詩書埋幾日翰墨到如今遠地來和夢寒宵重愴心江南還萬里

起坐淚盈襟

金堤至扶安

稻花迷遠近秋色忽孤城蟹穴漁童立江橋市舶停度坡驚暮氣聞鴈館邊聲懶拙長違世  
飄飄任遠征

錦州口號

一區清更濶征靶故迤邐障東看天小雲封爽畫全公租收檜蜜鄉井共山田似入桃花境  
塵澇路闊千

詠懷

袞袞環時序孤臣淚泫然草彌庭結味蝸伏壁吹涎病恹愁相伴名知謗又先後求遙往軌  
歸路遶林泉

茅亭

賁不徵王錄經營一日間易安忻寄傲大庇媿俱歡味討書千卷清挑竹萬竿朝朝雲出岫  
脉脉對南山

一把有茅葺百年歌哭斯故人皆殺鴈鄰舍獨烹葵萬里風將月孤懷酒撥詩不求容膝外

金玉易傾危

病起初見杏花

文樹花如錦沈綿眼尙明吾人猶落莫此物獨光榮計悟鸞喙去輸忙蝶觸驚兒童日夜望  
金彈翠籠擎

黃鸝

後於金燕子能以語驚人柳月無端夢梨春不分身稻梁坼鴈驚風雨仗精神爲向王孫說  
金丸莫割仁

苦雨

五月中旬始溔溔到夏窮東薪輕斗米寒食更東風第棟連飢叫官城競土功君王建皇極  
恒雨莫濛濛

詠菊次弟韻

莫言秋殿殺生意見霜叢枉落重陽酒元輕一逕風文休三上覓詩到半邊工千古東籬興  
何由屬訥翁

題快心亭時梅雨新晴佳致愈呈府尹李先生世貞置酒同諸賢就席酒半口

號

湖城清絕地樽酒偶然同  
山潤前宵雨溪搖半日風  
客心長折北雲勢又移東  
落景聞村杵傷懷久轉蓬

復和彥龍

殘年清不寐白髮理當晨  
心折橫空劍顏摧滿鏡春  
何邊堆往日餘咎競來人  
更索吟中債風光錦外新

清齋賓出日夜短易呈晨  
客思饒憂世詩情費惜春  
碧桃全結子瞿麥半含人  
自幸身康健今年又食新

仲尼爲日照長夜忽開晨  
未斬詩書澤同酣禮樂春  
膠庠參課席棫櫟助成人  
木鐸昌吾道能令士習新

和彥龍

錦館蘇佳會歌鍾閱十晨  
競彈金縷曲爭唱玉樓春  
山簡風流守昌黎博雅人  
坦然傾底蘊懽緒日抽新

碧幔圍琪樹庭除露滴晨  
披懷丁勝日吐語逼芳春  
敗意嫌餘子輸眞喜可人  
瓊瑤收載篋

暈屋瑞華新

忽乖榮與衛神藥點清晨風氣俄隨汗靈臺便發春待朝敷上座持酒謝騷人勿謂衙深閉都忘客感新

錦江吟

前村漁未歸半闔松下扉遊人興盡返青山嘴落暉洞簫莫輕弄恐起潛蛟蜚江靈縱饒我才慚陳去非

次適菴韻時適老自北而南

適叟金陵客歸心日夜催歲殘江北雪春動嶺南梅無極加朝飯中原醉臘杯賦詩橫槩健輕賤魏王才無極驛名

宿幽谷驛察訪吳世翼歸京城未還

黃昏幽谷館下馬上東軒月欲遷喬木梅方笑短垣有懷搔白首無主倒青樽數問雞籌起窓前進盥盆

無題

舊識昇州路重尋八馬碑煮租鹽絕戶包貢橘無枝白雨秋聲顛西風暑氣移纍纍都護印

嫋嫋鬢邊絲

送別徐直學德載父

蘋花敷北渚南浦送夫君舟向驪江月旗穿鳥嶺雲丙辰同進士辛巳別斯文若侑天涯酒誰堪萬里分

黃參軍無盡亭次或人韻

山勢庚庚北江流袞袞東雲烟朝暮變風月古今同清曠人間少紛囂鷺際空滿亭無價畫持酒謝天工

中原北津別舍弟歸關東幕

江上一杯酒送君關以東馬亭沙磧草人坐鶴汀風白水流襟內青山落眼中飄然分棣萼春意幾時同亭疑停

贈正朝使金參判成之甫

萬里朝正使燕山歲暮天雲間嘉靖帝海外駿奔賢鳳曆重新日龍圖再造年歸來多所得一一報經筵

訥齋先生集 卷第三



# 訥齋先生集 卷第四

弟 六 峯 編

## 律 詩 七 言

甄城次國卿錦江韻卿從事申相國用漑奉國乘藏于本府

鴈號南渡一天秋江上琵琶拂遠愁太史半酣桑落酒佳人徐棹木蘭舟詩中珠玉隨揮手  
興裏湖山入倚樓婉婉長離真瑞世琅玕充腹啜清流

### 墨梅竹次弟韻

清白同棲剡曲雲含章合是得乾文借看淡影橫窓在長把寒聲向渭聞真底精神偏得領  
暗中摸索解能分詩魂最恨毫端逸不着梅邊到竹君

### 宿鰲山聞杜鵑有感

蛩招侶集似嘲評帝魄秋枝款款賡血染山花啼未盡聲隨商韻放旋清故園寒食尋常聽

殘月今宵一倍驚，新恨舊愁消長處。五更悽苦答鷄鳴。

黃山開泰寺水鏡白次弟韻

昔聞回首萬牛遲，今見泥沙半面欹。春盡當年南土粟，飢氓何似見僧飢。

詠梅

靈均知已漏騷經，工巧含章盜典刑。名字世寰慙籍籍，性靈巖壑寄亭亭。調羹鼎已全生繡，染絳枝能儻保青。千古詩魂招月下，雪邊獨立映羸形。

病渴食葡萄有感

安息清甜碧玉梢，山翁持贈荷今朝。傾筠熒熒知新采，入口團團久未消。漢闕似慳金掌露，茂陵誰解馬卿瘠。不將一斗龜謀虎多謝，村扉問寂寥。

螢火

雖得翩翩擬上仙，生涯同入蠅蛄年。陰陽出伏如何性，風雨維持不昧天。數點燭闌珠箔外，孤光僧定佛齋前。讀書無補仍多病，潦倒枯床思悄然。

宿雙峯寺贈山中老宿

樸地深雲襯馬蹄，石門歸照向淒淒。金銀佛寺雙峯下，風雨荒碑一水西。堂吼法雷僧未定，

林飄殘磬月應低此身如入廬山路他日重尋過虎溪

終南雪晴携雲卿甫同登雲卿鄒湖  
陰士龍

暉暉霽日耿雲衢雪後樓臺當畫圖蒼想壓城擊北嶽練徵浮遠凸西湖天工物色春中月  
學士風流酒一壺人世往來塵鑷眼看山今日頓昭蘇

登終南次雲卿韻

晚翠娟新樹木光三竿落日在西岡蓬萊宮闕雲如拭江漢帆檣草欲芳小魯更據夫子縑  
窮途休哭步兵狂終南是處堪乘興莫向金華叱石羊

題洗心亭

壬申春蒙告經幄覲省光州還京道出礪良下主倅宋先生欽置酒餞行清  
州判官柳君沔末至仍索韻得五十六字簡欽之先生

漫山雨意未全消滿壑晴雲漲似潮一樹梨花簷外朶數行楊柳檻前稍客浮大白窮投轄  
君酌貪泉笑盡瓢南國百年同出處濁河齊力瀉阿膠稍疑  
稍疑

寄綿州柳使君沃啓彥號  
石軒

飛騰暮景二毛侵久侍鑾坡雨露深乞與君王都護印歸來將諗小臣心山高秋月圍華錦

水落龍泉帶玉琴鈴牒漸稀民事簡此身猶是臥雲林  
十載黃埃滿面侵愁魔無賴入眉深鷗夷不肯同流俗砥柱終能一此心勲業頻看工部鏡  
峨洋長拊伯牙琴虛聲身外媒讒謗多病歸休訪杏林

承鞠囚帖同子容先生駐晝于鴨綠江求谷兩縣介於東西戲賦一律嘲谷守  
鶉子之南鴨綠灘二邦分割此江山尋常形勢乾坤遠斟酌風流魯衛間赤雨深秋驚落木  
白沙晴日卸征鞍三升多謝拋官米辦得行厨水飯盤

茂沃挽詞

雙壁文成首見稱玉堂相繼果超騰一心徇國規金石蒿里今朝痛背膺  
赤心同奮丙寅年希古人能擁帝宣拂袖不辭携義檄堂堂忠勇薄秋天  
君才齊楚我邾曹鳴鼓猶須戰自勞且盡薑芽攻晉帖湖南紙價頓能高  
研討詩書擬席珍東堂同召桂林春金鰲山氣連無等天不慳精我二人  
風濤末疾用憂多熏浴松州碧海波朝夕側聽飛吉語居然丹旆落荒坡  
具慶堂前捧檄頻君王青瑣闕詞臣幾人仰首看琴鶴千里南州有脚春  
三十功名四十一抔之土蓋文章連床平昔輕班尹扶上泉臺愧范張

萬古孫吳叱懶夫雄筭未終星已隕至今遺蹟截高孤

効東坡四時詞

黃昏霽靄清明雨萬點落紅春欲暮翡翠樓前兩兩飛鴛鴦簾外雙雙度手整金釵淚泫然  
去年寒食憶秋千可憐人事年年異歌管南宮隔九天

五月榴花綻濃錦碧樹蝸螭蠹午枕鬢脚髮參步西廂含風細葛涼淦淦鳳牋淺淺寫紅心

一片紅心一轉深自是蛾眉多薄命人間何限白頭吟

濃一本作穠

西風鶉鳩何太早玉階芳華愁欲老莫言天工生養均朝露湛湛墻根草坐看時物變明昏  
紈扇長門幾夜冤不向琴中彈別鶴哀絲宛轉易消魂

天寒當晝六龍凍鳩鶻觀前雪飄弄上苑遙聞折竹聲宮中美人破曉夢粧罷衣裳捲繡幃  
御爐香穗轉霏微無端誤觸驚鸚鵡忽被君王怒遣歸

七夕律詩

西風碧落削成瑤織錦宮中秋興饒神鵲做功還草草美人乞巧競招招雲銷鵬界橫銀漢  
月逾瓊樓下玉燒天地不窮君莫恨佳期歲歲又今宵

次道遙堂浩叔韻

江抱東西地欲浮蒼然東逝不堪留秋光湛湛天和水夜氣淒淒月滿舟九萬自能方寸拓  
逍遙何必上清求有時退食親魚鳥青眼相看夕下鷗

謹次徐大諫懶亭韻

山從雲住勢連倫入座秋峯碧滿巾風定竹潭團翠暈雨迴蘭畹浥芳塵玉槌鶴背驚桐鬼  
鵝鴻龍頭喚麴神多病一生關藥裹素心非是少君民

題養菊堂

庚辰秋江南大水以御史行災過全州前縣令金天章父時罷斗米家食數  
年新構小堂爲逍遙之所扁曰養菊悠然有陶令東籬之興要余以詩文之  
書近體四韻塞其勤

嘆世青春試鹿冠垂天六月卷鵬搏陶潛稔種東籬菊楊惲休鋤一頃畹同醉啜醽漁父酒  
好脩紉佩大夫蘭客來不睡門前地梅外疎篁又幾竿

全羅都事李弘幹寄書詩以爲酬兼示皇華使出節東門日拒別酒故及之

莫說關山千萬重空中白鴈接丰容思葦未決張翰退作吏還慙叔夜慵嶺外梅花要一寄  
江南驛使會相逢皇華會拒東門酒却恨無由盪別胸

臘梅律詩代人

徹骨皆真一色醇高花破臘數枝春尋常京洛緇塵窟解后山林白玉人遲日不隨夸豔族  
歲寒堪作後凋賓可憐水帝還相苦謨蓋吾兄散雪頻醇一作淳

梅窓素月以下四十八首並次韻

橫窓玉樹壓枯莎影落西溝綠似紗姑射雪膚風粟徹廣漢瑤界桂枝斜清明作儻如撩我  
塵垢何由更做魔到盡五更看不厭暗芬飄颺矮甌茶

竹逕清風

猗猗漸逕接蘭臯積李崇桃不敢交強項雪霜還硬瘦生涯烟雨更酸騷玲瓏葉際風彌裊  
泱泱梢頭月正高無乃此君嘖醉夢巧因靈籟送清號

日本躑躅

醇稟陽華海極東春回花葉倍蒙籠莫嫌旅泊孤根遠須仗生成一氣同看入老年愁隔霧  
灑頻朝雨懼翻紅如今偏種王孫宅却憶從前出漢宮

南海琅玕

猷窟何年拔老根斑斑紋縷蝕潮痕曾隨蚌月同芒射幾向鵬濤共轉奔精衛怨深淪至寶

陽侯擊出貢王尊南風作雨漫肌骨能爲居停長玉孫

翻階芍藥

麗質婷娟擢艾天蒼新曉日看英標昭陽繡殿眞傾國巫峽荒臺謾効妖雨壓層紅翻夜砌  
風飄數點度東橋白頭翁被花王黜渠作花王侍御嬌

滿架薔薇

戎戎徧架此歸依旭裏光騰影半扉湛露醴饒梔子貌東風吹動鬱金衣似嫌朱紫時相亂  
獨把黃中爲要肥霜菊是兄君是弟按莎殘藥泛春卮

雪中冬栢

林園發發北來風恠底春留一樹中造化不應垂曲澤嚴凌時復示仁功經霜葉剪琉璃碧  
傲雪花裁錦繡紅和律漏君元耐冷未須晨旭照瞳瞳

春後牡丹

媿逐春葩落一般南訛特立玉階間殷懃更駐東君御婉婉新披西子顏龍腦繞風薰草樹  
燕脂和雨蘸欄干前身餌得丹砂肉擬出蓬萊上界班

屋角梨花



風日晴凝一段和楊花無賴妬梨花  
桃園蝶夢遙青帆屋角香魂幻玉娥  
鶯曉露饒光的歷月宵烟鞦影欹斜  
騷人爲倒芳尊醉正管殘春戀物華

墻頭紅杏

文章活潑董林枝款款鳴鳩喚雨時  
酣爛有神暉欲燦護隈多力霧重披  
丹心獨向循墻客青子終輸拍手兒  
寒食鼎來三月盡及時相賞倒金卮

熟睡海棠

芒枝剡葉播曾花脉脉無言睡正拏  
僧院笑嫣名始顯錦城紅濕世爲家  
子孫落魄三韓僻燕趙風流百媚嘉  
青眼有緣非按劍冥烟輕薄謾橫遮

半開山茶

枉入喧區萬口稱山林自性屏驕矜  
蒼茫雪日春還早縹緲霜崖契亦曾  
禮夢欲連冬栢坼凍芬偏共臘梅凝  
詞人步蹠斜陽下謾謾霏烟鎖幾層

爛熳紫薇

花滿前階春滿堂數杯邀此漬枯腸  
東風缺缺分華省落日缺詩練錦芳  
灑灑夜寒驚宿蝶惜惜天月晃長廊  
人缺爛熳還無計怕有狂風缺雨忙

輕盈玉梅

雪萼娟新細雨輕  
墻頭赤日更光榮  
清標庾嶺分春格  
冷韻娥宮漏月馨  
玉骨冰胎呈宛宛  
風枝露葉張生生  
山林正合明窓種  
莫逐浮紅浪播名

忘憂萱草

都房瑞草順天時  
一氣鍾和擬久遲  
世外不須千日酒  
人間能剪百年思  
黃金買賦爭消恨  
楚澤紉蘭只益悲  
鵲缺莫催霜雪下  
青青留乞永相持

向日葵花

火燦丹葵一檻春  
高標幾朶襯烟垠  
鳳仙傍砌慙相伴  
紅藥翻階恨未親  
勤向日君無反面  
喜承恩露競開脣  
可憐衛律陰山北  
忘是衣冠漢闕人

門前楊柳

拂風枝線裊相縱  
根骨深依后土隴  
白髮詩人愁歲暮  
金衣公子作藩邦  
烟光媚娥纔經眼  
春興降肛忽滿腔  
百舌後時花落盡  
濛濛飛絮撲晴窓

窗外芭蕉

笋拔脩莖綠數重  
青鸞展尾欲騰空  
翻翻舊葉微煇表  
續續新心暗蘊中  
雨弄碎珠回短夢

吟挑題字惱詞宗新涼忽卷缺 夏玉露長朝滿意濛

烟籠翠檜

庭檜嶙峋老大兮山空無樹可倫齊秋來氣已通銀漢雨過寒能接紫霓  
蟻謾容根底穴 鳳凰端合葉間棲疾風勁質寧摧岬烟隊朝朝任晦迷

暎日丹楓

沈瀟金氣湧簾隅霜練楓神赤玉膚暎日弄霞迷嶂峽尋秋須杖撫柯株  
珊瑚挺海眞顏面 桃李誇春是僕奴嫋嫋西風拚一醉衰容借酒亦回朱

凌霜菊

清朝傍菊久踟躕白髮黃花爾共余一掃繁華鶯老後全持晚節鴈賓初  
金盆細瑣知收盡 霜徑幽孤怪棄餘餐味落英懷有屈百年交契在林廬

傲雪蘭

恨清閑草入華軒標拔冬天傲雪繁藹藹國香宜釵砌紛紛秋艾信燕原  
丈人有行能超蕙 君子須和肯斥蓀巖壑白雲虛日月故應慙悔落塵喧

萬年松

大夫松系蔓來雲渠也分宗襲世芬慘慄雪霜終古計氛氲桃李暫時文枝枝偃雨千年鐵  
葉葉眺風五夜燠貞校不關塵土雜索詩乘月仗微醺

四季花

四時春入數枝團合將詩句對吟安紅從土旺花凝血翠戰風顛葉帶癡飛柳長蕉誇骨豔  
擊霜按雪駭人看尊前浩蕩抽狂興莫遣羲輪下嶺殘

百日紅

一別東君倍黯然炎靈巧絕做紅鮮香魂轉入薰風醒豔骨偏涵玉露妍綠草西園矜白日  
青尊北海暎初筵最悲歲歲花相似人事參差異去年

三色桃

開花袞袞放青梢別色同榮簇簇交旖影舞暎如自激線香媒蝶不相拋化工妙與連枝盛  
春事休言一槩淆懸冀鳳啣蓬嶠去未容鸚鵡枉營巢

金錢花

歲稔聞歌百室盈金錢又見鑄春莖饞看肯避和公癖數撚虛疑漢莢輕眞格暗衝風曉張  
綺文詩閃日衙呈主人恰有青銅富酤酒良宵屬玉衡

玉簪花

備拔真憑造化科人間始識有名花  
弄珠漢曲臨風簪玉蟾宮耐冷娥  
溝水氣通涼亦重月華清慣練深  
嘉天公乞與充庭實桃李前頭向俗誇

拒霜花

秋梢錦葉看深青鴈入高空昨夜聽霜坼紫房  
漫月榭天留春豔媚山亭籬香異品連風調  
吳氣多情擁性靈蛤蜊舜泉招酒伴逡巡花下幾踟躕

暎山紅

分蘂萬丈白雲層簇發雕欄故故增猩血染勾枝  
欲亞麝臍薰徹蝶堪憑烟生暝夕迷醞頰  
露綴清晨勝赤繒也有六龍留日馭春寒曾不許侵凌

梔子花

梔林可賞不須除白眼荆茨合遣鋤今日草堂多顧眄  
幾年雲海久遺餘穉穉脹腹時將半  
藪藪高花雪不如山樹鴈霜黃落盡罈看金實暎幽廬

梧桐葉

漠漠桐陰一院傍竹樓遮斷恣炎陽琴枝玉削雲留載  
圭葉盤圓露貯將踈雨滴更宜閣枕

西風吹暮莫翻霜覆巢不解懷殘峭千仞遙聞下鳳凰

苔封恠石

神斤斲鑿信嶽嶠特乞山齋好恠骨瘦含秋移積翠苔毳對罨噴微流氤氳欲結雲嵐暝  
窈窕真開洞壑幽醉眼朦朧天地小香爐曉勢認能侷叟可疑

藤蔓老松

鐵幹輪困景倒斜根盤節錯闕龍蛇老皮剝落苔霏雨秋蓋扶踈月漏波鳴籟曉聲調錦瑟  
蔓藤霜葉染丹砂東園紫白塵埃瞥翠黛長留萬古柯

矜秋紅柿

鞞梢霜實醉秋酣回祿西風近煽炎赤燦一城遲去景光凝千戶礙浮嵐垂霑玉露敷華旂  
下啄紅鸞振羽氾靈液入脣吾不厭擬除彭恠族留三

泥露黃橙

昔聞江橋化灌漬今見橙根海外分露實日烘秋罷熟霜香風釀曉披紛閉心守白終違俗  
滋味持酸未貢君移席不妨隨細雨傍林鋤急破苔痕

蜀葡萄

葱葱張玉蔭茅宮茁遂元因細雨濛脩蔓錯條龍偃蹇小園聯顆玉醇濃蜀方萬里移居遜  
東土千齡結習融擊出大明恩又阻得嘗新日困泥中

安石榴

淺短詩思賜也墻如何錦樹惱唵芳葉舒綠舞薰風嫩葩綻紅凝赤帝祥心貯走盤淵客淚  
味傾澆舌蔗枝漿極西故國無消息漂泊東荒度幾霜

盆池菡萏

清斷塵游處僻隅納交君子撫香葉盆江數斗寬鯨海山雨三更鬧明珠狂飲玉筍看象鼻  
傍吟綃蓋屬詩儒百年裝積濂溪興晨起衣冠對泊晡

假山烟嵐

岳麓休尋向玉泉天教有力轉床前淋漓元氣熏嵐黛錯落羣峯擁梅筵雨暗久愁蒼眼界  
烟晴今快敞羲塵一生賸辦逍遙窟塵脚新從萬里旋

琉璃石

圭呈角露勢森嚴樣質清文又自兼星化劫灰留黠黠鬼礪秋雨示崎嶇點頭石下科知判  
抵鵲山前品或叅珠重百年藏一片儻縫天窾竦羣瞻

瑋琚盆

何人盡力屨宮深直百金盆薦世琛絢練珠光明曉旭澄濛海氣漏天陰輪奇博物芝蘭晚  
舛望馮夷蚌蛤林寥廓鬼神窺欲取不眠搗護發轟吟

鶴唳庭松

百尺蒼髯不記年飄然忽泊羽衣仙唳清月下秋聲壯和籟枝間夜漏遷聞徹九天雲勃勃  
爽搖高閣客蹢蹢明朝厭聽喧鷄鶩強續餘音奏五絃

麝眠園草

馴入山園似受塵放麝仁在古人前綠酣夢熟三春草黃落香肥八月天千嶂舊遊乖浪跡  
一丘生事仗儒仙胸中已割機心盡不怕時時出我邊

水上錦雞

半畝塘清萬頃湖隨波汎汎足媵娛堂上主人偏注意雲間飛隼謾窺孤閑披錦翼當暄立  
亂啄春苔得食趨出入似嫌泥滓賤培風何日上搏扶

籠中華鴿

翠籠隨人任卷舒翻忘海上巧將雛鵲鵲比翼違烟霧梁稻謀身狎蜀餽文綵綬雞應儷美



寵恩馴鶴亦同呼，兕猫側目流涎久。莫保家兒妄進趨。

木覓晴雲

終南翠拱紫宸宮，雲氣溶溶結渾融。時雨拽陰千嶂藹，夕陽和霽數峯籠。長添漢瑞書臺上，斷作巫精入夢中。何處戀君瞻北闕，也容風力破遮蒙。

仁王暮鍾

黃金寶界軼穹蒼，氣色王城壓市坊。鍾徹白雲來隱隱，日垂青嶂逝堂堂。遠公豈管春消息，更點徒分夜短長。遙想山中桂花落，秋風歸路正微茫。

題雙峯寺

撲地深雲襯馬蹄，石闌顛倒路高低。金銀佛寺雙峯下，風雨荒碑一水西。黃面老禪何味味，白頭詞客悵棲棲。無端邂逅真成便，不語相看月蘸溪。

半生袍笏付跼蹐，不向金張面目低。南極小星雲霧裏，草堂幽圃灑江西。風吹巾杖尋蘿徑，雨度松杉榜鶴棲。十丈東華奔走者，何如赤脚踏青溪。

一作峯

雙峯寺留贈釋罔晶

結夏旻公謝俗氛，松齋幸乞宿斯文。寒聲擺月唯聞水，夜氣盈庭不起雲。物外乾坤真自若，

人間蠻觸見徒紛百年鐵脚休輕動才出青山路未分

寄君美洪彥邦

永平邂逅數年餘衰袞清談勝讀書老妓侑觴彈綠綺主人餉客煮黃魚春風文雅河陽令  
秋雨酸寒孟浩廬回首母山雲不見使君何處放籃輿

贈信晶

離合人間誰使爲六年今日更相隨石房解橐看前序雲榻逢春復贈詩風泛夕寒愁病鶴  
雪留寒氣感幽芝醜醜一味吾方厭物外攀幽續許支

贈江隱父

解后州湖三十年一尊相笑各華巔鷓鴣雞嗚嘶秋風裡蘭若淒踈白露前椒水納天明似鏡  
紙川啼夕響於絃李公村酒羅公棗共醉黃原興欲顛

京城冬至

一氣希微子半風美人紅線替黃鍾循環姤復誰眞會欲問庖羲太上翁

次唐天使臯登太平館樓韻

鞦韆飛薨拂霧深宿檐星斗壓筵臨山撐西北穿天竇江走東南坼地心日下詞臣留使節

雲間鬼物駭清吟臘梅慰客將回笑春意依微破澗陰  
擔疑

次唐天使過嶺韻

入雲靈籟聽嗷嘈虛土遼卑眼頓高萬里嚴程寧訴險一心王事沒言勞輿夫愁鬢霜吹髮  
驛馬焦身血浴毛安得鬼斤平似削免教行路每切切

次唐天使迎薰樓韻

遼灤迢遞隔岑樓帝使登臨思正悠山亦似應迎詔命白雲危幘着尖頭

威鳳煌煌天上來樓中回首眼大開舜韶耳想燕山迹西日三竿截紫堆大可疑

漢江口號

正使翰林修撰唐臯副使兵科給事中史道頌

新皇帝詔將還前一日遊漢江乘月入城卽席無一句余與魚子游口號各一

律

漢江之水綠於苔春氣融融泄臘開宣使樓中辭席下夕陽鷗外放船回一聲漁籟穿雲去  
多事詩材滿眼來壬戌未賡歸犯夜馬蹄旬月奮晴雷

鑊鼓行兼畫角鳴都人盡出聽華聲雲生冠嶽白毫遠日落來蘇青黛橫江爲使星寒不凍

波脚王節暝還明辭樓更試乘舟與有月何須列火城

擬送副使鹿峯史給事道

星槎東泊漢江濱擎布天王第一春寰海恰逢嘉靖帝朝鮮真見駿奔臣故園物候梅先綻  
客路年華柳半嚙歸興正飄遼塞月舉杯無計駐征塵

漢中別金延安季愚

去年輪對同承召中使明庭拜賜觴秋雨再逢江以外朔風還會漢之陽北城別酒催今夕  
西海征塵邁一方離合此生胡乃爾主張吾欲問蒼蒼

延府古來人食海四民多賈士全稀潮州韓子先文學千載詩書化不微

展祖考墓

在懷德貞  
民驛南近

紫檀香氣上氤氳悽悽精靈下白雲翁仲老身風雨醜豐碑枯面姓名芬桂科似續詩書在  
匏蔓栽培祖考勤今作芮州真畫錦數瓶官酒自明君

時同官送酒  
二瓶備奠

山陽鄉校贈曹學兼簡留鄉

甲寅都會  
儒額五十

白首重來今幾年當時五十半遊仙別監挈榼留鄉酒堂長行杯教授筵安舳賦成殘短燭  
子韋書罷戒歸鞭千擲海戍初傳警西指龍門樹欲穿

登彈琴臺次鄭承旨雲卿韻

雨添新水漲龍潭沙背崩摧一半侵詩債滿江休準備琴仙隨鶴可推尋漁翁舉網驚呼雋  
溪女挈舟笑墮簪落日正酣賓主興烟生洲渚欲平沉

原韻

鄭雲卿

琴臺松蓋瞰深潭赫日流輝不受侵倦客登臨真浪出至音埋沒已難尋方舟蕩漿來橫  
吹促席飛觴見盍簪惆悵絳唇今不見斷雲浮世幾消沉

遙贈尹同樞子應甫赴京師行仍贖小刀

皇帝行天第一年萬邦嘉靖捲妖煙西征路繞金臺下北面班趨瑞日邊傾國慕華開祖席  
待君浮碧繫樓船中原滯客空回首寄似霜刀替贈鞭

次李棐仲父養老宴詩韻

仲前在安東秋日迎致兩親集民間男女耆老分廳開養老宴屬詩留其事  
和者亦衆今以謁覲自禮城還朝過吾州解橐示之要余和且懇席上効嘖  
暎湖樓外水如天琴鶴清風閱六年袍笏長身生膝下期頤二老出樽邊泥塗絳縣恩波徧  
歌舞韶班喜氣連南府至今留勝事秋來誰復敝華筵

享席次日日本國使僧太原韻

徐福祠前樹欲紅歸颿鯨驛趁金風君王不薄交隣義別路開尊答遠忠

咸昌八景

表敬仲父索可詠者八皆以四字爲目示地主趙君世禎趙君舉八目請我詩之不一再旣敬仲之不果而我敢爲不近僭乎然一一推究題目豈無謂歟夫月非徒玩也所以覽虛盈蓮非徒賞也所以采通直於雲知澤物之功於春見生物之心山望而仁得水泛而智達觀人煙則思業其浮戶問戰場則必懲其殃民敬仲之意在此不聊粗發小叙云

東樓玩月

露浴玉蟾寒滿規樓中清景政離離矇矓醉眼迷留覽錯認前溪雪漲時

南池賞蓮

朶朶紅雲冒綠池鴛鴦畫浴惜離披芙蓉亦是王孫草不待春風有所思

宰嶽晴雲

山蘇雨減碧叉牙泛日晴光驀地斜乙乙絮雲傾石竇千弓彈出木綿華

串川尋春

青草和煙沙暖銀輕陰漠漠水鱗鱗浮紅無數來千澗政是桃花三月春

陶谷暮烟

冥冥十里樹浮村落日人烟一帶昏豚社罷來人笑語幾家扶醉濁醪罇

孤山晚望

斷峯天削玉浮圖泱泱平蕪一頂孤神井上椒人不到老龍秋臥擬玄湖

儉湖秋泛

湖水茫茫湖日晴蘆花相暎蓼花明小船晚落琉璃窟天上雲中快馬行

唐橋訪古

戰血橋東苔蝕痕大唐遺鏃到今存空使六軍勤遠略不圖雞幃殺吾孫

寄陶集潘公父

處士東都兩卷書摠拚天味蠹書魚翻刊不惜中原楮象外功夫付得渠

野席贈蔡典翰紹權仲季暨姪無逸同坐

松下開罇興欲顛况逢青眼玉堂仙寒江颯颯入琴韻暮樹依依生野烟歸路嶺中飛玉駟

御香天上謝經筵  
鴈行聯璧庭蘭茁  
山水風流媿老年

城南春興

丹陽郡守鄒嗣宗  
州判官吳滉同集子敏齊  
從行余壬申秋以弘文應教親  
老乞外今十二年猶在右官州  
且有望京山故落句及之云

肩輿出郭度疎松  
三月風光滿眼濃  
山鳥好音如說話  
野花春面似迎逢  
臨溪酌酒人三四  
煮雉烹鮮味再重  
一十二年長在外  
望京安得上孤峯

謝壁寺長老贈尾扇

白鸞毳尾落雲中  
五月江城做雪風  
神勒道人遙贈我  
爲遮塵土滿巾紅

遊彈琴臺次表敬仲韻

孤城送客出江潯  
極目蒼茫萬像侵  
雙嶺二邦爭戰畢  
高臺千古勝遊尋  
英雄不起中原宅  
詩酒聊同地上簪  
借問惡灘何處是  
十舟常見九舟沉  
依依暝色發寒潯  
山氣玲瓏露欲侵  
席罷北臺披草下  
舟沿西浦抱琴尋  
金灘水沸聲啾耳  
月窟巖斜影拂簷  
清景被惱殊未去  
參差魚鳥互飛沉

金同樞世弼結築知非川  
因饒人來附書詩以答之

世弼字公碩號十清



鏤手擎傳半紙書，忽聞工字出林虛。主人却媿無錢助，他日徵文起草廬。  
堂體如工字，故詩中云爾。

題硯滴

穿然兩竅玉蟾蜍，空洞中心學太虛。一轂自容三十軸，老聃元是貴無車。

纜舟童郎浦

薛荔墻頭落景遲，數間松下老龍祠。遊人舟泊西江口，撚斷吟髭鍊小詩。

東樓驟雨口號

夜雨無端行綠荷，樓中飲客止鳴鼉。跳珠細數長傾耳，一陣西風落葉多。

酬鄭翰林留別韻

江城積雨捲層霄，秋氣冷冷老火消。黃膩野航迷眼發，綠踈溪柳對樽高。風隨舞袖如相約，山入歌筵不待招。慙恨至今持斗米，故園蕪絕負逍遙。

石川有答復和

老去求叅雪竇禪，緋袍白馬意踈然。鴈歸漢北三山暮，花發江南二月天。收蜜滿脾蜂鬧鬧，啜香濡口蝶娟娟。拾萸靜夜庠庭客，羞與衰翁討雅篇。

一念才閑是定禪面墻何必謝紛然深根落落波間石元氣高高雨裏天索臭芷蘭嘉馥郁  
看華桃李醜妖媚傅經子政無聊賴覓紙題詩續短篇

迦智曾尋六祖禪入林簷菑卽薰然玄談坐聽三千偈大劫旁搜八十天追想玉泉春水活  
可憐幽蕙露華娟橘亭有約靈川去慙負當年桂子篇

君家詩法大乘禪出俗清高語炯然薑桂老夫勤搗臼鳳鸞仙子快凌天相期風雅追醇古  
並蹙齊梁擺媚娟更向山中披薜荔晴窓點檢白雲篇

廣文清寂若幽禪踈絕繁華嗜淡然鏗瑟杏壇隨露月浴身沂水趁晴天充韓世服椒芬苾  
尙豎人知錦嫩娟相就病夫殊未暇滿囊辛苦護吟篇

夜又驚倒敗高禪終日無言興索然玉佩不容江北闕銅章猶借海南天青春草樹烟光潤  
病客髭鬚雪色娟卅六策中求第一歸來三逕和陶篇

時有同僚拂意  
故發句喻之

要說詩書莫說禪早知冰炭不同然誰教漢日初求佛豈有周星或隱天香火貨財終耗竭  
蓋珠宮殿競鮮娟君王最幸明吾道底用區區復性篇

用白樂天韻卽景寄石川

東風日日扇陽和莫道鶯寒口不歌草怨王孫泣露幾花寬帝魄笑枝多香車油壁競巡野

青雀黃龍蒸涉波濟勝佳辰豈乏具支離老病奈春何

蒸作烝

題逍遙亭

橫帶黃金二十春逍遙亭起海西瀕紅旗躍馬歸軍印白髮懸車乞晚身竹浦風光長泛帽  
月山雲氣遠怡人少年鳴鏑餘閑夢漁父相邀酒一巡

舊本西作之竹作南月作西發句一作時放漁舟擢月顯

李奉事母氏挽

春入天桃繡禮成無違柔範植坤貞掌中一箇明珠轉天上何年紫桂榮經歲病懷飛朔漠  
夕陽秋草閉佳城世間父子須臾事王母同遊白玉京

夜坐

開窓不寐到三更誰會中心自不平塵壅客邊衣易汚路遙天上月空明嗷嗷一鴈鳴何急  
汨汨長江去有聲欲續南征迷所濟因風萬里寄遐情  
老去方知睡漸稀漫宵况復墮愁圍樓鐘殷殷如呼寐邑犬狺狺定吠非燈影幌羅移黯淡  
曙光庭樹上熹微詩人但怨冬之夜不識霜更苦未歸

送石川

錦江江口漢江頭萬里秋風惜去留一命九天承寵樂三年多病滯官愁投詩滿篋堪搜

討有月無人孰唱酬別後最深相憶處鳴琴橫笛廣灘舟

西樓小雨話離襟諱值昭陵未奏琴露竹替人垂別淚風松藏瑟送清音杯盤俗事休嫌薄  
金石寒盟是校深鷓鴣舊行如問我爲言華髮已盈簪

敬次盧領事重修孝思亭韻

亭拂蓬蒿更出頭故山含喜見新休暫時風雨無端過萬古江河不廢流元老再脩三世業  
聖恩重洽九原幽一身堪鎮周家鼎枉費千夫競抗浮

終焉當慎遠焉追此道綿綿靡絕期大孝一家傳舜慕短章千古服周詩心如元極無墜日  
亭是虛形有毀時形以表心遺後裔休言假形始生思

前代思亭且勿誇回頭着眼此江涯豈徒純孝承門閥世有精忠著國家相邑尙嫌矜畫錦  
東山何數領香丫徘徊盡日非延賞無賴春風幾樹花

休沐頻頻出國門輕輿緩緩下漁村蘋盤寒食三春暮松路屯雲十里昏南逐去年誰展墓  
北來今日再開軒江花江水何終極聽到無聲思永存

次濟州牧使所遺希剛韻

信字來從海外州知公安穩戀堪收仁恩坐下還浮戶清儉仍聞減冗騶橘柚滿園征有法

工商通道算無舟佳聲朝夕 宸闈徹褒召寧頊月卅周

耽羅南眺海洋洋水驛人言萬里強馬戶殫亡前值陸龍村荒廢後遭張民歌鴻鴈何多日  
士選羔羊果重望賢相聖君高索債問公何以稱酬償

身世浮沉付上天百年持保此心堅詩書伴我形非隻魍魅窺人首亦駢頭瘴可收千斗蕙  
使神那蓄一文錢公懷與僕同歟否狼臂遊從契己專

題叔保令公四時圖小屏

春到山中亦一時霽然巖壑摠回姿全青莫詬無顏色小樹舒紅出短枝  
人外人看人外春石堂松院講玄真長身帶小東行處蘸徑晴峯影滿巾

右春帖

樹雲幽境報南訛休說東風捲物華紅綻綠荷千萬柄却疑天雨寶蓮花  
伏檻飛欄軼翠微山中盾日不全暉耽耽靜者機中事不管人間錯是非

右夏帖

窈窕西風物受刪霜娥鬼筆畫屏顏繁華不別春消息絕倒層紅滿目斑  
百道巖根落吼泉琳庭蕭瑟露華鮮羽人不是悲秋客不讀登山臨水篇

右秋帖

層巒疊嶂玉查牙亂雪隨風幾擊磨莫道乾坤終不老青山一夜髮深華  
玉殿珠樓雪影寒前溪後瀑凍成頑無人踏破瓊瑤路木札閑穿舊石盤

右冬帖

先詠時景後詠人物各賦一律合八首每帖分書左右左用時景右用人物  
時景書以隸書人物書以八分使異書體此亦妙法也非申芬莫能爲之然  
其取舍在公精鑒如何吾何苟

敬和成監司韻兼柬蘇彥謙

星輶幾倦海南隈快活心懷到此開出郭炊烟鋪樹頂當階宿鶴立沙堆忽催脂轄天將暮  
方鍊敲推首不回芳草晴川傳傑句昌寧家世盡仙才  
朱闌一面俯陰隈坐數游魚醉眼開官馬亂嘶青草岸山羊高蹴白雲堆分銅作牧仍前秩  
摘露題詩亦再回推演却驚成五律患多今復見雄才  
前溪九曲故多隈青峽迢迢十里開國破頑童空醜跡城摧鐵瓮但荒堆今逢聖代湏行樂  
且倒芳樽莫擬回何況共聯陶謝手續貂胡不竭吾才

沒身塵土落荒隈，絨鎖詩襟久未開。  
重到快亭除翳膜，再邀青眼挾愁堆。  
溪風滿樹穿簾入，海月中天度嶺回。  
南去錦城三百里，不頻清賞負高才。

千巖霽後露廉隈，拄笏看山蘊盡開。  
白馬青絲無虎穴，香營紫氣聳龍堆。  
興亡袞袞來相替，世代悠悠去不回。  
借問遊人能會否，荒亡風月謾夸才。

廉一作簾

兵使方公將納符，漢中適有季子登科之慶。  
置酒高會，卽事遂賦近律，就奉征軒草率。

條條梅雨過孤城，驃騎營中物態生。  
萬竈炊烟屯虎旅，三軍令角插霓旌。  
紫髯漢將橫霜槊，青眼吳兒撫寶箏。  
新慶會賓傾一道，四郎榮孝續難兄。  
方叔超騰大雅篇，將家遺種海東壩。  
胸中黃石窮三昧，眼裏青楊慣九穿。  
身健伏波猶躍馬，謀深充國好安邊。  
納符去去趨樞秩，西塞爲憂睿想懸。

# 訥齋先生集 卷第四

# 訥齋先生集卷第五

弟 六 峯 編

## 律 詩 七言

### 過金山寺贈韓判書

爲問金山何處尋，海松千樹碧森森。  
蕭蕭落葉縈雲下，咽咽悲泉齧石吟。  
叉手導賓僧盡出，曲拳當殿佛高臨。  
金輿繡幟陪雙入，豔借蒲團細話心。  
百戰經營四十年，寧知逆豎敗青氊。  
叛君叛父皆由我，亡國亡身莫怨天。  
當日飯僧求福地，一朝爲獄覓囊饘。  
黃山佛宇終收骨，鮑石亭前憤始瀦。

### 吳副正挽詞

不待文王起海荒，閩中進士更歐陽。  
魯無君子斯焉取，綿有先生解向方。  
薰染盡開書籍店，激昂皆上誦絃堂。  
門墻輩立青衿弟，祖帳東風淚萬行。



經中致仕有明文且諱生年側鷺羣先退急流身欲保盡拋閑事耳能聞官街少着澹臺跡  
里席長甘社酒醺存順歿寧誰得似飄風華葉謾紛紛  
東京將系草廬孫奮發宏詞榜眼尊踰躋風波悲海水逍遙魚鳥樂丘園千株奴橘休收實  
五色東菘好擁根伯道莫嘆無似續乘龍堪守蔡邕門

南海堂

風送龍腥入廟庭海天春雨正冥冥扶胥黃木依僊見蟲象玄螭彷彿形報祀瘠酸慙吏情  
施功廣利仰王靈拈香敢不殫如在祝冊繪言儼典刑  
蕙肴椒醕穆將愉神衛煌煌駕赤虬香火粲薰三宿裏月星明櫂五更頭捐殘颺母天空闊  
鎖斷支機海妥流禾黍有秋從可卜慶雲時起祝融陬

太平亭次使相韻

開府新功掩後前咄嗟華構更輪然海門潮至石如馬島胖雲收人竦肩宗懋長風凌鉅浪  
蓬萊夷路問羣仙盛陳伶樂魚龍舞橫槩何妨賦錦筵  
落日登臨興欲肥斜風兩兩海漚歸久休洵虜樓船廢長事投壺烽火微萬里商帆來錄續  
三更畫角遠飄飛令嚴不犯秋毫細傍水安棲白板扉

次石川韻求辟靈香

龍葵旂旋側都房兩榻薰爐熨錦裳官府太喧囂舍寂做詩來乞鷓鴣香  
朝坐明軒出洞房雨中松鶴濕玄裳夢夢口業詩爲課豈要虛名萬古香

中秋翫月

風露高寒十五冀曜靈何處吊淪零老蟾捧腹綠冥上霜兔呈身蘸水形  
皤皤香霧羃中庭年年照得秋懷苦滿意明朝舊典刑

鄭雲卿十翫堂

鼎津流碧玉分條幾蘸東坡穎水標雨後莫言泥浩蕩本源澄澈在秋霄  
右水

青石纍纍暎白沙有時衝齧聽風波橫琴夜月增清韻不用丁寧擊磬歌  
右石

紅紫千般闔目過數枝驚謝影橫斜無端歲暮詩羸橐苦被梅兄不放衙  
右梅

洪涓殘枝孰借栽滿軒蒼玉暎庭苔短牆外護牛羊觸強項寧容雪壓摧

右竹

一逕寒光小五陵蒼龍萬鬣綠層層盤桓鶴影吟成癖客到門前喚不應

右松

紫玉莖肥白露滋金欄梔貌大慈悲騷人采采霜飛日細和淵明五字詩

右菊

曾於造化補玄窠入草驚蛇不足夸楊馬祇今同出處玉堂收橐到天涯

右筆

雪堂徒自解磨人不解因渠學處身知白似能全守黑老君風韻見真醇

右墨

乾坤法器莫宜輕寶重從今字玉卿閑課小詩春晝永手搖花露滴分明

右硯

莫怨緇塵涅雪皮儘教文字黑離離隨人舒卷猶存道輕薄爲嘲蓋勿思

右紙

和橘亭韻

天遣騷人蟄海隈三緘如噤不輕開種梅軒外看成雪養鶴堦前教啄苔白日暎懷同皎皎

長江充量共恢恢數年阻絕清新語驚倒詩筒過嶺來

嶺卽月出山

有客悲秋錦水隈愁懷漠漠若爲開是非難杳黃金燦朋友消亡白骨苔孤憤祗憑詩裡遣  
苦心時向酒邊恢西風無限平生意朗咏淵明歸去來

樓高五鳳幾隅隈都在靈川方寸開萬丈老松號夜月千尋新竹鬪春苔文章每辱知清健  
壇宇相逢見曠恢傳語寶林秋月滿及時挑得錦囊來

錦江次使相贈悅上人韻

曾宿招提七祖宮晨鍾雲裏聽丁東窓櫺窈窕千峯雨松檜刁刁萬壑風支遁許詢交旣密  
江蓮天棘句難工十年不蹋山中路歸夢依依入夜濃

海邦多事久勞身才出西江得欠伸遠接曼公承碧眼同遊召伯奉清塵蘋風吹棹詩將就  
山月窺人興亦新去去窮源還不得白雲何處更尋真

奉和金同年韻

涼韻刀騷入玉樓錦江風雨舞陽侯未招雲外千年鶴借作樽前八月秋燒酒露壺驚細寫  
綠菰冰鶴看初浮却揮鈴牒方謀醉鐵撥鯤絃咽不休

送尹質正赴燕京

慶節多方賀九天君從使者去聯翩  
曲江誰獻千秋籙東海空陳兩本箋  
驛站班班曾飽眼山川一一再吟篇  
吏文質正尋常事端取義經問象前  
太原前日見清標蒼鶻玲瓏下赤霄  
粲粲謝家攀玉樹飄飄仙袂過藍橋  
三年別淚懷松嶽萬里行裝赴上朝  
詩代贈鞭殊鄭重歸來好語慰蕭條  
書狀前朝說數公宋家從此重吾東  
文章高妙朴叅政人物專名金侍中  
君出繒雲兼御史我將縞帶侑清風  
丹州銀錠填燕市天子徵求語必窮

漢朝丞相系蟬聯平定江南將勇拳  
文武家聲今不墜功名世業要相肩  
詩書端的修初服忠信提携赴遠天  
流落錦南乖餞席九回腸處淚漣漣

別席率賦近律一首就奉崔都事漢中行

照人冰玉聳孤標寒入清霄奮皂鷗  
綉佩茝蘭薰醜俗貯襟風月鎮浮澆  
夜蛩唧唧愁同訴霜葉騷騷思共飄  
菘熟召還官序促却催飛駟過東橋

次重九韻

陽九從來競被災達人求福不會回  
龍山吊古繁華去栗里傷懷令節來  
真露掇英香入手

開樽邀客席連槐長天唳鴈酸騷骨散盡清愁濁酒杯

宿延豐安阜驛魚太守出厨迎慰

燈似迎賓急吐花主人携酒勞征車冰中銀鯽供腥膾雪下當歸拔白芽清韻有松如勸醉  
古音無瑟莫興嗟龍潭何處多奇事三月春深看物華

壁路在聞慶南前臨大江百丈

誰鑿山腰開此庚蛇橫斗折勢欹傾旋巖繹釋雲中去蘸水依依江底行人力謾勞將士補  
神功難辦下鏘不回車復路真良策利捷紛紛不憚征

宿達城

千章老木挾官街古府潭潭敞館齋饗手看賓調米鼓厖人數馬劉蒿稽斜風去鳥蒼茫野  
落日歸雲窈窕崖覓句未成山月出清光欸欸照幽懷

宿道州

官舍高低隨地宜青山爲郭不城池果園有粟三千樹花塢無梅一兩枝獨夜館賓吟徹曉  
多情墻月照穿帷壯心欲斬鯨鯢首長劔腰間撫陸離

次嶺南樓韻

客到嶺梅初發天嘉平之後上元前春生畫鼓雷千面詩會青山日半邊漁艇載分籠渚月  
官羊踏破羃坡烟形羸心壯凌清曠驅使乾坤入醉筵

西湖萬里隔吳天綠浪東西忽墮前天上玉樓身坐處海中鼇極眼窮邊江魚慣聽青娥瑟  
城樹恒燻錦燭烟度嶺謾愁深涉險平生經賞捲塵筵

嶺南樓席上贈右兵使熙之甫

名樓稀會對銀餅話榻前山眼共青欲寫百年無限意老無佳句響玲玲  
腰下淋漓雙寶刀將軍豪氣欲凌霄莫嫌到處鏗絃奏邊靜塵霾舊戰袍  
海內堂堂知己人山陽會撫病床身至今枕上浪然淚猶在當時拭面巾

黃獻之到金灘皮玉家送大家入漢患荆索燒酒題三絕并寄

急足傳君江上書仍知暴瀉患中虛官餅携滿秋空露殺盡河魚腹裏蛆  
皮玉家前灘水平將雛烏鵲弄新晴慈航西下驪江口沙檻孤眠奈別情  
大麥初黃小麥華西江樂事打紅鯊還慙告病連朝臥不敢蘭舟載酒過

次咸昌東軒韻

久坐仍聞罷午雞墻陰半側畫欄西松花穩下露猶濕柳絮交飛鷺亂啼人散月華垂屋角

夜深雲氣宿榷題明朝更試征途險鳥嶺攙天路不低

述懷

憔悴中原忽四年故園歸興日悠然架書欠主新魚出墻笋尋人舊壁穿厨傳不堪筋力內  
帽錫應落物論邊芭蕉葉大燕青長月滿前川理釣船

李翰林觀母氏挽

溫惠徽聲著自笄秉心聞善輒思齊苦蔘熊膽徵賢母雜佩雞鳴配令妻清壺牝貞殿內外  
照隣馨德洽東西風駒昨夜賓天駛石鏡埋邊雪日低

端午日偶題

麥熟當乙

菖陽滿酌客中杯夏五忻迎令節來度隴薰風催麥熟行林小雨欲黃梅鞦韆廣陌昇仙索  
蜥蜴深宮落膽灰追憶玉堂曾忝賜赤瑛盤裏火櫻堆  
荷葉初生帖小杯太原端午五番來蘭湯盪試驚吹雪蒲酒纔傾恨漉梅陰闔地中隨月魄  
陽消天上逐蘆灰輪迴時序人將老無盡愁塵累幾堆

寄希剛相公

鑄成大研以備磨藥之具公嘗去驪江別庄歸昌寧之日作送檀月驛庭有



石標刻云天復相誥唐昭宗年號

老冶山鑪鑄大研凹池半月範初弦憑君欲劑長生藥携向頭流問鶴仙  
祐蔓岡頭祐蔓堂亭亭獨立白鷗傍主人已厭江魚膾山外園瓠割玉瓢  
檀月相逢話別難石標天復把杯看夢魂夜夜多方便飛度關山不識艱

長吉有詩問余投檄之期必以抄秋卽答其韻

長吉李灘  
叟延慶

北客中原歲月流天南故國夢炎洲玉粳老口慙長俸銀帶頰腰僭久舟難摘吏姦心見關  
未拚民隱鬢知憂管絃日廢聲寒澁禾黍人言不穫秋

今年旱  
甚不熟

城外長江碧玉流芳菲杜若亂汀洲西風遺此騷人襟明月橫他赤壁舟千古英雄何處吊  
百年身世等閑憂推擠不去衰顏厚廣李之孫決菊秋

長吉携家就龍仁詩以慰之

廣陽之後續家聲曾入瑤池十二城駒犢轅中斯脫輓鳶魚機底合思誠屋頭嶺月詩難廢  
窓外江波夢易驚今歲凶荒圻采甚龍村就食豈謀明

送正朝使

朝廷大禮乃在正會故國家必選重臣爲之使今年秋金相公明通父以司

寇亞卿拜是命將於十月之吉日赴京師因金翰林之行附手書并唐箋二張索詩懇懇余於簿領之煩苦斷吟唇久矣律澁甚如寒筇之無聲矣然不可苟辭勉掇荒拙以塞勻望敢居贈言者之列乎

天子高皇幾葉孫四年新化遍東藩  
吾王述職修侯度正朔頒春奉帝軒  
丹鳳闕中綸命出白雲司裏貳卿尊  
送行西郭叢輶鞅湖采無端阻別鱗

蘿菴山人見主稱文章冕絨世相承  
長身束帶三韓傑上价騰裝十月冰  
玉帛多方要趣會樓臺萬里莫頻登  
春來自嶽平安信且可江南驛使憑

遠祖金濤在高麗以蘿菴山人見稱於玄陵

八站之東地勢分醫巫積翠落遼雲  
平生刺刺羞男子此日忽忽謁大君  
山海帝關高嶸嶮灤河湖水細紛紜  
奉天門下鏘鳴佩試看車書混軌文

玉鞞雲旗入九天觀周恰似昔人賢  
胸中袞袞詩三百馬上茫茫路九千  
華表方昇新漢日長城不見舊秦烟  
久聞八景饒燕土收拾吟囊播海壖

卽席送金翰林

風打朝雲極力刪欲披秋色慰離顏  
霜娥昨夜丹青筆畫出詩邊錦繡山  
男兒到處卽爲家況復中原富物華  
莫唱驢駒驚別恨啣杯正好泛黃花

秋興

回極浮浮不可留，碧葩迢遞沈瀟秋。  
辭巢往燕前霜退，將子賓鴻趁稻謀。  
炎海故園荒九菊，漢江官渡繫孤舟。  
殘燈半壁愁無賴，窓外姮娥捧玉鉤。  
英雄如鳥不曾留，身後虛名電掣秋。  
醒屈疑漁父策，醉劉終拒婦人謀。  
青天白日捫鵬背，杯水坳堂唾芥舟。  
飛過十洲追鳳侶，釣鼈須用月爲鉤。

送鄭翰林罷官南歸近體

快士如君海內無，平生讓與一頭輪。  
三年筆橐趁天陞，萬里詩囊落海隅。  
風送斷蓬根本地，雪驚鳴鴈稻梁區。  
驛亭二十休言遠，無等山前是故都。  
我南君北向相違，南北終同喜不微。  
卯酉少閑踈會話，風塵多故又分飛。  
邇來頻作天涯別，相識從看眼裡稀。  
携影驚行慙白髮，媿嫻猶未解朝衣。

次困菴韻

祥白困菴先生前月初九爲迎板輿往山陽，傷於客寒，忽發狂熱，腸若抱炭，頭痛如裂，魂魄恍惚，人事不記，幾入不諱。俗醫用野人乾汁治之，又施出汗藥，至七日熱氣沮，屈精神稍蘇。二十二日扶舁還治所，但元真耗敗，脚力軟。

溼內下瘀血如注閉衙請告調保自昨始知食味喜甚今又承奉瓊琚恍然  
沉痾頓去故力疾和之然必不類詩爾日者永平落落相分追憾之至橡屑

檜蜜多謝

老衙都護將羸兵近幸鯨瀾自不驚直待涼颿南嶽動頭流一覽衆山青  
得不爲驩失不悲真知世與我相遣信陵豪貴竟黃土萬戶何如千首詩  
夫子莫擎龍虎鼎至仁應是壽人丹虛窓不語看周易六月光陰歲半闌  
飄飄一撥孫公興擬入天台度石橋足未曠風身未翰塵深枯榻雨蕭蕭  
不入十洲空濁世茲生無路脫讒譏蒼蠅袞袞飛無數白壁成冤爽舊輝  
窈窕龍潭深洞府山中仙藥想方華縣齋似水無機事馴鹿堦前臥白沙  
聞道草堂雲雨句只誅輕薄好相渝鄙生賣友今何有憑仗金蘭保不虞  
橡實蜂膏山閣惠欣然作餌手和調萱堂一薦空盤盃至味還輕上界桃  
無事讀書松桂前故人官況信條然雕菰爲寄撐腸具且卷龍村蚌蛤田  
資身五斗非男子早晚寬閑我亦耕風月一天隨處足不妨詩酒遣殘生

奉和之贈權子醇七言短律

錦南行色歸袂晚無等山西五柳春蔬糲莫嫌居計拙金蘭終仗處心醇有書萬卷家還富  
栽竹千竿興不貧踈懶目深遠世態共君堪作耦耕人

鳳山居士懶衣冠車馬寥寥絕往還淵谷故人忻一過訥齋春事似相關軟葱新剝抽纖手  
舊釀初醞瀉碧瀾得醉忘愁眞著便肯將邁軸別途干

和申元亮

駝駱山前傾蓋時霽然相契意懸垂琴樽會晤還無便海嶠分飄各有悲禪榻勝遊同打酒  
謫窓能事邈詒詩永言不寐看清範留月梅花最上枝

春半招邀渡數溪寶林伽智白雲迷班荆舊面深風雨織錦新詩積斐斐膜拜院僧頭地搶  
昏中星斗尾簷低連宵軟話能多少黯黯離襟尙帶悽

異等大科盛玉堂如何韋布落炎方騰蛟起鳳詞宗筆紫電青霜武庫槍壯膽更高鵬鷲際  
清懷偏厲竹篁傍橘亭十幅吾驚撫詩畫依稀舊姓王

知非已度衛遼年潦倒何由侍講筵遷轉二州巷六內入司宣藥品三邊多君用力滋蘭畹  
媿我無功食楮田南望泗陽江上柳不聞鶯曲意酸然

三月入洛故云

復疊前韻示石川

官居何異小林禪恬淡前頭養浩然今世與違從白髮古人相後望青天朝曦照檻紅深麗  
露篠含窓翠愈娟危坐不言誰更會拔籤時復閱陳篇

宦心踈薄已參禪韓魏相看亦欲然虛辱寵恩三出牧第將行止一聽天休令鳩鳥爲媒  
理且任瑤臺鬪巧娟怡悅隴雲多勝事剪燈曾綴乞歸篇

早識麒麟寶誌禪君家二妙絕超然馬羣不省千金鹿雕路猶寬萬里天珠玉在傍形穢陋  
文章驚俗語清娟詩盟暮節慙同契義好無忘伐木篇

造道深求一味禪衣裁薜荔思條然湘君極浦迷春草山鬼幽篁閉洞天吹去參差烟皎皎  
采來三秀露娟娟些兒心事無人解自讀長沙問服篇

次子美韻

無他斷斷少人知曾結幽蘭遺所思春到江湖和遠夢雲重宮闕渺佳期梅前獨立天將暮  
月下孤吟夜欲移腸斷此時垂寸寸眼中標格展清詩  
行止巫咸未必知莫懷椒糈費遐思名兼吏隱人誰信身任浮沈我不期風際斷蓬相輾轉  
江中輕舸互推移青燈半壁回春夢臥誦瓊奴驛柱詩

再酬高韻詞竭義盡磨馬踏跡未出新奇借托物象強編荒茅仰博粲然回文

體

紅玉琢成雕彩鳳曲環連瑣約人依東樓月下方槌珎密誓前頭落葉飛

右連環

涼月踏塔寒襲足鳳文蹂處舞反脣堂塵染後凌波斷物舊懷悲黛入顰

右步襪

踈菱紫縷盤成彩白月秋波玉霧叢虛影照愁還半破撫頰空匣曉生風

右銅鏡

明珠點綴星頭凸片段黃金出水寒晴日映光斜寶髻股分能合更心團

右金釵

次梅月堂四時絕句回文體

紅綻幾枝花燿燿綠垂千線柳依依東牆麗日晴光轉後院歌吟好鳥飛  
涼借扇風微纒纒井寒分玉漬枯唇堂堂影密槐繁葉日燒紅榴絳面皴  
踈影晚林青脫葉碧天江鴈叫蘆叢虛軒客裏漫漫夜鬟雪添邊颯颯風  
明轉暗窓松打雪凍溪西榭竹號寒晴雲海曲龍蟠伏臘逼梅房小結團

次和順東軒韻

官墻低短接村籬人采松苓斷舊脂將子玄熊懸遠樹挾雌華雉過前墀石田地僻秋常晚  
雲榭峯喬月苦遲蒼玉瀉庭淹亦可攀援何必小山枝

前村日出照雲籬門外征車轄復脂竹裏晚鵲聞客路天涯衰淚灑官墀短踈兩鬢秋霜重  
遷轉三州歲月遲沈想故園多手植幼梅高大過墻枝

次靈巖東軒韻

懷古臨軒感慨多老奸遺臭德津涯東風借便周郎炬天意催亡漢賊家往事茫茫空海月  
啼禽磔磔幾春花幸逢聖代無兵革謀醉樽前減髮華

雪霽後贈送宗徽沙彌

昨夜江城春雪飛天公生意頓微微今朝晴旭驅寒暄花柳依然別有輝  
秋風吹起白雲飛金氣橫天火氣微佳節中丁明日是上方山月政揚輝

閱靈巖瑠挽詞

商山追憶昔同曹東洛春樽盡二毛屈指計年今八載不圖招復忽傳臯  
接壤江南竹使符相逢一再話榮枯青春作伴還鄉日別酒如何奠郭鄩



月出山中訪避秦前春共踏使華塵脫驂亦灑無從涕奚獨襄陽立石人  
治幹西京說至今去思無盡入人深漢家有詔編循吏千古芳名傳上尋  
九井峯前三值春不嘔以笑答來人知心最得方兵使吃吃常稱長者真  
歸引驪興卽首丘白雲高鎖暗松楸浮生草草黃梁夢東海蟠桃春復秋  
故山春草卽萋萋猿鶴夜啼叢桂西官事正牽歸夢斷可堪沿路困衝泥  
人生六十亦知稀太半荒原少壯歸況復宦成婚嫁畢何須戀戀此羈機  
循環日夜死生前僕隸皇王路坦然我笑漆園非達者還將大小巧分年

東江舟中卽事錄示斯文二三子

漠漠東江小雨時蘭舟隨意不停維前峯闌闌雲成罅遠樹昏昏眼隔簾三尺綺琴交權臥  
一枝胡笛倚舷吹天涯病客還收淚刺促斯文細話詩

時撤雜樂獨令伶人吹笛故六句及之

一揮喧案出官城江上清遊快適情亭子有船堪避雨丫童侍座穩行舵盤排野味菰兼菓  
網送秋腥膾又烹若也老天能解事便教晴月吐崢嶸

秋半郊原歲事饒稻粘金子雪饒蓋饜人炊飯舟中語風馬喧坡雨裏驕落日預愁回去棹  
歸途先戒補前橋茲遊敗興任臺察折笠沙頭跪報遙

時監察任某入館州吏來報故落句及之張寧使我國見鄉吏着方笠以爲折笠

新亭懷古

落日蕪原一片亭，游人回首晉朝廷。  
清談不補東門見，鹽汁還教伯業零。  
江水目中垂雪涕，紫薇天上避胡星。  
樽前慷慨徒爲爾，未遣衣冠整舊庭。

雪中赴全州

六出花飛浩接連，鬢髻鳳鶴帽簷邊。  
瓊瑤錯莫隨和國，清濁冥迷渾沌天。  
金馬山前崩白塔，甄王城下折寒鞭。  
華堂趁得公侯宴，浩蕩春光動綺筵。

登鷺城薰風樓

遠目雙明喜敞寬，虛郊物色也班班。  
祲天海氣星辰潤，吹面薰風草樹寒。  
老病有緣人易瘦，羈愁無賴酒能刪。  
春來不盡西山歎，莫把侏儒索飽餐。

過崔達河村庄

鷄鶩上樹犬升屋，草白雲黃冬到深。  
名地碧津徵古跡，借人青眼見君心。  
媚盤莫恨無兼味，對竹容誇餉萬金。  
鄉里幾回輕五斗，黃花應待老陶潛。

法浦雨後

晴旭娟鮮縱目初，蒼茫遠嶠蔚藍如。  
龍宮曬出鮫人錦，蜃市跳回姹女車。  
雲蔽蓬萊仙縹緲，

驅騫舴艋路空虛乘桴蹈海還追古老淚無端忽滿裾

次舍弟韻

雕蟲微俸食文科三十芳華一瞬過散騎紫微雲蔽路西門東里梗漂波鷄鳴風雨晨無變  
蚊聚江湖口謾多天乞脊鴿原上會尊中春色暎黃鵝

庚午歸園

三霜五馬別鄉關風雨茅宮八九間舊夫尾能知主掉南山雲似爲吾顏討亡架有圖書缺  
畫種園無斤斧寬公不收將留負郭茲生俯仰出飢寒

秋夕翫月舍弟茅亭置酒

露泫天晴三五貞十分光景濯虛明靈娥斲我長生藥丹桂分香盡室清奔走向來常百慮  
謳吟今夜只詩情鴻疊雪沸傾秋色猶畏鄰鷄下五更

書懷

爲口長年寸廩紆于今不見亦秋胡窺飛鳳解捐金彈幸睡深危探領珠麴藥有和殷帝酒  
江湖須汎魏王瓠箕山風月都俞際未必干戈更哭途  
明時真味求無用無等山西誅草茅未見聖人空咄咄孰知狂狷浪嚶嚶風雲天上惜回首

松月溪前欣舉瓢我豈懶隨鞍馬隊臨流據石足清交  
五聖山前勇拂衣從今義勝也身肥鮫多夔少皆隨分鷄躍鵬搏各盡飛含土不量滄海大  
燒空眞笑火螢微江山正要詩人到可愛身邊息是非

聞松濤

風入蒼髯籟發生靈胥秋月動江城噉窻老樹扶餘韻瑟逕踈篁濟遠聲颯颯驚渾敗意  
蝦蟆光細欲和清似應嘆我酣春夢爲撼茅齋盡五更

聞舍弟接梅索成二絕

羞處惡人清者隘不卑夷陋聖心寬向來偏性遠藏疾今學包荒落異班  
春風舊樹分離恨巧手新泥附接恩物理本根雖異類乾坤生養卽同源

孤松老大特立野外遶吟一律

雪霜大老後凋姿蟲蟻牛羊揔不遺受命自天多甲子將身無意入軒墀月濤好聽秋風葉  
樵斧須寬水鶴枝野客近根成小築斲苓終得掘蛇龜

通判惠水喜而賦

六月官水數駱駝柴門曉日白陂陀削新峴脊千年玉凝出江心萬古波瓦椀亦誇枯肺潤

金盤何數內恩多最憐執熱人分半同苦鄰翁與解痾

聞欽之先生徵授礪良索成七字句

先生小子道相須兩地榮枯聽大爐南國百年同棄物秋風五馬獨亨衢紫泥恩命元  
明  
主白首丹心信老儒自分不才無日起釣舟隨意汎西湖

秋聲

大塊嘈嘈韻上林  
魍魎移樹動棲禽  
靈胥江閣秋將盡  
踈雨風篁夜到深  
怒者達人猶未解  
慟然詞客謾關心  
玉堂悄悄還無寐  
初下詞頭月欲沉

壬申春暮余以經筵侍讀過山陽登列仙樓次金員外韻錄奉地主德之甫  
玉署江樓此日閑  
登臨物色值春還  
梅飄東閣淒涼後  
雨暗前峯朝暮間  
聞說明珠濱浦潤  
歸來秋鬢雪霜斑  
主人爲客傾西海  
官燭燒多跋未看

寄綿州啓彥甫期遊龍泉

蒼密環城揔竹林  
馳峯奔嶂似駸駸  
合橫鐵笛吹雲散  
驚起秋蛟舞壑深  
不到故人虛夜月  
長投官事礙幽心  
龍泉布瀑香爐滴  
萬一同君把臂臨  
過雨寒商颯遠林  
天時逸驥逝駸駸  
沙場鴈有驚秋早  
月砌蛩堪語夜深  
微祿用供扶老債

清風偏入長民心 一生不負詩書腹 頭上貞明日下臨

酬奉冲庵三律

岐山忽產九苞光 闕里如何感嘆長 季孟之間非苟處 一生幽抱向羲黃  
玉堂前日忝才賢 勻漏丹砂訪稚川 世事漸危人自若 謾將青紫惜殘年  
脩竹渾城綠十尋 凝塵屏絕此間侵 居官亦出禪房靜 更着君詩倍雪襟

奉簡君美

山城淡泊似僧家 紅葉霜林老眼花 獨挺清寒看綠竹 爭棲囂亂厭昏鴉 尋真坐失桃花路  
與物相持觸國蝸 未委故人知得否 寬懷須做酒如何

甲戌十二月二十八日得短律錄示冲菴

山城異候薦悲辛 特地風寒釀雪晨 三百六旬餘數日 八千窮塞老孤臣 君王玉座垂趨殿  
菜把春盤近食新 明日西園桃李競 莫辭梅下酒無巡

銅雀硯

初見金仙辭漢家 忽聞銅雀墮塵沙 鷺鴦一片來書案 翡翠何年散落霞 焚燒有痕經幾劫  
飄零無主困千磨 老奸盜得高皇土 纔做陶泓計大差

次新堂韻

早采紅蓮浴泮波青衿華間日應多病携藥爨吟菜昔家近蒲塘聽鶴鶴北闕坐遙金馬詔  
西湖閑續竹枝歌幾年杖屨夷猶處喬木前慘澹濁河

再過迎香驛

羅拜雙雙折笠人間知賢主遠迎賓登筵讓坐終三揖酌玉披懷到數巡漠漠寒雲留宿臘  
冥冥密雪退新春出門上馬遵前路銀色蒼蒼不起塵

熙雲自雉嶽來求詩題近律贈之

雉嶽山中多白雲白雲丹洞似仙羣人蔘茶水松花飯狼石禪床貝葉文峯色倒窓和眼碧  
桂香按月熨衣薰徵詩遠抵中原館淡露霏霏蕩俗氛

次星州八莒縣韻錄似棊仲

我馬玄黃勢不駢真如萬里困軍應解鞍八莒無人話墻外啼禽侑客遲  
老吏茶檠味再重新藜蔥白酒翁翁主人青眼雲山阻歸路斜陽恨不窮

題尹知樞珣臨深堂時公被論處閑

本爲臨深反已求經營豈獨狎鷗謀脩竿百尺危途試逝水千尋哲鑑留忠信一身元自仗

風波終日不關愁君王特賜金魚袋莫向西津握手投

宿鳳巖寺和浩叔相公

僕僕迎將老驛塵黃扉天上會無因燈前此夜開懷穩花下明朝話別新  
廊廟丹青輪妙手  
烟霞痼疾屬何人白雲臺畔尋春晚回首虛菴跡已陳

鄭虛菴希良登  
白雲有詩故云

投丹山守乞山芥海青恠石

春郭無人獨撫琴滿盤山芥酒頻斟桃花開遍須相報要聽參差好鳥吟  
海青何日下天衢馴作山楹赤羽奴支遁愛鷹聊復爾夢魂頻入白雲呼  
汨沒湖塵今幾年蓬萊何處訪羣仙倩君一片沉沙石玄圃闔風轉眼邊

贈黃典籍汝獻舟入漢陽伯季俱在朝

昨夜江雲放月遲今朝細雨忽催詩三更小吏回官燭萬里孤舟卷客旗  
綠髮脩門重入日  
東風荆樹競迎時嗟予五載癡窠落簿領蕭蕭髮半絲

蔡孝仲過李次野飲僕患喝未會仲辭歸養母

次野李  
陰崖軒

山南征旆駐西村同酌韓山牧隱孫不敢三生成恨望松盤手柏蓼湯溫  
一束當歸自阿娘從頭數日事君長瑤墀忽奏陳情表謝出經帷下玉堂



金樞府世弼演余江祠所寄二絕準日之數以答義主閱雨且譽不肖最後一首請改勸農之帖卽效捧心亦似磨驢踏跡不見有新奇可笑

明王立極象三無廿載司南長萬夫未効官箴臣負負休將收政付迂儒  
莫恠隨車雨絕無靈祠奉幣實凡夫巖廊且有張丞相幹運天功仗碩儒  
大旱如何無歲無庚寅乙巳曆村夫人言未見今年甚範傳支離問漢儒  
機械人間豈可無桔槔搖首做功夫村村競出喧爭水血面投辭不巽儒  
畢竟京垆指日無携持婦婦與夫夫隨宜賑救關荒政上策西村訪老儒  
智慙農馬且能專狂策干刑在亥年吾口三緘從此密期期不作漢庭賢  
生平學問不精專落在泥塗孰使年金馬玉堂渾一夢畫蛇今日去爲賢  
畫壤分符責望專爲官界首屬殘年定非例埃秋菘結前歲虛恩建不賢  
金玉清標夢想專石橋秋色又今年草泥郭索橫行近官瓮兼携酒聖賢  
州人本務少堪專惰穢良田每罪年三十勸農分督責可憐朱帖摠非賢

掣簿之餘吟得近律四首錄示次野

衰途吏業課桑麻日計迂踈歲計賒海旭三竿飛紫氣庭松五鬣散黃花寒詩抵老還成癖

旅夢經春幾到家禪定一心無物競隔牆汗澤亂鳴蛙  
萬恨森森豎似麻脩門回首五雲餘泥沙屈膝衣添垢案牘疲精眼見花九轉寸丹通上帝  
再蘇羣瘵答官家平生不作燕庭客莫擲黃金費抵蛙  
送客回頭案又來鷄皮鶴骨兩相催五年積課真無策千卷前功做不才手踈小吏反唇詆  
顏皺佳人聚首哈數往百齡驚一半思將餘日醉山杯  
孤城杜宇不曾來似恐歸心日夜催 聖主恩深承大使雄州務劇待全才跳丸歲月寧容  
逗焦火心肝不滿哈書竹鐫珉皆後事孰如健倒眼前杯

賀朴洪州以寬二子中司馬試先生亦少年進士

南省采蓮誰太忙君家二子鴈聯行青年司馬傅衣鉢艾綬黃堂做吉祥軍吏滿庭稽首賀  
鼓笳喧座徹雲狂胞胎瑞世麒麟茁具慶東風喜淚汪  
詞場利穎脫囊忙白璧雙輝秀士行鸚鵡高才初定價鯤鵬去路始開祥大難避席愁將老  
郎罷添纒興欲狂佳慶遠驚門下客湧眉黃色似汪汪

鎮川送金監司破拜同樞還京時患病

二月江南鴈北還征人跋馬入秦關一心戀主身多病經歲憂民髮幾斑舊節尙方歸御府

新樞西序拜龍顏清河故物離程畔鶴去冥冥不可悞

處寬上人遊頭流山將還奉恩寺過余太原徵詩卽書小律三首贈之

文書鴈鷺吏行稀畫閣深深晝漏微黃面老禪暮拜謁頓令心地息塵機

萼谷花峯海上山雄豪悵但弟兄間捲來賴有金剛眼相對蒼蒼萬丈顏

毛禮窩中穴野狐法興基禍敗東都君王斥佛尊吾道我亦冠巾吏部徒

毛禮窩人

次黃叔貢韻贈健翁師師自英陵來

思君中夜攬衣興明月通靈亦足憑一葦過江來芮國孤臣揮淚問英陵柳綿撲撲天風下  
松露霏霏暮氣凝燈火滿城逢夏八清談塵慮灑然澄

表直學憑母氏挽

膝下祥麟五色全明王上瑞應千年蘭臺御藥中丞病玉署恩麻直學宜驚懼入心添白髮  
短長隨劑忽黃泉通家未辱陸堂拜客淚猶堪灑雨邊

戊午燕山風雨狂士林相泣半投荒關西鵬舍人先逝嶺外牛車淚幾滂身獨未亡魂已斷  
骨終難朽穴同藏異時太史編遺傳翁媪聯書萬古香

七十萱堂鶴髮垂尊榮壽母四方知震材雖缺三珠樹閭慶還增一桂枝始信由吾元積善

從知在上本非私  
斑衣指日加金紫  
大數俄窮孰不悲

癡影孤燈廿八年  
寬懷只在典刑邊  
蕭條舊屋東門外  
牢落荒庄南嶺前  
鼎裏丹砂寒日月  
泉中靛稅鎖雲烟  
人間不盡張林筆  
婦德豐碑滿面鐫

鄭轉運世豪惠紙五束遂題三絕句答之

雪面披披二百枚  
眞天下白楮家媒  
將迎不合書津帖  
轉付三都第一才  
落落吾髯僉舉賢  
東南轉運領江船  
能擒雀鼠嚴梢卒  
稅吏家家有薄田  
漢水通漕似雍河  
伐柯之則在蕭何  
極無可慮秋將歎  
開歲江帆想不多

俞使君挽

一出脩門不復歸  
鷺行回首盡霏衣  
玉堂金馬皆虛座  
寧謂中身昨夜非  
歸葬坡州指故丘  
扁舟江漢忽同流  
大家入洛携孤寡  
空撫斑衣淚不收  
仙骨清臞少似君  
南朝彷彿沈休文  
九州之外眞難見  
怕恨今晨阻白雲  
諍士元非不好言  
牽裾折檻值庸昏  
曾爲補闕丁熙代  
諫草終無禍子孫  
粉署文昌望已優  
重膺僉舉物論孚  
不將刀筆徒奴虜  
能贊山公啓事籌  
楷法平生學右軍  
落毫槐院冠青雲  
可憐永輟咨文手  
事大何人不惜君

短少蒼尖精妙姿廣寒唐突孽蟾枝英華燁燁扶桑表太早天霜謝玉芝

再和金同樞世弼述田家雜語

老妻炊黍顛傾無朝墾荒坡雇十夫勤力不須愁培克廟堂聞道盡鴻儒  
縱然勞動似儂無游手平生陋販夫教子養牛經一部東家錯擬訓爲儒  
相與西鄰濟有無大平俱是受厘夫春秋濁酒鷄豚社白眼膠庠竄籍儒  
士農於世豈相無資養由來待野夫莫道上踈治野具東堂恒策桂林儒  
逃稅吾何學寂無兒孫滿眼又添夫麻絲粟米堪供職斥佛君王雅尙儒  
鎡基授受我心專麥飯菰蹄每祝年青女下霜黃萬頃較收終判劣耶賢  
粟熟橋西嚇雀專嬌兒纔十二三年人來借問田家事替却爺爺說得賢  
耒耜工夫食力專鴉頭變鶴已垂年孰知盤粒皆辛苦花月絃歌醉自賢  
遇早晨昏守水專今年且甚赤蛇年賑飢良策有誰舉太守不知賢未賢

成宗朝乙巳年大旱

如何造廢貢行專筭畝收租不問年半壁青燈相哭語疇將此意報時賢

三和金同樞田家雜語

晝茅宵索可能無昇屋綢繆起情夫千畝大君躬率下講陳豳雅魯多儒

稅債遺餘及口無危機幸不到犂夫耕田可換耕書貴嶺海羈魂半是儒  
爾桑盈筐我筐無違陌悲歌自有夫天上豈諳蚤女苦作圖樓璫更無儒  
剪髮輸錢我髻無晨炊脫粟餉籽夫南鄰夜夜青樓女打酒調絃狎俠儒  
望野青青近却無榆皮粥飯醯哇夫遍山摘橡人如蟻圖上丹闌定有儒  
十郡從征西北偏茂昌驅虜在前年半銷農器爲兵器謀出當時衛霍賢  
才送三男戍海偏澤門工役逮衰年西京水沒高城毀板築晨趨大尹賢  
我肩我斧遶林偏松櫪丁丁碣百年輸下曲津梁偃蹇此身疑是濟川賢  
恤札頻頒雨露偏春秋錫宴享高年優游壽域謳歌好寂寞商山避世賢  
籬落閑閑水一偏打頭蝸舍送流年薄田且免豪家奪傳子傳孫保此賢

宿陰城聞夜雨口號

急雨無端打石欄三更客箬卽生寒嘈嘈窗外鳴圭葉窈窕簷間韻溜湍真合旱乾民望愜  
却宜禾黍吏懷寬波濤漏谷前溪漲不害行人卸馬鞍

丹月驛樓席上贈尹翰林曝史星州之行名豐亭

翰林物色照江晴能使魚禽摠畏驚靈鵠秋光橫錯莫鐵爐金氣吐崢嶸小樓一角休征騎

獨柳西邊頓步兵携酒老夫追送客嘈嘈絃管奏離聲靈鷲寺有鐵鑪十二官吹鍊所

凌虛亭次原明韻贈羅云傑

面面皆空眼眼虛依然此地會真如同塘下壓魚龍窟曠野平連鴈鷺墟挑菜社翁分臘味  
緯蕭江叟餽王餘食耕自足生生事名業都拋劍與書

李正字世健自星州入漢贈七言短律走筆

銜疑銜

莫言仙李入流沙蒼海名家擅大科南省采蓮華問播東堂攀桂逸才多權銜芸閣無羈束  
賓席星山醉綺羅何事秋風鴈相背青衫還蘸漢江波

赴尙州

十三驛外是商山去國初經鳥嶺關集事無功新到任思君有夢久離班天旋歲轂春先柳  
客做愁華皺上顏銜散日斜幽興發老陰蒼翠落雲間老陰山名

白雲臺上有孤松下有清溪鄒翰林南謫登覽之加令名

盤盤老大臨潭石颯颯矮松風雨枝儂月如聞下笙鶴啣魚不見上盧鵠金鑿謫客曾回首  
玉局仙人幾解頤我亦本非塵土物白雲清契有前期

留別惠能上人

一瓣玄香拜世尊，眉厖數寸坐無言。  
階前棄粒常來雉，石眼留泉每飲猿。  
風贈墮樵媒上座，水和殘磬祖征軒。  
塵囂又落中原驛，白石清溪幾夢魂。

中原賦五絕錄示友人

曾於敬中退憂堂，梅下相逢故省郎。  
今日慶迎樓上話，秋山和眼十分蒼。  
繡巖何日過茅堂，蘭雪相看白地郎。  
彌勒山光長入夢，一方松月幾蒼蒼。  
畫戟凝香刺史堂，風流自負似韋郎。  
傍人錯把尋常看，稷下區區兀老蒼。  
一十年前直玉堂，含香草詔壓諸郎。  
至今未答君恩寵，蓬轉天涯鬢半蒼。  
彈琴臺迥頰龍堂，閑擲明珠白石郎。  
于勒仙人何處去，拉君同踢石毛蒼。

雨中卽事

中原客舍雨飜盆，鵬翼垂垂不釋昏。  
檀月驛前泥滑滑，犬門山外水渾渾。  
黃池鼓吹鴉蛙部，碧寒銅鉦縮日魂。  
架上莫愁書蠹出，田家樂事在西村。

中原贈日本僧易窓冒雨自驪州來

若一作苦

詩債何妨海外分，老天少恕若慳君。  
舟中月隱驪江雨，馬上山靈竹嶺雲。  
壓濕橐囊須日曬，報晴鍾鼓幾時聞。  
東萊近有靈泉浴，莫忘湯盤九字文。

請浴東萊禮曹啓準之故云



相疑箱

商山一見語丁寧再會中原眼更青相中金粟心難忘篋裏驪珠手不停今日酌君傾北斗  
他年酬我卷東溟莫言鼇驛三千阻桑旭朝朝不隔庭

見贈詩故  
韻聯及之

日本副使守秋贈紫石硯二面

扶桑樹下老豬肝妙手磨刀割海寒萬里危橋隨貳使千年絕寶落三韓牕前諦睨兒驚問  
案上潛窺客請看長發墨花松麝暖玉蟾噓露滴溥溥

用次或人韻贈別宣慰使俞啓沃父

句從金

一竿晴日耿長津三疊陽關侑遠人江館相逢胡不醉百年句是是非身  
蓬萊辭出五雲鄉驄馬山南去路長七十樓臺行處好莫教風月索無光

彈琴臺

湛湛長江上有楓仙臺孤截白雲叢彈琴人去鶴前月携笛客來松下風萬事一迴悲逝水  
浮生三嘆撫飛蓬誰能書出湖州牧散步狂吟夕照中

再遊彈琴臺

往事迢迢不可探琴仙臺下水如藍文章強首無遺廟翰墨金生有廢菴落日上海船兩  
斜風盤階鷺三三陶辭莫遣佳人唱太守聞來面發慙

次子剛韻

夫子乘桴浮海流仲宣爲寄賦登樓悠悠萬古空回首白髮西風泣素秋

琴仙臺上頽清流却望驪江不見樓借問 英陵何處是小臣斜日立高秋

春風曾渡漢江流遊盡山南多少樓追憶與君相別地神仙爐酒隔晴秋

子剛携神仙爐酒以餞之

金灘送舍弟入京

沙禽布路背斜陽月窟巖前放小航江截地行無足健檣乘風駛不橈忙黃金子蜜雕菹稔  
白雪花饞蕎麥香時節正佳人事戾西風迢遼鴈分行

水驛遙遙入漢陽風波造次戒歸航 君王北闕趨恩急書記東都罷席忙別路芙蓉山擁  
翠離樽琥珀酒飛香再磨湖嶠還衰病魂夢淒涼舊鷺行

和日本國使堯韻

去國三千聽栗留朝朝望日淚頻流銜辭只爲通和好緩頰元非季子遊

詠初雪

十月今朝初建冬嚴風灑雪九天重金灘寂寞魚龍蟄月嶽冥濛鳥獸恂箱檢弊裘狐髮淺  
瓮開新釀螳華穠才踈不授相如簡老大孤吟百里封

忠州南樓次李尹仁韻

肩輿樓下謾頻過高榻樓中興且多西北二江流太古東南雙嶺鑿新羅烟和暮堞棲鴉噪  
月照寒閣杵婦歌佩印故州寧有此端將畫錦嚮人誇

寄鄭水運泊兩監倉

江上三人會一時可與倉下繫蒼螭  
叫庭稅吏持文簿喧浦漕夫整紉縞晴景中宵看北斗  
好風明日借南箕衰年出牧還多病不敢移舟舉別卮

江上贈韓元之

元效

南北經年又別離西江落日贈君詩東樓軟話連床處記取前宵細雨時  
纔泛金灘興不凡沿洞一瞥抵樓巖明宵定泊清心下江月迢迢上客帆

寄贈慶尙監司金堅仲

白從金

身出銀臺躡嶺塵尙方金帶荷恩新照人心月明無翳裁事公衡秤得句棠茇詢宣仍邁古  
鷄林風俗再還淳庭清雀鼠應多暇青鶴秋高訪道真

門外塵沙眼忽開故人持節九天來東樓夜雨驚談席西館晴曦照別杯  
巡路左旋麻骨峴曠懷光落海雲臺却嫌送客都無語安阜徵詩附姪回

次蘇彥謙甫韻

千年赤壁追前輩蘇子東湖筆不窮磊落長篇俄頃就蕭騷萬像一時空玉堂夜誦青綾上

鬼物秋驚碧落中莫遣小巫徒啞啞雷門布鼓自難同

前一日與蘇子遊東湖故詩中及之

白露西郊秋事半夜蛩謠月歲華窮淒涼社燕驚歸意早晚霜鴻叫遠空千里客懷詩可遣

百年塵恨酒頻中籬香若不荒風雨濁酒杯野老同

山水關東稱傑別雖然未並此心奇包羅天地無終限容納英雄有測窺銅竹功名多世梗

萍蓬身跡解人頤鹽梅事業須公等鱸膾蓴羹我所思

時出江陵追還京職蘇以詩嘲故反其意答之

靈均放逐身何累李廣蹉跎數本奇世事浮沉肱已折天心禍福管能窺丁東漏箭催烏兔

蕭颯鬕霜遍頤金馬故人憐寂寞幸遺珠睡慰幽思

次孫道源用彥謙詩韻

看君詩句多仙骨李白風流細討窮西序赤刀白日穆王龍馬踏曾空欲乘元氣超鵬背

盡捉細兒鑽窖中萬丈壇傍有餘土可能分與一區同

東湖一曲窳豪傑更着書堂興別奇翳鳳凰來仙輩集蒙塵土去俗人窺葉輕釣舸全呈腹

鳧浴漁童半沒頤月滿不辜今日約漢江爲酒助詩思

次鄭直學雲卿父韻

錯落珠璣眼倍明  
閑谿句律十分清  
詩壇割據輸強敵  
盃飛揚屬老生  
敗絮已知無別味  
芳蘭休愛乞餘馨  
冥冥陰雨何時輟  
客榻邀君賦晚晴

訥齋先生集 卷第五

訥齋先生集 卷第六

弟 六 峯 編

排 律 五言

監司黃公孟獻錄知分存問招要恩送老母藥物且及病季賦十二韻爲謝公會困誣獄故詩中有浮言之句

豪疑毫

揭揭琳琅表名家信有孫風超今鸚路雷掣舊龍門雲母屏非寵麒麟畫實尊甘棠南國樹  
金節紫宸恩黜陟無豪髮澄清盡玷痕丹忠期沒世白日遁浮言洞目帷裳豁虛心雀鼠喧  
皇華周雅上<sub>上</sub>恠物大江濱病渴文園廢泥塗甲子翻暮年歸潦倒青眼見春溫厚德霑萱草  
餘波及鶴原闔庭慙枉沐詩句謝駟軒

完城遇關西廉使李相公繼孟賦二十韻叙別余以弘文館校理謁告南行時中國山東有反賊

歸旆隨湖草春城謁錦筵風流驚謝傅文雅對王淵氣峻凌嵩岱談清倒澗壘蹉跎思往日

遷謫數荒邊水盡江應澈秋回月正圓琅玕留鳳食野馬逾鵬天南服曾宣化西都又擢賢  
黃金腰更粲白玉節重鮮分陝隆周命澄邦秉漢權山東聞鴻洞中國屬迤邐遼蕝通疆塞  
登萊接海壖干戈知滿地豺虎恐垂涎夷險丹心在懇懃睿想懸廟謀雖定算方面務求便  
上策綏根本良圖次利堅丘黔飢饉後棠茇撫循先赤子須慈母股霖潤槁田太師尊典象  
遺俗再陶甄蔽芾終歌樹氏羌競受厘歸來報明主茲不負恩偏

喜雨詩

敬天當舜日憂早屬湯年請雨輕宗璧懲災禁酒錢德香昭假捷玄造轉回便甘澤旋吹射  
蒼虛似漏穿龍腥留草際魃跡謝雲邊焦卷還舒翠沮洳劇傅饘願輸千頃稻終起萬家烟  
宗社金甌妥乾坤玉燭妍大倉紅漢米圖府富周泉四境無咨懊王休豈偶然

李相國繼孟氏奉奏請赴京師亞以李參判重卿父昌世在湖南之順天府承  
得參判書知其啓行迫甚就用杜草堂送楊六判官使西蕃韻遙贈參判公侍  
史叙別似聞韃韃屢寇中國界故詩中粗發之

背負扶桑旭西趨鳴綠塞端居羞一室遠使試諸難刺刺非君事醺醺盡別歡錦囊猶護去  
詩句解吟安白鶴危城近黃龍古塞寬犬戎輕上國方面摠龜官客路防豺虎垂堂慎馬鞍

延吳今有子禮樂好俱看九月遊燕市千門醉菊盤不圖蘇季說誰患舌根乾二李輶聯轡  
三山風接翰天涯棲棘者此日企鵬搏

送 聖節使韓判書効元

聖節掄賢价民曹撤上卿物論歸有早 宸鑑采能明受命公欣去投詩友慰行影堂無礙  
事征路不傷情謝謝床榻念懸懸犬馬誠健身穿八站隆景觸三庚橐淨金銀氣囊飛翰墨  
精德星離海徼威鳳入王城塞虜曾薰化華人素服清草間寧梗道都下喜聞名執玉韓侯  
使觀周季子英多方趁慶日萬壽奉歡聲帝宴開魚藻宮恩預鹿茸賜衣承北闕求貨讓南  
京禮樂窮毫髮朝廷莫重輕口傳天詔返初雪正堪驚

述懷再疊前韻錄似橘亭先生求復和

清明會幾日新火出千門萬里長爲客孤愁可忍言湖霜紛鬢點淚血遍襟痕枯槁形容改  
嘲評齒舌喧照臨憑赤旭消遣仗芳樽世態浮雲變年華枉矢奔名應招實禍虛以養靈根  
蹈海疑沾節懷沙祇益冤赭衣悲楚戍珠履憶平原審處行藏耳接輿首莫髡

仁雲師來自頭流謁余於錦城將入楓嶽求贈一言烏得無言耶詩曰

八萬峯皆骨清高不可形風雲連北漠日月蔽東溟懸瀑常飛雪喬松遠送青參差棲佛祖



彷彿下仙靈白首幽塵白丹霞阻福庭勞勞長夢想的的每心經杖錫乘秋去烟蘿入徑冥  
聞思香滿袖功德水添瓶赤豹林端擾玄猿檻外聽他年投紱冕結社謝蓬萍

申翰林妻氏挽詞

蔡邕當謫逐妻子且安眠不識門前路還窺海外天爺娘悲遠別兒女喜同遷白日衣生霧  
清秋口起烟俗嫌風土異居慣歲時綿晏晏憂堪遣卿卿意正懸有無能自濟榮悴却都捐  
勉道紉蘭客寬懷問服篇病床親藥餌蠻市厭腥膻靡効三年艾將幽萬古泉首丘歸故國  
奔月去遊仙獨立靈川叟傷心兩釋邊

螢火排律五言十韻弘文館月課

化腐初凝性乘陰假夜晴擬高真解上不昧又舍精却馬威長戟撐囊薄短檠受風翻更亂  
穿竹遠能明入眼循墻小傳光度水輕燭搖分廢苑星落近空城欲燒銀蟾背何如玉宇清  
燭籠猶幌魄黃道敢爭衡青女將回律羣飛莫恣生飄飄神闔闢也是利宵征

朴司藝以寬承調赴闕昌世在潭州病風不出書十韻附李生枝榮時學中公  
碩同知釋之司成

再命趨東學菁莪挽有肩緇帷公碩在漢道釋之傳首善源林溷臨雍實最賢風流徵晉日

禮樂爽周天識者寒心處吾儒用力專兩歧留美頌行李贈青錢萱閣晨昏曠鵠原夢寐懸  
屢廻遲去旆催召授征鞭十月山城雨三秋病客氈携壺孤遠席面目付詩篇

詠橘

橘星垂箇箇霜女下蒼衢面帶黃金皺心含白雪腴夕陽薰匱匝朝露潤糝糊老見生秋蠹  
蕃知少國租行尊皇樹頌名重洞庭湖初錫夏書貢卒爲州吏奴小人利口實君子急香須  
半李輕三咽蟠桃謾數偷懷童情繼綵隱者避崎嶇我欲移嘉種花源置一區

次韻秋日泛舟

火窮金始旺商韻顛梧楸露蔓蛩謠悞晴柯蟬詠愁懷將薄銀漢興或墜蘭舟世事船難住  
年光駟不留江山偷眼畫魚鳥會心儔落月灘邊泊彈琴臺下遊衰容易枯槁悲緒慘飢調  
解佩芙蓉浦寒芳杜若洲影形俱蕩水清濁忽同流日夕風波惡神奸窟宅幽蒼茫雲外嶺  
隱暎樹間樓估舶停津立漁烟幕地浮還疑堙象緯遂卽返陵丘蹈海賢之志乘桴聖所求  
攀高殊亦悅玩弱最堪憂萬一何酬國二千每食州檄投尋白鹿身退問青牛算了榮凋藥  
看來起滅漚無金寧鑿穴有燭可橫籌菊綻將按覆蓴生合折柔蚊眉休曰小鵬翼莫言優  
達士必長醉騷人胡好脩安歸更發嘆吾已復爲謀泛泛依蘋藻慙慙羨波鷗

訥齋先生集 卷第六

訥齋先生集 卷第七

弟 六 峯 編

排 律 七 言

寄重卿

時爲都承旨

衣裳治化埒虞唐千古還  
慙漢吏良玉座北宸驚  
夢寐孤臣南國變炎涼  
詩書習性招時議  
江漢風流抵死狂  
一紙故人踈問信  
三年多病更悲傷  
山城春蕩寒都薄  
東閣梅飄興太忙  
無賴羈愁消不得  
黃封天上合分張

余有詩重卿和之復次前韻

裁就規繩入盛唐  
翩翩汗血制王良  
清風早會詩人穆  
紅藥仍收謝句涼  
龍虎有章驚俗子  
蓼荅分餌洗吾狂  
一麾去國堪牢落  
六月搏天未折傷  
身恁三秋踈闊劇  
魂能兩地去來忙  
文詞於道真爲潤  
莫把經綸偃不張

潤恐是閏

排 律 七 言

一一五

李陵送蘇子卿還漢七言排律三十韻庭試魁

陵也於人已矣乎請攬冤鬱達皇都微才早負排穿柳壯志元矜小棄繻弓馬本期夷猾虜  
箕裘那肯忝前圖登壇魏闕承鈇鉞極目陰山撫轆轤初指淩稽吹戰角直擣姑衍引威弧  
同行衛霍皆驍帥眇視孫吳是懦夫驅策健兒齊踊躍奔披驕子奪枝梧安知命薄仍奇數  
忽到功隳失獻俘虛辱渥恩辜聖主媿摧身世落凶奴千年獨任青編臭三族同罹白刃誅  
半萬貔貅啾鬼坎殘生衣食保頭顱夢頻故國魂如在愁裝戎庭骨未蘇獵鼓礮旻時激憤  
鳴笳囂夕更堪吁中郎梗槩驚殊俗廿載松篁挺寡徒但把槁腸撐皓雪忍教飢口污腥酥  
牧羝幾涕宸楓隔收實常穿塞草燕耳慣朔颺號瀚海膽寒霜月側甍旣葵傾晴旭丹心耿  
手握空杠帝節孤金石托盟同病久乾坤相送別懷輸兵戈未必無成敗曹范還終報魯虞  
持法不寬先自絕槌胷若判指天呼斜陽正苦迴腸路祖席須酣滿眼酷昔日河梁誇贈句  
今朝窮髮羨歸途瀾墟秦東牛羊臥沙窟秋長雨露枯聊解寄將雙淚去可能恭灑茂陵無  
亂雲黯慘昏凝磧歸照蒼涼影倒駒款款離襟勞拊搆匆匆征轡謝踟躕隴西必詆讐城辱  
朝右偏看玉砌趨寵獎定應兼繪像隆聲從此聒寰區春還太液因回鴈合附音書起覆盂

重卿惠書詩以爲酬

銀臺尺紙下雲端，秋雨山城刮目看。  
隔手向來踈問信，開緘今者倍團圓。  
汪波不濁懷千頃，廣廈俱驩擬萬間。  
北斗星辰天縹緲，南荒日月淚潺湲。  
有時顛倒走書帖，無路從容陪鷺鷥。  
多病莫驚雙鬢雪，百年須保一心丹。  
邇英侍講遠深殿，萱背歸寧奉暮顏。  
爲報故人須努力，君王明聖聖讒奸。

題山水圖

誰收造化筆尖傳，良坎參差紙壁天。  
玄圃杳綿擎落日，洞庭空闊點歸船。  
春光汎濫藤燕渚，暮色蒼茫薜荔烟。  
松黛蔽雲雷雨戰，石林迷谷虎羈顛。  
青楓巫峽蠶秋瘴，明月香爐吼瀑泉。  
渭水有瓊垂直釣，灞橋飛雪聳吟肩。  
蓮宮窈窕金銀界，龍戶聯翩蚌蛤田。  
借問桃源何處是，卽看方丈遠依然。  
神思凌厲丹霞外，逸想飄翻白鶴邊。  
萬里一窓隨意足，不須鞋杖恣攀穿。

題尹翰林遊伽椰錄跋

頭流以北說伽椰，鴈蕩天台亦豈加。  
海印鷄林青瑣老，儒仙駕鶴白雲賒。  
武陵橋畔西風緊，泚筆巖邊落葉斜。  
蠟屐詞人誰策杖，花磚學士忽鳴珂。  
幽篁窈窕驚山鬼，法鼓籠銅出梵家。  
露菊面呈金地佛，霜楓標建赤城霞。  
樓前倦驛鞍纔卸，堂上居僧手盡叉。  
詩敏疾於船下水，興酣題處字如鴉。  
明珠數日贏吟橐，南嶠千年捲物華。  
媿我龍鍾續狗尾，多君精悍拔鯨牙。

騷亡最恨皆雕篆，刪後堪悲摠咈哇。柯則不遐須著力，杜郎真是指南車。羸舊作羸

嶺南樓觴席謝主人李公忠傑時右兵使金世熙黃腸木敬差官郭之蕃俱會

丁卯東堂試院秋平生何幸識荊州，依稀面目嗟相闕。荏苒星霜問幾周，客路轉蓬逢蜡臘。公堂披霧謁君侯，庫錢肯愛懽娛費。罽玉聊爲壓倒謀，燕寢凝香辭上館。丹梯跨漢赴高樓，遮風甲帳圍三面。納日珠簾捲一頭，斐潤綵筵裁錦繡。華朱戶削琳璆，工曹後到朝廷在。元帥先臨節度適，爐麝亂霏薰點數。鬢鴉交襯妓行稠，微醺漸覺諧言笑。卒爛還從錯獻酬，黃鶴晴川天半落。吳門烟樹地偏浮，西橋晚罷漁村市。南浦遙通海賈舟，粧暮赤雲飛紫鳳。鎮虛靈嶽舞蒼虬，曠懷橫厲翔鵬界。騷興聯翩宿茶洲，王母桃花開不盡。茂陵金碗散無收，將詩欲答翰林月。舉酒須投湘水流，地主慙慙加慰藉。征人繾綣重夷猶，塵寰未省神仙府。清夢真成汗漫遊，松憤歲寒鏗寶瑟。竹悲江色憂鳴球，蒙山躑躅更登覽。要聽長林黃栗留。

訥齋先生集 卷第七終

訥齋先生續集 卷第一

金 文 谷 編

詩

月下同恕卿登釜山亭

恕卿韓松齋忠

同君得佳月此夜興蒼然耿耿出林火源源朝海川  
干天有松竹亂眼漫雲煙汗漫心期遠  
高鴻若箇邊

次恕卿釜山亭韻

微風開夕霽遠客撥幽吟驚鴈遵遙渚棲鴉滿近林  
西山回爽氣明月卷宵陰慷慨悲歌地  
脩門已萬岑  
蒼崖孤截處邑理俯卑湫漢北辭君急天南去路悠  
逢春何限淚有酒不賒愁願借巖山鶴  
飄飄出九州

詩



所沙別怨卿

龍州別冲叟沙院又分君  
迤迤孤峯月茫茫上黨雲  
相乖窈窕偶誰侑琢磋文  
幾入芝蘭室  
身邊不盡芬

次古阜東軒韻御史行灾湖南作

御史乘嚴驛南州按所由  
天灾關氣數民事任君侯  
露菊明塵眼霜楓暎海樓  
斗登開咫尺  
如躡白雲遊斗登山名

次日本國使僧易窓韻

浮杯萬里憂星辰故國日  
東回首頻驛館鐸鈴愁裏  
月禪房花木夢中春樓臺  
八十行行遍  
詩句三千字新更取扶桑  
如瓮繭歸來黼黻卉裳人

次易窓侍者竺藏韻

邂逅賓筵倒急觴東西何  
歲似參商玄深汝眼如來  
海淺短吾詩子貢墻忠信  
一身持造次  
風波千里脉尋常霏霏花  
絮孤城晚正是征人欲斷腸

戲僧德載

風擺楊花不自由  
征人回首謾悠悠  
昌原直北商山路  
溝水東西日夜流

金監司某曹兵使某柳水使某俱會黃某之無盡亭明日柳出廳下二校服夷  
章旋舞訖又著優人假面呈戲

紺瞳旋舞絕依係兩校聯翩繪畫衣紅粉帳中齊拍手將軍回首不知歸  
誰遣軍官假面來佳人滿座一時迴轅門蹴踘真閑事借弄優機做別才

公儉湖同蔡知諫紹權表侍讀憑泛舟

春晚大堤湖水饒東風勝事問蘭橈長洲穩坐如船舫橫霧遙看訝汐潮停海蟻樽鯨口渴  
鱸龍霜刃膳夫驕無繩繫景歸鞍簇忽有飛娥上九霄

次韻別友生歸安東

蛇梭去日太亭亭看見秋巔半沒青蓬跡只今飛海嶠交游零落似晨星  
洛東雲物慘離亭別後花山入夢青蟋蟀曾聞留故俗何妨豎老共占星

咸昌廣遠樓次板韻

官樹官池靜登樓放目探荷錢青疊疊桐萼紫粼粼客意歸雲急愁吟落日酣主人衙欲罷  
街卒散三三

尙州移忠州至咸昌贈趙使君世積

清喝官衢導皂衣使君騎後吏如圍樓噉破曉簾光射池樹銜滋露氣霏衰病忽驚天外落  
追隨其奈眼中稀明朝度嶺分南北好倒離樽盡醉歸

次尙州教授張世昌韻叙別

他鄉他席又相離人事參差不可知明隱樓頭收別淚露陰山下看歸轡青襟東泮追前日  
白髮南荒惜此時天地一家無去住王孫春草謾歸期

明隱樓在咸昌  
露陰山在尙州

微服過尙州北村向鳳巖寺

宰岳冥冥歸夢雲牛羊川口下黃繡村童慣看行春馬背立柴扃指使君

題鳳巖寺

晴雪樓額匪懈堂三大字白雲臺留鄉  
虛菴五言律崔孤雲手製碑字半漫

回崖復壁擁靈奇石犬依然吠石龜晴雪更新王子額白雲曾做翰林詩山花掃蕩尋春晚  
碑篆烹微訪古遲落日上方明寶樹三三五五遶沙彌

鳳巖南溪濯足

濯足南溪玉桃花不及春紫苔含磻古蒼石露崖真瀑雪寒僧骨蘭香泛客巾歸來還步月  
一洗軟紅塵

鳳巖南樓繼祖話祖云山多海松官收穀數而簿之令僧守其苦孔殷

水射雲根極力喧南樓老宿話黃昏海松帶殼愁長數崖蜜留房諱不言崔子錦碑荒雨濕  
智師瓊塔老風掀可憐蕙徑終蠶敗塵土翳翳六祖門

尙州到忠州

亦荷君恩寬有餘舉家曾厭洛江魚公湏又食新州飯鄉味難忘老圃蔬上府簡書常遞續  
故人音耗漸乖踈晴齋理髮當衙罷五月蕭蕭雪滿梳  
洛州三月轉忠城魯衛之間出入輕雀鼠公庭春夏鬧輪蹄客舍晦明并嶺南貢物徵船價  
江北商艘索地征津送不堪工吏哭一泓金瀨幾時平

次金成之韻

同榜同庚少并君李我三塵埃連出處風雨各東南杖鉞前春面班荆別路談金灘通漢水  
魚得往來諳

憇延豐水回斷崗別成之

北流之水綠縈回鐵壁蒼崖窈窕開捨馬共躋松下石數魚頻倒掌中杯劉郎易播連州去  
召伯歸周陝土來覆韞坐談相送處從今喚作按廉臺

金以慶尙監司納節王  
都余易州符赴中原城

贈日本僧竺藏

神骨輕寒秋水清扶桑生此法家英珠探衣內寧傍武燈續雲中祇自明  
菅蒯遠穿蛟蜃國  
纓紳忻睹鳳凰城相期碧海終爲土手種蟠桃子結成

日本副使守秋贈綵箋摺扇

篋裏霜紈苦怨君兵間白羽困行軍不如一片騷人手舒捲扶桑五色雲

友人投書乞舟歸漢州以詩爲荅

積雨初收江水平聞君將卜漢中行解衣莫遣留舟當應有公船一葉輕  
龍貪好覆利人財往往官艘去不回獨上虛舟君所快風波處處聽徘徊

風俗流頭追此時可興倉下莫停維禮城江曲無人和游女爭歌芍藥詩

麗人夏季望洗頭東流日流頭禮城江曲麗時

節婦事

神勒浮屠倒玉流清心樓下好維舟至今白鳥滄波句膾炙騷人口不休

神勒寺在驪興江清心樓有開隱絕唱

次日本僧竺藏韻

金剛碧眼照寶筵一派曹溪海外賢歸路六鯨驚夜夢檣聲高軋月邊傳

上价易窓次竺藏韻見示卽和

上洛中原再共筵東邦使者少君賢高懷不事金繒問滿睡珠璣要遠傳

再和

雨聲琴韻咽離筵賓主江城中聖賢東海莫言無過鴈織烏猶可附書傳

寄機平甫

楊趨山前池館清往年相別赴邊城忽聞白馬西原下出塞翻成入塞聲  
上黨靈泉椒味同英陵南幸洗重瞳大醫奇效傳爲訣一滴終湏乞病翁

次韻酬友生見贈之作

挈山之下海長翻魁魅同遊可忍言寄食  
齷翁分麥飯通神橘叟餉龍根杜陵梁月翰林面  
宋玉江楓騷客魂消息往來傳亦失故人情緒繞雲鬢  
清讌樓前圭葉翻秋懷客裏愈難言宦同狗吻猶甘毒愁敏蒲盧可斷根  
白酒瓦盆多古味  
黃花霜逕旺幽魂西風興在罇巖子媿我傷翎強試糝

文清風敬全挽詞

籍籍平生鸚鵡才文章憎達命徘徊頻將五斗酬烏哺白首斑章學老萊  
前日中原雨暗城慶迎樓話十分清容齋與止亭佳句舉誦琅琅使我驚  
人說清風寒碧樓合江亭子下風流拉君登眺慙勤約胡奈長辭不及秋

天子東僉陳太監太監南去簇江帆勞君供億寧州館一疾元應中熱饑  
何限人間母葬兒莫言君獨抱幽悲不聞嚴子西川引堂上慈情落杜詩  
秦皇漢武未爲僂彭祖巫咸亦少年生死不連元氣內九原春草好長眠

楊津祠祈晴

辛巳年夏大水關東嶺南山崩相疊

江上孤山松櫟深清祠肅肅起人欽君王香幣閔恒雨臣子精誠愁太陰關外已驚梁虢侈  
嶺中仍道歷桑沉何當上決浮雲散却布昭陽慰衆心

登犬門山

神山江上立亭亭去國西風淚欲零流水泛天朝北漢歸雲浮地入南溟誰知落日心同赤  
幸有飛鷗眼爲青長嘯一聲無限量臥龍回首泣清泠

贈覺炯大禪

奉先寺裏始相知月岳山前重見之前度劉郎還白首當時旻老又厯眉雲塵別路雖如避  
喧靜同天不可歧遙想礪松多五粒羶筆結習寄來醫

題青溪山子詩軸

踈雨江城殘暑刪青溪道士下雲關種桃館裏春應盡攀桂山中秋正還解脫子能遊物表

拘攣吾未出塵寰明朝又拂櫻衣去天路遙遙隔市關

過品谷對古塚飲

草亭斜日望歸雲咫尺荒山千載墳把酒此時須盡醉喚來泉下客無聞  
行秋鞍馬到荒村荆棘冥冥路不覺馭吏請頻歸合早西山豺虎下黃昏

清州浴椒水

洗眼浴身仍沐頭靈泉清徹更無幽波穿毛孔能搜疾氣達胷中又盪愁漱齒便知椒辣動  
沒蟾時看玉華浮村童唐揆凌神井來睡嗷嗷泛芥舟  
英廟南巡輦路長舜瞳龍井照蒼蒼不求十月荒君浴寧學秋風霸帝章水氣至今通御氣  
椒香終古帶天香斜陽老淚霏霏下只見青山未見王  
椒泉不啻眼堪醫沐浴神功屢見之天下絕無東國有 世宗曾幸四方知飲波袞袞今能  
及仙駕飄飄杳不追因病小臣來拜井一泓香水悅瑤池

湖西兵營用本道邑名次板韻贈奉禹節度孟善公

水決堤川鰲沒巔石城如斗暮帆前鎮岑突甌干星極平澤微茫接海烟營士庇仁歌十萬  
島夷懷德舞三千新昌細柳條候業更把清風樹幾年



朴承旨壕夫人挽

古人三絕一身僉，妯娌顛然起敬瞻。  
奕奕紫泥初命婦，迢迢青漢蚤騎蟾。  
鄰婆慕德擎椒酌，侍婢啣恩泣玉奩。  
黃土不饒桃李面，祇今霜月照重簾。

贈河西金麟厚厚之

一人林下見來稀，物外何曾有是非。  
細雨濕衣慵不理，石橋明月醉扶歸。

華使翰林修撰唐臯兵科給事史道奉  
新皇帝詔來文聲首至本國選作者

余亦辱數自中原赴京城辛巳

南轅更北豈邀名，帝使東來有此征。  
休說無情是流水，長江相送到京城。

宿驪州神勒寺留別靈運

踏閣攀林脫客衫，江山幽興始開緘。  
文章陶牧尋龜石，靈恠黃驪問馬巖。  
身老倦遊愁去路，僧閑端坐數征帆。  
姑蘇莫說寒山寺，神勒清高亦不凡。  
陶牧兩先生所製碑尙在

胡鬼祠宮面水危，征人到此去應遲。  
浪中白倒新羅塔，林表青欹普濟碑。  
往事欲憑山不話，羈情何限鳥堪悲。  
歸來解纜非生客，攀折梅花臘月枝。

京城和曹仲叔奮詩

曹以華使來亦徵冬至後作同官送酒備寒

一氣潛回歲豈留前宵冬至漢山州詩書閣橐無人話雪月排床唱客酬持贈楚珩驚發賞  
跪呈燕石賤生羞參曹遠寄祛寒酒洗盞明朝對破愁

再和叔奮

百紙軒軒筆不留生平玉唾遍南州鹽車天駿身會厄白璧徐娘老重酬公駟未辭收召寵  
故山終謝勒移羞華人具眼如相許剪燭談詩刮旅愁刮一作剝

寄曹適菴

曹以支出阻  
路額聯發之

文章曹子步蘭臯老大詩篇造妙高天賦無方寬與縱國經有限俠妨豪龍蛇大澤藏鱗鬣  
鷹隼層霄脫鏹條黔技自慙經薄奏至今塵土浼青袍  
廿年猶不卽林臯多少庭栽拂屋高老去鄉思增軼宕病來詩句減雄豪江梅待臘舒銀靨  
陌柳先春長錦條食已浮人猶未罷歸來何日釋公袍

京城冬至

何日權停勤政朝 君王清蹕耳寥寥起居閣外夔龍立應壽長秋奏九韶

次紫陽唐天使臯夜宿太平館醉起口占韻

真人上玉樓手卷全天翠織女注銀河霏霏灑餘醉

雙足踏天來停輿白岳下清吟傍月高一氣永中夜  
詩情過黃鶴賦才凌赤壁迢迢青海頭遠作乘槎客  
歸心燈半壁的在遼西卿月初弦夜行裝數問鷄  
星輶重徘徊似戀桑下宿袞袞醪醴杯高燒萬條燭

次唐天使却樂韻

時大行皇帝服未除

芝檢迢迢下國頒詔從三殿落雲間玉人斗北通神契珠樹天東試手攀賓席酒尊辭伎樂  
侍臣魂夢繞橋山中心自會無聲地不待笙歌始破顏

橋疑

次唐天使迎薰樓韻

突帆危闌襯混茫邊風朔雪慘無陽白雲黃鶴仙曾去芳草晴川客每傷槎上張鷟行暫駐  
樓中趙嘏興全狂冬天雨雹蠻牋泣巨筆橫窓萬丈長

嘏一作蝦

次唐天使安興館遇雪韻

十八封姨鬪曉風飛飛六萼鬧連空銀苦野屋逡巡巧玉築官城頃刻工持節此時行勅使  
閉門何處臥閑翁東蕃萬里堪乘輿不必孤舟入剡中

次唐天使石門嶺韻

喬嶺嶽然似七盤壓頭天肚撫青團霜凝石齒駟蹄濕日曬松叉鶴背乾水閔谷瘖應替話  
雲憐巖秃欲加冠徐驅四牡湏回首借作人間宦路看

次唐天使飲酪韻

醒結征身不自由忻傾酪碗送脣頭霜糜碎白飛秋杵雪酪凝香滴乳牛顏澤合充君子腹  
口糊休下小人喉晴窓啜罷呼茶疾漱齒端要洗膩油

次唐天使飲酪絕句

酪不可奴能發和齊王尊鯽謗傷何冰壺莫立先生傳若比冰壺未校多  
萬斛胃中貯太和發爲詩餽倒陰何身肥方法傳先哲不用腥臊入口多  
明誠君子食中和酪粥一杯無奈何甘露慶雲隨手做自家功業辦多多  
莘任夷清與惠和一身全有德如何文章小技公餘事自是逢場轉患多

次魚子游得江號  
灌圃韻

王使聯輶動地鳴挾途馳從亂蹄聲樹藏漁戶連雲起山擁江天隔岸橫白鳥避風來款緊  
青烟和夕出分明蘭舟罷酒回燈晚街鼓鞞鞞月滿城

臘月沙暄鷗族鳴傍江游女弄珠聲潭心畫立樓陰直硯面詩團筆影橫海六鼇雲背暗

啣書雙鳳繡襦明誰知別漢東韓注萬古湯池壯國城

次唐天使登漢江樓韻

遊漢翌日所示  
慕華館和之

江樓百尺傍清潯詔使聯軒臘月臨青海遠持天子節紫袍橫帶尙方金人墻沙岸攢頭密  
雲幕蘭舟掛日陰陪賞且容蕃佐賤不嫌歸路夜方深  
歷幾佳山幾勝溪雲烟滿橐費提携鳳凰到處顛能賦鸚鵡平生擅善題方丈遠遊韓土厭  
奉天歸夢薊封迷文章海內無雙士拭目還驚釘坐梨

擬送上使紫陽唐內翰臯排律十二韻

四方顛望靖嘉時皇帝諒陰出詔遲風月擁來天下士江山留作海東詩越金有橐心誰涅  
漢節隨身手自持冰蘂照人清亦見鳳麟驚俗瑞應知王盧首派尋遺緒雅頌清音續解徽  
織女剪刀裁錦綺雷師神劍斲蛟螭三韓一半明珠遍析木全分霽氣彌客館雪燈醒臘夢  
歸軒梅驛打春思桐宮朝夕懷偏騁梧野羹墻淚幾垂再問薩津譏后煬重摩遼柱吊丁威  
好將蒼示同胞晚莫把華夷判肺脾別酒強傾顏不赭黯然離恨亂於絲

唐天使臯製排律二十韻上

殿下臣拜辭南還得膾本於銀臺路中効嘯

五雲尊太甲嘉靖啓隆辰北極初傳統東韓首及春璽書擎兩使恩數倍分陳玉節承新寵

金魚換舊銀但頌黃紙詔非索碧鷄神翰院違青瑣仙居夢紫宸滿囊收寶唾裝囊賤蕃珍  
讌席辭伶樂橋陵念帝賓久爲朝望右仍荷嗣皇親銜帶清冰士袍穿獸錦臣乘槎將命重  
珥筆草綸頻擺落齊梁陋鋪張漢魏醇坐降詩萬敵寧訴酒千巡江檻留吟罷郊亭告別諄  
毛皮除外假心腹露衷真廉似無貪鳳馴同不牴麟蘭氛霏口郁春氣盎顏淳學績朱元晦  
忠兼范景仁雪迎天上面梅餞日傍身入坐沙堤做勛名指勒珉

過荊州

在文義  
懷德界

三月荆江春水生桃花相映弄新晴小舟左右通人捷長柱東西畫壤明筋力已衰猶道路  
田園將廢更簪纓問津南北頭深雪林下何人不輟耕

病寒留連山縣

新監李景廉軍資正時同僚正  
月都日政自內贍主簿制符來

曉晚黃山燕始回滿庭香雪杏花堆新監忽見軍資伴都目曾從內贍來春蠶大於秋蠶殼  
豨葱肥似圃葱胎盤餐病口虛兼味飲子時頻問藥材

宿栗峯驛

栗峯春雨夜嘈嘈喚出征愁亂似毛明日西原城裏過梅花不見滿園桃

時伎行  
祇迎

望恩津觀燭寺彌勒石軀

詩

誰做長人骨裹皮堂黃媪石腸兒萬牛回首如梁漢邪險東方一蕩夷

漢江在國南涉者病之故云

金溝館聞杜鵑

杜鵑何處哭如人窓外桃花三月春今夜旅軒無限淚去年寒食幾沾巾  
東風嘔血盡情啼不爲行人少得低巴蜀故宮三萬里至今遺怨草萋萋

重到黃山館

三月南征四月歸可憐紅白已俱非黃黃野圃燕菁發漠漠官街楊柳飛廢寺老萱空死處  
荒城英建有餘威主人薏苡開新釀慷慨悲歌玉椀揮

西原望仙樓次韻

晚樓涼合重山雨驟來初黃鶴看題詠冲天仰額書一尊空吊古長劍欲凌虛凄切臨風笛  
無端更起余

客裏元龍榻追徵結構初簷楹高牧建歲月老韓書水決開南險山圍補北虛飄飄仙駕逝  
落日正愁余

琴臺移樽上船別雲卿甫

尋臺初置酒愛水又乘船野日光銷雨江風韻入絃炊稷供晝飯洗盞作離筵上駟催歸路

迢迢北斗邊

次韻

鄭雲卿

稱意晴湖濶微風穩送船樹陰低拂棹江氣爽生絃  
晚晚驚脩路淹留忝勝筵他時懷此夕清夢繞君邊

次李執義棊仲甫愛日堂韻與詩上同日賦

禮城南嶠是君鄉千丈雙親鶴髮長愛日情深酬罔極  
萊衣戲處悅高堂休沐南臺出帝鄉嘶風驄馬嶺雲長  
君王孝理今偏重故許歸寧愛日堂

卽席贈金正言鐸

驄馬山南疾若飛倚閭何處嚮殘暉可憐膝下垂  
天翼已絕塵埃眇九圍陰霧冥冥鎖一城中原曉鼓正  
言行天風不讓無剛力應爲前驅痛掃清

送別友人全獻徵之及第南歸

樹頭朝旭上東墻筵敞南廳舉別觴同學少年髯未茁  
再逢衰境鬢俱霜恨輕一桂敷華晚榮重雙墳踴地忙  
官駿借君逾嶺路西風耳後不禁長

追賦慶樓琴臺金灘前遊寄鄭雲卿



中原再會本非期，別後還深婉變思。  
冰蘂披雲天上表，琳琅解橐嶠南詩。  
皇華北壁聯行坐，老牧前床對舉卮。  
情阻相看殊脉脉，亂峯樓外落參差。  
謀君留醉發雄才，雲幕琴臺敞豁開。  
岑抹千眉濃曉黛，江回一面漾秋苔。  
妓裙半濕穿林集，魚眼全紅撥網來。  
無底錦囊收萬象，犬門山鬼哭如雷。  
蘭舟移棹日方中，吹面生寒水面風。  
急急避人皆白鳥，冥冥藏峽盡青楓。  
漁艘遞走輕於馬，舞袖聯翩曲似弓。  
于勒老仙乘赤鯉，彈琴來媵出龍宮。

次日本國僧泰甫韻

奉使扶桑荷寵榮，禪房薜荔故山情。  
歸舟軼蕩金鯨背，儻把東風一寄聲。

贈新及第亞元安直長秀岑

日邊臚句下丹墀，淡墨題名眼最奇。  
替雪乃翁羅桂恨，人間榮孝絕無之。

贈玄徹上人時住鍾堂菴

雙脚迢迢蹋白雲，愁塵自不皺眉文。  
經心礪月輪全體，髮眼金書徹十分。  
鈴舌話風匍榻裂，桂香和露染衣薰。  
數年飽食鍾堂麥，清韻深慳報使君。

喜雨時祈雨香祝適至不果行卽封還

赤龍行雨挾雲驕五月江城客理櫓南畝長苗將沒膝前灘生水忽齊腰  
湏臾商旱寬君闕  
畢竟周年闌野謠虛使禮官曾有請却還香祝上青霄

次韻贈稜巖崔仁佑

稜巖亭子寄吾休守拙都無枉尺求回首向來豪俠窟夜蛩謠雨草迷樓  
碧桃丹桂恨全休粟飯藜羹不外求羊叔敢肩銅雀妓士窮第下女朱樓

漢舟門對泊朝夕立檣竿鷄柵貓巡際碁盤客話問山藍揩眼碧江練蹙亭寒  
銜帶稜巖穩  
風塵念念閑

五臺開闢水溶溶落雲邊亭下作長江通津接濟川稜巖據上游龍吟風雨天有仙不必慕  
彭殤同盡年朝廷問往來覓酒恒陶然漏板遞昏曉迎遣輪蹄前東隣過濁醪日高猶酣眠  
寄答友人在金生江作

江上望君君不來好懷斜日向誰開移船西下琴臺近遙拜于仙酌一杯子勒伽  
卽國人  
雲幕開江五月寒水風吹面興漫漫機心已靜無毫髮自有飛鷗下綠灘

李咸昌夫人安氏挽

廣李河東歷八襄咸昌慷慨有英才夫人自是參軍敵蕃育麒麟瑞世胎

榮華未卒禍相仍平海前冬雪幾層生別至情鍾母子亂心驚緒鬻衰燈  
二郎枯槁國原城若比平州恨亦輕朝夕貨舟將就養不圖江口納銘旌  
鴈行蘭茁白眉良和膽人言教有方憐愛不終偏少子九原遺恨入秋長

西江和蔡御史韻

山南明繡衣丹鳳下蓮渚西津甃停橈高才仰翹楚晴日入畫毫四座驚神語浮生問何如  
蒼波杳東去相逢卽謀醉征途好淹旅縞帶不湏解一盞聊相與

野席卽事贈公碩

石橋斜日照西溪溪水溪禽恰恰啼霜嚇老楓顏更赭露經枯艾面深鰲拾蝦舉網還驚密  
投棘歸輪却恨迷是處相逢渾不謂山翁敢謝醉如泥

袞袞談懷傍綠溪丁寧吊客鴈悲啼鱗臍手劈中收紫梨頰刀翻表瀉鯨同醉野罇猶放曠  
甃拋塵事頓冥迷夜深不恨歸途險馬健能超九尺泥

席上贈老宦關東能唱歌

老宦尊前納姓名宣陵往事話分明逡巡行酒身強健更唱關東第一聲

贈別金文瑞父

十月寒江雨後平揚舡入漢快騎行丹楓老豔留崖葉白髮離愁動鬢莖鶴駕衛兵司令弟  
烏臺風憲掌難兄亨衢穩步渠家事儻憶荒城困送迎

寄贈黃獻之

人說黔州黃別駕平生窮苦坐能詩後身且做金山子一派江西導海陲  
曾於白岳山西雪蹋破瓊瑤訪老翁去歲附書人姓李祇今何處詠枯櫻  
出師討賊忠輸漢歸去長存晋室心莫把二公殊轍看荆軻述酒細推尋

遙贈陶  
集故云

寄贈曹適菴仲

辛巳嘉平會國原漢中行役話離繯今年又近周王蜡雲樹遼遼欲鬪魂  
詩盟晚契頓忘形濁酒何時倒瓦餅直指寺前曾有約金陵山月夜通靈

野酌卽事贈金公碩

賀盃忻擎一笑前玉尊龍笛夕陽邊陰州書目來驚興溪女山翁搥索然

蔡承旨紹權外舅池亭卽見

幾年金盞地亭敞小軒東銀杏連蒼檜青篁對老楓山平看鳥過池閉見魚窮每苦投歸轄  
乘龍下禁中

金公碩投書云京畿觀察使奉 宥旨更移陰州釋遣明日還漢中余復疊前韻賀之

君王解澤霈無前忽見金鷄下日邊畿使更移傳好語省村風月再忻然  
三山依舊暮帆前去國新廻北斗邊祠板幾塵加拂灑九天昭穆亦蘇然

題希樂堂

芒碭幬載身叅三心與於穆純復純茲外來者謝戚忻無聲樂地鏘韶勺孔肱曲裏先得此  
七日不糝絃歌開門前行誰庶幾顏氏不改稱賢哉斯人不見歿已久斯樂不亡求在我  
扶桑之西鴨江東五百年來挺博雅希樂堂成聞四海二字炳日爲指南淵源古樂自乃翁  
肯堂不墜追冥叅姚姒雖然有天下此樂內失承吾親萬乘巍巍勢而已浚井殛羽潛悲辛  
伊公所獲出二聖父傳子受非別途且體心事落世科不待得師殷相湏金朱簞瓢孰加耗  
曾中至音恒颯颯清琴一彈山月高兩眼彷彿拳拳翁

送別朴師傅攢丙辰同榜司馬

芮國相逢二十秋驚嗟白盡九分頭待時未破荆山璞垂釣曾披楚澤裘一命何妨身晚起  
三休不敢檄輕投青驕曉渡西江水官柳東風動別愁

贈送宗徽

昨夜江城春雪飛，天公自意頓微微。今朝晴旭驅寒暄，花柳依然別有輝。

別分司饗權直長行余爲軍資正時同僚

同監初識漢中面，分院更看湖外身。我髮照銅霜線長，君髯垂膝墨華新。尊前歲月驚流水，容裏鶯花惜暮春。明日廣陵人事別，袂衣征馬草如茵。

崇儉君王家法純，用湏甕器斥金銀。白黏歲掘中原土，材美秋燒廣嶺薪。身出禁中分內院，

事專江表領工人。草書傳得公孫劍，陶世規模在彼勻。

句從金

贈送崔生員彥添

他鄉見此故鄉人，况值花深三月春。因病覆杯今已久，不將鐘鼓樂嘉賓。

聞說尋芳遊永嘉，暎湖明月竹枝歌。風情亦倒劉師服，一笑休嫌醉越娥。

安東有所願盼

不謂稅山文獻枝，生員衙下苦陵遲。題名紅紙尋常事，湏上燕然再勒碑。

官醞三盆三亥清，酒人輸載上江舡。若逢神勒浮屠月，遙酌英陵盡量傾。

英陵叅奉可招邀，香火長齋慰寂寥。莫弄洞簫驚夜壑，潛蛟吹浪犯征橈。

內贍先生安穩無，憑君燒酒寄官壺。秋曹子順西清弟，時與童烏會上都。

時朴子容先生長內贍病風索燒酒子順爲刑

曹昌邦弟校理弘文子  
進士敏中赴試在京

贈別朴都事亨鱗赴山南韓相公幕

山南第一海雲臺俯瞰蒼溟小似杯赤脚躡鯤鯢不動崔仙曾此重徘徊  
崔致遠所登覽故云

南岳青分七十州洞中笙鶴舞清秋琅玕芝草應無盡月滿雙溪八詠樓

臺石樓前千萬竿鏡中疎影暮江寒騷人到此長回首良藥浮紅搥不看

癸未四月八日敏齊生日有感

西仙生日汝生東爾母劬勞誕協同長大祇今偏不見暮年衰淚灑悲風

贈宣慰使蘇元友甫

子瞻兄弟奮峨眉驚世文章四海知莫道蜀邦無似續家聲還赫大東枝  
武宗辛巳漢山州白岳西邊話別愁南國數年空夢想忽聞官柳繫驂驪  
出塞佳人唱渭城鶯花朝雨報新晴南州七十曾遊地風月邀君分外清

敬叔陞堂上赴濟州過中原爲別

叔榮川人

三品緋衣出特除勿嫌歸路躡鯨鯢兒孫來問頭邊玉旆馬驚疑錦障泥  
床頭蛇蝎不堪誅海月蒼蒼照客愁回首望鄉應有處白雲東北是榮州

題丁進士溫嶠絕裾論後

鄭谷因詩名鷓鴣至今孤鴈鮑專譽鋪張溫子看奇論亦復端稱丁絕裾

丁進士與子敏中入俗離山讀書

明日童烏同入山俗離高截白雲間湏將爲學看舟子進似緣高退轉圓

遊彈琴臺次表敬仲韻

舟度金生洗硯池于仙臺下故遲遲白雲半出彈琴石青蓋全欹宿鶴枝捧露小花偏有澤

經春衰貌獨無滋老龍不放催詩雨應是寬余懶賦詩

古臺臨絕岸邀客席松根駕鶴人何去橫琴石獨存餘音想流水落日忽平原莫道林間靜

林間鳥亦喧

黃正郎孝獻南省慈闈于慶州宿檀月驛

龍顏移書報主人却嫌于轍趣飛輪著籬安障吾方苦不敢僂僕拜驛塵

檀月迎梅雨欲收臨江休上驛南樓白沙綠草斜山照正是征人起遠愁

省謁東都綵服披金章大尹共差池從容上壽怡愉罷好向西兄訪古碑

鮑石亭前花木昏杜鵑清晝似啼冤可憐老賊加恩土能殺韓王幾葉孫



寄蔡承旨紹權金成章蒙古省墓南來蔡公附書信故詩以答之

門下耽耽隔九天地分清切會神仙停雲忽念南中客  
鴈足綢繆附問牋  
重四今年五氣新省中先發石榴春文書日靜身無事  
却把黃封不定巡  
去歲逢君下紫霄松根設席醉西郊歸來挾路三千炬  
駿馬如龍蹋雪驕

許進士奮謁監司宿社倉民家失馬於儉兒作詩慰之

神駿肯歸梁上家定應逃世入榮河茂陵寂寞荒秋草  
千古空傳天馬歌

卽席別朴評事英健赴寧邊鎮

燕菁花發欲深黃三疊陽關瀆盡觴西塞明朝七百里  
金灘淚水兩茫茫  
槐院官寒冷淡僧長齋況復太常丞寧邊絕似維楊鎮  
書記風流校杜增  
路入西京興不微長江煙雨晚霏霏王孫春草麒麟窟  
借問東明歸未歸  
鴨水溶溶天塹豪統軍亭子切雲高花薰玉帳喧伶樂  
醉賦將軍大食刀

中原教坊歌謠採蘭曲

採蘭歸西江十里煙霏霏挾彈輕薄誰家子驚起一雙鴛鴦飛  
松舟栢楫下洞浦金環玉腕  
徐搖艫蘭花櫛櫛蘭葉青傾筐不盈相思苦相思苦江水悠悠  
安得住去少真如逝逝波來

衰恰似歸歸客寫出妾心更何人蒼蒼犬子墳上柏

琴臺同宜中送孔參議瑞麟翌日有作錄示

一昨穿松登犬門臨江據石置官尊雲通三角日邊去水下五臺天際奔鶴馭迢迢歸碧落

琴巖漠漠向黃昏移舟就月中流泛獠吠漁家何處村

三角五臺皆山名

四月蕪菁花發時黃堂如與玉堂期中辦我三杯酒座上輸君十字詩落日短簫驚浦迅微風歸鷺和帆遲孔參留待勤相送漏板城頭夜欲移

泛舟次宜中韻

撤席下罇巖舟人回鷓首琴臺望不窮落日杳煙樹

白日不堪攀茫茫何處墮桂華忽滿敷來照船窓左

關東八詠

溟州迢遞五臺山何處月精僧掩關世祖東巡曾駐輦句陳高出白雲間

秦帝名山真未逢岱宗不近敢當封金剛累遠遺天子海上徒聞八萬峯

橫雲鉅嶺截東西尾屬南夷首北猷劔閣不專天下險烟霞空鎖滅王棲

何物觀音尊洛山光陵曾此肅金顏無端一片旃檀土權柄如持禍福間

知名鏡浦自然臺東海洋洋  
向此開咫尺扶桑無足日  
行行使我易梨飴  
天地經營叢石高深根海底  
負金鼇登登不許遊人恣  
萬古安巢長鳳毛  
海上金欄玉陸離珊瑚倒  
暎萬年枝道人把劍眠清  
晝舟子浮沉自不知  
武陵風日絕塵喧蒼海茫茫  
閉石門堪笑太元黃氏子  
此生但識有桃源

題金公碩新堂堂形工字

工字新堂背小山前川一帶  
曲於彎沙堤制水橫龍脊  
鳥道交簷擢霧鬢蓋葉未  
齊開圃淺  
菊牙纔出破天慳把杯半  
日探幽事塵世紛紛百不  
關  
暑氣熏然著遠林行春却  
恨負花深暮年多病妨鞍  
馬不是村賒懶再尋

自警堂次宜中韻

十字堂前多靜緣城郭喧  
卑等林野巒坡學士來討  
眞臨池得句持贈我東墻  
山月半簾高  
胡不早到梅花下綠荷出  
水有新意對此舉杯聊亦  
可秋風他日零芙蓉相思  
萬里遺遠者  
屏巖新舍爲蘇元友韻

終南釀出蔚藍天數疊屏  
巖立兩前不秘千重金盞  
地應輸一代玉堂仙芳隣  
鶴洞連書瓮  
睿澤金闈近御筵講罷角  
巾時散步松聲將月和鳴  
泉

青鶴洞李大提學荇所築

別宣慰蘇元友

久旱今朝雨接連  
酒杯正好醉歌筵  
若爲官柳絲千尺  
不繫情人入漢船

次元康韻日本上使

萬里西遊散滯襟  
中原客舍樹深深  
莫言春捲芳菲盡  
窗外丹葵捧玉心

慶迎樓雨中贈新及第許磁

天意邀君催發詩  
滿城山雨駐分離  
莫言餉客風流薄  
樓下紅蓮一萬枝  
傷早愁吟雲漢詩  
連朝雨子見離離  
此時我有登樓興  
君亦初攀月桂枝  
樓中何限贈人詩  
南北紛紛此別離  
看取滿街千樹柳  
年年春至半無枝  
章成不盡燭三丁  
白日臚傳下玉京  
想到故鄉人競出  
駢闐爭指舊書生  
天涯瘦影大丁丁  
日日登樓望舊京  
逢着少年從笑侮  
強寬樽酒遣殘生

戲簡鄭鎮川乞釋許奮

覽者襄陽且半人  
江東一目未全身  
區區許子何須數  
隻見眞踈看月輪

彈琴臺隔江對古墓飲宗室某進士某俱會

隔水難招松下人  
舉杯胡不飲無巡  
天應解事新開霧  
江亦含情盡露眞  
大學最憐偕進士

河間殊幸拜宗塵數聲塞笛斜陽外衰朽聞來益慘神

疊前韻酬李權知應元

權院溫醇實可人逢場不訴酒頻巡半扉前日雖無分傾蓋今朝卽會真邂逅江臺多樂事  
留連樽席奉清塵暮年驅使詩猶在落日蒼茫興有神

次祖師韻

共疑與

蘿月松窓一丈高楞嚴讀罷看離騷禪心已共山同靜笑殺奔溪入海勞  
看渠詩格造清高畢竟猶堪僕命騷磨盡百年蔬筍氣九僧唐體着工勞  
門外紅塵八尺高此邦都會日騷騷山中不識將迎事老大爲州耐此勞

寄蘇元友

中原話別雨冥冥江漢歸帆月變萸回首屏巖何處是終南夜夜夢中青  
蓬闕仙官塵事冥流霞微醉拾階萸人寰下視三千里弱水茫然極目青

送金正字歸觀漢中

秋氣初生淒客襟新蟬碧樹望雲心庭槐華髮知多少風雨終南滿地金

次丁進士韻在舟中作

前一月蘇以宣慰使過州屏巖蘇所築也

遇水行灾蹋野秋移舟下峽順江流縛巖日落飢魚食官渡秋迴謫客愁新月照吟詩欲就  
短蛩謠夕歲能留琴臺未聽子仙曲急雨無端壓馬頭

萬景樓送翰林鄭萬鍾犯酒禁罷歸

殷早當年抵禁酷罷官二十翰林俱問津故國逢秋日投轄中原醉玉壺才奪錦袍寧寂寞  
興貪鱸膾莫踟躕白衣誰會金鑾客騎馬從他惡令呼  
報晴鍾鼓聽春容樓外白雲千萬峯先落歲華隨節柳獨違時令逆天松搜詩老去才全退  
送客秋來眼更重持贈莫鄒多慷慨丈夫何必淚垂鬢

次丁進士韻

將夕西山爽氣傳清杯閑話興陶然南風吹雨跳珠處興在青荷若箇邊

贈鄭翰院酒禁犯妓樂會罷歸

魏主尙寬徐景山 明王胡急聖賢間不關麴蘖干邦憲無賴風花落醉顏  
天末青青無等山讀書床在紫巖間四年再罷東華夢歸去雲中莫慍顏

京兆府僚署契飲圖

每參三尹肅僉襟分理民冤布德音漢府古來精府選周官今日謹官箴不聞四海皆兄弟

何況同曹並笏簪時復共傾無事酒百年終莫負初心

夜坐

曖曖孤燈照寸懷玲瓏夜氣滿庭佳無人說與平生恨數倒清杯強用排  
夜雨簷間點滴聲愁人不寐耳偏傾新翻蜀道霖鈴曲領會當時無恨情

自警堂夜飲次朴正言韻時十月三人會席

拭檠開夜酌官醞可須賒十字堂臨水三人影落波燭垂留客淚菊摘後時花漏永懨懨處  
觥籌莫謝多

尹翰林壽舅翁移席陶周亭卽事

柳下移樽晚前山半夕陰殘荷留敗葉老菊有新心妙奏聞流水嘉賓見盃簪陶周眞落莫  
冰玉照雲林

和尹亭仲

舉舉吾亭仲詞源送淼茫舜韶薰殿奏軒樂洞庭張度竹皆聞韻穿蘭競襲香老來呼小友  
金石契靈長

大芑山淑氣鍾此士夫奇霽月春陵學清風吉甫詩處名猶謝遣當厄詎驚悲勉勉求深造

平生絕苟爲

嘗風仍罵雨，喝月又訶星。逸氣橫龍劍，高才擊海青。文章還坐累，命數偶逢零。疹疾資成德，長沙悔妙齡。

衢也家南海，環觀到得窮。鷄毛撫鵬翼，劍映聽鱸風。兒弄潢池裏，蛙跳窰井中。出門時大笑，無物眼如空。

屬者山中集，珠林佛日暉。西溪同數酌，歧路恨分飛。尙夢王孫桂，頻尋七祖關。何當再携手，蕙路蹋幽菲。

順卿亭子好，江旭帶暉暉。時鶴猜人起，潛魚駭網飛。君曾留眼過，我亦繫詩歸。近有居停主，招尋日夜希。

題封元亮畫十幅，烏絲闌妙手。隨心轉神功，入筆團渭川。千畝影淇澳，萬竿寒不着。枝間鳳，能令我發嘆。

和尹亨仲

英雄一去肯重來，萬古遼遼首獨回。竹院過僧騎款段，春溪邀友醉椰杯。萎羸自是緣多病，屯蹇元應坐不材。妻妾尙猶踈老醜，蛾眉官序莫低徊。



寄石川時爲州學

畫靜春齋頓入禪鳴琴弄鶴愛蕭然  
虛心却了公家事實理爰求自道天  
簾外任看塵翳翳水中相待月娟娟  
開懷只欠膠庠客案上從教掩古篇  
攻詩正似野狐禪老去功夫漸齋然  
牘尾翻雅供吏課梅邊索笑負春天  
膚凋槁木添新瘦面蹙熏瓠謝舊娟  
坐誤半生空咄咄十年常誦采苓篇  
山林往往愛逃禪結社相期訪皎然  
朝露裊花開上苑夕陽啣鴈唳長天  
綉蘭有客悲緯繡濯髮何人詫姣娟  
回首九州眞博大吮毫重賦遠遊篇

酬爛上人再疊

烟霞塵土自分歧一別相從不可期  
寶界臘終梅發後炎洲春暖鴈歸時  
東坡謫客思人苦雪竇禪師鍊句遲  
詩話叮嚀問解綬明朝歸去和陶辭  
平生齷齪困多歧結社青山有晚期  
履道主人貪外物潯陽幽士傲當時  
龍頭祇是酬恩急蝸角元非罷戰遲  
他日囊挑風月去石房深鎖莫牢辭

鄭學士彥浩省謁高山賦排律六韻再疊寄之

真人離帝座振珮白雲城  
手線加遊子仙桃獻所生  
趨庭非阻異上壽足歡情  
山水尋餘暇

篇章散宿清蓬萊還舊夢闔闔想初程勝事端無缺能令我輩傾

玉拔周行內寒水照鳳城秋江衿底濶霜月意中生颯颯開高御蒼蒼有古情精誠懸北極  
文雅重西清延疇蘭空結迤邐馬豈程往年快心會巾帽憶頻傾

寄石川

朝日積霞散天晴萬里遙且收秋雨歎聊奏錦江謠鄉夢酣陶令臣情眷堯舜聞君將遠別  
置酒故勤邀

東江遊

東江如美女人莫不同頭移棹當新霽延涼值上秋野情翻自動官況漠然收坐驗機心盡  
翩翩欲下鷗

清白東江秋更光恰如無滓伯夷腸雪堂豈識西湖水輕似吳姬濃淡粧似遺集作比

橘亭子坐細故謝絕遊寶林之約卽和本韻再招

待客金陵夜通通戍鼓傳獨吟新月下孤影黯燈邊慙媿將塵骨招邀忤羽仙一書來散約  
遊賞謝曾年

抱琴虛奉候離合且從任魔事乖佳會清風一此襟雅章真對目圭復信論心隱隱還成響

如聞正始音

松桂明朝路迢迢望美人馬良端疾策車在好催巾氣馥蘭宜襲弦高月合親身餘當撥棄  
世故每相因

晨坐

衣冠晨坐待衙時西望青山儼若思朝日炯晶垂帝典秋雲枯淡過郊詩欲求省事須無欲  
如到誠身在勿欺秉燭功夫加老境閑來點檢起新知

李綾城母氏挽

物外西王母雲間婺女星祗今渾不見衰淚自泉零  
夕膳寒蠡白晨餐雪笋青南陔情未盡月轂輾冥冥  
板輿南國去魯衛並分袍笏方稱壽容車苒苒高  
含飴弄孫日綵服舞中庭望百逢初一何知減九齡  
夫人有士行諸子各成名掃墓何如者千秋但醜聲  
前春聞吉語嘉慶屬英孫忽辱乘堂賀遂巡奉壽樽  
德如坤牝馬門似碩人詩逐子饒官祿東征屑諛詞

松楸望圻塚南極故鄉思好趁東風去何人不淚垂塚一作綵

壽福人間少常多母葬兒三界俱白髮窳窳不應悲

二子連爲吏叮嚀訓洗冤不投曾母杼饒笑得平反

菌露浮生短冥靈見大年剛風摧倒處物化杳茫然

呵呵遺草作  
荷荷

荷荷大笑又荷荷欲活遐氓奈若何點卒漕江多海鬼  
數月愁莖插鬢皤鷄縛吏胥號釋路犢穿妻子哭如鵝  
蘇復不過行儉德直須論列借懸河

席上奉和橘亭三絕贈大司藝行

日清餘靄散層霄風露淒淒鶴背高江上采蘋無處用  
青女飛霜錦水秋白雲黃鶴屬高樓十年枯槁湘潭面  
吹笛休嫌一送君落梅飄散正堪聞一枝春至雖要寄  
江北江南隔暮雲

無題

官作私田養一家 聖恩如海浩無涯三年報政何功效  
萬目叢噴幾譴訶告病共疑遲解

綬行迷會悔緩回車舟搖搖以輕颺去彭澤清風豈不嘉  
如海浩無涯遺集作真箇海無涯豈不嘉遺集作仰不磨

欲慮皆柔體合休自知身值始衰秋地容側趾無方寸雲許藏名有一丘三十年中空坎軻

五千卷裏足優游留連數月緣兒病錯道籬官檄愛投

退居和李文順韻回文

殘孤跡卷解幽棲味得閑居構壑西歡意滿時邀客話興心饒處拂箋題觀冥詣道探玄妙  
守一思誠到整齊冠葛濯頻臨玉澗策藜呼數遠寒畦丹迷夕砌春苔老白泫朝枝露篠低  
官累悔多憂集謗看書好底理擡提

賀除綬之

飛下金鷄放赦廻客眉曾鎖頓能開迎門競出毛羣棹慰主偏傾露菊啗夷徑豈知還有梗  
醉鄉堪信自無埃眼前得酒須行樂荒草平池是曲臺  
棹遺集作掉

述懷排律回文用李春卿韻

殘知老客倦羈棲臭厭銅章解錦西歡斷苦邊勞結課餽踈嘲底拙封題觀酣着屐詩人宋  
說妄緘唇辯士齊冠玉媿殷評菲德俸錢憂腆噴荒畦丹枯貌瘁精飄蕩步澀行危路側低  
官做失方乖俗樣看看好手重摸提

卽席奉和成使相重九韻

逝水蒼茫外歸鴻滅沒間  
城孤亭下窄天遠眼中寬  
白髮憐新節黃花講舊歡  
滿尊桑落酒伶部勸丫鬟

憑高長北望寶座殿中間  
捧酒齡堪祝開顏意強寬  
悲秋能制淚落帽要窮歡  
細雨斜陽過青山濕霧鬟

野會奉酬綏之韻

雪幕松邊波漾溶臨流醜酒野情濃  
鷓絃切切悲斜日玉笛淒淒散晚風  
乘興山陰淹返棹無心洛浦賦游龍  
病夫詩律寒筇濫豪健何知有放翁  
霜空雲氣捲溶溶萬里蒼蒼海色濃  
畫靜山晴神女雨天寒江動鯉魚風  
迷途自晒蜂鑽紙失水誰憐蟻制龍  
世事商量須痛飲蒼騰莫恠醉歐翁

月山高效永叔贈照上人

月山高哉嶽峯崩崩不可以仞測盤亘數邑兮誇雄豪南斗低垂咫尺掛巖礮建標赤霞朝  
暮乎滔滔天池萬里蕩蕩瀟瀟襟帶之積翠倒入龍宮往來隨狂濤南條勝狀非一二玉立  
亭亭獨與楓岳騰風騷人言九井在上頭神物蛻其中時有青童種蓮藕如舫動石十丈搖

搖人上慄藤蘿絡首夜月啼猿猱珠宮花殿軒空出雲渺幾許覆壇千樹皆碧桃孫興公李太白一生但識天台與鳴臯我昔偷閑粗辦濟勝具飄飄身世恰似鷹脫條登登逕路百八折幽篁山鬼隱隱黃昏號是時滕六屑播瓊藥亂於絮大塊噫其氣萬竅刀復刀扣啄松窓訪湯休圓乎其頂方其袍照佛燈火熒熒香醺醺滴更蓮漏何嘈嘈山中寂寞不到黃初平汨沒愛何慚渠曹明朝大笑出門去雲白山青千萬重首空搔

前承再唱適有不平之事疊來敗人未卽和奉昨日少隙強用編茅以酬發笑石川奮雄詞提毛擘也鉅叢虛幹玄功幽坎撒鬼母邁邁行未休方駕曹劉去不作寒瘦態豪壯雜悲楚膏車與齊驅妄轡吾其杜萬木翳巴山獨數豫章樹六合落寸思俄頃卷九有好我比嘉耦埃我庭或著投之以雜佩叮嚀結久予會有遭無禮指南閉齋歌相鼠吾足遂阻門何以啜君酒其間豈無數未信行或沮春光忽言謝赤煒燿江渚家家蚕珥絲條桑棄筐宮

奉酬士炯惠句清奇近世稀作老夫久廢此事律澁疲精朱墨無響有似寒筇然厚意難孤強拾陳熟再疊本韻分錄左右兼東士吉一莞幸甚

麟哉仁用別驥也不稱才擾擾人無數茫茫首獨廻後彫堪賞節先落莫言材辱此瓊琚惠

依然一笑開

小難蒼海秀金馬屬高才青藻隨機做風騷入手廻廟推瑚璉器工脫棟樑材吾老須無死  
看君盛業開

銅魚頻出使製錦拙於才江上形偏槁天涯日幾廻充幃非糞壤紉佩盡芳材摩涕聊延好  
愁雲鬱未開

何以幽懷遣謳吟已盡才悲懽相代謝寒暑遞環迴夢是蝶非蝶處須材不材半酣彈綠綺  
襟向北風開

奉酬瓊韻希莞然

君心坦坦破城關我亦傾懷作好顏調出紫駝行白玉翻成金縷唱烟爨何時閑事身邊了  
明日幽陽海上還莫以蠱蛇輕廢飲東樓巡酒更循環

誰念衰骸病復關迎將踈懶簇噴顏催歸倦客雲衫袖惜別佳人雨鬢鬢有意山禽啼不去  
無情溝水逝能還往年攀桂曾同樹交契團團一寸環

奉和彥龍韻

俗云家藁繫鳴飢人事隨時廢或興處世悠悠真泛梗浮生忽忽卽風燈爲儒苟淺嫌糟粕



問法乖遲謝葛藤却向茶園求順境呼牛呼馬揔宜膺

奉和沈司諫韻

我懷本來虛頗恠愁常滿欲盪湏決海欲訴月爲伴誰憐是一介無他長斷斷南海頭  
喧囂寄蕭散萬一詔赴難敢後南軍祖知心有佳士尹班慙款款汲引在勉力莫言吾綆短  
憑詩省玉標颯颯起吾懶暢韻配萱草且能蠲憤懣持答欠琅玕報以奉日暖幾抱下堂憂  
奉侯媿踈緩許恕匪情漓清襟仰曠坦夷猶詠旄丘葛節何其誕蓬飄却失所悠悠會也罕  
奉日之奉  
遺草作奉

次和順東樓韻

山南和順縣問獄又重來密篠千科遠幽泉百道回日移西海去襟向北風開憶昔蓬萊殿  
綸書信手裁

滿座微涼起樓如慰客來邑居偏淺阨山勢壯盤回海近春應早雲深雨不開牛羊日夕下  
奇事入詩裁

奉和石川

抱琴招日出東閣奏商聲莫說天無耳昭陽杲杲生

久雨客何少殘鶯三四聲憑軒成獨酌萬事計知生

衙罷坐吟常有伴隔牆集鶴似高人風流露冕君恩重不着華陽道士巾

驛館聞子規有感口號錄示可售地主

燈照愁前客未眠小窓東畔又啼鵑年華苦怨春將盡夜景清悲月似弦猿狖失聲藏碧嶺  
鷓鴣緘口宿寒烟催歸莫道無情發坐嘯畸人費俸錢

金正郎母氏挽詞

孟母三遷日庭除撫玉蘭栢舟思兩髦菱鏡惜孤鸞髮雪愁邊早萱莖病裏殘六親皆雨泣  
新土未全乾

夫人上舍女詩禮慣聞之懿行眞佳士貞心稱淑恣造端參有道善哭化當時雙劍同歸處  
年年春草離

家運何年否伶俜隻影踈床前有令女庭下亡伯魚悄悄抽悲緒芒芒仰太虛祗今俱杳漠  
天地一蘧廬

搖吹愴風樹減景悲傾暉室有殘工篋身餘添線衣虛疊恥瓶罄短草失春輝冥漠永終畢  
從茲恩愛違

寶印上人

逐利尋禪着則忙，塵門物外豈殊鄉。  
無心一路通喧靜，克念單方貫聖狂。  
城郭夜深秋月爛，山林鐘罷暮雲涼。  
惺惺兩地工夫處，大學楞嚴摠在床。  
湛湛長江漠漠雲，逢春謫客思紛紛。  
清泉白石經心麗，綠桂蒼松入夢薰。  
社裏休誇藏遠老，山中豈可欠陶君。  
他年乞與前峯住，邑犬猿猿願莫聞。

嶺頭口號示韓尙書元之

馬韉分坐好懷開，千仞崗頭山鞠杯。  
白髮官伶吹玉笛，拂雲高興浩難裁。

夜投詩山

宿鴈西塘拍拍飛，連街萬炬擁宵歸。  
門前下馬生招恨，水閣蓮華久已非。  
來訪儒仙尋典刑，太山依舊獨青青。  
老聃身退卑周室，千古空傳道德經。

寄同年僧壁寺住持出聽天堂沈守慶遺開錄

采蓮南省丙辰年，師亦同時擢大禪。  
儒釋莫言殊世界，科名曾幸共因緣。  
未尋神勒江心月，謾食中原庫裏錢。  
遙想上方塵事靜，炷香終日禮金仙。

訥齋先生續集 卷第一

詩



訥齋先生續集 卷第二

金 文 谷 編

詩

投石川文右

歸去柴桑今是翁北窓高臥謝秋蓬清風世界三皇上濁酒生涯五柳中琴有一張絃未有  
眼空千古事會空飢腸肯受檀公肉耿耿丹心白日同

奉和石川再疊秋思韻

六詩石川作持贈老夫何舉世皆予侮斯人不我遐相期拾瑤草將以折疏麻寤寐長思服  
西風發浩嗟

木落荒城暮年華問幾何碧天凋景促清夜轉更遐宮篋愁藏扇村燈去續麻江楓空極目  
咄咄倍興嗟

詩

洞軒閑徒倚風露肅清襟圓魄忽然出幽陽何處沈遙情在萬里歸路隔千岑縱有盈觴酒  
琅琅淚不禁

神珠驪壑得出衣輒懷襟大醉過江去中宵墮水沈長嘯吹碧霧痛哭裂秋岑此物當幽世

追思悔曷禁

衣恐  
詭

搖落時將晚何人不起悲聲輸歐九賦雲入茂陵辭氣像俱悽慘芳華盡變衰瑤琴彈月下  
誰復會心期

嫋嫋秋風起吾愁蟲亦悲四更回遠夢三疊唱佳辭病骨方垂老窮陰且向衰紉蘭以爲佩

聊與古人期

三疊卽邢居實  
秋風三疊辭

閔靈巖瑠挽詞

吉語方騰迎命時舉杯相慶在妻兒俄然不起緣何故禱或訶巫藥詰醫

丁亥中秋祭錦城祠

錦城山下定寧祠開創前朝到盛時古壁行蛛千道網中唐偃樞百年枝守奴敝帚忙脩掃  
齋史文茵始設施承祭小臣胡不敬九重香冊下丹墀

肩輿齋沐入幽祠歷吉中秋報賽時肅祀已言陳桂酒迎神將以折瓊枝鎮長歲熟民同飽

靈驗雲行雨普施城漏忽傳更五點燬人明燎照庭堦

路上口號贈韓判書元之

漠漠郊原人不行烟橫一字暮痕生詩潛九地方搜隱氣擊三辰更鼓清千古筭來成敗等  
一心明處毀譽輕嗷嗷失侶天邊鴈獨唳江蘋盡意鳴

祖席卽事用估畢齋韻贈韓判書

高開雪幕俯前川穫盡鱗鱗萬頃田野鶴似人將獻舞雲山輸盡不論錢三司上座軒仍駐  
一曲陽關唱亦連公望有歸朝夕逼佛時誰復當仔肩

三和綏之韻

中隱從來隱吏中黃紬春夢正堪濃慵能喜晏嫌衙日病自求溫愛惠風邑犬猶猶喧老耳  
官漿滴滴漬枯骨平生鮑叔居伊邇却有詩筒屢不空

贈志悅上首

巳卯  
季冬

松寺鷄山窈窕深遠公幽遁百年心庭前種樹今爲拱石眼開泉幾賞音常恨以香蘭見燒  
自知須散櫟無侵江蓮天棘如相待一就禪窓試盪噲

玉明上人嘗以能螺鳴於釋部世稱螺化上估畢金文忠屢題詩贊之多播味



於士林間今悅禪師亦明之徒也其才於唼螺且掩前輩而詩之者無其人此悅師之所深懷也嘉靖丙戌春訪余於鳳凰山卽座上出螺數聲清遠可聞乃言曰此物初出齊安大君家藏之二十九年行與身俱明月不夜之時幽巖送秋之夕韻語最高亮酸猿哀鶴益悽惋也幸惠一言以助貧道之興於是乎樂爲之說賦四韻塞其請

寶螺辭出大君家龍象同藏入紫霞猿鶴不眠驚夜月烟雲如霧散天花聞聲下界知清越  
論品明師絕等差題贊筆荒非估畢眼昏何況字欹斜

奉寄希參

紅粉修容鑑競磨村釵邀客宿誰家可憐興盡山陰客不問詩成月桂花官事一埤多似髮  
秋霖無霽散如麻廿年佳會天教敗回首長歌恨豈涯  
京國何邊共切磨建春門外石龍家往還天上三辰度開落人間幾樹花狼狽我猶監府庫  
逍遙君獨樂桑麻故交老去知偏重悵恨音書滯海涯  
風流頓頓到消磨未老丹心在國家滿面靴紋寧傅粉半頭霜線可簪花病脾實少噉官飯  
還笏唯思納御麻清福莫求安樂外一丘烟月是生涯

投石川

紉蘭爲佩扈江離騎鳳曾攀月桂枝姑射玉皇辭斗北重懷萱草到天涯堆盤苜蓿雖寒苦  
果腹琅玕固貴奇除却羅州朴太守何人更解愛君詩射疑謝

濯錦春江綠潑油騷人解纜木蘭舟東風汎濫紅桃渚宿霧霏微白鷺洲得酒漸醺諧雅興  
聞歌增劇蕩清愁誰憐老大黃紬客藥裏堆床負勝遊

莫知當已詠江離棲息何須乞一枝賢者自歌寬在澗達人曾莞逐無涯治燕召禍休鋤豆  
載酒媒喧謝問奇形影百年和睡過覺來閑味閱陶詩

王孫春草正油油撥悶相將藥玉舟萬事祇今空白髮殘生聊復向蒼洲獨尋物外無窮樂  
都罷人間不盡愁雖有故盟疎問信一天風月卽交遊

靈均底事問天翁不見英華落晚風若將得椽誇三語何似忘憂醉一中波定三更江受月  
雲收萬里鴈橫空扶筇散步逍遙地大笑盧生校異同

申翰林妻氏挽詞排律十二韻

恭惟璿系出閔閔碩人詩女誠看前傳聞風攪古規淑明由性稟溫惠在心期舉案齊眉日  
穿墉覘客時儂妻狐趙見山婦阮嵇知鞋襪催高步金銀警拾遺六親稱士行夫子敬芳儀

富貴將同享，災殃忽共罹。聖恩寬黨獄，南極保湘纍。颯颯開啼眼，迢迢望海陲。追隨身負抱，驚恐病支離。竟失借還計，佳城永夜悲。

姜薄命奉寄靈川求和

再辱清詩詞義俱，至世所難有。僕朱墨之間，久廢此事。雖欲挑之，若吹寒箏，枯濕無聲耳。况前日橘亭與足下旁來，壓之已擣盡。椒辣耶？今復強爲磨馬踏跡，安見有新奇乎？別以姜薄命標目，就酬高韻，仍以寓微悰云。

壁房君不御塵氣，兩茫茫故事雲。輕散新懽席，密張蛾眉偏。有寵蘭麝自無香，獨伴殘燈影。曼曼秋夜長。

紅顏多失意，莫怪命零奇。漢闕長門賦，瓊奴驛柱詩。一吟一番淚，再讀再回悲。落日視天暝，浮雲輕薄爲。

事主心何貳，宵征仰小星。病生瘡疥大，春在鬢頭青。廢院西風入，空塔夜雨零。笙鍾喧有地，辛苦惜年齡。

昵侍昭陽宴，承恩詎有窮。黃昏改前路，紈扇棄秋風。謠詠真無謂，愆說最不中。白華聊三復，垂血訴晴空。

妾心如皎日無路布貞暉匪潛衣難脫無翎腋可飛按歌聞別殿終夜坐寒闌萱草將何用  
空庭謾自菲

鎖斷金浦綠陰欄不到暉愁人啼月出獨犬吠螢飛顏色蕭條落年光荏苒歸至尊終罔念  
香耗可相希

白玉樓中謫迢迢十二欄錦衣紅郁郁霞佩紫團團黛落新愁集衾虛舊夢寒幽蘭將更結  
攀篠屢承嘆

七言近律奉朴掌令行

藍巾法吏到江南嚴召恭承內相緘再命入臺欣日月三年持服病雲嵐聖君正急牽  
裾士慈母寧私弄綵男上駟啓途高噴玉無端寒雨濕征衫

次琮原東軒韻

宿簷朝暮白雲多外竹黃茅八九家庭寂無人山鳥下含蟲飛上刺桐花

次錦江韻

美哉南國此山河能使開除滿眼沙日炫蜃樓迷海口鷄鳴茅屋接人家三韓舊主師曾駐  
一德今王俗敢譁民不見兵茲亦幸畫船笳鼓惜年華

和綏之韻

落落英標記暗中春來我思十分濃錦絨急拆才驚眼瓊句沈吟忽愈風千首謾持無價筆  
一杯聊散不平霄區區世上人何數目送飛鴻點遠空

再和綏之韻

時僕爲管下所辱故四句及之

式微方懊困泥中塵氣盈衣亦易濃雲鶴不緣身在澤野牛安得角生風糠飛一眯何傷眼  
月霽長清砥貯曾八十日忙三歲滯歸來同是後車空

次尹希參韻

羅隱詩書拋桂外陶朱身世海南邊深知漢日龍當伏冷笑秦關馬不前今夜故人空用老  
去年秋月獨重圓西風吹棹江如練欲采蘋花莫有緣

送熙印歸月出山雲菴

南極仙山高切晏雲菴寂上索玄真龍歸滄海千峯雨日出扶桑萬壑春人外人閑人外境  
世間身走世間塵白蓮却悔相尋暮林下秋蘭倘更紉

重用已卯韻贈竺晶

風塵空白首迢遞隔松菴象踏秋河水龍藏舊石龕馬鳴深有造摩詰杳難參已卯追前韻

揮毫染碧嵐

題石川遊山雜詠後用寄橘亭韻

淑氣扶輿南海盡，海水一方無琅玕。豈但興坤寶文雅，仍聞出土夫雙璧。連輝翔價倍千篇，獨步苦吟躋跨雲。驂霧鞍長御歷井，捫參杖用扶孤嘯。欲招回道老，朗吟將過洞庭湖。天池俯瞰鯤鵬窟，佛界旁携龍象徒。奚背烟霞囊重錦，客前風月席輕蒲。壯觀小魯思先聖，深戒垂堂冒畏途。游目頓高皆蠟埴，唾肝殊異盡鮫珠。靈川何處盆當鼓，享仲于時橘賦枯。君是晦菴衡有記，我非張栻路慙迂。晴窓盥手披佳什，細結幽蘭發浩吁。

奉和高彥龍雲

短短黃紬夢通通，鼓報晨宿雲開。早日飛絮散餘春，萬里綉蘭客三年。賦鵬人故鄉歸不得，愁思轉彌新。

送送迎迎內衣冠，坐待晨濛濛。收海雨苒苒去，江春枝盡垂。街柳衫連入，漢人此邦都會地。車馬日來新。

風雨雖如晦，鷄鳴不廢晨。剛腸元忤俗，冷面豈生春。文雅逢佳士，篇章慰故人。琅玕何以答，縮手愧還新。

晚坐得泥字賦近律錄奉橘亭求和教

細雨空齋思政悽長雲漠漠望都迷  
庭前萬點杏花落樹裏三聲春鳥啼  
謫客因桃遷海上騷人愛竹駐城西  
東亭昨席成佳集更會今朝阻尺泥  
白髮逢春獨慘悽看花老眼霧中迷  
官池雨後鴛鴦浴野竹風前翡翠啼  
蝴蝶幾番飛渭北旅魂長復散江西  
無心燕子猜人潔却向新衣落口泥

再疊前韻復投橘亭請斤正

王孫搔首尙含悽春草連空海戍迷  
精衛有冤將欲死杜鵑無血不堪啼  
滔滔逝水終難駐晻晻流光解易西  
銅印半剝朱牒積三年磨盡幾丸泥

石川有寄嘗作四首用其韻書懷以復之

暮年疎宦興情緒日荒涼齒病連成  
鬮顏衰漸欲蒼不堪治束矢何以化  
褰裳近有田園報新篁過小墻

此心無少翳高閣撤窓扉海旭頽啼髮  
天潢擬澣衣古人俱緬邈相識亦幾稀  
坐月彈清瑟松風響細微

默默憑書案悠然望遠天大陽幽地底  
陰魄出東邊人世難回古頭華不更玄  
行藏龍莫智

無路問重淵

不得中常熱如何病  
喙頻蓼花湯浴數馬矢冷淘  
新北愛連楓極南愁河海濱  
詩書難自救  
魑魅苟相親  
邑犬狺狺夕村鷄  
啞啞晨衣裳  
霑欲遍  
闔閭叫無因  
神女雲行雨  
王孫草謝春  
忽驚時節變  
池實薦菱仁

道岬寺留別戒安

江上形容老病侵  
攀林三日脫冠簪  
茶菰留杜思齊已  
山水邀陳訪覺心  
隱隱霜鍾搖短夢  
蒼蒼雪月照幽襟  
歸途塵土遽如許  
回首白雲深  
復深

吾眼可能負白雲  
幽契諧衆芳  
迷積雪危石露  
傾崖僧起拾  
松子馬鳴餐  
豆稽出門流水住  
佳會悵分乖

遙寄智異山藏上首入山二十九秋

南紀頭流雋幽棲  
學上乘玄機  
深契此白業  
信輪曾卅載  
長跣地三生  
不盡燈塵科  
多病者  
紗帽漸成稜

奉和彥龍韻

艸艸功名付破甑  
眠當就臥覺當興  
石泉咽咽回清瑟  
松月惺惺替遠燈  
野鶴驚弦歸碧落



山巖盜栗上秋藤  
閑人日課詩千首  
客至開門喚輒磨  
時彥龍自宜寧殿罷還家故五句及之

再和彥龍韻

鼎有烹魚飯出甑  
除堂餉客早時興  
屋頭日上催開酒  
簾額霜飛合剪燈  
恩重玉麟垂紫綬  
夢踈松逕偃蒼藤  
古來吏隱皆如此  
休怪勞勞餉俗磨

三和彥龍韻

穉子求聲扣瓦甑  
何如雷下蟄蟲興  
海天漠漠長爲客  
秋夜漫漫屢點燈  
寒翠自應餘雪竹  
春光終不到枯藤  
屈原弄筆輕煩問  
無口天能解快磨

四和彥龍韻

食硯東坡豈食甑  
文章昭代喜中興  
才慙秃尾當金帚  
忠許燒心補日燈  
入鬢愁愁千點雪  
櫻腸事事九廻藤  
匆匆未答盈庭叫  
莫把徵求怒不磨

次高敞東軒韻贈趙使君世勛

燕絕新城九十霜  
多君起廢寫謀良  
從西結構因坤面  
向北規模望帝鄉  
松密每聞來地籟  
池虛常見受天光  
善題安得香山手  
詩派能令續會昌

失題

茅亭成小集微酒可開懷吹帽重陽近傳霜塞鴈嗜芳心蘭斂谷幽色桂舒崖攝衽天涯老  
啣杯澗曲諧風期從此阻雲會遂今乖莫怪淹歸駕秋光日夕佳

奉道林上人兼示橘亭先生求和教

智嚴吾夙慕超絕阻山門侍者來三宿將歸請一言飄遊雲不繫皓大月無痕嚙嚙官鷄叫  
信信邑犬喧拉登城上席分勸杏前樽碧眼天同濶清懷水共奔惠風吹桂樹甘露灑蘭根  
野鹿投林去高鴻落網冤遐情在寥廓暝色起郊原衢也迷途客荆榛何以堯

送質正官鄭翰林

因書想古人古人長相思相思不可見欲討迹所遺皇明啓一統四海登清夷擬續子長遊  
庶得酬襟期前朝奸細徒獲罪高廟時出入有禁限中原杳難窺時節許朝覲紹价啣命馳  
吾友鄭翰林俶裝向西之恨我莫與俱留滯在南郵路出首陽下君寧不涕洟自周到今日  
天王如奕碁易姓者不一反面何祈祈無人來采薇山谷雪逶迤情神儻不泯絮酒瀝荒祠  
慷慨平生懷寫與贈行詩

鄭疑  
陸

東峯山人嘗集古句爲山居百絕備諸家體靈川子反之出新意步其韻自成  
一家體以遺訥齋病夫一展再展之間粗得其一二清而腴雄而高自然而不

凡非近世之作者卽效寓言體和之淵谷橘亭諸君子一笑爲幸

朝朝棄粒點庭苔慣食馴禽日往來俗客祇令吾眼白枯思見隴喜雲開  
山瓶側掛竹輿傍獨酌西溪到夕陽一逕落梅香已斷隨風飛絮謾顛狂  
家有胡奴勞不休穿雲續篋引巖流杖藜出待前塔立西嶺昏鍾殷寺樓  
春色無由上石苔祇應偏注澗桃開青青不與紅紅盡穩躡尋詩日幾回  
地僻增寒夜漸長窓櫺瑟瑟瑩生光無端徹骨清詩思雪後梅花月一方  
門前十柳綠澗澗盡是幽人手自栽客至隨陰移坐席碁殘玉局幾番推  
雨後蛇橫窓外籬含蟲乳雀啅花枝呼兒爲護籠中鶴啄罷塔苔浴竹池  
圃東楸樹正馨香其下開畦種地黃多病廢詩看本草藥丁秋採露蜂房  
早解捐彈蟬捕蟬至今黃馘此林泉日高三丈無朝請可是駒駒穩着眠  
玉莖松蕈摘秋芳鹽鼓纔交淡味長先問山妻沽酒不答云家釀滴糟床鼓疑  
雲碓山春水落聲隔林隣屋照松明嬌兒不解諳諳語醉枕頻挑喚得醒  
曾笑孫斯請學干考盤高索碩人寬深藏組麗三千牘白髮長年不出山  
與遊麋鹿共徘徊殷鼎無心傳說梅白石老桑通夜煮松聲和雨入窓來

常懶衣裳百不爲，舉家顛倒客來時。  
古琴打破蜘蛛網，松下移樽撚澁絲。  
甘餐不必食馳峯，渴至澆腸酒半鍾。  
扶病百年存長物，莫嫌烏几縛重重。  
坐愛清溪俯水闌，惜惜盡日意都閑。  
相逢野叟來城郭，却問誰能折釣竿。  
皓也於劉不辱身，商山豈曾避秦人。  
丈夫出處休輕議，高臥烟霞穩送春。  
霏霏承雨白雲濃，晨坐無言抵下春。  
休道絕交無伴侶，得朋高處有雙松。  
何處艷之與鶴之，浴來渾我濯纓池。  
源源活水通東澗，月照三更數桂枝。  
人事多遷老亦垂，可憐山色不曾移。  
日之夕矣牛羊下，兒子連連母後隨。  
寂無人過靜松房，庭掩桐華日正長。  
門外忽驚猿吠客，越商來賣海南香。  
四山秋色蘊幽軒，紅葉蒼苔晝閉門。  
何幸受田曾未與，不聞租吏叫晨昏。  
東院尋僧禮佛身，歸來問竹過西鄰。  
相將共酌三更月，大醉何須別主人。  
自將餘富謝浮雲，山徑行穿虎豹羣。  
物外桃源風日勝，羸顛劉蹶斷知聞。  
照琴明月卽鍾期，何事高僧下指遲。  
中夜坐彈山水曲，九秋清怨素娥知。  
遙遙秋夜未渠央，山雨蕭蕭側耳長。  
明日出門巡後圃，滿亭紅葉半沈床。  
松影高高花影低，杜鵑清晝幾番啼。  
春躋欲採無人贈，艇子休撐七曲溪。

九日山檠菊面黃西風細數紫茱房回頭大笑悲秋子散髮狂歌據石床  
耳聾前月漸無聞心似寒灰鎮念紛何異子真棲谷口莫傳天祿墜楊雲  
山氣蒼蒼日夕佳溪堂出酌領荆釵西簷補短湏遮景斫下松尖萬丈崖  
懶常箕踞或鴟蹲拜跪人間何處門禮數不知長自佚短簫閑捻月黃昏  
詩興山庭正漾溶臘梅和月玉千重却愁零落吟魂斷羌笛誰家散晚風  
石塘風緊折蒲黃松露研朱點易床消長後天何處問美人迢遞在西方  
星河爛漫捲秋陰木客知詩替我吟靜得老禪留話處一軒明月照潭心  
柴門十日一回開小徑冥冥故厚苔細雨今朝書札到西村有乞碧桃栽  
雲烟剗地掃峯巒滿眼全青頓頓還此樂山中吾獨會分明不可語人間  
寒苦生涯寄敝廬飲蘭餐菊復修初南山更種淵明豆帶月歸來亦荷鋤  
滴空香露晚霏微春桂森森影半扉溪鶴駭人飛北去夕陽花外一僧歸  
秋霖百道練橫分旋恠冬深萬壑貧世事回頭皆可愕寬懷莫放瓮頭雲  
寂寞山家事幽三更絡緯報清秋茫茫海濶龍無欲十牯雖香可中鉤  
蓮子團團擘玉房雨欄風檻壓秋塘莫言助興無佳客投鷺窺潛引頸長

挈壺相問有田更。苔約通溪學字橫。身後眼前當自擇。一杯雖小重虛聽。一作名

陂麥青青半欲胎。邊牆如雪薺花開。可憐此地無姚魏。車馬寥寥不上來。  
藥欄西畔養吳藍。閑課治荒對客談。莫恨古人君不見。青山如面入前簷。  
愁常與酒好雷同。老瓦盆頭覓一中。清聖濁賢皆可口。醉來高足北窓風。  
來不關心敢或言。閑中一味倦當眠。啣蘆鴈去秋天濶。吸露高柯脫殼蟬。  
樂天無處着憂端。拋得離騷亦不看。世與我違冰炭耳。一毫非理可能干。  
浮外韶華因歇衰。桂中秋月本無虧。子文但識梅間月。空想當年畫者誰。  
芳杜寧教有厚顏。隱居思與古人班。莫言潁水箕山冷。雲物千秋謾自閑。  
雖遁深山晦姓名。有時天變亦關情。夜來風雨知多少。揮淚佳花落滿庭。  
振衣千仞立雲中。方丈仙巖萬里通。楚國區區拘宋玉。蘭臺未必有雄風。  
小盤催拭饗湯公。兒摘園蔬帶露重。松葉舊醅才罷酌。飯炊香黍出秋春。  
暮年貪佛結歸依。雲霧誰知晦少微。林缺九秋江影入。可憐殘照半開扉。  
何處王孫孔雀屏。敗家奇禍暗中生。白雲孰奪青松障。鏗耳靈清月下聽。  
客影忙回屋數間。淮王門外劔芒寒。攀援叢桂淹留好。不用慇懃招小山。

千本山薑長白牙豈非霑雨賴巫娥頻添飲子和關格養服何如但種花  
足軟當休健輒游窮源日日泝溪流囊膠妄作投何計舉世皆知是淺謀一何疑河淺

燈盡三更罷楚辭開窓螢火散殘籬草間耿耿真無用天上何時月滿規

清夢依依佛殿廊點爐童子尤燒蒼斑斑漠漠杏花落山鳥一聲春晝長

綠水青山喜品題黃金不管價高低卯杯暫睡閑情起花上濛濛露欲歸歸一作淒

塊坐如禪入靜緣一鶯梢蝶過窓前鄰翁得酒急相就半落西堦紅杜鵑鵑一作鶻

澗積山人解醉風巖多雲鶴養雛松棧衣道士來何所贈我靈砂萬粒紅

脫塵輕舉悅仙蹤高擬騶鸞上界風周覽四方窮世變楚些何故說無東悅一作鯨

燒天劫火競愁吟衆萬生人苦海沉焚溺救知吾力小紫巖高處獨清心

河水洋洋不可憑掉頭於世讓先登超尋窈窕青蓮社乞得霞棲好事僧

灾福昭昭在鏡前幾人心醉去無年金華遠友壺丘子不向關中夢入川

苔侵堦面疊青錢日出峯頭生紫烟幽興日饒無箇事酒船茶竈足窮年

六分頭髮白三分瑤草丹丘仍羽人却怕卜居還不密村春時送雨邊聞

封書無意一丸泥遂性蓬蒿斥鷃飛白馬功臣菹醢盡何如從得赤松歸



可湘盤谷樂幽嘉鷄欄牛欄整復斜寒雪載林鳴翡翠啄開紅玉上山茶  
一弓人自棄寬閑吾獨終身有此山謂辦菟裘他日債蘇門嘯月不同般  
亦復離羣久索居案頭常看養花書惜春此意家童解香玉蒙庭不掃除  
紛紛得失互乘除夔豈少耶軫有餘萬事思量身莫重閉窓長誦養生書  
金碧精神夜聘靈滿山松月影亭亭支頤不寐驅魔伏阿買昏昏觸短屏  
懷寶藏山不眩能跡如秋水十分澄自然頓入清虛境回指禪枝笑葛藤  
洞門寧許俗人通三笑過溪遠與同元亮分留松逕月風流莫道已成空  
小魚盈斗養西池扶杖常觀去復遲心樂在茲無指動碧雲和柳執戕枝  
蒹葭秋深已摘殘草根唯見毒蛇盤臨風欲唱黃臺曲枯葉刁騷白露寒  
春風不世未曾知才到山梅便別時同是一根分冷暖北枝常見後南枝  
本求枯淡斥華奇興在千巖雪下時粧點我居春太俗滿山青葉剪琉璃  
月堂清瑟操歸鴻何處噉噉烟雨中水碧沙明非樂地冥冥萬里有培風  
黃精去斷雪蒼然木柄長鑿伴鹿仙塵世謾玄貧太苦不知甜似蜜中邊  
雲邊黃葉下蕭蕭淡淡明河玉宇遙養此白駒芻一束無心場藿永今朝

玄疑云



天風吹破黑雲重月似高人爲改容清夢遶梅回不得滴更蓮漏夜將終  
倦入黃甜去復回窓含秋嶺錦成苔披披案上淵明集散睡清風水面來  
朝露將晡堦上莎客來南澗好浮菰古人白骨多青草空澆蟠桃千遍花  
賓對青青竹似苔蓬門不爲俗人開天然自有關防在石路縈雲百八回  
巖日西移醉不知花間宿鳥有爭枝傍人莫道無機事勝負關心在奕棋  
梨花飛雪卷簾初山月尋人慰獨居何以散懷將大笑一瓢猶累敢求餘  
山翁何事喜春眠夢裏常遊二帝天元凱滿堂吁咈處鳳凰來舞九韶傳  
哲王不寤早歸山何必乘鸞歷帝關九日一閑人自詵山翁全有百年閑  
道士紅雲寄滿瓢傾壺盡飲放懷遙松絃月燭長供樂莫謂山林太寂寥  
騷人休嘆驥馬程回首風霜百草盡林虛山中終窘迫仙舟多暇傍川橫  
雨窓燃竹煮烏龍雲罅微微出數峯湫下老虬無意甚五更漂拔壓溪松  
奔走人間奈老何去年回跡海東涯君看啣土西山鳥不度涵涵萬丈波  
康字西征有短長人知遺臭不如香布衾數幅黔婁臥曾受鄒書養氣方  
此地徜徉一十年團蒲已敝坐猶堅開窓日日披圖畫雨蠟烟巒近接連

日薰花樹暗飛香雲盡前山碧滿床時有故人頻問信月團三百遠分張  
穿雪山行手數呵往看殷七鶴林花僧房亦有臺城蜜捨盡江南買得麩  
一錢無有掛空囊瞿麥炊仁飯更香誰謂性踈踈屋飾白雲千疊是藩墻

次適菴韻附李察訪

李察訪某自嶺南傳適菴詩仍索舟入漢余以諱日不得出

適叟逍遙吾不如雅翻牘尾困文書李生解橐驚珠璧光燄橫穿刺史廬  
風波休說犯應難人到中原盡卸鞍朝夕每裁津送帖從今端合喚船官  
雲傍馬回歸嶺僕鴈和帆去入江舟閉衙正坐終身服孤負擎觴割別愁

別席卽事

小幕臨溪敞同官餞嶺征厨烟纔一起盤味忽三行林暝天將夕天寒馬不鳴夜投安阜驛  
新月照初更

過古城在開慶南卅里

一片山城壓道存狐狸白晝臥藤根荆榛往往飛秋燐風雨時時哭戰魂勝敗兵家何足笑  
興亡宇內叵堪論前江流盡將軍血猶帶寒聲訴舊冤

酬釋海琳韻

雙峯碧眼海琳師，說道人間百不宜。才亦見猜名是累，故遣昏宦了無思。

酬一禪韻

七尺不堪塵土浣，翩翩神馬向雲中。雞蟲得失何須數，願借冷然御寇風。

渡洛東江籠馱落後有假稱禁軍者擣奴從

洛江水合削瓊平，渡口人喧鵝鴨聲。鑿通一路開藍碧，浮送輕舸替馬行。芥芥寒沙雙鶴立，冥冥遠樹斷烟生。黃昏先渡遺騶從，毒手還聞窘老兵。

迎香驛朝飯

東檐朝日照分明，詩到迎香驛裏成。物候嶺南江北別，隔林曉鳥已春聲。

宿上林驛長家

桑下松籬上長家，官盤再飲善州茶。數間破館餘風雨，三板頽墻沒葦葭。前後驛司踈馬政，公私行客宿烟窩。主翁話此宵將半，窓外茅簷滿月華。

達城路上卽事

臘雪窮崖半不存，洛江南渡氣全溫。行行處處看樵子，解衲單穿犢鼻褌。

戲題

望湖堂上覓佳詩縱有江山不佐思忽見玉人來捧酒依然青草輒生池  
嶺南樓勝更無鄰一曲清湖春復春可續東坡西子句休言未有摠宜人

宿仁同縣聞主人居殿就慰退而口號

霧郭雲墻拓縣居民如鹿豕吏如魚監侯未領烹鮮法賦政還乖種樹書輕試勒鞍生馬肆  
刻誅雷雨懶龍墟慈祥弟能安輯莫遣夸佻數敗輿

和適菴韻前者鄭生傳疊八詩多故未答今詩及之故少發於數句云

青薇養公信紫芝肥東園萬鍾實瘦人憂勞如草繁百年忽一瞬君牧俱荒原如何不自重  
與俗相推翻遷轉二州內三霜銷客魂尋山理竹與何必朱吾轡安得適菴老班荆同野籜  
燕菁花欲落細雨明山村白髮此驛路黯黯塵滿軒泯默孰會意將詩聊斲論

謝適菴八疊詩

八疊新詩八疊聲中原入譜播軍伶當時傳者公清氏我亦長吟向月明  
千年儻有鳳凰聲肯見知音舊姓伶含笑不言窮世變一鷄三叫詔天明

題尹知樞珣臨深堂

時公被  
論處閑

此地天慳俗士求逢君體物寫清謀長魚萬里終能奮大鳥三年信暫留北闕鍾聲驚短夢  
西湖月色照幽愁詩人二字銘心沮戒在垂堂搜似投

穆如家法好推求端用詩書潤廟謀鑑水寧爲賀氏宅鷗亭不許魏公留風雲木蜜曾深契  
魚鳥楊花莫謾愁才薄品題吾豈敢覲然輕把木瓜投

闕南木覓山大明須詔上使  
翰林修撰唐臯改以木蜜云

述懷

手拙真疎制錦才湖霜點鬢歲頻催無華客過評枯木有病巫來見濕灰王粲長吟懷土賦  
杜陵時上望鄉臺羈愁最苦逢秋雨却捲朱簾倒數杯

李翰林觀母氏挽

纒帷塵欲雨霜葉滿庭闈王母瑤臺逝姮娥月轂飛鄰婆懷舊惠侍婢泣遺衣松逕斜陽外  
蓬窠萬古依

次因菴韻

身命長年值九陽通波無路隔尋常清商月下援琴奏鬼物軒騰掣電光  
萬丈雙峯險又危攀緣折趾更亡徒爭如閉戶幽墻塹剝啄聲邊聽若無  
知已人間有困菴鶴鴿情義兩相堪詩筒不替通消息千首從今貯滿函

用施字成韻

天與人才不與施英雄恨淚幾回垂  
長沙鬪舍傷王傅白帝荒城老拾遺  
世主似應輕社稷  
騷人徒自重蘭芷西風永夜吹枯樹  
耿耿幽懷有少知芷疑

謝俞清風燭元日致獐走筆

日者間瓊樹高談隨玉杯幾年心賞諧  
清飄吹氛埃一出白雲間若別傾國煤  
忽值月正元新懷誰與開餽此山中吏  
指動殊奇哉不羨踏菜羊依然禁巒來  
無魂古所貴庖刃游恢恢瓮發錦屠蘇  
燔炮當豹胎耳閉賣癡聲羯鼓匍如雷  
日高衆賓醉寒色留墻隈

楊津溟所沈虎頭

白額侯頭出尙方函傳九驛到龍堂  
清冷不合藏凶穢喚起雷公擲大洋

祈雨

今年大旱似庚寅火氣炎炎藝日輪  
馬腹不濡江槁水人頭將沒路揚塵  
京城井竭盆全帛野市粳稀斗十縵  
香幣拜承祈雨冊松祠涓吉欸明神

江祠見金同樞世弼書走筆代以詩

將變三時一極無江祠乞雨答耘夫  
相公在野憂民切荒政先期勉小儒

稷官久廢術非專守宰仍兼又幾年里甲帖差分勸課張家最劣更求賢

寄適菴

老向烏山歌紫芝鶴歸龍見自應知渾身雨露宣陵澤杭棧東西幾蹈危  
東阿七步是前身八斗文章我所珍嶺樹謾遮南望目巖間明月照精神  
灌圃丈人無恙無詩筒通道不崎嶇婦言玉什如相和謔送生箋慰病夫

孝仲和來前韻演成各二復答之

歸心的的遶陶村綠筍薰風長幾孫馬首先聲應過嶺慈顏喜入眼能溫  
郎罷離家念小娘相逢舅氏話懷長碧筒象鼻傾甘露池檜分涼納畫堂  
缺滯中原憶灑村年年春草怨王孫謫仙海上窮鰲壑韓子如何謾釣溫  
檄召江妃領漢娘明朝檀月飲興長驛樓醉拾吟中料風物閑愁自警堂

題金訓導載寧行詩軸仍侑山南在營行

載學何年西塞行贈君詩半是公卿中原客橐傾相示箇箇鮫珠眼忽明  
洛水山南左右分東營首鎮海壩雲月明細柳喧歌吹曾是征西李冠軍  
蔚州人說大和樓休作中樞雪下遊節度風流方便在三行約束在回頭

初鶯走筆再疊

第一鶯傳第一聲中原謫宦最先驚  
尖長夏舌千般弄清濁天音百變生  
啄葉碎來松露細  
躑枝飄下柳花輕  
定非嚇腐貪鷗族  
休把彈丸枉折翎  
今年又送昔年聲  
旅况閨情一樣驚  
去每避鴻人得慣  
來常後燕主非生  
遷喬帶旭方謀舉  
出谷凌風始學輕  
鷓鴣一鳴枯百草  
恐君毛羽褪金翎

次慶進士世豪韻

羅隱高蟾志莫伸  
碧桃丹桂爲愁辛  
傳家有籍堪誇富  
使鬼無錢不患貧  
此日班荆湖上面  
明朝落葉漢中身  
榮枯聚散吾何預  
得酒須傾樂送辰

次誠之相國韻謝健翁上人餽海衣

老面無華信可憎  
低頭拜客折剛稜  
滿盤素物時相問  
何處雲中好事僧

次國卿

金安國號慕齋

韻贈健翁時住龍門山

爲愛漢江江水碧  
龍門移此仰山錫  
觀心妙法不他求  
木晦於根春發綠

同年進士慶世豪  
風疾來浴安阜溫  
水回抵太原示近律  
一首卽步其韻演爲  
三時旱甚民飢



身纏末疾久重帷一浴靈泉卽效奇脚健尙能追走馬眼明猶可察空絲旅魂寂寞殘更後  
詩句團圓驟雨時聞道病加於少愈廣陵休廢服松脂  
會赴經筵侍講帷學荒持論敢高奇水銜久辱登蓬閣竹使頻承領繭絲廿五流年添上士  
一千景運際昌時涓埃未補垂垂老眼見昏花怯腦脂  
缺月彎彎夜入帷仰看雲漢倬清奇明君自剪股湯瓜俗吏誰寬尹鐸絲石燕不飛知幾日  
土龍無語亦多時田家處處榆皮粥炮鳳葦堂泣玉脂

表大博斌告忙請行走筆贈之

青杏喬枝鶯調清朝雲畫筆在山晴衰翁晏起將邀客跋馬君胡促北征  
德水中冷天下無騎牛曾味此真腴謀將一勺清詩肺掉首何人不可呼

答慶進士詩末用一句戲之

陰靄微微卷大空漸看晴旭逼城中客邊得句持相贈佳底參禪玩未窮東野駿才人不識  
仲翔踈骨世難容可憐忽作明朝別留客慙無一笑工

復答慶進士

處世休驕抗持身必巽儒低簪迎送內役役似非夫

寄東臯韓正郎景琦韓家近太室且曾爲社稷令會飲社下又相從崔忠齋

香雪堂前槐正花攤床萬卷望郎家衙回漢署詩將就太室千松噪暮鴉  
白沙西社會何年瘦鶴形容照酒邊一落江南空短夢中星今見五換躔  
不見忠齋泉復泉城南往事日茫然白頭幾隕羊曇淚明月何心更鼓絃  
沉沉素抱屬東臯歸鳥詒辭恨迅高斷斷此心無處布乾坤江漢水滔滔

記夢

乙酉六月十二日予因差命宿于春縣夢見亡室柳淑人宛若平生話說多  
方乃云妾某宜去之敗君家者必此人也遂寤而記其一二假成絕句

魂交邂逅與齊人屈指幽明二十春見說敗家狐穴地及時燻火逐荒榛

東池因早就枯若葦葦之類族盛不已及雨下水漲先茂者日長蓮則稍稍乃  
叱官奴廿夫持鎌芟盡而後紅綠全露

東池數月盡荒蕪汨沒青蓮半有無姑蕢草人根不去第看鎌手蔓能圖紅英簇簇千房露  
綠葉披披萬柄敷渠也自然難黯黯向來葦葦得吞屠

青安縣監鄭仁俊殿罷歸家詩以贈之患喝未出

名家尺五說蓬原竹使清塘歲幾翻官事往來吾熟聞吏懷貞黷巷公論權衡稱物無偏意  
鍾鼓當袍不怨言凶歲米鹽離脫幸好將缺服返私門

朴延豐孟昌居殿還牙山患暍詩以代餞

虎榜臚傳擢丙辰平生破的屈千人蹉跎不振逢奇數夢破南柯又一春  
海上仁州鮭菜肥公袍釋去著私衣莫言老大無豪氣林下猶堪射虎歸  
界首非才謾畫蛇如何媵嫻待秋菰蠶書未答仁君寵饑歲憂民鬢盡華  
六和頻點已殫材狼藉床頭紙墨堆聞道策驢明曉發佩壺那得共啣杯

聞舍弟自掌令超拜執義以詩爲賀

宸鑑無私朝論公超君貳憲久沉中豸冠幾把心懸北西壁今教座轉東三命處身湏磬折  
長官持議莫雷同鴈行湖海情何極能振吾聞保聖躬

書與孫上將景祐

忠州有三江一出月岳山一出五臺山一出俗離山咸鏡道置鎮有六孫公  
少從元戎遊遍六管今退居三江家養二鶴余於野次問其存亡出處則答  
云初有圻縣人捕得一雙取來家蓄之久矣其一食杏仁而死其一獨在後

一日籠以柩籠送諸州遂賦唐律二首謝焉

射虎將軍老北村東吳破虜帝王孫三江習俗隨鄉社六管風流夢塞垣李廣常嗔遭醉尉  
澹臺實少入公門龍泉打鑄爲農器付與長湏但把尊湏一本作盞

聞君養此九臯禽野外相逢興不禁纔問存亡辰未傅細推出處答能諳杏仁一粒成孤影  
圻采層羅就活擒明日柩籠持入府子更垂耳叫清音

雨中發行

夜雨通明注玉酥孤城暮食策行駒蓑衣亂葉滌滌露油帽高簷滴滴珠溝道瀑湍黃四沛  
阪田焦菽綠重蘇西原路上頑雲罅半出金輪脫壓濡

時化驛遇崔訓導興淑紀所言爲詩

崔子龍泉寺裏來山中勝事數如枚老槐樓外虬千丈飛滂巖邊雪萬堆三十居僧皆白髮  
高低行徑半蒼苔連連過客無佳句未有賓王第一才

寄慶州府尹黃公瑾二律

全付鷄林四萬家 聖君恩寵海無涯將提大管三千卒頭冠南州七十衙治法征謀遵尺  
度淳風朴俗去鞭枷嘉聲上徹助華耳召入沙堤不待瓜

滿月城邊秋正回，仙桃山下水如苔。  
苦刀槍錯出排詩陣，霹靂橫飛掣簿堆。  
六部桑麻吹湛露，千年宮闕吊寒灰。  
興亡備述東都錄，唐鑑誰稱范史才。

丹月驛樓贈尹翰林豐亭曝史星州之行

吉甫東枝有後昆，穆如風韻到今存。  
才名榜眼青錢選，地位螭頭翰院尊。  
曬史分司遵嶺路，飛龍賜馬下天門。  
歸裝莫秘仰山錄，刮此塵沙病目昏。

贈金公碩以季子成親向溟州溟州古蒼海郡

蒼海秋風禁鬻床，大人治任押三郎。  
歸途馱載應偏重，一萬烟霞貯錦囊。  
枳但山南阿每西，大關高插白雲齊。  
客窓咫尺扶桑樹，報曉天鷄半夜啼。

次用或人韻二首送曹舜卿棄官歸養永川

知年丁喜懼，閔默在朝行。  
忠孝難輕重，君親有短長。  
周旋辭北闕，迫切指南鄉。  
已附當歸草，秋風待上堂。

重陽才十八，舊菊待君香。  
村酒端稱壽，公租勅納倉。  
遊方收客轍，愛日捧頰光。  
努力勤甘旨，含飴慶豈央。

與金翰林沔遊玉犬山卽席口號

掛起松間一幕雲。筵鋪六幅錯。堯文江山秋後清。雙絕寶主樽前興十分。畫本合省煙簇抹。詩材都在鷺成羣。禽魚此地遊人慣。自不驚疑舞茜裙。

遊彈琴臺明日因病不出錄示近律于金內史

衰年百病喜攻身。遣散閑愁一盞春。罷路跋驢猶畏策。夢雲籠鶴肯懷人。彈琴臺迥回南首。國望山高蔽北辰。老脚躋攀酸澀甚。休衙自幸臥頤神。

筆橐提携玉立身。烟花紫禁屬青春。翰林逸氣騎鯨客。柱史仙風指李人。兩館冰衙承寵命。

七王寶錄颺良辰。琴臺暇日遊江介。落照含情賦洛神。

金帶藝文  
春秋二館

宋仁粹曾牧清州。見罷於行災御史。今拜金海在龍眼驛。報過余因醮祭江祠。不敢往詩以謝之。走筆

龍眼清絨報遠行。急教黃色襯眉生。玉犬山下祠當醮。檀月樓前客催程。香冊九天身已受。祖杯歧路手難擎。崢嶸此恨君知否。把筆勞勞代謝情。同館湖西竹使符。往來狼臂契曾孚。行臺去歲災仍謫。大府今秋印更紆。朝序且堪容長者。天涯何數借仁夫人言。海嶠無禾黍。賑救端湏豈弟儒。

沃川守李弘幹送柿子百箇仍書問官况且示舍弟昌邦詩律次韻謝之

秋柿山城上熟年，  
鱗虬濃卵輭無堅。  
已將玉盃供慈渴，  
仍送筠籠慰酒顛。  
誇與妻孥同日嚼，  
爲言書札一時傳。  
况看舍弟驚人句，  
常棣深懷喜不眠。

宗室吉安正所書墨梅四幅李長吉請賦題四絕

人騎箕尾孰調羹，  
巖壑終要遁姓名。  
知己屈平騷見漏，  
兔毛唐突弄吾兄。  
只畫梅花不畫蜂，  
王孫素在雪霜中。  
傍人錯把無香看，  
不識枝枝亞北風。  
眼昏衰境隔如雲，  
鴉鵲前飛且不分。  
况復假緇天下白，  
熹微渾落杏花羣。  
踈影依然在竹籬，  
晴窓相對撥寒詩。  
吟魂故故尋花處，  
借作江南臘月枝。

夜得李應教希騫宿龍眼驛之報走筆書二絕寄意

漏板丁當夜二更，  
頑雲暫罅月微明。  
鈴奴忽報來郵卒，  
始識長亭宿遠行。  
叮嚀數罪慶迎樓，  
管領繁華底處輸。  
還使玉堂天上客，  
獨眠孤館謝風流。

堤川東軒口號

行穿詰曲路高低，  
往往黃熊有樹棲。  
山雉將雛遊後圃，  
洞麝隨母度前溪。  
主人晏起無鈴牒，  
官印長封帶綠泥。  
吏不慣賓驚我至，  
庭參顛倒失東西。

麝疑

七言近體錄似東湖讀書子

晶晶東湖碧浸天雲山十里遠嬋妍魚龍鱗鱗吟窓下草樹輝煌灑筆前雨露精神儲養密  
芝蘭日月長成偏文章不數梁園客元氣蒼茫入大篇

弘文館水精杯

初出丹宮品絕奇金莖露氣帶淋漓依然秋水凝成質恰似寒冰斷作肌擊迸月邊渾不見  
酌來花下最先知君王賜此勤相勉玉德銘心涅不緇

權員外景信父歸寧安東告行於鳳山居士就賦六韻律爲別

具慶人間樂花山隔舊村君王先孝道省謁出天恩內藥擊分賜歸心拱至尊冥冥江北雨  
去去嶠南轅一葉秋期杳周行別恨屯平生持信字此外贈何言

雲卿父數書問詩以爲答

西郭慙勤問客居玉堂連枉故人書幾年因病詩曾廢今日逢君興欲據歲月隙駒非把弄  
功名畫餅莫躊躇東湖十里饒烟景載酒蘭舟縱所如  
鬪雪南山今十年中間人事屢翻遷一生但嗜詩書雋浮世非貪富貴羶落落壯心如劍戟  
迢迢歸夢墮林泉文章敵箒真無用論價人言不直錢

題逍遙堂排律四十韻



赤縣陽川境臨流翼瓦孤茸茸髡草莽澹澹控江湖地幸輕餘子天終借舊儒東華超宦海  
綠野就名區納納重溟近庚庚疊嶂紆浮沈通水道游泳敵魚途勝事連朝暮蠶埃去郭郭  
桃源遐壤拓鑑曲一奩鋪北斗猶迢遞終南忽有無潮聲鏗別浦波色閃歸鳧九萬鬪鷗背  
尋常睨鷄楡孔巖終不見莊叟遠爲徒漁店腥烟起田村醉叟呼白沙銀世界礮石黑珊瑚  
蠶嶺王孫媿鷗亭上黨吁逍遙真得所出處孰同趨本好龍門客仍將鳳穴雛筍輿乘暇沐  
紗帽縱懽愉檻外颺颺鷓鴣簷前濺濺鼠半山排案俎秋壑闢樽孟氣似軒冥漠身如坐畫圖  
玉盤分內膳黃帕賜宮壺萸菜羹香滑鱸鮮膾腹腴奔飛粉屋驪舞吐神珠綃杼聞鮫館  
魚梁見國祖湘妃鏗帝瑟漢女唱巴謳花月窮良夜薰風滌畏敲葦葭秋浙瀝蘭若雪糝糊  
四氣自相奪高懷何處輸睚眦捫鰐窟凌厲遏雲衢鸞騰詩筆鯨吞倒飲瓠古人元尙友  
俗輩是庸奴簪紱身雖染林泉志敢渝朝廷須輔相班序故踟躕有分回青眼非才扣大巫  
願言粧釣舸他日繫堂隅

書沈博士松都錄跋

崧州王氣東南移天意不貸螟蛉雛花園蕭瑟向山河衰蘭送客知幾秋尙書昔縮留後印  
三郎鳳趨而鸞武八角殿前立軒昂點筆睨靈光賦上下五百年間事然犀牛渚何歷歷

峨峨二山顧眎舉夸娥脫手皆辟易瓢淵幽窟捫蛙宮神物叫訴劓穹蒼玉皇含笑不敢怒  
雷車隱隱瓊笈携來久秘城南村夜夜異氣干斗魁一朝跽奉容齋翁海內文章驚再回  
鳳山居士才魯莽側窺一斑駭汗瀉斯文蔡兪先著鞭九原儻起爲君謝

香雪堂飲用孟浩韻

客來晴亦佳客飲雨亦好且看酒霏衣莫怕泥灑道春杯凝琥珀冰椀凍碼碯秋荷掩小塘  
野鷗眠荒島晚郁靈均蘭盆碧瀟湘草我歌爾諦聽爾觴我健倒扶桑儻作筭天下終堪掃  
不然入醉鄉麴君永相保

城西觀水漲三十六韻

皇帝十五載秋七月初七四海忽同雲霧此黃道質殷殷南山雷雨脚大如椽打屋瓦自拆  
缺地石欲穿若卷鉅溟海倒注無留停冥冥既于日陰氣何亭亭今晨倏小霽始睹羲和光  
遂拉朴時賢試攀城西崗再拜扶桑曦喜絕終不腐徐徐矯余首或昂而或頰觀者傾城出  
蟻附堞若巒同波嘆缺陸截然尊他山東江湧兼天青門泓水溝垌牧盡木末箭串靈洪流  
錦坪與麻聚遷化空桑湖老弱隨急湍孰借千金瓠常時楮子鳥凸出百丈許中關內菜圃  
畦丁雜男女今入汪洋中噉啾魚腹魂蕩剔豆毛里吹破楊花村白屋浮江來人物騎其上

痛哭天欲裂乞命誰蕩漿怒立長青蛟蚪走飢白蠹浪蹴黃祇吼崖岸擢坡陀乘陵仆蠶嶺  
立石俄擊碎黔首半龍窩鷄狗在微瑣舟大獨奈何三老真懶翁手長亦不援親戚胡越同  
穢濁猶蓄縮瘳颯且亂颺君王最聖明堯眉嘖昏墊下書諭八道推檢溺戶聞惻旨宜感激  
那忍閣不問 獻祖傳世九人言無此灾皇靈不自悔屏翳重徘徊

秋霖嘆

朱夏早既甚白秋雨亦苦一年二極并我未知其故無人補天漏千門雲氣中誰能煖寒厨  
屢屢嘉乃功幽幽黃道霾陰風自蕭瑟借溫手頻呵雷公來叱叱旱餘蕩萬寶生人終奈何  
郊外沿江聚變成空桑河不惟小臣嘆九重嘖昏墊願奉大明出頓令屏翳斂

雨後賦近體一律呈閣谿學士

夜來靈雨刮天炎清爽今朝裊帽簷何草不忻舒舊卷遠山如沐露新尖解衣留當南坊酒  
呼管分題北肆縑終日待君珂斷響客窓愁坐撚唵髯

次敬仲韻

少年從學建春東金石交情未有窮但恨天倫終莫並偏教棣萼久成空幾乖樽酒青燈下

長在烟花紫禁中前日泛舟江上事自多談笑偶然同

敬仲伯氏早世  
故韻聯及之

籍甚才名震大東，超登汗竹亦無窮。堅持議論終歸當，獨把詩書惡鑿空。蒼鶻欲驚秋月外，白冰猶炯玉壺中。退憂堂下滋蘭地，時讀騷經與孰同。

復次蘇彥謙重惠韻

掣然儒術謀身拙，末路艱辛抵百窮。海上有山堪問道，人間無策謾書空。冥冥一鳥白雲表，唧唧繁蟬西日中。賒酒盡傾三品祿，醉鄉愁與樂雷同。常慕蓬瑗六十化，功夫每日做新奇。風騷骨髓曾知味，洴澼淵源又得窺。簞食不妨當具體，口珠終亦召撻頤。冥心返照尋元極，閉目明窓百不思。

次逍遙堂浩叔韻

體物寫謀真，不俗江山從此最。知名垚垚沙背棲禽語，櫛櫛蘆花落景明朝罷。右螭關愜興，去携馴鶴散幽情。却從野老來爭席，匹馬誰知宰相行。

清絕世間寧有是，狎鷗喜雨未全奇。金魚繡轡省中事，野服籃輿休處時。江水江花如娥媚，漁翁漁姝不驚疑。菖蒲石上殷勤護，分我靈苗制鬢絲。

狎鷗喜雨皆亭名

秋雨嘆次稗圭韻

四海同雲不解屯，秋天滂溢抵兼旬。決明三嗅臨風泣，老杜千年有幾人。

床床屋漏遍蒼苔雲氣千門撥不開白日昧幽何處覓愁來健倒濁醪杯  
三江黃漲剝田毛雷在南山隱隱豪聞道蛟龍狂入市衰翁提劍據床高

八陣圖吳體

臥龍驚起應時須隆準雲孫困一偶陣成八法沿江布身奮孤忠挺劍呼癡兒只解妖蛇勢  
妙理真從易卦圖人事坐看功業半可憐天意忽崎嶇

題學士院山水圖

病眼明如刮江山到玉堂夸娥落畫手天地入毫芒帶雨千峯暗含春萬樹蒼森羅移島嶼  
妙絕動帆檣沙草寧知雪巖花不見霜歸僧上蘭若漁父下滄浪斷嶺猿孤坐平洲鴈幾行  
烟光分慘惓波樣繞微茫合掛幽人室真嫌侍讀床豈無無逸本持此獻君王

效東坡四時詞

繡簾重重粧畫閣花影冥冥紅錯莫鳴鳩乳燕嬌青春戲蝶遊蜂各自樂脉脉無言午漏移  
宮車隱隱下天遲鏡中妾貌渾依舊怊悵荃心異昔時

含桃薦廟詔分賜槐葉冷淘香熨齒龍舟避暑白蓮池迢迢不到黃門使愁立還停刺繡針  
黃鶯時下石榴陰菖蒲花發重相見且莫輕拋買賦金

西風蕭蕭木葉下  
踈雨點滴元央瓦  
白鴈酸嘶沉瀟天  
畫梁歸燕先知社  
洞房如水夢魂清  
淒切遙聞玉笛聲  
一種蛾眉今夜月  
悲懽咫尺大分明

南山栗栗玄威厲  
六出濛濛弄溶滫  
梅繡芙蓉壁房深  
水沉金貌烟縷細  
君王特賜辟寒犀  
宛轉題封濕紫泥  
凍解玉樓春自在  
手勻脂粉奈孤棲

旅舍聯句

皇明正德乙亥秋同金君淨上書請復今 上廢妃慎氏省憲交章請罪 上怒甚遂收繫

將加極刑一二十大臣抗義營救分隸湖鄙及丙子夏國是定宥釋從便冬復資  
叙與淨拜司藝祥拜僉正俱還朝越明年春母年八旬求外養得順天府將辭  
而南友人柳大諫雲從龍李提學彥浩養冲金執義希壽夢禎金舍人瑛英之  
蔡持平忱仲孚尹正郎止衡仲平各有携會終南旅舍餞別夢禎仲平徑還四  
人獨留劇飲賦聯句二十二韻夜分罷粗叙顛跋以紀一時離合云

欲別話懷堅一坐相逢開酒侑頻斟龍從韶華晚春將盡客况淒涼病易侵世昌身有展禽三  
黜道囊無伯起四知金龍從陽山放逐思非淺宣室歸來澤又滌世昌翻覆莫揮雲雨手勁貞終  
保歲寒心龍從江湖廊廟同憂思經術文章與討尋詩拙未賡嘉樹賦興酣輕擬角弓吟世昌大

材於世難爲用苦淚逢君不自禁龍從白髮十年勞遠夢青燈孤館喜朋簪世昌舞簷漠漠飛花

影歌院寥寥好鳥音浩彥二十驛賒憐去路兩三人會惜分襟世昌亭亭漏箭移更數袞袞樽泉

迸醉淋龍從禮樂可同虞夏古君王難得聖明今若培僊李盤根固當護猗蘭結本深世昌竊食

肯隨弁彼鸞蘇枯堪作霈然霖世昌鳳來紀曆翎猶舉龜出呈書足不胘浩彥志切彩裳勤黼黻

情孚呦鹿共萃苓世昌叮嚀此夕登詞苑迢遞明朝阻德林龍從寬却國租蕃海橘了他官事御

堂琴英康州接壤蔬蒼筍鶴洞連城餌紫蓼治就亂繩慙薄劣老侵斜景見蕭森世昌休懲乙

亥章成案再刖何妨獻六箴字仲

和東臯子盆竹五絕

蕭疎雖穉小強項歲寒姿紅白休唐突春痕不可緇

盆口寬洪澳猗猗且幾時北風欺短弱終日盡情吹

拭眼虛心客蓬蒿雜草中晚寒當碧玉踈雨煮烏龍

根本從來固干霄早出頭晨朝欣白露蒲柳不同秋

花遲終不實飢鳳啄蒼苔枯槁留遺枿青青覆幾杯

秋晴七言律贈蘇彥謙

晴日溶溶替戾崗照吾塵檻自扶桑終南萬丈金鰲碧象魏千門鐵鳳光君對小廬看瀑布  
我依西郭曬詩囊新篋倘上松肪酒爲遣飛奴喚客嘗

謙築仁王山下傍泉瀑擬廬山  
號其堂曰小廬故五句及之

秋霖嘆代人

庚辰夏不雨秋  
七月大雨十日

赤龍貪權不肯歸餘威欲燒秋苗盡白龍最屬出兪官吼氣九萬鵬界震檄召黑螭來助勢  
倒卷北海無遺滴一旬搏戰玄雲衢怒背觸裂補天石呀然嶽目漉波網銀河和作神靈雨  
扶桑以西鳴江東床床誰復依戶牖桂不可薪玉不飯人烟蕭瑟如寒食聞道沿江三百戶  
同隨濁浪相消息吁嗟不救魚腹鬼我稼盡蕩生者何我將乘風訴上帝捉囚二龍加嚴訶  
極無之罪在爾赤極備之罰在爾白然後下報皇極君一德督責執事百

庚辰八月二十八日 上觀稼出自興仁門駐蹕濟川亭試材官射過永渡橋

及秋踰雷雨驟至趣還宮

君王駿馬出江頭勸相秋郊試一遊金帛密陪褰鳳蓋羽林嚴扈樹虹旄復租南頓追劉帝  
稅駕桑田少衛侯雷雨只緣清蹕御前驅軍士莫深愁

贈浩叔時再入秋官

洛水之東曾釣鰲投竿終不晦英髦一身氣槩君宗竹餘力文章僕命騷吹面有塵空錯莫



缺懷如月自光高中臺再屈風騷手伎癢忽忽未暇搔  
撐柱坤維斷巨鰲誰知此志自鬪髡百年出處多迂策千首歌吟遣細騷三品祿饒賒酒博  
四株松在得朋高歲寒客舍無車馬閑坐思君首獨搔

次柳主簿成春遊白蓮社韻某於丙寅春遊留詩寺壁今十五年

南海耽耽納百川白蓮幽社擁靈泉少年鐵佛春前面老境香盤夢裏烟落壁棲鴉殘欲盡  
迷途徵士去無緣多君暫脫塵韁鎖歎段尋僧勇著鞭

塞門洞僑居感懷

朝日烘窓寒不颺窓前病客挹春光庭中鷄立狼爭食屋上烏踰飢啄霜宿火爐心紅玉爍  
晴雲椀面紫花香嬌兒叫怒催燒栗赤脚東隣貰米忙

尙州贈金都事匡復六韻

奇才湏大試萬里羣蒲梢嶺外重相見湖南始納交尊開山守酒手欠畢郎鰲朝日薰桃菓  
晴烟媚柳條浩歌無限恨危涕幾番嘲會面天涯少春光不可拋

風詠樓會席次韻

風塵長作客出處不分明情緒無多子形容太瘦生醉輸漁父酒談諱竹林清一笑相逢地

區區莫數名

謫居述懷

去年秋仲月梁獄訴幽情萬死投荒塞微軀保聖明  
莫言身是粟天地以爲腸醉眼渾無物青山只一芒  
涉冬及春夏蔬糲不求餘鵝鴨喧梁稻潭潭列屋居  
白衣從驛吏何識執鞭卑昔逐金閨彥經筵侍緝熙  
學仙悔無術塵白誤浮生也只縻公粟隨波不解纓

次困菴詩

赦書隨驛劇星傳南海孤囚喜欲顛始信風霆無竟日脩門重入涕汪然  
濛濛喜雨遍田園鷄糲東溪得意喧自是君王調寶歷區區蜥蜴不堪言  
今朝細看困菴詩七至功夫倍昔時袖拂塵琴擘入曲徐彈竹下更清奇

僑寓雙峯獻仲臨訪後佯問遣及庖需以詩爲謝

皂蓋雙峯訪禿翁封夷最屬雨濛濛石樓置酒談霏屑銅笛驚愁鬢做蓬萬卷未離溝壑辱  
三年纔出瘴海窮宣城去路回官燭留與晴窓月湧東

臺吏啣書扣桂堂三竿西日照蒼涼殷勤聞訊情重荷費勩提携物最芳蛙蛤久充韓子食  
瓊靡今補屈原糧己公茅屋資堪賦天棘江蓮不漏亡

獻仲酬我二律且貺倭扇以詩爲謝

妙語仍驚鐵畫書投瓜不謂得瓊琚雙峯落日高聲讀鬼物潛悲下太虛  
兩筵輕鮮製更新殷勤遠貺荷情人匹驢暮走東城下遮斷西風滿面塵  
耳從前月瓊無聞暫借蒲團坐白雲老宿旁看疑槁木蚊雷百萬謾紛紛

贈義宗

一宿寶林寺百年幽賞諧客懷夜復靜山氣春來佳晴日上陰嶺白雲生紫崖臨歧猶眷眷  
倍悵別松齋

和澗谷韻

客至少詩料春寒梅較遲滿庭青草合迷徑紫荊欹不須施剪伐留與看差池早晚秋風到  
黃花驛舊枝較一作校

后會真難又歸期莫恨遲討論箱可閱懽笑帽堪欹窮約安陶逕繁華付習池滿朝鸕鷀輩  
誰復問鷓枝

次彥謙酬勿齋見寄之作

世事休悲墨翟絲無心雲共作俱遲干時不用龍門策且哲湏看大雅詩孟浩勿嫌明主棄  
濠梁何幸故人知功名付與區區子李廣平生數本奇

奉酬勿齋見寄之作三首仍用雲字起韻效鳳凰臺體謝惠及仙蓼希和教

青雲自致步悠悠笑殺酸寒賦四愁玉佩幾搖西海月蘭舟時棹漢江秋伏蒲魏闕言何激  
擊鉢詩壇筆不休嗜好異人甘淡泊百年長物一狐裘

白髮紉蘭只此心高懷夙托故人深日斜庚子曾驚鵬鳳去岐山久想音玄圃未陪王母宴  
茂陵還抱馬卿吟數間破屋芳荷洞生死湏君儻一尋

溪山歲暮雪漫漫九畹秋蘭到盡殘床有琴書消日月門踈車馬懶衣冠一簞陋巷真堪遣  
長缺何人謾用彈炫眼夏璜方踊貴康瓠待價衆知難待一作持

仙門瑞草斷青雲萬本天涯幸見分簾泉煮出千年液玉盃濃浮萬古芬齒牙颯颯生精氣  
毛孔泚泚散俗氛蓬嶠眼中猶咫尺瞥然笙鶴擁靈君

感春短律二首錄似勿齋希和教

千門春氣暈雨滿漢陽城街柳忽饒色御溝新有聲酸寒偏逆旅書疏阻平生日江南路

蒼茫更別情

如何濡滯甚久不出王城春入晴窓睡風傳市午聲懶迎從客譴荒醉傲愁生又佩銅魚去  
休言少宦情

和之甫同宿寶林寺次天章父韻

山中宿客借蒲團夜醉松醪共岸冠如我不才甘鷓退問君何事卷鵬搏塵蹤蕙路慙多緒  
嶺月松又恨萬端金馬昔年虛待詔美人天際思漫漫

走筆書四韻以似聊叙別情希和教

明日分飛南北乖漢江官渡水潏潏一天風月雖無阻半榻琴樽可得諧楓嶽靄雲端着屐  
原州花柳莫關懷功名草草黃梁鼎好護詩囊托小奚

奉酬勿齋韻

往復恩讐不漏絲人間友道日陵遲彎弓懷懷逢蒙手伐木寥寥小雅詩遠害共遊麋鹿在  
無心同契月風知海南舊隱魂長逝窓外春山畫裏奇  
無端客淚玉絲絲萱背遙遙省謁遲逆旅莫歌長缺曲歸來湏唱白華詩江城渺渺時時想  
路埃堆堆歷歷知邁軸碩人留逸軌泌泉何日討清奇

握手方森刃欲推迢迢蕙若舊芳帷  
崗梧奉人堪愛嶺巖猗猗我獨知  
夫子去非由阡肉季膺歸似在蓴  
絲休官亦豈輕明主且爲江南白髮  
慈昨疑倚伏循環不可推  
三年鵬際矮床帷乾坤醉底寬如許  
日月愁邊藐或知帝袞敝章無好手  
扶桑收繭有金絲還逢斷髮拋章甫  
結社廬山問慧慈

酬勿齋見和之作

終南靄靄起春雲逆旅鄉思動十分  
征鴈一行還落莫樹萱何處獨芳芬  
輝煌白日方熙景颼颼狂風莫肆氛  
酒肉朱門成臭惡惟馨屋漏享神君

無人不有手翻雲密勿金蘭亦際分  
交佩向來遺澧浦杜蘅其奈拮江芬  
脩門樹木含春氣上苑烟華繞瑞氛  
青瓊洞開趁鷺列放臣重拜聖明君

憶昔黔南逐勞勞賦夢歸關河天愈  
縹風雨日無輝萬事霜添鬢三秋淚  
滿衣故人東海畔消息惟多違

一命承宣召脩門遂得歸衆芳時競  
秀黃道更揚輝北闕今朱紱南荒舊  
赭衣龍顏看咫尺追感久離違

偃蹇小山桂攀援終不歸祇今輕出  
處非實要聲輝猿鶴長冤月塵埃未  
拂衣久妨賢路要

求退敢遲違

天涯廻母使一束附當歸望裏雲拖白愁邊日謝輝幸能持府檄猶未脫朝衣反哺憐烏鳥  
從今莫遠違

故園寒食近春鳥正催歸老病元相伴容顏故減輝莫呈鸚鵡賦當着芟荷衣百畝南山下  
支離與世違

雪霽春長雨看看鷺子歸烟雲深錯莫花柳爛春輝把酒迎寒食輕身御袂衣風光知漸好  
逐勝可相違

君王恩愈大五馬以榮歸去去單車遠煌煌半虎輝草綿青似綬雲暖粲成衣隻隻雙雙堦  
江南北漸違

少年金石友携手誓同歸窈窕尋山翠徘徊抹月輝馬卿存四壁陳子却遺衣齟齬平生事  
狂謀動輒違

九原今可作君欲與誰歸絕赫夷齊子騰揚簡竹輝休傾漁父酒必振屈平衣木訥吾成習  
人情果忤違

子獨秦城老江南我首歸百年心共契千里月分輝侍讀含鷄舌防秋試鐵衣何時松廣寺

相就話賸違

奉酬天休韻

瓦江連竹浦波浪自相通一葦西風便端期月下逢

大唐中興碑

金蛙本欲作黃虬王母如何不遣收劔閣翠華悲落日鳳翔天子撫中州虛殫老將焦頭力  
自棄忠臣曲突謀功業莫誇龜背石祇今活水謾東流

遊迦智山

五百青蓮窈窕宮三千圭竇懶踈翁談懷袞袞移春曲打酒連連鎖晚風龍去幾年池盡屋  
鶴來無數石皆松戀深桑下歸途滯端合留詩謝遠公  
青鞋布襪訪琳宮五十人間白髮翁危磴欲摩朱雀影亂雲爭送紫巖風石欄點筆吟天棘  
龜背看碑剔瓦松明日出山雲萬里可堪回首憶旻公

贈仁雲

迦智山中寶林寺一方清致開江南東京棟宇千年跡上界龍蛇萬古龕浮客轉蓬踈俗韻  
寶坊垂橐縱幽探迢迢蕙路明朝隔不似高僧駐紫嵐



逢孝直趙靜菴光祖喪

無等山前曾把手牛車草草故鄉歸他年地下相逢處莫說人間謾是非無等山前曾把手牛車草草故鄉歸他年地下相逢處莫說人間謾是非

說一本作莫話謾是非一本作萬事非

分手院前曾把手恁君黃閣落朱崖朱崖黃閣莫分別纔到九原無等差出己卯黨籍補

訥齋先生續集

卷第二

訥齋先生續集 卷第三

金文谷編

詩

遊瑞石山韻贈鄭萬鍾

昔年曾謫永平官無等山雲借登攀念佛庵中成邂逅天王峯上與盤桓南州五十彈丸小北闕三千咫尺間衰病日加深閉戶再遊那得到層巒

次尹正郎順卿韻

青華倏忽抵衰年日月眞同蟻磨旋大抵宵人隨勢變從來君子到窮堅晴江碧石春相賞綠竹紅梅醉共眠白首導官遲八拜蓬山何處問羣仙

原韻

尹之和順卿

甲角交遊五十年幾回契濶幾周旋可憐舊識如星散不負初心似石堅載酒春遊曾赴

約挑燈夜話未成眠更休騎鶴楊州去同養天和作地仙

北斗南箕問幾年而今相見卽言旋伊周事業行猶近管鮑交盟老益堅花氣滿堂薰晚酌雨聲連日惱春眠隋珠在掌難堪握字字吟來骨欲仙

押前韻演爲二律奉呈尹順卿希和懽懽

江上同遊丙戌年臨流不去久盤旋僕夫韉馬歸相迫鷗鳥留人坐復堅四首惡詩還有累孤村中夜自無眠溶溶瀉碧何堪洗他日持盃酌水仙

昨辱佳詩韻押年句中辭義兩回旋固知雲也鳴金退惟願君乎守壁堅窮巷客稀春鳥叫小堦花重畫貓眠招尋有約慚相負更待申朝謝謫仙

明公詩格重當年好句彈丸幾許旋琴鶴相隨身共老弓旌不赴志彌堅茫茫苦海誰回首黯黯春風獨自眠何用別求塵土外人生適意卽爲仙

尹順卿

狂歌浪詠已忘年豈料晴陰月屢旋漸老更思行不健多閑始覺坐能堅松聲帶雨驚人夢春色衝寒着柳眠碧石晴江眞勝界何須乘鶴伴神仙

又疊前韻

春風送別屬殘年同社相邀路左旋韉馬發行今已迫班荆留待更須堅林間雨過春塘漲

草際沙橫野雉眠松子取燒湯美酒座中誰是飲中仙

次尹順卿韻

清詩諷策不投閑字字看來愧滿顏落珮倒冠多仄步栽松養竹有深山晚將老醜隨人後  
寧免譏憎遍世間方朔含章趨執戟雲林見一亦云難

原韻 奉贈訥齋京行

尹順卿

莫道功名好是閑寸絲無補亦何顏大鵬有翼徒南海老鶴無言在北山導佐聖君書半  
部懂生塞士屋千間行將慎策長驅地百尺竿頭穩步難

祭訥齋先生文附

林石川 億齡大樹

夫子山川之英勃興維揚春陵霽月闕里秋陽嘗其餘巧奮發乎文章薄遊於梁盛之玉  
堂汲直如矢漢庭眼白一麾出守實是棄擲孔鸞非棲棘之翻庖丁豈割鷄之手縱使百  
里絃歌詎吐胸中之有竟無宣室之召徒有卽墨之毀思歸元亮戀闕子美夢作白鷗江  
水黏天引之入朝誰爲續絃一朝落井又下石焉天高鬼惡白虹貫壑善人亡矣不肖者  
之躐也門下侯芭求益自童絳帳臯比循循擊蒙以管窺豹時見一斑暮年彌高實過建  
安落筆庾樓河海橫潰世果以是之爲恠兮爭驚走而羣吠水清石見豈以口舌之紛紜

藏之名山後世必有子雲厭時世之溷濁去修地下之文懷端木之築室虛叔則之曳笏  
聞隣笛而思舊慟傷心而折骨遡西風而奠菟庶有徹於幽墟爲道躋與國悴非敢愛其  
吾廬

悼訥齋詩

修文泉路永草記帝鄉遐好古常憎俗居官不顧家是非今日定江海向來多樛月年年  
滿悲懷詎有涯

書烏林驛壁 在永平

前朝陶隱竄今代訥齋飄賦鵬同庚子哀秋續楚騷身雖魍魅伍名與斗山高有客懷椒  
醕題詩擬大招

拜酬申靈川 潛

孤峯先去豈無隣握手應同在世頻毀譽暫時何異犬聲名千古凜如神九原未起悲長  
夜百草無情又一春七八年來頻入夢鳳山長望白頭呻

鳳山訥齋所居  
孤峯冲庵一號

挽訥齋

申靈川 潛元亮

歲至龍蛇日英賢此殞身西州人痛哭東郭馬逡巡伯厚何清烈馮君更惠仁文辭小子

短何得寫光塵

泉路人何遠江臯落木號悠悠空宇宙落落幾英豪句法秋山瘦名聲北斗高如何枳棘裏王事獨賢勞

才行人倫表訥齋千古名生時空物望死後見羣情陳跡金華省修文白玉京丰儀雖不見萬古想精英

白石青楓泣楚纍十年羈病有誰悲酒錢多賴蘇司業詩句頻煩杜拾遺異域忽逢傷往日窮途偏感助生時受恩知己俱如許悵望歸雲淚更垂

蕭蕭風樹忽成悲人世光陰去莫追難弟難兄二郎在能文能武一時推誠懸魏闕飛雙寫化洽黎民頌兩歧可憐堂堂醫國手只令雲水弄清詞

伽智西溪憶舊遊清樽白石興悠悠風流正似蘭亭會勝事還如赤壁秋遷客此時虞骨相使君當日謝宣州談鋒健筆渾如昨苦淚滄江浩不收

萬古遺風不復聞如何夫子獨清芬悠悠事業空齎志落落文章早策勳芳草沅湘思魏闕凝香燕寢事天君人間自是區區小寧逐飛仙向白雲

斯人何事早云亡天上文星已暗光虎脊龍文添氣力雲斤月斧琢珎腸死生人世雖常

理禍福乾坤孰主張痛哭西風無限意夕陽長望薦汀芳

贈林士遂亭秀

金河西麟厚厚之

生平少知遇訥齋吾子期不知馬牝牡安問黃而驪聞訃庚寅年酌墓已四春君名聽亦  
久今日是新知感愴爲先生十載淚欲垂試磨黻川墨暫寫薄命詩

訥齋見河西謂人曰自古奇童無令終者  
惟此人當令終也人謂公有知人之鑑

奉和訥齋先生韻

宋俛仰純守初

先生癸酉甲戌年間出爲潭陽府使余與鄺公萬鍾師事之平生稍知  
向方專賴導引之力及其晚年爲時論所斥不容顯列爲士者感惜之

人間空覺鬢毛斑天上難教日月還縱欲一時開遠目登臨誰復借前山  
浮生天地一高歌不管長安富貴家獨向世間尋直路晚年歸致問如何  
一世雄文自不多相逢誰許草黃麻七絃老手空凄斷千載猶知憐伯牙  
茫茫前路昧東南函丈從來樂且湛不有清風吹我過一生那得免昏酣

奉和訥齋先生贈僧韻

時先生被  
斥在鄉

抽身危逼解微官斷壁延蘿復躡攀穿石老聒爭忽忽隔林雄虎尙桓桓遠望直屬長雲  
外寒景偏熹短峽間虛器太弘嫌闕障疊峯何事敢衝干春留舊谷忻松檜秋晚東坡惜

荳蘭遊覽欲據幽思盡孤筇終夕最崇巒

訥齋先生續集 卷第三

詩





# 訥齋先生續集 卷第四

金文谷編

## 序

### 聽松堂序

今 皇帝紀元嘉靖之五年丙戌春余自古昌化軍見代竹使入漢中僑舍亡友李幹之第  
白岳之第二麓也隣有僞俗之士成守琛氏卒大憲某公世思肅公之嫡子也余嘗爲大憲之  
幕客從事於江南知待頗腆往來門下非一二所亦子弟之所熟視一有故守琛氏頻頻過余  
不以衰敗踈外因修世好一日邀余於書堂無說可謝直造其所則背北山而面南嶽蒼松  
林立綠澗帶流菴寮如也幽僻難形前臨先相之宅乃守琛氏養病切琢之地也叙話良久  
守琛氏請余命堂遂以聽松二字塞之曰環堂皆松則其色可觀矣其節可尙矣然色止於  
翠而已矣節止於苦而已矣聲則無方曰雨曰風曰霜曰雪相旋爲韻律不已一晝一夜一

寒一暑調亦推蕩無端其洶若江河殷若甲兵者濁乎其聲者也細若琴瑟高若笙簧者聲於清者也冷然泉瀉鏘然玉碎者和而平者也嘈嘈如呵叱激激如叫呼者奮而怒者也夫松莫然削然一無情植類耳其清之濁之平之怒之皆出於虛無中而不假於人爲君子聽之可以通靈於造化可以契妙於鬼神非若八者之器必鳴於人手之私也蓋自然之聲初非出於蒼然者也因蒼然而求之於自然因自然而求之於造物因造物而求之於太極其所聽虛而又虛天地一指萬物一馬其樂不可以言喻其學亦不可父子相傳授也况吾與子乎聽松之說止於此矣子默而會之有餘師矣言之不足足之四韻

誰卜蒼山第二枝肯堂今日待佳兒亂巖後歷千層秀幽澗前臨百尺危通客假橋橫一木

補虛新柳長繁絲松根好酌松肪酒莫遣奇方報太醫

先生於堂邊鑿一松爲窪以釀酒

學干無意坐沉綿黃嬾頤神榻亦穿松露灑窓和硯水山風吹戶濕鑪烟市朝門外空喧開風月堂中有定禪行藥巡簷時矯首終南將雨落詩邊

居近松林也不貧四時絲竹奏晨風來度曲還無緒雨過調絃自有真書裏舊傳三籟譜耳中冥會八音春都城幾處喧歌吹脉脉無言對俗人

只今文獻說昌寧不受籛金受一經萱草老莖香此背荆花高樹照中庭可嫌舊客頭霜白

猶借通家眼海青談洽移更山月上滿窓松籟與清聽

送解空上人還無等山序

歲火鼠之仲春訥翁塊坐樂天堂讀禮記曲禮篇日過高春有老髡荷破衲扣扃請謁迎入上堂評確理源頗無疑礙遂相視而笑莫逆於心若海內習鑿齒之遇彌天釋道安仍諗曰爾所守何曰無而止曰所謂無者何無其身乎無其世乎今爾上戴圓頭下運方足聲乎耳色乎目飢而食渴而飲炎而葛寒而絮不可謂無其身也仰冠天俯履地資菽粟於人避風雨於宮夜寐晝動羣居類從亦不可謂無其世也曰無吾無也我其無無身無無世乎曰無何在乎曰在吾心耳曰既名曰無則固不可謂之無也請辨之釋氏之所謂無卽吾儒之所謂性也天地未判之初未嘗有形也未嘗有形則是一團無極也故無極而太極太極動而生陽靜而生陰分陰分陽而兩儀立焉人於是受天地之氣以爲形受天地之理以爲性性又性原其初則實生於無也而性寓於形之中其五蘊六塵皆肇於形乎形之所以攻吾性如此其多則其與存者幾何能返於未形之天不有吾耳目不有吾手足卒至於無聽也無視也無動也舉一身而無之則爾乃一無極也耳能聽於無聲目能視於無形合其明于日月合其靈于鬼神豈不偉哉此難授藍鷄輩聊爲爾粗言之

白日度西嶺林梢動暝烟明蒼關一氣出入檢吾天蕙路春將半松窓月欲圓飄飄催去錫  
無等插雲邊

光州鄉案序

吾州之座首金叔讓別監金敬寶薛崇价別監柳子華簡誦齋曰我朝鮮受命以來倣周卿  
大夫之制州與府與郡與縣與設留鄉所以鄉之有職秩名望者補其員長曰座首亞曰別  
監所所攝之公事長主之而亞佐之長不可顯也亞不可擅也所以耳目於本官而司其聞  
睹焉又於都下置之邸以管各邑之鄉所而在朝之士姓或寓居者爲之隨其品級之崇卑  
而有堂上郎廳殊稱焉夫所謂邸者如西京徹侯朝請之邸舍而文皇帝自代邸入主劉璽  
者是已然則鄉所與京邸相爲表裏而鄉所之統京邸如縣之事大府京邸之待鄉所如大  
府之制小縣上下相維輕重相校其來久矣是以求署邸官者猶夫求辟鄉所也本州自徐  
伐國之置都督歷濟迄麗遂泊本朝雖沿革之循環而世爲文獻之邦豈不徽哉雖然利所  
在人必走襍之故短褐瓊夫一朝而擲千金之權則百家之市無寧居者利在千金而不  
在夫短褐也今夫爲員於鄉所者貳邑長而尸一鄉之權柄里胥之所俯伏而聽命矣閭井之  
所輒應而附威矣大則賦租備調之亦罔或搖其利之茂弘不止是而人之視之者若短褐

者之千金此則所謂鄉所者美一鄉趨競之別種利權而行胃臆作威勢於其間誠非國家  
樹置之本旨也是以馬醫夏畦之族籩籛戚施之黨夤緣旁請猥受差札則乃比黃麻之拜  
除內必誇談於妻孥外必詡傲於人人心自語曰某鄉吏可詰某事醜我昔素之隙也某里  
胥可追某釁報我造次之嫌也於是乎交蹀城郭偵謁君侯狘瞰顏色狙若揮使言薈淑不  
應捷於響施渾義悖讚之如流嘘我宿灰而擬燭雲焉決我濫觴而望襄陵焉以闕看爲之  
精神以向背爲之變通戚或莫之吊也喜或莫之慶也經營溪壑胚茁寬胞陰殖鬼蜮借月  
朝而恣邑吠翕鴟翰而鷹鳳味或鴿原闔墻而加諸人以終鮮之刺或床禍反目而責人以  
綠衣之詩襲蒸豚於竹林而嘆棘人之不見懷伏弩於馬陵而稱下泉之元伯鑽核飲羊而  
曰彼愧拔葵也吮癰舐痔而曰彼甘拂鬚也以衛青孱派而抵王謝之閥以枚臯分支而抗  
崔盧之系顛顛自得兩手攫取苞苴曰我門淡泊如水也啞咿謀漏徭稅曰我性慷慨奉公  
也至於聞鷄孜孜者私焉利焉而止而盃酒之微潮迅唾毗錐刀之細颺激訾訐首矯癖而  
後辭裘襜比黨而笑不同公共之義財義田例視青氈撥無贏筵必曲而席必密詭黜倡  
優坡肉河醜雷殷牙頰狠伺部長仇睇薦紳毒鏃潛發霜鐔暗飛有識者之遁避也若參乎  
之勝母翟也之朝歌誰能景仰而遷喬乎列城滔滔而吾邦且甚朝廷之嘗議革罷者不亦

是之懲也某俱僉父曹也際承板蕩叨具厥位蠲慮刻志思出尋常庶譽叔禮而未得其方  
楊子雲曰鄭衛調俾夔因之不可以致節韶矣固宜彗舊摛新罔或沿籍乎在昔里胥之怙  
十惡者必抵以法而不用邪貸士民之離八刑者必摘以實而不小私構死喪相赴疾病相  
訊喜吉相慶患難相恤送來迎往鷄豚春秋又不可闕一而自我作元綰名楮板使後人知  
某也爲別監永垂恒式焉子亦州之裔學身任翰墨盍叙之悉乎訥齋辭曰吾嘗出位評國  
困孽周行萬死投荒幸保聖明懲羹至矣敢又撩蛇虺於桑梓耶再扣之略不休則曰匹夫  
而化鄉人者蘇老泉有是說矣夫然後知員鄉所者之殿一鄉也猶流之有源也猶影之有  
表也猶網之有綱也猶裘之有領也源清則流必清焉表正則影必直焉綱舉則目必張焉  
領挈則裘必順焉理之然也若夫撻剝所莊之恕而悶昏蠢之未曉者譬若濶其源而惡流  
之濁也枉其表而恠影之曲也失其綱而患網之紊也截其領而疑裘之倒也天下寧有是  
哉昔王彥方一處士也而化奸宄爲君子而不捨道之遺何蕃一學士也而叱六館之士而  
不從朱泚之叛借使王何之輩生今之世居今之俗而處於鄉大夫之任則二代偷末之習  
不終日遷革而雖有煽亂如朱泚而人或動不必遺布勸善而跼膽變爲夷腸矧且不跲  
不泚者乎雖然問世之治亂必觀其人問人之賢不肖必以世考之孟子曰誦其詩讀其書

不知其人可乎是以論其世也蓋惟合抱之木不生於步仞之丘千金之子不出於三家之市也今也二三子莫非蟬嫣簪紱之後而龍拔鱗泥虎跳狐丘冀挽回其汚俗反敵軌於夷庚其用意則今日之彥方也今日之何蕃也是必欲人之廉也則捐金於虛牝欲人之恥也則關口於壺飧欲人之禮也則陽鳩之不忒欲人之義也則葛藟之不同俠窟輕薄思所以弭之則處以長者之淵塞豪白梗武思所以戢之則晴割斯頰之機心爲源以清之爲表以正之爲綱以張之爲領以絜之蓼莪白華之撫蹈懿轍而曾閔之範圍矣斗粟尺布之劬勞縫春而姜肱之被逼矣下位分宅則羊舌郈成之風斯達焉夫唱婦隨則白頭屢屨之歌孰廢焉死喪相赴以下之數事次第力遵而薄也歸厚澆也向醇東陵鉅猾慕夷叔之抗致蒲中縱毗希黔婁之卓軌號噉登於俎豆蠶訟息於虞芮刀筆桀黠自爾馴桑濮詖蕩自爾貞凶悍之區革爲鄒魯之域苟媮之習轉入胥陸之天居是邦而非大夫者無復莢也違彥聖而好不遂者無復鶩也詩曰無競維人四方其訓之四方且順之而况於一鄉乎而况於匹夫乎古語曰一夫善射百人決拾其此之謂乎如是而頑不卽者牒州主而究竟之謁邸官而評彈之大或黜異鄉邊途或作小或削損徒籍斯亦可也苟或內幽瑕類而圖工表襮則雖日撻里胥之驚逆而求其齊衷必不帖也雖日擊衣冠之蠶悖而要其馴勢必相倚也莊周



所謂化聲之相待不在此耶人將曰是同浴而譏裸程非愚則惑矣且也謄錄姓字以傳於世則後之歷數者必曰某也訥某也詐某也溫熨某也奸甚某也羊質而虎皮某也言姚而履跖也豈不凜凜哉 正德丙子仲冬日訥齋真逸書

## 記

### 念佛寺重創記

正德乙亥秋訥齋與冲菴上封事請復愼氏爲后旋被臺評俱遷謫訥齋編管子永平縣是年冬十月携鄭上舍鍾遊無等山抵念佛寺有僧名慧雄者前而告曰昔江月軒師得此土相度乃周擁者踈之穢者蠲之荆棘茅葦然後向之幽者顯伏者露天若增而高地若闢而廣仍構蘭若若干檻几席不徙三方山水盡效其技遂名于茲山廢焉而興舊焉而新垂百餘載屬者風雨爲寬龍象爽據欄墜棟圮瓦落人寰青眸白足未嘗不恫楚于衷焉貧道縮節囊鉢希續江月之緒檀施者亦多有之甲戌仲春倩工始役月七穀而功訖洎乙亥

檻舊作檻

巔疑顛

春暮章綵之浹四句亦就究乞錄巔末以備後囑敢扣頭請訥齋辭不獲則曰堪輿弘莽物之疑弊相禪有成與虧故昭氏之鼓琴也無成與虧故昭氏之不鼓琴也然其中貫成虧而

歸然獨存徹凝弊而確然不移者吾與爾所同有也若夫物之云云則不足驚也爾菴也初于古而終于今上下數百年間世代之遷革家國之興亡亦萬萬不同非獨爾菴爲然也而吾與爾所同有者無古無今無終無始求之斯得忽焉卽爽敢不勉乎昧者拘于菴額區區於念佛則是口佛而不心也夫心珠善種戒月悲花不爲牟尼而豐不爲魔夫而嗇爾又不可不知也冬十月訥齋書

### 重修雙清堂記

大凡聲於耳者人知其爲風也而不知其聲聲者誰乎色於目者人知其爲月也而不知其色色者誰乎是以其所樂也不出於耳目聰明之區區耳吾市津故宋公愉則誠得乎聲色之外者也其視聽之旣以心矣則又何外假於聲聞色窺而寓諸堂哉然堂之作所以爲公之世非爲公之已也不然身之所之無處而匪風匪月豈特七間軒窓也蓋公之志遠欲以此清上借于天而遺吾子孫以求吾之所得則必堂而標之爲器而載之然後庶有憑矣於是焉相隙地而起別區溫涼異其居使天地中公共之大藏分爲青氈上家傳之一物非得之聲色之外者能然乎是以公雖亡清與堂俱而玲瓏焉漱灑焉聞而耳悅之見而目愛之以迺夫吾祖考所樂何事者代不乏人焉今其曾孫前楊根汝霖克肖者也拙於進取而拙

簪閑

一作閉

舍已有年矣。逍遙乎其間，益知批風抹月之清味。就舊制而加葺，榑棟礎砌各正其位，而不見有腐撓欹倒之勢，亦可謂肯堂而肯構者也。雖然，天下之物其實者易致，毀敗而其虛者長存焉。如堂之爲器也，集衆材而成其形容，人力而收其功，亦物之最實者。宜乎日變而月化，時敝而歲傾，卒及於頽墜，而不一新矣。觸類而長之，以一堂而可以知一身之亦如是也。顧不慎歟！惟太陰之流華大塊，之噓氣則皆出於無而行於虛，故雖歷世不知其幾千萬古而未嘗爲老也，未嘗爲敝也。俯仰於此而察虛實之境，審吉凶之機，求吾身之所以處世，颺兮若風行之無跡，湛乎若過月之無痕，哀樂得喪莫不虛而受之，則有終身之樂而無一朝之患矣。若曰一吟一詠足以暢叙幽懷，則玩愒光景者之爲耳。豈置室之本意哉！假令吾子之曾王考氏復起，未必不以我爲知言之君子矣。嘉靖三年夏五月日中原朴某字某記

## 跋

靖節陶徵士詩集跋

右靖節先生詩集，康州湏溪本，不但文集之不具，而其所載且有闕失。是豈陶氏之全書耶？

余嘗得國朝李夢陽所校定詩文兩帙盥手百遍先生平生製作未必止此而亦可以見其大略矣圖壽傳於東夏盖有年矣去歲秋因都事朴君逢良復於監司孫相公仲敬請刊授學徒公忻然以允下符本州所管六州材既鳩而書未入椗孫相承召朴君見代今監司趙相公玉崑都事尹君澆續至尤加軫念簡一路僑工若干人優其稍食以勸課之月再覈而手以斷謁於戲誦其詩讀其書不知其人可乎知其時之不可爲則高蹈遠引賢者避世也宗國革易則誓死不出忠臣不事二姓也夫東籬采菊乃西山采薇之遺義而霑衣秦良則諷切反君事讎之微意存寄情荆卿則沐浴請討弑逆之鉄鉞寓所謂草中恐生劉寄奴落絮不與江波東之句非附諂先生而世不察以爲沉冥逃世睹其粗迹耳然則知先生者惟朱子不有綱目表尊之幾與頌酒之劉伶同歸放達矣此余所以汲汲求詩文鏤播庶使知者興懷而彼二公兩佐四君子之用力實未嘗不在是已覽者審焉 皇明嘉靖元年壬午秋七月上澣通訓大夫忠州牧使朴某謹跋

麟齋集跋

韓山李次野編集高王考麟齋行中散稿爲一卷題其跋若干言要余續貂余撫卷而歎曰一星之蔑見天之大一塊之小知地之廣君子多乎哉十卷法言不若歸去來一篇此一卷

詩足以了麟齋所造之極也夫知其可爲而爲之者乘時化者也知其不可爲然且爲之者一而棊者也方五百之會人天已徂而麟齋父子眷眷本朝之心砥柱於奔波不易其鼎鑊故投荒萬死之間奮乎情而章乎言者自不懷其松栢之實焉耳其曰廢興元有數則初豈不識其不可爲者也而曰北山將采薇則亦可驗其志之有在也然詩乃公之膚潤存或亡不爲之輕重而次野所以收拾於鼠蠹之遺餘者蓋愛其根於肺腑而凝於咳唾若覲先祖之儀容借寓羹墻之陳想矣嗚呼世有高曾蒼赤之券土田之契則謹穡而相戒勿逸而肺睡之英華委爲炷燈糊壁之資者獨何人歟獨何人歟余昔典秋城夢拜牧隱先生授一書嚙其半彼相後之百有餘年而邂逅於周蝶之境未知其何徵詩以粗記及今中原之日彼囑於次野就跋麟齋之錄前日之夢似爲今日發也雖然余之榛蕪何足以闡其幽而冥冥者若或託之昭昭者若或相之茲甚異哉 皇明嘉靖癸未季秋朴某字某志

## 祭文

### 祭神井文

尙州移牧忠州衙寢頽廢久僑處別乘之齋別乘則舍州司吏不便爲日遠

召老吏李叔孫授規模改構摠百餘間前食之井又填爲平地迤東數步穿  
得最寒冽役夫用廿三日卒功命學生簡守義卜日祭之其文曰

余受王命轉牧茲土故寢摧廢不可庭宇爰謀老吏撤而新之問神前宅旣習且夷改卜得  
地役夫奏功靡及九仞靈泉忽通源源日來天一效職星河落影其潔之食屈焉而直神亦  
有喜自今以往孰不受賜

訥齋先生續集 卷第四終



# 訥齋先生別集 卷第一

## 賦

夢遊

出六代孫森  
所錄遺事

余埃罪于支城兮秋又變而爲冬感時序之推謝兮悲束縛於棘叢俄再撫乎四海兮懷輪  
困之未據酌愁魔以羔兒兮揮堆案之文書臘景入余廳事兮冬梅忽其返魂對曜君以索  
笑兮平朝及乎黃昏滕六屑其瓊白兮恣陰官之桀酷浪自甘於黑酣兮羌孰周而孰蝶羽  
報滅以遐徂兮至無名而無迹遇洪濛於溱溟兮訊太初之首途策神馬而颺逝兮求氣母  
之所都維斗挾以導御兮瞻二曜之中開澤天分而異位兮屹崇華之崔嵬號雲將而前驅  
兮指三皇之攸居世道朴而俗醇兮民未有其室廬命僕夫以旋轉兮覲包羲而讌詞曰三  
畫之闢奧兮非瓮天之測窺願承藉乎發蒙兮叅聽瑩於至理帝乃嘉其重問兮推無始而  
有始夫苟隨其來心兮又豈愚之無師奉聖訓而辭陛兮書諸紳而志之退欲修乎初服兮



瞽不識其所如神農氏之詔徵兮待厦屋之渠渠阝耒耜之創制兮賀功勞之在民鳳凰鳴于阿閣兮報軒后之有辰試發軔而啓途兮左涿鹿而右轉荆山蔚其蜚雲兮悲鼎湖之告變抱遺弓而追悼兮白日慘其無輝訪汾陽之四子兮邀堯舜而依歸仰南面之崇居兮儼拱手以垂衣觀濟濟之羣臣兮環左右以吁咈入余跪而稽首兮究微言於精一重華贈以五明兮寶愈重於瑠弓下邃殿而曳裾兮驚滿袖之薰風次洛汭而逗遛兮龜銜命而來俛多胼胝之底績兮贊九叙於妣后痛賓天之斯遽兮紛上下而求索瓊臺軼其挽雲兮卑宮廢而不復投南巢而長吁兮吊奔王之亡國就景毫而贊謁兮慰聖人之慚德臣虺悉其嘉誥兮吾何敢於贅辭始翩翩而遠去兮載雲楨之委蛇探務光之所在兮付一慨於長洲顧又問夫商家兮變五百之春秋悼往者之莫追兮慕美人於西方勅募收以晨驅兮抵豐鎬而彷徨城闕盡其制度兮粲文物之極備款閭闔而大叫兮闔人爲余色喜奉臚傳以挾趨兮不覺立乎王所周公峩其冠弁兮寧后負其丹宸茲歷階以颺言兮評牧野之故事雖應順而濟亂兮得無嫌於大義比三分之有二兮果獲罪於二子王矍然其變貌兮輟前旒以申說初無心於革命兮猶興滅而繼絕封遺胤而定位兮建王號於天下苟不至乎反鄙兮奚必易其宗社惟我心之無貳兮實上帝之監臨伊西山之餓薇兮孰云會夫此心聆王言

而醒惑兮拜天顏而辭出渡澗瀝以云邁兮淡岐山之翠活恠俛仰之小頃兮續世事之屢  
移成康遠而澤枯兮幽厲興而禍滋九鼎遷于東土兮故都鞠爲黍離增悽楚之不禁兮折  
荆棘以催騎風雨暗於乾坤兮桓文起而擅盟盤紛紛其攘奪兮亦或競而或爭缺蹙蹙靡  
所聘兮脩山東之圯裂噫氣雷於嶠函兮奮陽翟之遺孽收兩京於一麾兮家六合而夸雄  
索奇寶於泗源兮驅萬夫以力窮壁纒獻於瀉池兮促軹傍之面縛見劉季之入關兮歡聲  
騰而周匝曰蕭張以盤旋兮首王者之規模反以我爲迂濶兮意專注於霸圖便背違以責  
遞兮棲商山之幽深伴黃綺以優遊兮臥烟蘿之清陰曾日月之幾何兮傾大器於莽賊隴  
蜀朋而虎攫兮穢氛蒸於海岳玉璽歸于日角兮整義師以濯征紉陶唐之斷緒兮挽銀河  
以洗兵乃投戈而講藝兮搜山林之淪棄頰弓旌以招賢兮襲騁莘之餘意斯焚芟以應詔  
兮懲薛靡之不至紆皇眷而昵侍兮頌中興之茂績嗟不承其權輿兮斥直臣以授戮懼微  
躬之猶及兮景哲人之掛冠釋冕紱之纏拱兮超蟬蛻於塵寰御列子之冷風兮止瑤琨之  
抄巔傍層城之嵯峨兮啖肉芝而引年麻姑羞之麟脯兮金母薦其冰桃援雲和以調徽兮  
甘玉壺之龍膏錯黃庭之一字兮微被擠於眞曹鳧舄反于下界兮雜裸壤之朋嘈值中原  
之多事兮干戈爛其滿目長蛇乘乎雲氣兮赤虬窮而處陸國三分而鼎峙兮傾中區以逐

鹿埃河清之無時兮將就食於益州慨營星之先殞兮大樹淒其帶愁審中途而改路兮覽  
風景於金陵撫龍虎之磅礴兮奇石頭之峻嶒行踟躕而傍眺兮朝代迭其廢興鬧黃塵之  
汚衣兮逢皂莢之料理望城南之佳氣兮忽隨風而掃地較數君之成敗兮眞及日之消息  
循長堤而南下兮覽汴京之紺碧繁華侈而寡仇兮壯樓觀之歧革問秦王之勇挺兮舉晉  
陽之兵甲盪委靡於湏臾兮破弘農之舊業握龍圖以向陽兮鑄貞觀之偉烈然劫父而起  
兵兮奉玄武之濺血曷垂刑於雲來兮祇自肇其禍基進無施其所學兮遂促駕而戒遲思  
靈脩之初志兮寧蕙苴以越趨歎汾上之無學兮于何往而覈妙幸景純之路邁兮儘精微  
而入要取靈著而熟筮兮議唐祚之短長原天地之盈虛兮兼人君之推商謂婦寺之奮慄  
兮交場仵而厥綱勢又歸於中乾兮覆神堯之宗祀私自訟而銘孟兮擬獻諷於李氏戒童  
僕以迅征兮希一售乎黔枝弭鳳於於未央兮墟洛陽之幾日三百載之經營兮餘故宮之  
枯竹擾兵馬之雜蹂兮信寄足之無所按驂駢以遄迴兮卷長懷之孰抒穆老前而罄折兮  
談往哲之悉舉武韋始以屠宗兮楊張終其蠱主禍已仍於閨壺兮孽又蔓於薰腐高監門  
之顛恣兮李元帥之狠逆魚程縱其狙謀兮陳蘇沾其梟毒旣自營於麟筆兮况快省於庭  
策宜弑隕之交相兮來朱賊以族亡語果吓於夙聞兮渙雙淚之盈眶睽五星之聚奎兮登

崇坂而遠望世幾變而爲宋兮混普率以春盎赫四宗之相承兮陶吾民以禮樂則韓范之  
尾列兮稍斧藻其衰職旋指黨而勒頑兮邪與正其倒植恨朝廷之日非兮遁西華而高視  
演圖書以指玄兮占行藏之吉凶花石鬪其奇侈兮艮岳蠹而排空峽脊著其莛恠兮鱗畜  
妖於牛腹金燼熾以燒天兮鐵騎飲於河洛易龍袞以青衣兮陷豺虎之窟宅精衛寃而填  
海兮無包胥之哭秦泥馬俄其渡南兮蘇重望於神人誓誓謝乎烟霧兮貢恢復之訐謨雪  
深恥於青城兮歸藝祖之金甌權奸瞞其天眼兮授髑髏于忠貞未及河而返車兮尋故溪  
而濯纓翫巖扃之昏睡兮咀水蔬而已飢外江表之安危兮不敢聞而敢知偶有人其我起  
兮趙氏亡於德祐言及耳而輒掩兮向北風而曩怒何左袵之醜虜兮盜帝王之區宇誠萬  
古之大變兮抑亦出乎人數彼故國之衣冠兮忍復受其鍾斧河山含其滓垢兮候明主之  
痛洗慶雲藹以絢空兮驗熙運之驟啓扶桄榔之老枝兮歷沆汙而躡躑皇明赫以朱世兮  
濯元戎之腥膻纘三后之正統兮恢幅員之九服民物新其革舊兮山川鬯其紆鬱矧聖神  
之嗣治兮積百年之熙皞拓燕壤以啓都兮據金湯之長保妥澣海而波帖兮靖玉關而塵  
清固既奉其筆橐兮說又和其鼎羹槐棘登其元凱兮扶公論之崢嶸華少去而不媒兮甿  
工遁而屏行擢靈草而曷搖兮立神缺而不動既棲集之無枝兮有崇崗之萑萑學天地之

扶搖兮刷鴻漸之羽翼叨添名於黃紙兮序當宁之採擢內豎錫以室麻兮充拾遺之清班  
披腹內之鱗角兮抗震威而忤顏非沽名之外鷺兮要祛弊而甦殘疇巧詆以賣直兮轉分  
竹於新安携家具以遷赴兮評潮陽之八千惜危蹤之無助兮悔不信之厚言火溢篋之疏  
藁兮庶幾懲乎曩愆形驟開而驚悟兮風疏嘯乎弦月徵槐安之吊詭兮此尤奇而難詰方  
其夢也不知其夢兮自以爲歷世變而獨立覺而後知其夢兮千百年便爲炊黍之頃刻神  
憫惻而若有亡兮假玄龜而推吉玄龜閉兆而不言兮向太虛而哭叫太虛夢夢而無聲臭  
兮嚮神君而一叩神君諭我以達義兮等死生於一轍曰自混沌之初竅兮迄至今其幾劫  
其間興亡理亂之紛紜兮不過爲一場之幻夢然則夢中之浮沉兮盡歸造化之假弄胡櫻  
心於君牧兮蕭然疲疫之不止區區世上之毀譽兮驟若蚊雷之過耳子宜緣時月而爲經  
兮聊湏盡以逍遙承危言而服膺兮齊得失於鹿蕉置縵審之多機兮將時適乎去來又焉  
知彭殤之壽夭兮毫山之大小也哉合千古爲一夢兮胷中含乎九垓分禍福於地羽兮笑  
千載之接辛掃鴨堂而端坐兮誦蒙莊之首篇視萬物猶野馬塵埃兮遊心乎鵬背之青天

五絃琴

邈余贅乎黃胞抱純粹而中立悟老恤之多憂求天地之至樂聞人籟於南郭聽勻天於洞

庭聲幽渺而紆婉遊神馬之不平向南風而開襟想我舞之妙曲踟蒼梧之已墜恨音容之未接精氣注而不釋遊神馬於廣漠詔河鼓而先路呼箕伯而揚舲貫倒景而高厲屹闔閭之崢嶸瑞日騰彩於雕甍五雲飛於鳳幄門四方之洞開兮孰云擁蔽而不自超玉階而右旋奄見舞乎干戚懸禮樂於庭衢有夔任其拊石臯陶伯益之都俞會一堂而賡歌豈外物之敢呵備鬼神而嚴訶教黠羸以服意認至人之攸居二女婉婉其侍側憐仙粧之翩如拜重華於南薰近天顏於咫尺儼在床而彈琴揚清韻而旁達齋余心而靜聽順陰陽而橐籥若混逐而叢生聲與遊於造物方其青瑤回旆朱明按節榴花照林槐陰轉碧風和禁御日暖羲輿一音解撥五音解徽淒能如秋暖能如春解慍宣鬱樂民和神感春容之合節兮一至和而無駁鳴天機之自然信幽明之可悅咸池六莖不足誇況激楚之敢擬淡乎若大羹玄酒孰不爲之忘味黎庶之欣欣願聞思正已而無邪納乾坤於熙淳囿庶物於太和體尊卑之有位亦能揭其文武聲一動於五絃舉八絃而鼓舞嗟余生之卷簾耳大音於夢寐雖玄聖之已逝可神交於千載將三尺之鳳枝使余聞其餘調彼世事之見慍曲未罷而雲消何桑林與經首謾浩蕩焉是事曾不知悅其民心樂自作而哀至慨音哇之若彼嘉聖人之規模內自省而可觀誓不矢乎缺竿簞欲削我庭梧假餘音而復續默契意於昭氏殫太古

而不難遊舒心於物表寓知音於天勾俄形氣而就寤爛梅窓兮月輪

吊五王

自古忘身而殉國兮未有不及乎禍者余悲夫五王之枉命兮忽雙淚之迸下王明之既紹  
集封兮慨垂統之不臧武曩之乘時秉棟兮鱗萬古之綱常立神堯家傳之天下兮襲漢雉  
之醜迹堂堂大唐之爲國兮奸又慘於莽賊二張之恣中用事兮禍機發於蕭牆王惟社稷  
之是憂兮豈余身之憚殃視兩豎猶几上肉兮常欲割刃於怒目初決義而策多詐兮人曾  
不乎順服取兇渠而膏諸斧兮破淫后之心膽大事立定於俄頃兮勢確乎其難撼然耘草  
不盡根兮吾於王而益惑白日雖臨乎黃道兮虺蛇猶爲之潛伏洛州之先有見兮胡獨昧  
而不知無煩太尉之北軍兮誅產祿同乎嬰兒反以爲何能爲兮是自遺其後患計旣出於  
安劉兮智何短於防亂彼分封而爲名兮假尊寵而外逐老奸之日夜淬刃兮大禍忽其如  
屋天高高而莫余監兮抱血誠而不暴昔夫子之大聖兮寓鈇鉞於春秋討二姜之不貸兮  
明大經之蔽幽况身負九罪之又甚兮已被絕於我唐昔使聖人而復服兮僂必重於二姜  
夫何膠守乎故常兮忘春秋之大義斯固處變之無權兮世果以之爲議九壤之倘有悔兮  
孰能收其覆水故吾之所以爲撼兮吊冤魂於千祀聞飛鳥之傷弓將墜兮羣哂哂而舉翼

惜也不禽而乃人兮矧又同乎食祿何面目肯會於奸謀兮吊藏忠之忍心反加逆乎忠良  
兮結幽憤之尤深雖具貌於我人兮乃不如乎彼禽此不足以厚誅兮竊深痛乎中宗胡甘  
心於點籌兮釀韋武之讒鋒實自賊其元勳兮卒不免於啖毒天長地久恨又可滅兮想泉  
下之痛哭縱不睹王之貌兮義氣凜凜乎至今跪隲辭以薦桂酒兮庶英靈之來歆

平倭

歲次金馬四月維夏蚩尤晝閃殺氣夜射五千賊艘之蓋海兮數萬推髻之傾穴長劍大劔  
霜飜雪集兵火燭天戰血灑地嶺南一道獨無男子窮者釋鎧而就虜儒者絕城而苟避援  
師逡巡而不進悻將望風而忽潰熊川齊浦陷爲賊窟烽傳不絕驛告相續九重軫慮朝廷  
驚惶齊議頌輔廟謨允藏堂堂菁川位副台軸才出周召勳高伊霍策爲元帥俾主討削乃  
又命安首督諸營分遣虎臣左右擣兵急兵固在於攘夷日馳奚止於三百萬騎嘶風而撤  
烈士卒皆選而俱擇聲威大振而撼東溟兮縮慄賊酋而膽裂舟師入海而舳艫千里陸兵  
阨險而旌旗蔽空南北合圍東西夾攻炮火雷奔矢石星馳天地助威白日委遲鼎魚掉響  
而胡爲穿虎弄牙而無施紛紛藉藉自相蹂躪兮曾不知其幾千溟沉者膏諸鯨牙地踣者  
蟻乎龍淵積屍成邱流血成川老孽兮獨返故島魂魄兮羣冤異土雪耻就今日之快戎功



眇視乎前古凱歌雷喧而拂雲士卒梟噪而齊舞邊氓蘇息安堵如昨獻捷闕下四百其馘  
庭臣稱賀天顏有喜雖元帥未及於赴敵而奇筭初出於指示爰命侍臣汝往汝慰錫之以  
尙衣之服分之以御厨之味澤均鈴轄靈醞濃馨鼓鼙之下歌吹羣呈建州之勝真兒戲况  
辛亥之闕成上可以薦慶乎祖宗下可以誇盛於後嗣苟褒大而歸諸頌兮校膺懲其何媿  
昔獻陵推包荒之度胡不拒願受廛之心區處我疆殍育世深久植滋蔓之勢方懼劉石之  
禍徙之不得伐之不可天誘自逆而趣滅兮豈徒曰撫禦之乖刺此則癰疽之潰兮無憂於  
疾病蜂蟄之死兮蔑畏乎辛螫然凶狡旣脫於衣食兮非寇鈔不能以自給備禦雖倍於平  
時警戒尤嚴於曩日去勿曰去捷勿曰捷貪功開釁者置法畏慙悻鬪者盡黜擇聊城之賢  
將兮付制勝之方畫修我城堡謹我斥堠戎幕不畀以貨卒兮若虜刃之後叩客或詰之曰  
變階無虞之地禍胎不慮之城專意一隅非萬全策古亦有周三邊缺室或城朔方式式南  
服經營東藩山甫徂齊謂塵埃不飛於鄰鄙兮忽犬戎之起西轍措無所悔成噬臍矧我朝  
鮮四面受攻山戎處乎北西鳥夷介乎南東患非此有而彼無防豈夷急而戎緩俾無一隙  
之可入樹備邊之長筭

菟裘之西蒼髯高峙有鳥來巢卵化三子始黃口之數敦終雪衣之習飛初若翮於尋丈忽欲凌乎希夷狀窈窕而可觀聲瀏澆而宜聞背鴻鵠而不伴豈燕雀之爲羣晝啄平燕夜宿舊林同雙鳧之往來異沙鷗之浮沉我憐衣雪朝夕出看乃命童子以戎機關詫健翼之無羈抱明心而自適吾愛爾之軒昂擬青田之神鶴如何不懼浪遊澤國虞人備機知撮偏塞童子驚告大鳥被攫爭觸手而拔毛染紅血於縞衣顧六翮之已摧向九霄而含悲余謂大鳥何至此極卽呼蒼頭往救其急叱吃取來畜我中庭羽毛雕盡鳴咽吞聲背秋風而踰蹠堪忍飢而休啄安知萬里之禽遽見兩手之得天耶人耶爾鳥何愚畢戈網羅旁羅以候爾自就罹余又誰尤爾不聞蓬萊千仞海上一碧絕人間之機事淡方壺之風月琅玕肉芝可以療飢嗟爾大鳥爾胡不歸崑崙玄圃闔月梧桐世網不到但見靈蹤天禾玉梅可以得啜嗟爾大鳥爾胡不適又不聞剛風世界去天一握神雀逍遙養其氣力雖有繒繳尙安得施嗟爾大鳥爾胡不之大鵬圖南扶搖羊角萬里凌風六月一息搶掄斥鷃仰見奚及嗟爾大鳥爾胡不若謾要肥而賈禍兮得無愧於鸞鷲卷道德於覆巢之邦乃喆人之炳幾爾既有羽毛之美胡不卷而避機噫匹夫無罪懷璧其罪物之有材禍之所會蚌之剖兮以珠桂之伐兮以食籠鸚鵡者以語鞞鷹隼者以搏苟自安於不材庶可終乎天年櫟社老而免斧鷓

鶴小而能全天胡畀汝以美質又胡不與其所安然則乃何吾將處乎材與不材之間

石鼓

頑然故物我夢得之鏗然作聲請對以臆曰余稟土之剛精性堅確而難拔女媧鍊余而補天天孫支余而織錦嗟後世眇余沙礫竟踐褻而誰禁惟周宣轉我作鼓記中興之偉烈同神禹之鑄鼎異豐山之舊物縱不能大鼓小鳴豈不利於王室與其錄名於竹帛豈若勒之於金石有形者莫壽於我不磨於萬葉擅雄奇於岐阿聳當世之仰觀苟欲知周道之復興舍我鼓兮何適宣王之擬余至寶鎖乾坤之扁鐻使後世之守者知恢復之艱難豈意今者草莽竟埋沒而苔股恫後嗣之莫念忘無疆之惟恤謾鼓鍾於淮上余漸章殘而字缺反不如他山之石乃見詠於詩人逮狂秦之東遊求周鼎於泗濱羞鞭石而橋海上鄒嶧而頌功六王鍾鼓盡輪關中幸余爲鬼物之搗訶免嬴氏之垢辱向豐水之滔滔慨王澤之浸渴自西漢迄于隋唐世無人其我知惟天遣昌黎之老幹眷顧余以作詩然羞以巖壑之微物被贊詠於鳳翥後眉山繼之以歌余復鳴乎天下吁嗟乎世遠人亡卒未免莓苔之剝落月白空山想西周太平之日月風鳴老樹念宣王中興之丕績物有時而遇幸穰情於今日願勿見訝以續夫坡仙之傑作余於是卽尾辭而歎曰一理兮循環無往而不易漢庭仙人終

委街陌物皆如是非汝獨兮俄欠伸而忽覺但見西窓之月白

爲善最樂

士有茅茨蓋頭詩書衛身背今師古剔僞存真十載食貧氣愉貌豐光風霽月其樂融融沈潛乎仁義之淵優遊於道德之窟倚天地以交泰兮誇一心之寬綽客恠而問之曰子何爲者怡然處窮無鼎鐘之富而所富侈於鼎鐘無絲竹之樂而所樂隆於絲竹余不知其故然兮欽再拜而就詰士曰噫遠有丸秋有奕嵇有琴桓有笛鍾王嗜書而忘倦劉阮好酒而成癖俱意殫而臻極兮卓無人之援儔此樂之得於物者也若夫大則天子小則諸侯上則公卿下則大夫出警入蹕前呵後呼慢舞緩歌春風翩翩煩絃急管秋月娟娟浪甘暢於繁華兮窮吾樂之未足此樂之得於人者也雖然得之於物者兮物有時而或卒得之於人者兮人有時而相奪樂未罷於尊俎兮憂每及於几席我則異於是受之於天藏之於心非丸非奕非笛非琴無天子諸侯之位而尊莫與京無公卿大夫之權而貴孰與爭昔余未化蒿目幾年患生勃磈外多物牽或求之五音或索之六律一朝頓悟乃投金石方寸之間獲此最樂好之若劉阮之酒嗜之若鍾王之書至理尋究乎天人真機上下乎鳶魚閉混沌之七竅兮勒害馬於既逸服溫恭之文繡兮味忠信之梁肉聽晨鷄而孜孜兮耳是舜而不跖培植

拱抱之桐梓雨露牛山之萌蘖泰宇恢廓皇皇四達心廣而體胖兮何懼何惕粹面而盎背  
兮誰愧誰忤路坦夷之無礙兮絕悔吝之我撻和唱洽於箎埙兮聞譽軼於韶英聲仁唱義  
兮竽與笙也呼道振德兮歌且舞也不願夫雲門咸池之交奏兮奚羨乎桑林經首之迭撫  
昔者堯得之不能傳諸子舜得之不能告諸父箕子得之於明夷仲尼得之於洙泗簞瓢陋  
巷兮顏氏之所樂何事庭草交翠兮濂溪之所學非他人去言堙利欲紛挐世營貿而莫之  
知兮甘小人之戚戚余獨慷慨而踴發兮奉訐謔而內植追堯舜於二典兮尋孔顏於六經  
得其得而樂其樂兮鼓天機而同鳴客聞言而歎曰美哉囂囂大哉熙熙天下何樂可以代  
之顧余蒙魯請嘗事斯

海棠

淑麗之氣扶輿磅礴或鍾之於人或鍾之於物鍾之於人則爲毛嬙西施鍾之於物則爲牧  
丹海棠然則海棠亦牧丹之類亞而不與姚黃魏紫併稱是可傷也歲次黃龍出守南中齋  
東近北偶得數叢薙刷雜草夷除穢壤擁之厚以植其性滋之勤以俟其暢欣欣向榮如有  
德色方其朱明司權鶯語圓滑花塢飛香塵柳市絮驚雪忽千朶之齊綻亂照耀乎几席挽  
句芒於綠葉逗春暉於絳萼染猩血之膩潤披錦縠之綽約影蘸南池之波紋光襯西階之

芍藥鬪烏彩而增艷惹桂芬而極妍吳姬越姝靚粧聯翩一笑而傾城再笑而傾國烟霏未散細雨初沐天黯黯而垂暮露灑灑而欲滴明妃辭漢出塞萬里蹙八字之蛾眉兮灑交頤之涕泗狂風汨起或顛或落風塵瀕洞於洛城兵馬雜踏於金谷樓上佳人輕身碎玉朝夕觀之狀態難旣吳儂病夫百憂叢裏誦草堂紅濕之句撫東坡定惠之作喟然歎曰海濱漳嵐魍魅窟宅風猥俗狠政闕教抑民懷訴訟之心吏畜兇黠之謀非君子之邦乃小人之邱爲吾黨者檄宜可投爾何托根於此謾不知其羞惡況我無似祇增子序惟彼花王之富貴桃李之紅白登名於玉堂之清嚴擅美於禁御之邃密比渠之時生惡士兮甚雲霄之懸絕雖然素富貴行乎富貴素貧賤行乎貧賤固不可以此而爲悲亦不可以彼而爲喜寄命於造化之無私兮任自榮而自悴我亦徘徊於其下兮嗅餘香而樂只也

聞杜鵑

紙窓夜春月影斜斜松濤刁調我思無邪對篝燈之燦燦聽石榴之冷冷齋表叢林謝豹一聲其鳴也哀通夕不停恍如蒼梧春晚漢山秋晴帝子掩面兮灑楚雨於翠竹明妃拊膺兮泣青血於白日嗟爾之音感人則倍劔閣千里兮起草堂老杜之拜天津短橋兮引河南逸邵之憂況乎芳閨挑征婦之恨逆旅打倦客之愁吳儂浪士丹臺裔學誤黃庭之隻字謫塵

方之一阨生涯鬻卷窄窄布衣恫壯臂之未展兮拮牙琴而待期喉十指之頗冷兮嫌夢熟之已遲胡爲蜀魄重激羈心迸出掬淚擗難禁乃爲之告曰高岡有桐彩鳳嚙嚙鴻漸于陸僊僊順風啄琅玕兮厭稻梁何飛止之得得渠獨異矣困於枳棘苦叫永宵訴怨罔極桂枝葱蒨盜盜長春閉口疾逝可以安汝之身

詩

用杜甫五十韻贈柳啓彥兼寄金元冲

晚充趨走具寥落海南邊俗事紛回互相看獨惘然君侯固超卓交契得深偏夙昔文詞著平生忠孝懸首登龍虎榜擢侍 緝熙筵冀壤神聰挺秋旻俊鶻騫恩頒蘇轍燭醉趁翰林船抽筆繭三萬貯胷兵五千量弘隘九土談浩決清灑隨世寧波蕩持心比鍊堅吾嘗潛動魄名豈內欺天覺穢珠呈側懷慙糝在前青春渠映面白髮我渾顛霜雪依松柏嬋妍擺趙燕爲儒嫌子夏希聖向伊川製錦工裁割頑童入折旋落二猿羣夢夜月村舍沸炊烟鍊句詩新就啁簷水弄浚萊衣期愈遠萱草老彌鮮芘近行催道囊空靡見錢暮冬催歲律寒峭徹純綿身健明庭步吟辜處士肩訐謀湏輔翼丘壑導安眠賈誼苦流涕陸宣勤奏牋真翁

恤下地有意賦才賢味識伐檀者惟矜高位翻良源實自鑽皇降未云全途蹙或亡勢尾搖  
長乞憐哲王幸震赫茲輩合屠虔感激離缺黨詩書慕古先河奔柱乃確山溜石終穿表櫟  
無鹽婦中通茂叔蓮寸丹輸皎日孤憤列陳篇兇馘猶增聳虛譽莫浪傳冲菴結益友東閣  
折幽鉉鷓鴣堪膏刃愚庸好縮拳虞周披腹笥治忽鴻言泉叫訟還招課劬勞共度年樽孟  
聊復愛愁悶解姑娟目閉饑饉窟鋤成苟簡田朋情幾雲雨絲素迭黃玄甚矣丁衰也嗟乎  
亦已焉浮江理舟楫拂壁掛韶弦骸骨甘埋沒陵原任變遷 容聽恭撫極豪傑競班聯冠  
絨寧輕擲踈慵且久遠元非貪進取用計何時便兩箇英雄特乾坤作力甄

足一本作走

頭流南斗外溟海瘴雲邊異域身漂寓羈懷日杳然清都天極遠下國地形偏夢飛離下  
逝情寄華陽懸憶往承前對多慚忝末筵邇英聯步武羣駿共飛騫鳴陽足岐鳥濟水憶  
商船但得心惟一何難曆過千王京猶鑄洛漢水卽灑灑天網元無漏金湯本不墜三言  
足退舍一念可通天道在非心外眊遙只眼前皇輿須任重大厦孰扶顛梅鼎思調傅金  
臺陋築燕微誠切獻曝虛羨歎臨川屠龍徒齟齬食祿愧周旋落二舊業餘荒草孤峯卜  
孤峯仍老翠烟西山日暎曖遊子淚潺湲分願榮累印烹調試小鮮薄才無異政厚俸有  
以自號

餘錢玉石資攻錯絲羅政附綿眼青仍故意壤比舊隨肩良會天應借相逢夜不眠糾紛



鬪訥牒瓊玉走蠻戕此蓋君餘事時胡棄大賢稻梁鳧唼喋榛棘鳳飄翮四方憂促刺一  
邑飽生全鵬集長沙恨麟傷魯史憐室清塵埃斷卷對聖賢度溢目紛時態棲神妙物先  
跣徒衣摠暖曾里屨偏穿蓬艾恒欺穀淤泥豈汙蓮微言徵往哲孤憤索遺篇羣猜喉可  
轉爾柳指啓意堪傳聳世休操瑟希音闕絕絃故溪魚似玉西嶺蕨如拳匡時屬才傑吾  
老臥林泉霜髮已三載浮生且幾年鹿羣甘與往世友分長捐容與文章固耘鋤經訓田  
盈虛觀物化榮落問蒼玄已矣無知者安之有命焉暉斜難再旭月望易成弦晚時行  
暮蹉跎歲忽遷冬盡時候暖氣陰蟪蝼聯天心豈茫昧吾道自迤邐澤物非無志騰雲未  
有便太息如何道安危任大甌

元冲

泪沒簿書裏飄零瘴海邊折腰非有爲捧檄豈徒然雙鬢形神化孤城宇宙偏敢望遺愛  
仕空費寸心懸雨露深 皇眷登遷近 法筵下帷吾不分啣詔鳳孤鶩倚風凌逸翮隨  
水上龍船 北闕雲重五南關路一千吹竽愧東郭流潦混清漣短律行催暮窮愁老益  
堅心肝違夙計得失付諸天潭府千峯立冲菴白雲前金蘭尋獨契神妙到毫顛索隱開  
關鍵清塵掃薊燕長沙留賈子句漏借稚川韶濩供咕唾風雲在轉旋琴堂披玉匣丹竈  
視羊鞭愜意潛飛動探幽伴塵仙暮山橫積素朝日斷凝烟境對雲俱靜心隨水共浚二

邦嫌佩犢百里費烹鮮已見閒羣犬終期選一錢  
聖明勤薦擢泥塗拔沈綿王國稱多  
士四方求息肩都俞無自怠宵旰未遑眠  
經幄采嘉話皂囊封密牋不知周召地俱置  
傅伊賢鸞鳳還棲棘鴟鴞或任翻澆漓日成鑿醇樸竟誰全  
時習堪流涕民風尤可憐側  
肩腹有劔蜜口貌徒度覽璧相延合攀援競後先飢寒民幾轉  
椎剝骨應穿疑惑杯中弩  
鼠思箭起蓮無冰稽魯史電震驗周篇炎鬱冬猶塞天心秘莫傳  
雄鳴錯軒律半死罷虞  
絃備異徒爲具解紛轉控拳何能劃陰曠深澤漏重泉節序小愆  
伏倉箱歌歲年民不呼  
庚癸時無病瘠捐蒼茫賈生泣逼側聖王田孤墳懲前烈端憂問  
上玄強懷行已矣弱力  
任體焉故國臘初罷殘燈月上弦安排聊宛轉隨化與推遷  
城府迂長策詞華乞一聯彌  
綸君獨運薄劣我空遑慷慨時將晚蹉跎計靡便丹心期歲暮終  
不恨陶甄 啓彥

剛泉山 乙亥封  
疏時

撩慄風西振剛泉討蘊真青崖秋骨瘦赤葉露華新  
目曠登樓迥襟涼向水頻塵埃終不近  
騷屑自相因蘭苗宜紉佩薇枯可愴神稻邊鴻鴈富  
天外鳳凰貧江遠難捐玦岐多困問津  
鬢殘隨暮草悲恨入詩人

緒一本作渚

千峯秋氣入崖骨始呈真晚翠嵐烟古初丹薜荔新  
涼兼緒風緊聲軋萬林頻虛牝悲前

枝一本作桂

感幽居叩靜因孤標斷埃堪靈境秘威神逝節凋蘭病明朝介士貧流芳時欲罷迷海孰  
知津延佇山中客援枝難遣人

元冲

贈清師

窈窕維摩室蒲團坐一宵星河清淡淡林壑動蕭蕭殘磬縈雲迥寒蛩泛月憮明朝出山去  
松桂正迢迢

日落羣峯暝森沉漸入宵秋橫空靄靄涼引籟蕭蕭淨界塵緣斷高僧瘦貌憮更深遙月  
上幽思更迢迢

元冲

西峯白雲

迢迢來爽氣雨外擢秋標玉葉全峯亂金風一帶驕詩情忽駘蕩逸興自扶搖安得出寥廓  
東西隨住飄

住一本作任

展一本作度  
秋朝雲起白西嶺秀孤標霽色知難掬殘炎不敢驕虛徐青壁展掩冉綠蘿搖何許崑山

頂飛精天外飄

元冲

夢牧隱李先生稿

吳灃所撰東史纂要曰訥齋集中甲戌九月二十八日在秋城衙齋牧隱先

生見夢中授詩一篇吞其半前數日與元冲論此老心事得其實詩曰云云  
所謂史家秉筆公何在者蓋指當立前王子之事也及公修東國史略則引  
牧老嘗語人曰昔晉元帝入繼大統胡致堂論曰元帝姓牛而續晉宗羣臣  
何以安之胡羯交侵江左微弱若不憑依舊業安能係屬人心乘勢就事不  
得已爲者云云而斷之曰今稽於辛氏不敢有異論者亦此意也○或云六  
峯所編訥齋集中無此一篇其時荐遭士禍有怵禍之戒而不錄也

先正韓山世已遼人間不朽挺巽巽史家秉筆公何在昭代凌烟影獨遙孤竹蕨薇輕聖武  
江都冠蓋盡神堯秋宵邂逅驚殘夢晤語鏘然聽舜韶

贈申元亮

前度劉郎今又來龍池日月七環回同遊吾黨皆佳士列坐前溪接數杯吹面水風醒醉眼  
拂天烟樹供詩材老僧助興携松醴壓倒衰翁不放廻

會惜溪山空往來今參詞伯共低回相尋幾夢東臯宅偶值還傾客裏杯暫撥窮愁裁短  
句爲挑高興聘長材明朝出洞分南北渺渺天涯我獨廻

元亮

金公碩工字堂聯句

知非渠伯玉國衡嗜酒我劉伶世昌會合芳菲節碩公留連寂寞庭世昌天神愷瑞地田父夢髯靈國衡

宇宙人來往江山執主停碩公川回新宅碧山繞華門青起叔奇興雲成態衰懷酒半醒碩公野烟

吹淦淦村杵響丁丁世昌沙堰松當逕土窩竈設國衡傍軒看暮景當戶望沙汀起叔

工字堂酒席聯句

對面心無阻含杯意自通世昌江山非勝地物色是春風碩公袞袞更移夜迢迢月上空世昌他年

文酒會能復此時同碩公

文

李文胡公神道碑銘并序

廣陵李石灘諱養中玄孫文胡公諱玷字崇甫年七十有七以疾卒即 帝明易元以嘉靖元年春三月也越夏五月卜得日歸全于利川府治之西陽嶽山坤向原先塋之側以遺命遷其貞夫人柳氏之墓合厝遵禮文也克葬之六年其孤今公州判官宗箕訪予於客館拭淚以告曰先公之卒凡其所以較德焯行者莫不粗完有幽室之誌以圖陵谷之變遷有太常之謚以著不沒之實獨神道刻文有缺屢俯伏仰請於翰苑大手則職鉅務穰力不遑及

敢布心腹乞詞以顯後言甚懇姑許之南來公牒一坤卒無湏叟之間炎涼將再易矣復授使者狀踔三百餘里扣且督益勤烏可以不文固讓乎謹按東國史三國之季豪傑蓋起各據土地爲君長號令一方高麗太祖統合分屬州府郡縣吏其人及本朝改玉仍其制其苗裔之以文武出身登將相者往往而有於公家世可徵初有廣吏諱知鄉貢通籍九分竹使符持身廉簡所莅以清白稱嘗通判義州也上國之人厚行賄賂潛相和市通判獨不受然累在上官不敢發後朝廷得其狀移咨詰之且云判官李某却絹十端其清節之聞於朝廷如是故我世宗賜褒服誅其受賂者以旌異之貪夫足以廉矣然果於恬退雖富之以韓魏自視歛然泉石逍遙飯蔬食飲水樂在其中矣其子寬義積學爲文待聘英陵朝初試爲司馬學問日造發解十六舉卒不中第知其命之不偶懷抱利器遜于荒野遡濂洛關閩之餘波以探洙泗之淵源剛格性理擺落詞章之陋蕭然一室相對黃卷中聖人願安承教者坌集門下公卿以逸士交薦起家爲栗峯道察訪非其志也卽辭歸舊隱成宗十四年布告國內搜訪明經行修者畿使以察訪聞驛召入對便殿破達性命之蘊奧剖拆天地日月星辰之度數纏纏如貫珠上臺臺不厭自朝至夕而罷者數日仍下教曰寬義理學精熟果副所聞將欲顯用自以年老乞還田里予嘉其志賜衣許還其令所在官賜米豆

以示予褒獎之意嗚呼父子以清德學術見重於二宗如彼古今天下有幾人哉公察訪之子通判之孫也受詩禮於鯉庭襲清風於祖考志存弘毅學究篤實餘事文藝 宣陵卽位別試舉司馬入學館儕輩知其大人遂擢巍科分屬成均館例遷至博士授掌隸院司評滯案若掃以選轉兵曹佐郎秩滿出佐畿使幕無疵改調 世子侍講院文學書筵諷勸不出文王世子一篇俄遷兵曹正郎軍機庶事皆就其緒顧念春萱日迫西山乞就養得郡印去庭闈近割鷄治暇往來省問忠以奉上孝以事親公私兩全庶未熟艱變疊臻泣血三年哀禮殫盡暨服除叙與司宰監僉正旋改爲成均館司藝學生相慶會諫院闕司諫選部難其人奪諸學生而陞置大諫之左朝議以爲不可師表闕然學生缺望於是以司成再入學學生復相慶執經問難於函丈問者不知其幾而左酬右答若決江河然選法重在臺諫不獲已復除執義卒以劾權貴罷有命收用拜司業寺正時逋逃者窮竄海島招納中國邊氓聚據爲窟出入洋中肆行劫掠蔓延難圖也奏請天子搜討制曰可乃以田霖爲招討使副以公以往人皆危之公無幾微見於言色談笑受命開帆廿日直擣其穴不戰而服盡刷男女若干人以還燕山主錄其功特加三資移拜奉常寺正明年超拜弘文館副提學居無何入政院累遷至都承旨摠統六曹無招權之謗擢拜刑曹參判卽古之小司寇也貳贊上卿刑

謂得中未幾持節嶺南道觀察七十州黜陟幽明達爲漢城府左尹五部內無冤訟逮燕山主大失君道禍及搢紳誅流相續公亦編管扶安縣武宗皇帝元年丙寅秋今上奉皇帝詔入承成宗之統加恩區內竄配者悉叙召還拜公爲大司成遷戶曹參判充謝恩副使入覲天子東還賞其勞賜資憲階超拜判漢城府尹燕山時枉屈者繫公是賴得以直愚夫婦無不以手加額稱賀乙亥以七十致仕不得謝待以西樞閒職蓋優老也公弘中和表言遜氣溫內遇親戚外待交遊終始一心未嘗變節位非不高而不爲集翕傾動心非不廉而亦不爲崖異斬絕俸祿入門分其半以周歎衣裳在笥出其餘以濟寒過逢必具酒衣盡其歡疾病必買藥餌活其命其治官守身又極謹慎不掛過差生無招毀歿無遺怨豈所謂豈弟君子耶臨絕且以清勤誠信四字勉其子宗箕爲家傳青氈非有得於平生能如是乎柳碩人郡守孟沂之女高麗寶文閣提學克愿之後也舅姑如事父母夫子如奉賓客聞相肅穆親戚退無一言不幸早世有一女一男女監察姜世矩妻男卽判官宗箕司果柳承孫女婿也公不再聘側室之出女一歸宗室瀛山監信男一幼銘曰

義州拒綃清徹天王見獎英陵有煥褒章栗峯談理成廟嘉歎寵旣便蕃歸來考槃父子種善秀發三葉奕奕京兆纘戎德業內植忠厚外施寬假納汙海量無不可不可至執國



論援理證明操履之篤學問之精數歷卿相四十六年光風瀏瀏霽月娟娟鮐背黃耆神仙中人自少及老眉不一顰屬續一言丁寧四字蓋入貞珉遐詔千禩嘉靖七年己丑三月杪某撰

觀察使李公墓碣銘并序

廣李氏自集而顯高麗之亡也賊臣辛屯權倖人主士大夫畏附將相無非門客而集挺身殺其黨負父逃亂吨誅而直節愈白李牧隱穉李陶隱崇仁交相推與遁村浩然家說備矣嗚呼以文章節行官至三品者天所以大餉其後歟嗚呼故其嗣子之直之冑忠僖公仁孫爲名宰相位右台弼良四世五男皆及第曰克培廣陵府院君克堪鴈行錦標文名公望夙孚而長司寇卿勛封廣城君諡文景公後追贈左議政廣李氏於斯爲盛河東八裴琅琊八王不足多矣文景之適子觀察使崔洵之宅相諱世佑字仲彥初舉司馬入東學學輩不敢侮登 成宗朝宏詞科典籍於成均撰授秋官佐郎未幾除五品官佐宣嶺南時按使荒蕪于樂雀鼠一埤公談笑游刃獄無叫寃然終身雖子孫之親未嘗言其人之過洎調還正郎復出佐京入爲弘文館校理少時陞應教人皆曰得侍從賢矣我朝承政院之制卽古之門下省也揔釐六部持權最重非剛正無私不宜處 成宗知公之可任猶嫌於資卑御筆特

超通訓階居數日擢同副承旨出納惟允微事罷復叙判決都官事抱枉者理轉工曹參議再入爲都承旨遷吏曹參議中旨陞嘉善大夫觀察京畿諸郡有澄清之志會病辭還攝于忠州先公之別墅忽奮然曰不一上答君恩遜于田野非吾志也倘邇天闕朝夕瞻拜死亦無愧假裝抵京城一夕語側室曰夢神人扶而上天云玉皇有命吾其逝矣言訖而卒春秋四十有二公天性剛方志氣清峻議論不雷同見事風生常出千百人之慮勇於赴義遇利則惕秋霜烈日同其像也 經筵侍講辨說明剴左右植耳垂舌遁村之慷慨其鍾公乎父事母兄廣陽君世佐日省間雖迷醉不廢廣陽嘗聘上國必起居嫂閣不懈平生不長尺寸妻子或謁急怡然不鑿綺紈中布衣也貞夫人判官權蓋之女都承旨景祐參判景禧之娣妹也哭公之二十八年 正德丁丑殂年六十九生一子滋弘文館博士先夫人沒有三男二女銘曰

遁村名麗乃浚其源忠信碩大五相聚門三槐讓尊萬戶羞稱文景孤寒才望先登適子仲彥侃侃寡似 宣陵乙未宏詞奮肆佐幕嶺表狐狸跡消侍論 經殿 重瞳屢回擢司龍喉朝綱匡恢判決都官冤塵洗理凌厲青冥鵬圖就弭再長鷄司儕僚駭魄俄遷天曹公鉉兒戢出按畿甸風霜前飛嬰疾辭節退攝郊扉丹衷惓惓肩輿還京玉皇命召冥御太清平

生毫毛不怛方寸聞義勇赴見利輒遁嚴事母兄情醇常棣怡怡省問薄俗難逮咸昌克肖年齡不延令孫寔繁勃勃蘭荃雲山蒼蒼江水沄沄積穀之業孰艾孰焚

博士李公墓碣銘并序

公諱滋字樹德觀察使世佑之子生於 成化丙戌 弘治甲寅以進士登文科性簡亢見惡人望望若浼待賢士汲汲下榻賢者之慕而不肖者之怒也選入弘文館超至博士燕山嗣位狂狡漸形每遇 經筵諷諫切白而說不入退輒擲帽以憤燕山嚴憚出拜咸昌縣監則呂氏鄉約手書諭吏民詩禮誨人不倦暮年而俗變戊午禍起公自分必死日縱飲友人鄭鵬過公執手訣曰好在好在俄病酒歿士林惜之夫人廣州安氏考彭命司諫清白名曾祖省留後諡思簡孝恭莊慧養姑以誠宗族無間言求師教子擇姆傅女婚嫁以時孀居廿餘年門內外漸漸如公之生變故屢及終不廢墜男長若水次若冰若海女郭安邦權礪銘曰

有才之薄而施之狹十室而止有善之短纔三十四天不可問兮人不可尤碩人其碩兮耿月範之悠悠鳳雛嚙嚙麟胎茁茁陸彼幽陵祥光不可歇

答安順之

出安思齋集  
諸賢手筆

阻隔承書辭旨繾綣如聞清話戀懷忽夷僕遭齒舌不少區區儒輩羣吠亦何異乎君曾爲外吏備嘗上府之令矣所示柔公紙尾之語無異親奉面目不覺悽然益感會有行忙未盡寸蘊清寒集後當搜上惟炤悉

答安順之

聞會別終宵樂亦至矣玉人清耗來慰江上形容深謝深謝僕老病如舊耳示箭竹擇佳介呈似記文時未構姑勿督官事一坤乃何梅月待君親授敢污俗手耶惟炤頌

王褒進得賢臣頌表

聖出物而御天啓千齡之熙運賢應期而名世建一時之鴻功驗是昆之惟良悟以寧之必士仰範夢卜之聖東帛芟芟於邱園俯收釣築之賢冠冕峨峨於廊廟謂賢才之出處關國家之興亡不鄙菅蒯之微俾叨歌頌之撰世苟蹇屯碩人悲其邁軸時至亨泰吉士賦其羔羊故乏求售之才必待無方之主成湯勤聘幣之禮得千駟不顧之奇周公服吐握之勞獲十亂匪懈之弼況我朝之如渴遵往哲之遺模網海內英雄之羣高祖所以垂統舉天下賢良之輩建元所以守成式至今日之休丕承先王之烈麗天之日月照臨遍及於山林滿地之風雲際會遠過於殷夏白駒無聞於空谷置兔莫非其干城彈冠盍簪孰操齊門之瑟翹

英接武僅調殷鼎之梅多士生此王國得人奚啻於周家黎獻共惟帝臣致治允邁於舜日  
頑石幸壓於鰲頭駑蹄果展於驥後好賢之懇雖已切於緇衣作頌之文反爲愧於吉甫詞  
荒蕪而魯莽義駁雜而淺踈縱不可被諸筦絃願庶幾置之几案拊臂而歎永慕太宗之張  
求側席而思終效重華之勿貳念以事一人奉周文之灼見同昇庶位效傅說之旁招

別給六峯文

弘治十七年甲子夏五月十八日訥齋奉大夫人設席置酒會親朋集絃歌方宴酣酒三行  
舍弟進士祐起詣尊所執爵而爲壽大夫人前又酌而跪進訥齋曰今夕何夕訥齋先生降  
生夕也下有壯元之弟爲之榮上有鶴髮之親爲之慶訥齋其無樂乎訥齋曰辭榮之所至  
感亦隨之樂之所存悲又繼之凡吾與汝俱少孤從伯氏學爲文章而向吾舉進士擢高第  
母氏感伯氏悲吾與汝泣者何也爲吾先君子不存焉耳今汝舉進士蔚爲居首榮則榮矣  
慶則慶矣而伯氏又沒矣向也惟悲先君子今也又悲先伯氏將汝擢第又不知其所悲矣  
舍弟知吾心樂否也訥齋泣進士亦泣進士泣親朋亦感訥齋又感而言曰向吾舉進士先  
伯氏有所與今汝進士伯氏既沒責不在余乎入告母氏母氏曰可出告親族親族曰可遍  
告賓客賓客曰可於是遂以奴婢田土書釘書冊與之嗟吾舍弟勉之哉使喚此奴婢耕食

此田土書釘書冊以大肆力於斯文斯吾所望嗟余季兮進士壯元以爲得乎舍弟起而拜  
跪而對曰雖不敏兄有言敢不承教於是訥齋喜而成書焉

訥齋先生別集卷第一終



# 訥齋先生集附錄 卷第一

## 行狀

先生姓朴諱祥字昌世系出忠州高王考諱世梁高麗匡靖大夫知都僉議司事曾王考諱光理中散大夫民部郎中 贈司僕寺正王考諱蘇 本朝成均進士官至朝散大夫宜川郡事贈資憲大夫吏曹判書考諱智興成均進士 贈崇政大夫議政府左贊成妣桂城徐氏生員宗夏之女先生以 成化甲午五月十八日生生而神氣英爽異於常兒少孤從伯氏學強記過人稍長能自勸學博通經史爲文詞日進 弘治丙辰歲年二十三中進士選辛酉歲登第授校書館正字例遷至博士拜承文院校檢遷侍講院司書兵曹佐郎乙丑歲出爲全羅道都事 正德丙寅秋今 上反正秩滿除長興庫令擢授司諫院獻納有戚里人越資陞堂上是時廢朝積威之餘士氣摧沮人皆畏懦蓄縮雖知其非而莫敢言先生慷慨首議同憲府廷爭彌旬方解冠辭職會有國試 命先生考選乃辭曰臣旣不能盡所職不敢奉命 上大怒命下于理將加之罪朝廷咸危懼大學生上書訟之宰相亦交救得解



先生猶不自悔在諫院一年彈論無所避審然有直名執政惡之出補韓山郡守故事侍從臺諫銓曹不得擅擬外官憲府卽日舉劾銓曹改授先生宗廟署令尋徙昭格署缺先生既仕不得志又以親老乞外得守臨陂縣令公廉明斷務祛冤滯三年而政成一引疾投綬謝歸光城之里第唯日以圖書自娛辛未冬拜弘文館修撰陞校理半歲又陞應教時館中凡有所章疏必屬先生先生操紙立就文約而義盡同列稱其能未幾以親年益高上疏乞歸養故例近侍爲親乞養者嘗授近鄉守宰於是來守潭陽府爲府二年觀察使以清謹聞特賜表裏以優獎之乙亥春章敬王后上賓後中壺無主時災異疊臻求聞直言先生乃與淳昌郡守金淨上封事請復廢妃慎氏正中位且論三元勳謀爲自全建廢國母之失於是臺諫交章請罪天怒震動命繫詔獄以鞠之羣下汹汹莫不爲先生危之賴大臣救理上亦恕其狂直只令除名配隸于南平之烏林驛丙子夏大旱赤地宰相言之于上乃命放歸是年冬復授儀賓府都事遷掌樂院僉正先生以屢繫縲絀恠謗叢集忽不樂仕進黽勉就職丁丑春出守順天府冬十月丁內憂居廬三載執喪過禮哀毀骨立杖而後起已卯冬服除拜儀賓府經歷未幾陞授繕工監正是時士林禍起同時儕流奔竄貶黜無餘先生以久侍經幄受國恩厚義不可以含默無言及具疏若干言將一陳于

上雖更得罪黜不恨子弟親戚咸諫止之曰疏雖上於事無益祇重其禍先生喟然仰天歎曰一至於此乎遂焚之先生自以孤危之蹤蹻蹻周行如浮江之木泛泛東西益不喜居中而欲外補朝廷亦不惜其去辛巳春出爲尙州牧使其年夏換移忠州先生不以疏外自嫌盡心職事三年觀察使又以廉能聞又命褒贈表裏秩滿拜司隲寺副正嘉靖丙戌冬擢重試壯元陞堂上階以前在忠州有軍丁漏失丁亥春罷歸鄉里是年夏又授羅州牧使先生既以道不容於世進退之難跋胡蹙尾強之就官非其好也爲治務振紀綱大矯時弊遂致多口喧騰然不以此少撓益自厲焉己丑夏風邪乘虛疾病內構不能視事卽移疾駕車以俟遂爲觀察使所抑竟不能焉然其志將不久於官也未幾考課居殿官居野處遠近聞之咸駭以歎先生之道吁亦窮矣又至於此窮之極也卽日輿返里舍謝絕往來日以醫藥爲事疾或作或止歲餘庶幾大瘳庚寅三月疾復作轉劇四月十一日終于家享年五十有七夫旣不能於人而天又不與之年其知先生者莫不慟傷而惜之先生少而聰明穎脫長而剛毅不顧流俗是非涉世逾多兢危險艱靡所不嘗以成其器好古益篤前言往行無有不識以養其正故持身整肅而準繩有截處心莊栗而言笑不妄其接物也溫然可愛其臨事也凜然不可犯莅官居家常終日端坐儼然若齊無偷惰戲豫之色雖庸人傲夫自

不覺其起敬而不敢侮狎也先生好惡每與世俗相反羶薰厚味世俗皆然而先生所養蔬菜淡如畫棟丹楹世俗皆是而先生所居僅蔽風雨世俗所悅者媚順先生之所賤惡也世俗所忌者剛方先生之所自寶也世俗所競鶩者財利先生之所唾擲不顧也先生所愛者佳山秀水遊賞而忘歸所好者典籍辭章自少至老未嘗暫輟自視平生他物未足以易其樂所欲與之處者清修吉士幸而遇之則披心徹肝論文說古竟日夜不知厭所不齒者貪叨鑿鑿視之若糞壤若將浼焉宜夫世之與先生者常尠而疵議者居多也先生爲詩與文亦不樂熟軟力去陳言獨追古作者爲徒夫其中之所存旣拔乎萃而又博觀古昔冥探幽搜擷芳咀華靡所不至以至於成故源流混渾而氣力雄勁託興幽遠而稱物芳美其存者凡八百餘篇號訥齋稿實希世之奇寶也先生爲政嚴明一斷絜持維綱鉏削荒類必先夫窮寡無告而抑豪右兼并其一心奉公惓惓而不懈未知古君子何如爾先生立朝少居於內而在外者常多其在諫院一歲侍講 經帷半歲率不得展其所抱行其所學輒以親故卷而之外歷一縣二府三州其綱條法度有可稱述而先生之所長者豈止於斯而已乎若夫才不爲世好道不爲世重命與仇謀謗隨事集是則昔之人所不免也何與於先生哉先生再娶先夫人晉陽柳氏昌平縣令宗漢之女綾城縣令誼之孫女有美德淑行先先生二

十四年而卒夫人生二女三男男長曰敏齊金海府使次曰敏中進士能世其業餘皆天後  
夫人河東鄭氏生員稅之女河原君守忠之孫女生一男幼敏古蔭  
仕監役庚寅葬于光州芳荷洞  
鳳凰山成才之原夫人柳氏墓右衢愚不肖嘗辱先生不以鄙夷拒絕今因先生之子敏齊  
敏中之請義不敢固辭謹叙家世行業及歷官行事之大槩俾求誌於作者

嘉靖十年四月日海南尹衢謹狀

訥齋先生集附錄  
卷第一



# 訥齋先生集附錄 卷第二

請復故 妃愼氏疏

冲菴製  
先生裁

潭陽府使臣朴祥淳昌郡守臣金淨等上言于 主上殿下伏以帝王繼天立極之道莫不以正始爲本是故造端凝始者出乎正則大綱大源井井然光明動盪于上而達之于萬事萬化者如影之隨形如響之應聲無往而不一于正矣反乎是而求化之成譬猶溯其源而望流之清不亦難矣哉易曰有天地然後有萬物有萬物然後有男女有男女然後有夫婦有夫婦然後有父子有父子然後有君臣有君臣然後有上下有上下然後禮義有所措詩大序曰周南召南正始之道王化之基夫易首乾坤詩始關雎配匹之際人倫之始萬化之原而綱紀之首王道之大端也魯哀公問于孔子曰冕而親迎不已重乎孔子愀然作色而對曰合二姓之好繼先聖之後以爲天地宗廟社稷之主君何謂已重乎齊桓公葵邱之會初命曰無以妾爲妻夫聖人之愀然作色豈不以哀公慢天地宗廟社稷之主蔑裂其禮而爲之寒心乎桓公伯者耳猶能知配匹之重不欲舛逆其分焉是皆誠以造端凝始之道王

者所不可不慎也。昔周家之創始也，大王王季文王咸有聖德，能隆齊家之道，式禮不紊，世得賢妃以正人倫之本。以淑王化之源，故周人之詩曰：古公亶父來朝走馬，率西水滸至于岐下。爰及姜女，聿來胥宇。言大王當狄難遑遑而篤恩不違，肇基于王迹也。又曰：思齊大任，文王之母，思媚周姜，京室之婦，言王季有此莊敬之德，配能盡婦道于周姜，不失爲周室之婦，而毓慶源於子孫也。又曰：文定厥祥，親迎于渭，造舟爲梁，不顯其光。又曰：惠于宗公，神罔時怨，神罔時恫，刑于寡妻，至于兄弟，以御于家。邦言文王隆重婚禮，得窈窕之妃爲廟社神祇之主，上以嗣聖任之，徽下以儀法于閨門，而流光於邦國也。夫周家之所以正始，端本者，粹白而罔有瑕，璆醴厚而罔有滴，薄如是，故其王化始于床第之間，洋洋流動于朝廷之上，沛然覃被于四方，如天地之化本乎陰陽，橐籥乎星辰，寒暑流行，磅礴乎山川，鳥獸草木當是時也，夫夫婦婦，父子君君，臣臣，亡有寸邪，毫累敢干其間，以至天地位萬物育，芻蕘麟趾休祥，畢應綿歷于八百，何莫非關雎鵲巢之化也。及其衰也，內教崩弛，有無故廢斥，正后者而卒，召戎狄之禍，有升妾爲嫡，紊禮分者而竟，速爭奪之亂，其他如唐高宗廢王皇后而終見宗祀覆滅，子孫勦絕，宋哲宗廢孟皇后而本源顛錯，陰邪釀孽，馴致靖康之變，况又有以妾爲夫人，瀆滅其常禮者，其禍豈小哉。魏文帝將立郭貴嬪爲后，而中郎校潛爭之，唐

明皇將立武惠妃爲后而御史潘好禮爭之夫古來治亂興亡之跡瞭然可驗如此誠欲重帝王之匹正風化之本其可苟乎臣等伏見故 妃慎氏被斥在外殆一紀于茲臣等未詳厥初之由不知有何大故舉何大名爲此非常駭愕之事乎夫王者承統纂緒先正夫婦之道以侔乎天地內以治陰教外以理陽德齊主乎廟社神祇夫配匹之際其重大如此苟非不順於親獲罪於宗廟社稷則雖有微愆細忒決無割絕之義矧無名無故而廢斥其何以承宗祧享天心乎昔漢光武以怨懟而廢郭后宋仁宗以妬忌而亦廢郭后而當時與後世猶譏刺不置以爲明君之大累今慎氏未聞有可廢之故而 殿下之廢之果何名耶當靖國之初朴元宗柳順汀成希顏等既除慎守勤則以爲 妃迺其出也殺其父而立其朝慮有他日之患曲爲自全之私舞出廢黜之謀茲固無故而又無名也 慎氏自 殿下龍潛之初載嘉協貞卜以成好速備儀以見於 慈殿姑婦之義已定及 殿下入承大統正位中壺受臣民之賀膺 廟社之主於 殿下禴翟之尊已立於 祖宗神祇蘋藻之奉有望於國人母后之分已明 慈殿無違忤之譴第褫無可去之愆神人無恫怨之說 殿下受制於強臣不能保其伉儷之重豈不痛心哉古語云貧賤之交不可忘糟糠之妻不下堂慎氏備酒漿奉灑掃於代邸凡幾年矣死生契濶義相孚也昏朝風雨備同嘗也一朝貴躋



九五富有千乘則棄之如遺崇卑殊境若升雲天而入九淵之下以至尊之配琴瑟之友  
違絕 玉殿而下混閭閻氣象蕭索聞者隕淚過者咨嗟其與太王當狄難違違而篤恩不  
違者異矣禮曰子甚宜其妻父母不說出子不宜其妻父母曰是善事我子行夫婦之禮焉  
沒身不衰以是觀之廢出之義一聽於父母明矣今也非出於 慈殿之命而輕替京室之  
婦其與王季異矣易曰夫婦之道不可以不久也傳者曰夫婦終身不變者也其所以久而  
不變者守鬻醢之禮重萬世之始不敢遷易也今也不念始者文定之配不顧黼黻蘋藻之  
主播棄若塊以墜內刑其與文王異矣夫治國平天下之道本諸家一正家而天下定矣自  
古亂亡之作靡不原於家法之不正我朝家法未可謂一出於正也 太祖以創業垂範之  
聖惑於嬖寵欲紊嫡庶之分逮于 宣陵以黠黠之故踵仁宗之弊軌立本一差其流波及  
燕山而遂蕩綱常淪斷宗廟社稷幾乎墟矣其禍慘矣 殿下得大橫之吉順與兆之屬披  
艱艱而旋于坦夷剔荒昧而登于清郁此正三靈拭目望顯然庶幾其更始之日宜端一家之  
本爲天地生民之極丕建萬世之宏基光昭疇曄如揭日月而中乎天斯其會也奄奄然不  
能自振人倫王化之源自上先汨以是而欲望治化之成猶緣木而求魚多見其惑也嗚呼  
豈獨 殿下之過也彼當初挾權用事之臣其罪可勝誅耶彼元宗等亦豈不知名分之大

如天地之截然不可犯也惟其謀身之狡計勝故肆然無顧忌乘草昧危疑之際謂 殿下惟其所爲而莫之違拂恟制 君父如弄諸股掌之間放逐 國母有同拋籬是可忍也孰不可忍也推其心則雖至董曹亦何所憚哉人臣無將將而必誅春秋之義正爲此輩設也若以 慎氏罪人之出不可以配 至尊而主宗祧以是諉焉則夫守勤之罪固非關於宗社何足以累于 妃就使得罪于宗社而受誅 妃無預聞之故則又非所以爲尤而及之也昔漢宣帝時霍氏謀逆族誅而霍后以不與聞得不廢我朝沈溫被罪于 獻陵而 昭憲王后玉度不玷往軌矚然可徵况守勤非關國之罪則以周官儀親之典雖宥而全之可也今既加罪而又必以累 妃而廢黜之此不過愛身而無君故也不特此耳 殿下以王室之胃入纘大統名既正言既順無愧於三代之繼世而元宗等謀國不臧立 殿下於衰世之域何則燕山之無道極矣三綱泯滅無復人理神祇厭之 祖宗絕之親戚反之人心去之獨夫子已移之位將爲異姓之刺手幸賴冥冥之陰佑四方之謳歌三寶允屬于 殿下故 殿下得以至是夫纘統繼世天地古今之大事也固當明白正大無有纖毫之幽隱如太陽麗空萬物快覩其可苟哉反正之初宜舉 大妃之命悉數燕山見絕于天地 祖宗臣民之罪暴于 廟社然後上告諸 天子而請命焉昭升 大位夫如是則纘統繼世

之道明白正大無有幽隱四方萬世仰之如太陽之麗空豈不偉歟奈何元宗等闕於大義以殿下承統之光明正大而姑借禪代之文以欺詐天朝惜哉殿下受制於強臣家敦乖舛人倫之本王化之原正始之道未能光植而弘颺之以何者而推致中和位育之功克宅天心乎萬化隨而日駁風教自然頽蕩乖氣拂鬱陰陽易序日月薄蝕水旱沸騰花實冬敷繁霜夏隕以至雨暘風雹星孛虹霓昆蟲之妖間見荐仍頃者後庭之班綴悼未幾昌敬王后遽爾上賓壺儀慘聞意者天其所以警殿下者深矣傳曰和氣致祥乖氣致異昔庶女抱冤飛霜擊燕彼窮閭一女之賤眇焉微末若無預乎天而其冤結之氣猶足以感召飛霜之變若夫以至尊之配尸天地廟社神人上帝所冥顧者而無故廢斥落莫一室永結幽悶如是而傷天地之和氣來荐仍之諸疹者不足怪也聖念其亦有及於此耶嗚呼既往之失則已矣豈遂不可得以復正乎在殿下一轉移之機耳今內政缺主宜因此時廓然決斷復正慎氏于坤后之位則天地之心所享也祖宗之靈所允也臣民之望所副也殿下將此位欲屬之於誰乎存大分於既墜全舊恩於已際此正合於大義正理洞然無疑矣假有惑者誘以已廢妄生異論不過附於前日主議之臣有所觀望則復亂殿下之家法也彼元宗等雖曰有大功於王室當其時天命人心咸屬於殿下雖非此

輩神器將誰歸乎適乘天人之會効其力而負恃其功肆然不忌規制 君父放逐 國母犯天下古今之大分一作義此萬世之罪人也功不可以掩之當其跋扈之時 殿下確然不聽廢后之請考按脅制之狀明正典刑可也既不能然使之榮富自若足以償其功矣今雖已死宜明正其罪追奪官爵曉諭中外使當世與萬世灼然知大分之截然不可犯也伏願殿下於此數事實諸義理處之制之無所滯難則可以一灑已往之謬然則人倫之本王化之源正始之道澄澈光大如天地晦塞而復開霽呈豁 殿下又能精一謹獨自誠意正心上推去充諸政理則周家麟趾芻虞之化從此而成王業過八百可至萬世而無窮矣臣等以踈遠之臣不避越位之責敢冒瀆冕聰誠以茲數事分義所關至重且大不可緘于心而不一聞于 君后也臣等膏抱憤鬱久矣而前此不能申吐者正以 昌敬王后當壺若復慎氏難爲 昌敬地耳今則 昌敬上賓壺位復缺正反正之機會又當求言之秋此臣等所以汲汲覩縷陳之也方今天譴不弭政教不純庶事乖方伏願 殿下懋惟祇敬克享天心臣等區區鄙懷鬱念尙多有難悉獻伏惟 殿下垂察焉

三印臺碑銘并序

淳昌郡之二十里古寺名福泉者今日剛泉而寺之南有所謂三印臺者高可累千仞下俯

深淵上有數株松生石罅不知其幾百歲三印者何在昔冲菴金先生淨守本郡誦齋朴先生祥爲潭陽府石軒柳先生沃爲務安縣會于是臺而議疏事三賢各有印故以是名焉謹按 正德丙寅我 中宗大王撥亂反正夫人 慎氏當正位中壺而勳臣朴元宗等以夫人之父左相守勤死於難慮其害已白請廢之 中廟始下教曰糟糠之妻何以處之屢請而後許之遂冊淑儀尹氏爲妃是爲 章敬王后居十年乙亥 后薨時有災異求言先生乃應旨封章請復正 慎氏位號仍極論勳臣刼制 君父放逐 國母之罪言甚痛切疏入臺諫李荇等請拿鞠禍將不測賴鄭相國光弼力救止於徒配久而放還方草疏時掛三印於松樹間云忠義奮發尙若可見而但疏中沒柳先生之名此其故何哉舊傳二先生謂石軒曰吾輩俱有親老而君則無兄弟可以爲養者死則傷孝也以是石軒獨免嗚呼是臺也有巖川之勝古今閱幾多冠蓋而都如烟雲之過目惟三先生之風凜乎其不死豈不以君臣父子之倫天經地義互萬世而長存者耶 肅宗己卯因縣監申奎言將復 慎妃位號廷議多歧不得行作別廟以奉之今 上己未復會羣臣議 聖斷赫然追上 慎氏號曰端敬王后躋于 太廟陵曰溫陵於是二先生皆 贈官賜祭嗚呼先生之議雖屈於一時而終伸於百載之下信乎天定之必能勝人也是非旣大定矣彼勳臣者尙可晏然於從

享之列耶噫郡之人士謀樹石于臺上以記其蹟屬緯爲文愚於此益知秉彝好德之心人同得也系以銘銘曰

剛泉之水兮東流泱泱 溫陵之樹兮北望蒼蒼石可泐兮先生之名靡終極

崇禎再甲子四月日

資憲大夫議政府左參贊兼 世子右賓客李緯記

朝奉大夫司憲府前持平閔遇洙書

大匡輔國崇祿大夫判中樞府事俞拓基篆

德山書院奉安文

畸菴鄭弘溟

淵源正學金矢遺直志切君民身困徽纆風猷雖遠游躅在卽祠宇之勗士林攸式載奉載享率禮靡忒其庶願惠祁祁嚮德

春秋享祝文

文賁金石化沾邦家像設儼然薦享孔嘉

德山書院移安文

尤菴宋時烈

伏以兩先生訥齋思菴妥靈於此祠幾年矣州內又有月峯祠以享高峯奇先生自 朝家宣賜

扁額章甫之議皆以爲三先生志同道合在中宣朝其出處之義又與相符當以兩先生合享於月峯以一歸向之誠已以聞於朝家得蒙準許今將奉移祠版謹以酒果敬伸虔

告尤菴逸書

崇禎丙戌建德山院配享思菴院址湫隘顯朝辛亥尤菴同春二先生指教儒林與月

峯合享尤菴撰告高峰文曰伏以訥齋思菴兩先生與先生時序先後略相差池而其道學之懿出處之義未嘗有異曾有德山書院以享二先生章甫之議皆謂二先生之別享於彼非惟事力之分携揆以義理亦似不安茲以申聞於朝卽蒙指揮將以某日奉移二先生祠版以世序先後訥齋先生居西位思菴先生居次位先生居東位來日質明合行事謹以酒果先伸虔告

月峯書院合享祭文

在中廟世同明蔚起闡道明理以啓文治維時訥齋出群拔萃出施惠化入掌綸綍編城絃誦王猷煥郁事有至難如宋瑤華冲菴靜菴匪同曰和四賢之時先生是范暫雖顛沛正義難犯仍爲禍胎箕錦遂成迨夫斬伐晨星獨明有銜未吐幽抱慄慄棲遲困阨沒齒猶甘有傳其學曰惟思菴髫年濡染允矣阿咸惟叔與姪儘徽齊芳星聚一家賁我大邦乃謀

履享申于泰階涓茲吉日爰舉縟儀三賢合堂悅聆墳篋何幸吾鄉有此偉規蓋惟本朝承麗雜夷雖宗圃治禮義終愧逮我中廟式遵聖軌己卯之盛駸駸姚姒民興孝悌士誦程朱蟲篆茂貞蟻述改頭榮靖御世碩果不食圭老河西振起頽俗簾儀忽作士類桁楊聖言賢行爲世禁方自宜祖初復獎儒術成簡繼開大闡斯學惟三先生前後羽翼同條共貫殊途一轍惟功惟烈沒世可諉今茲祠享實承朝論陟降庭止尙庶昭格欽我惠我永世無斃

阿咸下有告思菴語大邦下有告高峯語而今始闕略

### 春秋享祝文

稟質純懋學識精明立朝風旨聿爲度程

### 敘述

金淨朴祥請復故妃慎氏下獄止鬼薪論

安牛山邦後己卯遺蹟

自後廷議角立互相攻擊遂爲己卯之禍

章敬王后誕元子而上賓坤位久虛時朴嬪生福城君岬而寵冠後宮覬覦非分潭陽府使朴祥與淳昌郡守金淨議曰元子在襁褓而朴氏寵傾若遵成廟朝故例陞後宮爲正妃則難爲元子地莫如復立慎氏伸無故廢處之寃明無以妾爲妻之義所以全舊



恩而防側位之窺也遂合辭抗疏

國朝記事

疏上 上曰此國之大事雖下該曹亦難施行留此疏於政院

大司諫李荇倡言若立 慎氏有王子慶則置元子於何地大司憲權敏手等和之指爲邪論請拿推問而其疏則不可留中 上曰予觀其疏國家大事輕率議之意欲推問但因求言而上疏故置之不用不必推治茲留政院耳

三勳靖國之功雖大脅廢 中闈之罪萬世難逃若起三勳於九原示此疏而問之則必縮頸慙慙之不暇臺諫皆無識只聽荇敏手之言靡然從之惜哉

時命政府六曹弘文館議啓皆以爲承求言之教言雖不中不可罪之以防言路惟臺諫究治遣禁郎拿推事機不測領相柳洵三啓不從副提學盧謹思四啓不 允左相鄭光弼率朝廷救解遂配外驛

朴祥南平縣烏林驛  
金淨報恩縣合琳驛

蓋大臣之力也

吏判安瑋啓曰朴祥金淨承求言之教竭誠進言今以一二人之言反加嚴譴此實杜言路沮士氣貽萬世之讖也宰相秉國論斷國事臺諫特繩愆糾違而已大臣六卿侍從之臣舉請勿罪則國是在此而臺諫獨非之可謂公論乎且罪敢言之士孰能忘身而殉國乎權李反駁安瑋指爲誤國自是朝野之士喪膽畏縮以言爲諱

安瑋己卯黨籍

應教李彥浩啓曰臣爲試官見一舉子對策以臺諫請罪朴祥等爲自失職事是儒生之妄議所當棄而反取之甚不可也

正言趙光祖斥臺諫反罪言事人之罪盡遞兩司自是朝論各立

直提學金安老發兩是之論曰光祖爲言路扶植權李爲宗社請罪俱未爲非云云當時廷議互相是非時議以爲權李實出於妬才仇善彥浩之諂附安老之兩是皆得罪萬世公論及至金淨朴祥蒙宥立朝則彥浩敏手出爲外任苻見罷

長城守儼崇善正澂詩山正正叔江寧副正祺等聯章言朴祥等不可罪 上曰朴祥等被罪後絕無進言者今可以張士氣也遂 命釋是非稍定羣奸屏黜 上特命朴祥金淨給

牒叙用

國朝寶鑑

正言趙光祖啓曰金淨朴祥當求言而進言其言雖若過當不用而已何復罪之臺諫請罪至發禁卽而拿致爲臺諫者能開言路可謂盡職也朴祥等事宰相雖或請罪臺諫則當救解以廣言路而反自毀言路大失其職臣今爲正言豈敢與失職臺諫同事乎不可相容矣請罷兩司復開言路 上曰金淨朴祥論人所不得言故臺諫請罪盡遞則過矣豈不可相容乎又啓曰金淨朴祥所言之事雖不當矣然其疏置而不問助言之德彰著矣宰相亦知

上不用其言而不論是非臺諫雖請罪之陷君於不義以成拒諫之漸累聖德於萬世如此之後國家雖有大事豈敢求言乎雖求之誰敢言乎外方草萊之人欲言事者路聞朴祥金淨等事而止治世安有此事其時臺諫尙皆在職臣豈與相容乎趙文正靜菴集

大司憲趙光祖啓曰 慎氏復立之議朴祥金淨至於上疏亦是正論其時議者欲置之得罪此等事皆小人所藉口者也士林之禍根潛伏於此 聖上不可不知而亦不可不言於元子也

朴祥金淨上疏請復 慎氏正坤位朝議爲非請拿鞠事將不測先生獨力爭曰 慎氏固

不可復疏中所論亦大有理不宜加罪以塞言路二公由是得免李文純退溪撰靜菴行狀

訥齋於己卯有先見遠引之識當羣奸用事之日超然不怵於禍福終爲元祐完人李文純退溪集

上之初立迫於勳臣廢正妃 慎氏及 章敬王后之薨朴祥金淨抗疏請復大憲權敏手

大諫李荇等詆以妄言請罪公斥臺諫之誤臺諫因此攻公然物論是公臺諫竟被劾遞李文

成栗谷撰安貞愍公應神道碑

十三歲入學訥齋朴先生時爲學官深加嘆賞曰他日必爲國器栗谷撰李上舍夢奎行狀

朴訥齋祥居廬于光州金湜老往陳亡命之由訥齋曰袞小人之雄處事奸巧使人主蠱惑

不自覺其端倪豈可居中用事致人相窺而議已也公悔喪心卽定一死遂至自盡八賢傳

朴祥金淨上疏極論朴元宗等刼制君父放逐國母天下萬世之罪人也又言不可以

妾爲妻之義請復慎氏非徒正當初處置之失蓋欲防禍於未然李廷龜東閣雜記

中宗大王入承大統夫人慎氏正位坤極受臣民之賀廟社有主而元勳朴元宗等不顧

大義祇爲身謀脅持君父終至廢斥是無異於脅其父黜其母也臣以爲慎氏於地下

目不必瞑魂不必朽矣金淨朴祥君子人也疏論元宗脅迫之罪慎氏位號之復其言森

嚴直截光明正大至今讀之懷懷有生氣而當時時議矛盾扞格不行臣竊痛之殿下試

取此疏循覽上下則可想其時事矣當初慎妃之請廢也上曰糟糠之妻何以爲之

中廟之眷戀不忍捨之意可見矣今此追復豈非繼志事乎肅廟戊寅縣監申奎疏○顯廟壬子因

商家貧甚廢祀移奉慎家直孫慎守勤五世孫縣令諸家給祭需置守塚七戶○肅廟戊寅立祠命慎氏神主時在外

昔在元妃配至尊建奉夜出國人冤側想那無追復意奈茲不識聖心存又曰爲創新祠祭命下御製詩曰

替太常祀義起本由尊本心傍人何必證經史○英廟己卯以慎妃復位事詢于大臣入告大妃命百官獻議數日五百人之議無參差可見人情之所同卽命禮曹舉復位儀節

尋得見於朴訥齋則言論之激勵動息之整肅又有以動人者不待言傳口授而有以啓發其良心焉金文正河西集

金梅月堂時習悅卿詩文散失十不存一朴訥齋與李陰崖野前後哀印行于世栗谷撰梅月堂集序

天使熊化見訥齋集中梅邊獨立天將暮月下孤吟夜欲移之句又赤心同奮丙寅年希古  
人能擁帝宣拂袖不辭携義檄堂堂忠勇薄秋天之詩曰可謂兼得董仲舒之文章文天祥  
之正氣東槎錄

朴訥齋其可謂羣鷄一鶴獨立寡和權樓冲齋集

金淨朴祥先進讜議雖被忌克者媒孽其間而代有善人踰而復起趙文烈重峰丙戌封事

林百齡惡諛之加幾滅儒林中學一會長不秉筆朴淳視性命猶鴻毛惟以安國家定社稷  
爲事抗章排雲不愛其死蓋淳父兄師友親見士禍故慨憤有素戮力除姦疏中自註曰淳  
之叔父祥力護善人而終身被斥勁直之氣夙有家風慷慨之志植立已久矣

忠州朴氏譜自高麗副正英八世而有曰蘇始仕本朝爲殷山郡事是生智興成均進士是  
生祐生員壯元明經及第官至右尹號六峯其兄祥世稱訥齋先生爲己卯名賢宋文正尤菴撰思菴神道  
碑公倜儻有大志北門禍作一時士類無所依歸公悉爲經紀故金世弼李紆李延慶俱往

依之醒翁識小錄

己卯之際訥齋冲菴詩尙盛唐文尙西京如金承旨練大菴號奇典翰遵子敬號與其儕輩皆

以訥齋冲菴爲師友裨官雜記

朴訥齋體不逾中人而可以托六尺之孤金潛谷增名臣言行錄

公性簡抗少許可嫉惡之心出於天性以此不容於朝雖至屢黜終不改也貞於陽川構道遙堂遍求一時名作以題懸公詩有半山排案俎愁壑闢樽孟之句貞知其譏已遂撤而焚

丙辰丁巳錄

先生母夫人徐氏歸寧南平之路宿於井邑川原店店在長城笠巖之下是夜夢笠巖墜下聲若巨雷以裙受之有娠明年甲午先生生狀貌端正神彩英明因以店名命小字家乘或以巖名

燕山納羅州牛夫里之女而嬖之牛夫里以賤人之子恃恩恣橫掠人婦女奪人田園朝野患之無有正其罪者丙寅秋先生以奎羅都事杖殺于錦城館自度不得免禍待命上

京有貓自大路而入小路彷徨若指路先生異之遂從小路行燕山開牛夫里死即命拿來金吾郎從大路與之相違會中廟反正得免慘禍

南越遭讒先生抵書方伯曰名者猜疾之標的執弓抽矢者無強弱自古皆然而湖南尤甚王陽明守仁文字東來未久東儒莫知其爲何等語先生與金十清世碩見其傳習錄斥謂禪

學有酬唱三絕先生詩有曰却恐人驚異所云之句而餘皆逸十清和詩曰紫陽人去斯文喪誰把危微考舊聞學蹈象山多病處要君評話復云云

金十清結屋於忠州知非川上先生時補忠州爲經營之屋形如工字兩邊爲寢室中廳爲

講學之所時經己卯斬伐之禍以學爲諱而惟先生常往來工字堂與十清慕齋金安國講  
道彌篤教誨後學時慕齋在驪江與忠相近每春先生親往驪州見州牧李希輔安分受官糴  
二百石船運分饋二公及學徒及秋又載米自糴歲以爲常不以祿米直餉蓋遠嫌也

訥齋先生集附錄 卷二終

# 訥齋先生附集 卷第一

金文谷編

賦

登瑞石山賦

生員禎

處人世之僻陋動皆窒而不通思登高而望遠一盪余之愁育穿芒鞋而捫薜陟瑞石之危  
峯超積蘇而獨立撫石上之矮松羨鷹隼之瞥起一瞬過乎長空恨學仙之無術塚纍纍於  
蒿蓬游余目而四顧天杳杳而無窮水練白而千回山戟立而萬重彼城邑之旁羅真道上  
之蟻封惟人物之絡繹宛豹脚之舞風問頭流其何許複嶺限乎天東距大海其幾里耽羅  
塊於目中地勢壯而綿邈田野闢而和豐繫湖南之一域視荊州其誰雄忽心馳於往古增  
慷慨乎幽衷方羅濟之割據務挾矢而張弓及賊萱之跳梁尋產禍於頑童龍孫迷而不振  
外寇乘以交攻前元帥之侵軼後倭兵之奔衝燕含泥而巢林鶴無聲而於疑却戎天府化

賦

二九五



爲賊藪戰骨暴於深叢賴 聖祖之神武攘黠虜之肆凶使鬼哭之荒野藹禾黍之芄芄歷  
百年而昇平尙飽鮮而醉醴將解甲於戍樓民捨身於梵宮雖太平之有像懼覆隍之無終  
或冲遂仰天而長嘯送雲表之孤鴻日忽忽而倒影霞片片而曳紅探絕頂之壯觀久躑躅  
而扶筇

公諱禎訥齋先生之兄也天資秀美德器純成文章學術皆超然自得賢士友相推之曰  
白眉之良佑畢齋按湖南加禮以待曰真廊廟器也公因與從遊多受啓迪教訓兩弟俱  
爲名儒時稱宋有父子三蘇東國有兄弟三朴云十八生員不幸早世著述失於兵燹只  
傳瑞石山賦一篇

訥齋六峰少時遊賞瑞石山而來公曰諸君今行有所得不對曰未也公臨壘使之  
採筆口號成章即此賦也有一子虎孫參奉孫大壽曾孫之孝縣監皆有文章節行

黃金臺賦

六峯禎

曰自蘇代之返燕寄毒螫於寸舌君既吐珠而不含權奸弄其樞極齊乘釁而襲破勢不堪  
於掎角幸昭王之無恙紹甘棠之遺烈闕宗社之帶羞悲肉食之無良指緇衣而微激怨既  
深於膽嘗冀獲士而共圖思刷恥於先王感涓人之市骨闡求賢之大方爰禮隆於隗始特  
華構而師事費千金於一士恐吾誠之不至苟圖報於勁敵盍求士之瓌傀引當時之羣龍

將以郭而爲媒賤棠溪之精神寶豪杰之英材信知己之在此孰隱耀而不來彼趙魏之俊  
彥如驥過於孫陽惟樂毅之忼慷奮忠膽而抗強名旣高於北斗望亦重於南金矧劇辛之  
委質抱匡國之專心仗數子而叶力續危勢於一髮壯厥威於攻伐勢有同於拉朽愾素憤  
而虛齊雪七廟之遺垢擅雄號於山東雖暴秦其何攻屬危亡而復存寔得士之宏功閱青  
史而游目美燕平之尊賢儲妖艷於歌臺語不可以同年抱黃金而買笑玩迷心之尤物方  
斯類於燕昭判珷玞於美玉較好惡之不同宜成敗之殊迹何後嗣之罔念忘前日之遺德  
嗟見誤於縱間匿沈痼而忌醫斥著龜而已去哀吉凶之誰知曾不知復脩之遺迹謾好媒  
於詭術奉刺客以兼金欲匕首而威敵惜謬計之未試買奇禍之尤促若見平於地下得無  
愧於亡國滴寒窓之曉露寓春秋之缺鉞重曰賡歌世遠緇衣俗逸層臺疊榭徒事遊樂獨  
有昭王好賢而築納約自牖非隗奚得爪牙羽翼朋來盍簪拔齊報讎非毅何能召公之業  
職此復興後豈無賢君自不招黃金萬鎰難鑄燕昭

優遊堂賦

宋 龔

粵余有二朋兮未見夫安七情而忘世事吮舐痔癩夸車之多兮鮮能知夫天鬻之佳味秋  
城之南山水幽靜兮朝暮逸興之可致唯吾史雲龔字樂其無位卜築園廬華侈本末良辰

石軒六峯一號

吉日賓朋輻輳兮樽俎肴核兮有羨脫落羈縻惟意所適兮孰云天機之得淺岸黃冠以周章俯澄川之如練竹齋花塢碁席詩卷評確古今高談縱橫釣縉磯上白鷗完盟稗極告熟命奴乃獲應對差科用之亦給石軒先生問曰以子之藝聖明之世何不出而處耶主人曰黃鍾元間之登於清廟不能奏折楊鳴鳴綠耳白羲之馳於康莊不敢行跛蹙蹇驢而方今朝廷得治俊乂林立如我龍鍾懶慢無敢側其旁而浪迹溪山惟烟霞焉是愉况名者公器得之有命不可以智力而求愧餘子之躓躓強名堂以優遊閱古人之所服思十一而恃之保不才而欲盡其天年非曰守雌而雄亦知也先生曰聞子之雅言嘉子之無爲吳儂薄劣亦喜散人華陽舊隱猿鶴見招松亭蘿月已約拂乎詩塵調病氣健步履春風兮聊與子而話心云徒有言而懼未踐書剡溪之白雲

觀水亭次退休堂韻酬宋判書欽

山含雲影入簾寒無限清陰月與欄風約水花猶近檻日斜沙鳥老眠灘渚烟溪水真堪畫  
茶譜方書又喜觀謝病解官幽賞地題詩暫借雪塵肝

次風詠亭韻

地盤篁塢靜堪休興入吟窓剗客愁天濶樹光浮野岸日斜鷗語趁沙洲清樽北海逢場飲

轍跡陳平滿巷留才健付公宜輔世強顏慚我鬢成秋

題道岬寺僧海蟾詩軸

金剛半段落南隅雪立千峯蘸海濤九井天留療病渴青童倘乞一盃無  
亦恠求詩下白雲荒村拜扣老斯文朗州山水朝廷借他日携來謁使君

示子弟

吾家自昔傳儒素爾輩何時見學成最是少年山寺樂碧窓秋夜一燈明

錄奉六峯行軒

申靈川潛

令伯當年天挺豪六峰今世又清高平生志操同冰玉餘事文章逼謝曹何幸小亭聯  
酒席不堪他日寄鵝毛更看歸去陶君意却愧淹留未解勞

呈六峯

林石川億齡

賤子無人愛先生不我遐論文迎小榻問疾到貧家宦拙馮唐老名高賈誼多遙知風  
雨夕欹枕夢天涯

湖海鄉仍遠唐虞世已遐赤心唯有國清節尙無家在古猶爲少論今亦豈多琴書連  
北斗自足了生涯

次興德培風軒韻

高苔軒敬命

製錦何年屈六峯至今蘭雪灑清風江山盡入陶鎔裏人物相望氣槩中手拔鯨牙超汗漫興隨鵬背拍鴻濛飄然欲跨靈槎去銀漢遙應赤壁通

嘉靖庚辰仲秋登無等山錄奉口號呈石軒六峯一號先生

宋侁仰純

野曠知天遠林踈會氣寒保青憐檜栢被折惜芝蘭自酌盃雖滿仍愁意不寬一秋於

四序胡獨奪人權時士林新敗

六峯墓碣

林億齡撰

吾友朴君淳走書屬余曰日將於先君墓刻石碑文至今未作其實有待子惟六峰先生之文與行南方士大夫仰之如北斗宜求當世名公鉅人大文字如古韓柳者而張之庶幾傳於今若後不朽也余何敢爲又自思朴君不求於京師之文人必求於余其有以也予遊於六峯門下求益實久予雖窺豹測海未知其闢奧比之他人亦不可謂不知竊自謂知之深信之篤莫我若也予何敢以才薄辭先生本中原人也高王考諱世梁高麗匡靖大夫知都僉議司事曾王考諱光理中散大夫民部議郎後贈司僕寺正王考諱蘇入本朝成

均進士官至殷山郡事 贈通政大夫戶曹參議 後贈史曹判書 皇考諱智興成均進士築室光

州鳳凰山下棹醇冲澹與權學同遊學及擲相 光陵嘗偉公器欲薦公累以書起公公

不就 贈嘉善大夫兵曹參判兼同知義禁府事 後贈議政府左贊成 始娶羅州鄭氏 監司耕之女 無子

而沒後娶桂城徐氏 生員宗夏之女 夫人待子婦嚴而有禮閨門之內肅若朝廷贈貞夫人 後贈貞敬

夫人生三子伯曰禎成均生員力學篤行士友推之皆曰白眉之良佑畢齋按湖南一見奇

之加禮以待曰真廊廟器也不幸早世仲曰祥釋褐登第又魁重試階升通政量峻心直

屹立不羣學文淵博藻思踔厲有訥齋集行于世先生其季也先生諱祐字昌邦少孤從

伯氏學幼有高識凜然秀異不煩提誘日益月開卓乎早成 中廟朝成均進士鬱爲居

首自此學益富名益大又四年及第初分芸閣尋拜藝文館檢閱歷待教奉教除成均館

典籍以大夫夫人年老乞興德縣監時仲氏已宰順天大夫夫人從之數月聞大夫夫人不豫卽

日棄官與仲氏奉歸于第侍側不解冠帶藥物非口嘗不敢進大夫夫人竟不起哀慕毀瘠

一從朱文公家禮服闋復爲典籍出佐關東幕幕中之畫從其義不可則不從監司憚之

入爲戶曹正郎拜弘文校理將入經筵焚香宿齋及進講其於君子小人進退消長之際

天理人欲出入危微之機古昔帝王治亂興亡之由必反覆推明辭旨切直意氣勤懇感

發 聖心上深識其忠三年以疾辭徙工曹正郎轉兵曹正郎尋拜司憲府掌令陞執義  
陳讓懇至改成均司藝數日復爲弘文校理特拜司諫言若不出口而事有害於正者論  
議棘棘色和而言勁又力辭移授掌樂僉正歷奉常僉正成均館司成拜侍講院弼善從  
容開導輔養弘多遷輔德特拜弘文館副應教遷至典翰特拜直提學超授承政院同副  
承旨次遷至左承旨又特拜江原道觀察使是時列邑競以豐飲食相尙先生躬率儉約  
痛加裁抑一方遂以化以疾辭歸又拜右承旨時安老媼忌正士異己者排之先生不樂  
居內乞外除南原府使到官蒞職惟謹寬以臨民嚴以治吏一境戴之若父母然時許確  
尹全州子洽與沆來寧一道爭趨惟恐不先先生獨不往確父子請之再三不得已往一  
見公館賓主禮畢卽起不與之歡二許啗之逾年先生以疾辭歸羅州村庄二年特拜都  
承旨旣已寢前命時沆爲憲長與陰附者巧爲謗詆遂劾先生出爲公州牧使 上遣御  
史察守令不法御史陰承二許之嗾猝入城拮據疵瑕謬以供使臣不謹奏罷之又二年  
復拜兵曹參議沆等又駁之出爲海州牧使海關西巨邑號稱難治先生以興起斯文爲  
己任選邑中士人可教者不獨文詞之教教以禮讓孝悌之方由是人才之出與湖嶺同  
秩滿將歸民以愷悌清惠之狀走京師告憲府願留者前後千餘憲府不省又相率陳于

監司監司以聞 上特賜表裏褒賞不許留出城日士民畢至閉郭門人人擁馬使不得  
行先生謝無惠政慰諭遣之晡時始出門老弱婦女咸舉手以望行塵在途拜成均館大  
司成先生曾忤於權幸擯不用在外者幾十年及是命搢紳之士無不悅其來而諸生有  
所矜式數月轉兵曹參議特拜吏曹參議尋特授嘉善大夫漢城府右尹因事罷出爲開  
城留守府俗信淫祀憑神恠眩以訛言蠹財傷民其來已久先生痛斷髮櫛其妖巫不赦  
羣心以靖 仁廟朝復拜漢城左尹兼同知春秋館事監修 中宗實錄先生自以年當  
致仕持祿濡滯豈可苟哉求爲全州府尹府江南一大劇藩先生恢刃剪繁一境大治居  
七月謝病歸家無宿資環堵蕭然左右書史有以自樂監司以清苦之節聞於朝 上特  
命進秩嘉義錄清白先生欲陳謝上恩嗚呼彼蒼不憇遂寢疾丁未閏九月二十八日易  
簣于正寢大夫相吊於朝士林相哭於家皆曰善人亡矣明年三月初九日葬于羅州之  
南馬山里白鳳山之原與貞夫人金氏之塋同兆而異穴夫人考成均生員孝禎祖康津  
縣監琮先先生二十年而卒女二長適幼學許剛次適丹城縣監廉宙男二長旣前漢城  
府參軍後官至通政號烟波爲人骨清而能詩力可以進取科第掉頭不顧耕於寬閑之野釣於寂  
寞之濱真古之烟波釣徒也次淳捷癸丑巍科壯元今爲司憲府執義後官至領議政號思菴人物灑



落若冰壺瓊樹文與行度越流輩稱其先生子弟也先生在時嘗語於齡曰兒淳骨毛異衆他日振吾宗者必此兒也先生居閑行益高德益大外和而內方與人交久而愈敬人有一善推獎如不及不正之言非禮之色一接耳目若疾痛在躬終日不怡人之趨於形勢之途者望望然去之惟恐晚也晚年詩律尤精清和幽妙其他贊銘書賦雜著皆雅健奇偉然不以是自喜每稱德行爲本才藝末也嗚呼先生之所存者大只施於州縣雖治行第一乃其小施年至於七旬有二不爲不壽若較其德其使予悲也是爲銘

銘曰唐之八元漢之八龍有明三傑皆儒之宗德星聚一吾道東矣魯國杯水其何能容位止於通貴不卿不公年至於七十年不喬不松龍蟠于泥蚯其肆矣非臧倉之沮天難恃矣惟以文垂炳若日星世其清白而後之成貪狠皆貴公反爲榮

遣興

治高山時

烟波漑

高山山水縣乘鶴作春遊路入丹丘迥川通銀漢流烏歸千嶂夕花擁一軒幽門外無車馬  
樽前羽客留

亭子船

裝舟載素月擬價輕黃金不向宦津繫平生滄海心

玉岵庵

玉岵白雲白沙湖明月明白雲明月裏高臥洗心情

小屋高懸近紫微月邊僧影渡江飛西湖居士來相宿東岳白雲沾草衣

次林塘

鄭相惟吉號

韻題雪上人詩軸

天末青青一點峯賢師有意住遊筇欲尋幽蹟來滄海船上遙聞雲外鐘  
幽蹊曲曲萬重回石石休筇始得來半夜晴窓分灑氣星霜似減鬢邊催

卽事

月下西峰酒始醒渴尋溪畔吸清泠可憐勝事湏臾盡風擺梅花白滿庭

題藏春亭

碧窓丹檻倚巖隈古木苔痕小路開二叟遺墟和靖宅一江烟雨數層臺魚吞落蘂香歸海  
酒蘼秋黃薰滿盃月到雲沈風露冷玉簫清斷鶴飛回

林亭氣色畫屏同竹外朱甍翠霧中天下名花相代謝古今烟月白寒空東君用意留連地  
這裏精英屬主翁但惜風光挽不得白鷗洲渚散輕紅

臨終口號

支離一疾差無藥歸濯靈泉玉溜寒從此便教毛骨改碧雲天外駕翔鸞

題朴大均烟波清香堂

河西

謾揭清香號誅茅寄此中寒姿供雪月秀色領春風青雀黃龍舳舻瞳綠髮翁武陵何處是波上倘流紅

古語今知實逢君勝讀書儀容松偃蹇襟袍水空虛豈意前秋別相看一歲餘無端却告去愁思謾紛如

烟波行狀

公諱旣字大均烟波處士其號也姓朴氏系出於忠州名譜故籍中原蓋吾東寧土姓之中貴稱三姓朴昔金而朴爲最其譜有曰新羅赫居世主十一年以戚氏貴族分理國內州郡是以太史記有朴氏之爲州主郡主者其後在麗朝有諱得升僉議評理卽公之九代祖也是生判事公諱德麟判事公生尙書公諱之誠尙書公生諱世梁都僉議司事僉議公之子曰光理卽公之高祖也行中散大夫民部議郎入我朝贈通訓大夫司僕寺正娶通直典理正郎李春啓女生三子第三諱蘇卽公之曾祖也成均進士以蔭補殷山郡事贈資憲大夫吏曹判書兼知義禁府事娶固寧望族吳洽女生五子第四諱智興卽公之

祖也成均進士 贈崇政大夫議政府左贊成兼判義禁府事娶桂城徐氏生員宗夏之  
女生諱禎祥祐三子皆以文章鳴世時稱大宋有父子三蘇東國有兄弟三朴至今傳以  
爲盛稱禎十八司馬不幸早世祥辛酉及第又魁重試凝峻剛直柄鑿不合官止通政世  
所謂訥齋先生者也書院在光州行世有集諱祐卽公之考也進士壯元明經登第行嘉義大  
夫漢城府左尹兼五衛都摠府副摠管 贈大匡輔國崇祿大夫議政府領議政兼領  
經筵弘文館藝文館春秋館觀象監事娶棠岳金氏生員孝禎之女 贈貞敬夫人羅州  
卽夫人之鄉也因居焉所居有錦江形勝而六山環其宅仍自號六峰以正德辛未十二  
月十一日生公公生而神彩秀澈骨毛異常爲兒戲嬉縛草爲船常與羣童爲引帆上檣  
之狀已有滄州漫浪之兆矣及至學問日開月益不煩提諭臨文神會嘗曰人子爲學莫  
孝若也窮達在天孝理在己在天者吾所不知在己者吾當勉之自是人知有異行矣及  
長聲利外物無足以關心者惟以孝順父母爲心日夜侍側衣冠必飾視膳必親有供必  
贍曰孝莫如曾子而嘗以養志爲大世之人徒事口腹者與養犬馬奚異是以不敢忽父  
母之所愛不敢施父母之所惡至於晨昏非頓席疾病則不廢其定省左尹公動稱其孝  
人不能問年十八戊子丁內憂水漿三日不入口啜粥至暮三年不見齒毀瘠疑死吊者

大悅服闋初舉鄉試第一兩場而辰洛至入省試見有一士顛仆踰而死嗟悼不忍忼慨憤發曰士爭一名至殺人而不顧此豈仁人烈士所可旅進卽卷以歸名聲始大自是掉頭科第卓往江湖耕於寬閑之野釣於寂寞之濱竭力奉親供爲子職遺落世事芥視千鍾心行則仁人孝子節槩則真古之烟波釣徒也丁未左尹公捐館時公氣力與前喪不相能而啜粥荼毒哀毀過至終三年親執祭物不畏寒居濕處公質素弱人憂其不堪而卒無恙蓋喪之善居視其至誠也服闋惟以謹祭祀爲已任事死之節無異事生復事耕釣起亭於烟波江上吟嘯自放人皆以處士稱公公不以處士自處滄海泓深非人所得以涯涘公平生好施與聚族之窮不能自存者衣食之喪不能葬者與之財力使不過菘男女當昏不能裝爲者與之布帛使不失時公之族雖貧者賴公不難於大事公性癩山野酷愛江湖有以琴書自娛不求聞知於當世嘗具亭子船一隻青蘆疎雨任其去留時與二三詞客載酒乘月舉網得魚有剗中之興武昌之樂所謂遺世獨立羽化登仙之氣像或庶幾焉遂扣舷而朗吟其詩曰裝舟載素月擬價輕黃金不向宦津繫平生滄海心是詠也人爭傳誦流入九重時 宣廟方慕介士特命御史往占其棲隱之所琴書滿室臺榭壓江蒼顏白髮頽乎其間偃倚胡床向風長吟俄而命小僕棹舟下灘泝泳烟浪日

仄忘歸御史直以所見反 命上曰昔謝安携妓東山係望蒼生殆斯人乎自是恩命屢降而不起一日思庵公以筵官入侍 上顧思庵曰裝舟載素月云云一絕果卿伯處士詩耶對曰果有是矣 上曰予注意此人久矣執不許相見卿可爲予勸起耶對曰謹奉教矣翌日特命除漢城參軍不得已赴職俄遷高山縣監加通政階後以金堤郡守蒞官一年投簪而歸絕口不道時事恐其韜光又不能終日以樓臺花石自晦寄爲終老之計嘯咏今古俯仰天地江上清風山間明月長爲公所取用歲丙戌公寢疾十一月初七日出烟波亭令左右竟夜琴歌詰朝口吟一絕曰支離一疾差無藥歸濯靈泉玉溜寒從此便教毛骨改碧雲天外駕翔鸞命侍子書之書纔訖乘化享年七十六也嗚呼哲人之逝異於凡人若此也夫翌年正月日葬于亭之西東向之原與夫人竹山朴氏之塋同兆而異穴也夫人先公十六年而卒嫡無子女側室有五子長曰應荅通德郎行順陵參奉其次曰應龍應龜應鳳應麟進士皆無後應荅生一男一女女適判官吳命壽男曰景生昭威將軍行龍驤衛副司果公以問世豪傑早事文章克紹家聲風骨脫凡發於吟咏者皆非烟火中語也其長篇古詩格調清越倅擬盛唐而公性本高簡不勉收藁又經兵燹行世無集惜哉然文章詩格乃公之餘事其傳也奚足多其不傳也奚足悲夫孝者百行之源

而自幼爲學以孝爲主則公之學力造詣可見也科者名利之場而一士踰死憤發掉頭則公之氣義爽烈可見也江山動靜之樂得之心而寓之興鶴出人間高風振世有耿介拔俗之標焉始也山水契合也中也君民望重而終復入乎江山誠行藏進退之義焉修身者智之符也而公之修身始於事親愛施者仁之端也而公之愛施始於親親名節者勇之決也而公之名節始於高潔公之平生心跡莫不有原原其所自其惟孝乎公之季曰思庵相國爲卜平遠亭於公亭相望之東時時引退友于湛樂往往以輕楫短棹泛泛同舟去來烟濤雲浪之際行船過舫莫知其經世相公物外高人共載舟中也性氣爽塏不拘小節危構露榭琴篴歌謠自俗見觀之有若玩世高蹈脫落名教之所爲而至於聞國家一事之非憂形于色憮然忘食則真古之處江湖憂世者也若夫長簑短笠荷鋤南畝野婆村翁皆得歡心則宛然一農夫也而左右圖書焚香靜坐宵默終日古今閑中則真古之守敬君子也嗚呼若非卓犖豪傑之士而能如是乎六峰公清白節操足以規世厲俗而能生育二君子一則以儒雅大度爲世輔相垂鴻名於竹帛一則以物外高標遜世自養灑清風於千古吁其盛矣然則古所謂蘇明允家世亦斯左矣愚魯若孝曾者夙從先君子高峰飽聞下風於公之父子兄弟間謹錄平日所聞於父師若干語以待後之有

德有言之君子參考而傳之愈久焉烟波亭在錦館城西四十里許龍山江是已林子定

云滄浪處士名悅年月日世生奇孝曾謹識

武王不褒錄夷齊論選東文

進士敏中

天下之節義有高下大小而聖人所以褒錄旌異之道自不同焉是故有節則褒之固也而有褒者又有不褒者有義則錄之固也而有錄者又有不錄者褒之者其節固以褒之而彰矣然不褒者亦以不褒而其節益彰錄之者其義固以錄之而著矣然不錄者亦以不錄而其義益著蓋節義之小者其勢易至於泯滅必褒之必錄之而後當時有以知之後世有以仰之若其節至大與天地同其高厚其義至高與日月爭其光明者則吾不褒之而當時已見之矣後世可師之矣吾不錄之而當時已知之矣後世可仰之矣然不褒者非徒不褒也聖人以爲是節也至大吾不敢褒之而遂不褒焉然則不褒乃所以大褒也不錄者非徒不錄也聖人以爲是義也至高吾不敢錄之而遂不錄焉然則不錄乃所以大錄也噫聖人所以褒節錄義之道其義蓋亦微矣固非尋常識見所得以隱度也昔者武王紹成湯革命之統爲天下萬民之主其所以褒節錄義之道靡所不至如式商容之閭封比干之墓固亦多矣至於夷齊重萬世君臣之義義不食周粟餓死首陽之巔其爲節義大關天下萬世而褒



錄之典獨不及焉是豈武王自是其牧野之舉而以夷齊爲一段守義之士遂不褒之錄之也蓋商容一賢者爾比干一忠臣爾其節也其義也固有可嘉可尚者矣然非所謂至大之節至高之義也當時之耳目固有所不泯其見聞矣然時變歲易至於千萬世之遠則豈可保其必傳而不替也在帝王褒節錄義之道宜無所不用其極也是故有封之以褒其節有式之以錄其義若夷齊則其節天地若也當時固見之矣後世亦豈待褒之而後有以見也其義日月如也當時固聞之矣後世亦豈待錄之而後有所聞也是故不敢褒之而以不褒褒之不敢錄之而以不錄錄之然不褒不錄之意不獨在是蓋武王深知伯夷叔齊者也欲使夷齊得遂其守義之清節不敢以周家褒錄之典有累於其身張大其節以輝煌其義何也殷紂不君天下無生久矣天監多方惟有周有德克堪神人天命武王是殪有殷以主中夏故武王奉皇天付託之重順萬民歸向之心與天下之仁人義士往伐一箇亂政之匹夫而夷齊獨持隻影出犯三軍之嚴威援引君臣之大義峻言以責之奮辭以非之彼伯夷叔齊豈不知武王之奉天命順人心出於不得已而無一毫私意於其間也蓋以君臣之義天地之大經而以臣伐君亦天地間一大變是雖天固命之人固心之而後世之亂臣賊子亦未必不以此爲藉而君臣之大義將有所泯滅而不存矣夷齊是懼之是慮之欲立至大至

高之節義以扶植千萬世君臣之大義其爲志卓立宇宙橫駕八表雖鬼神亦莫得以窺其際矣是故近則有三千同德之士遠則有八百同心之國不期而會天地之所覆載日月之所照臨凡有血氣之類莫不咸以周爲歸而當時天地之間獨夷齊二人非之也有道者欲施布於周之朝有才者欲試用於周之君霜露之所墮舟車之所至凡有一藝一能者莫不咸以周之粟爲食而當時天地之間獨夷齊二人耻食也噫夷齊豈好爲是偏固苦節也哉蓋不如是不足以聳當時後世之耳目而無以折奸雄犯義之心也已其爲志其亦遠矣大矣是故武王洞照夷齊之肝膽既重元元之命以行南巢之舉而又重君臣之義以遂夷齊立節之心志不敢有所違拂於其間以挽其至高之節以累其至大之義武王蓋亦深識夷齊之心志而無所疑惑也何也以天人合應之師受屈於匹夫之片言莫敢加寸刃於其身乃曰是義士也扶而去之自此而後環首陽一山以爲夷齊獨立之地政令絕焉不相及教化隔焉不相與未嘗以一命之爵以污其節加一粒之粟以累其義何莫非使遂其心志以全其節義也哉其生也既不敢以周家之爵祿有以及其身而以全其節義則況既死之後其敢以周家褒錄之典書天地之大模日月之明以忤恠在天不死之心志乎是故其生也無所爵無所命而夷齊之節義既得而全矣其死也無所褒無所錄而夷齊之心志乃得而

遂矣如使武王苟以一毫周家褒錄之典加於既死之後以爲後世仰止之地則夷齊萬古不死之心必不屑於周家之褒而自嫌其心之有所不遂也必不屑於周家之錄而自愧其志之有所不成也是則武王迷夷齊之心也拂夷齊之志也其所褒錄大節大義之道不亦淺乎是故非獨武王不敢有所褒錄也八百年間聖賢之君所以褒節錄義之典世不有廢而未嘗一及於首陽之匹夫是亦遵武王待夷齊之心而不敢有所褒錄也噫武王恐累其節義慮污其心志不敢褒錄於前其子孫亦以武王之心爲心又不敢褒錄於後是宜其節其義所以光明於當時張大於後世而至于千百載之下其高節大義日月乎宇宙元氣乎天地照耀乎人見泱洽於人聞直與天地相爲終始是亦不敢褒之而其節益彰不敢錄之而其義益著乎愚故曰不褒乃所以大褒也不錄乃所以大錄也謹論

進士墓碣

金彥琚撰

嗚呼悲夫人有揆天才華出類文藻而懷羅隱之慟抱伯道之恨又不幸享年而早逝者雖比比有之豈如吾友朴敏中蓄才抱屈不得展布而窮阨終命目不瞑於地下哉敏中姓朴名敏中系出中原先祖光理前朝民部郎中後贈司徒生諱蘇本朝宜川郡事後贈生諱智興生員後贈左贊成娶居於光州芳荷洞生諱祥自少英爽博問強記一舉登第又中重

試壯元歷官清顯爲世名臣出守潭陽與淳昌郡守金淨上封事請復廢妃愼氏事雖不就除名配隸時論譴之爲己卯諸賢所推許有訥齋集行於世敏中訥齋仲子也早承家庭之訓學問淵源十八中己卯司馬文場戰藝洛中諸士以西晉郗詵目之不敢與之較命與仇謀屢屈不第吾曾共榻于蕭寺請益甚多焉持身嚴肅處心莊慄有凜然不可犯之色凡待人接物言語舉動不欲混同於流俗故雖取重於吉士而不容於尋常之人執喪過哀一依朱晦菴家禮丙申聞君得病避寓廬村問疾而來中路聞哭聲倉皇馳進則其夜易簣云戊戌之秋設祭墓下夫孰云宿草無涕痛哭而返君之妻朴氏郡守以恭之女而母車氏訓練院權知石子之女系出吾門故數相往來情好甚親君歿之後朴氏以君兄府使敏濟之子希壽爲繼後戊辰冬朴氏繼逝合葬於君墓尼山之麓某以墓碣來求於我吾嘗辱君之知不以鄙夷拒絕義不敢辭遂爲之銘曰

抱才見別楚士泣玉傳業無兒唐賢頭白命何云短意何其長淒涼吳下白鷺墳荒蕪沒丹陽張裕宅破千秋萬歲誰過斯野指點徘徊其必有悵然者矣

# 訥齋先生附集 卷一



# 訥齋先生附集 卷二

## 爲善最樂賦

六峯祐

渺余贅乎黃胞兮抱純粹而中立味聖賢之缺言兮循繩墨而不跌悟老恤之多憂兮求天地之至樂精氣注而不釋兮馳神馬於廣漠俄銀橋之橫中兮接太清之瑤宮謁玉皇於紫微兮羞再拜而歛容曰余朱愚爲物之靈天鬻不知外累我撓芝蘭不茂荆棘日生目迷五色膏遍三彭癡蠅觸窓活眼不開進退多窒蹙躡黃埃百憂交攻役役動作達人見我指爲木刻將何道以妥軀兮謝人間之此疾愚已深於守株兮茫不知其所適願上帝之監我兮幸一示以神明皇愍余之倥倥兮出天言之丁寧提一理以畀人兮初慧蒙之無別堯何心而獨豐兮跖何意而獨齋純厥始而至美兮淡太虛之不鑿嗟衆人之經竇弓探縵審而欣躡復初者聖背初者狂譬如尺蠖食黃而黃蹈乎大方物莫能崇道豈在外由我之守子婦求之何患不至方寸之間自有樂地不遠而復昭載大易忽聞言而大覺兮悟前行之不蹟返精廬而端坐兮究一身之全德襲禮義之華服兮履孝悌之莊寫築詩書之高壘兮隣太

初而逍遙道已至於天遊兮物自絕其紛囂乘六藝之珍駕兮玩方塘之皓月麤穢去而盡  
精兮忽心樂而春融氣與物化心與天同日照月臨吾樂之淡然兮非鼓非鍾雲行雨施吾  
樂之發見兮匪管匪絃食前方丈無所慕兮足願神而保年問孔顏之所樂兮思庶幾於萬  
一既自無而入有兮復淵默而雷聲室生白之有餘兮又何事乎營營坎則止流則行兮動  
隨意而不括暖如春凄如秋兮羞內省而無忤足蔽撤而晏然兮目魏牛而無全假不容於  
純真兮恒吾道之不遷鼓天機而善鳴兮吻外問而內達明既無乎人非兮幽何有於鬼責  
自秦火而迄漢兮孰我心之先獲般紛紛其驚外兮鮮知味於飲食幸東平之允蹈兮信得  
嗜於大哉超衆憂而獨立兮起後學之欽承夫何世人之澳認兮甘爲懶而不興饜富貴而  
不醒兮決性命之正脉王孫望孔而媚竈兮季子干楚而炊玉曾不知樂在爲善兮味大道  
之間間紛六鑿之相攘兮終一身於愁菴必亡多而獲小兮樂未罷而憂隨及善豈余之獨  
得兮哀夫人之不識後余生之千載兮曷自強而不息侶大中以爲朋兮邀堯舜與之爲師  
懼一事之或患兮防意城而罔隳庶斯奉而周旋兮矢窮達而不離滴梅窓之清露兮呼洛  
孫而書之繫曰天開困敦功有此人人貴於物善有其身有而不樂不如其亡推其緒餘可  
爲陶唐小則顏曾大則仲尼顧余後學敢不孜孜爲終身樂無一朝憂舜之所取此外何求

鬻體樂賦

昔余夢之登天兮窮萬里而大視訪紺瞳於上界兮忽錫余以丹餌共食嶮山之絳雪兮消  
煩惱而心清縱杖屨於涅槃兮軼溷澁而明精俯瞰甕間百萬蚊蚋兮胡警起而倏滅自以  
謂住顏長春兮夸鴻寶之秘術指蓬壺之坦途兮踰羨門其彷彿然故邱膠心而莫舍兮羞  
中途而懷歸秋窓屑窳忽醒仙夢兮復兀豁而不得飛紛世事之交干兮皓華崇而爲憂顏  
色日以腫膾兮悵黃精之難瘳携老藤而散迹兮索延齡之昌陽歷江山而穿原陵兮曜靈  
奄其西藏跼荒涼之細路兮得千秋之鬻體神未沫而跂語兮似謂余之勞軀曩附贅而爲  
人兮寄有涯於無涯感事物而銷鑠兮心百憂之常懷羨英雄之華腰兮忘寢食而務虛名  
曾不知夜半舟移兮強喉呀而營營育宮室妻妾之奉兮利或析於秋毫入趨踰於父兄兮  
出僂僂於權豪如一言之有忤兮續衆口之弩發榮與欲之兼己兮哀日月之駒隙一朝鬼  
籙萬事烏沒空山大枕蒼蠅吊客鼠肝虫臂不擇所適絕交息遊朋沙友石松風管絃動哀  
壑兮臥上髮而何爲樵車野火慣不避兮肯刀鉅之我威寂然枯槁不以衣食亂兮希至人  
之辟穀苔蝕塵埋卽我容兮固無心於令色聞達人之大觀兮付乾坤於逆旅生也浮死也  
休兮隨所遇而無拒我笑子之朱愚兮謾區區於長年苟續骨之有道兮彼周孔當爲先也



况神仙黃白之道非明智之所取子從歸於玄宅兮悔前日之妄使念世上之役役兮誰一日之安遊食君之祿畏不厚兮甘牛維而如囚患得患失鄙夫之偏側兮又何足以語娛吮癮舐痔不知恥兮類艾豸之處汚大者兵力以攘奪兮鑿南面而稱孤南威缺苦厭面奇牙兮喜怙寵而戲愉目厭侈麗耳倦絲竹荒淫不悛禍起肚腋苦口臺城係頸軹道松栢餓歌沙漠狩老想當年之窮愁兮不能換余之樂也枯蓬沙草以爲室兮風雨兮不能愁我驪陵銀海之築雖壯兮俄牧豎之撥火陋巷顏子之樂雖美兮唯有心於仰鑽我則無聖賢無治亂無人非無鬼責既棄喜愠何有窮達銷磨歲月共腐草木言未罷余繼之曰吾將叩天關而開玉匙兮謁上帝於紫微迄成物之理氣兮鼓造化之天機復汝之恒幹還汝之前形小則居官守尉大則爲公爲卿論道則喙長三尺判事則手重千斤德望至於威衆兮恩澤專於得君車轂丹朱甲第穹隆金張前驅許史後從出遊大澤牽黃臂蒼入處綉屋粉黛圍香語鸚鵡以傳觴兮引鳳凰而吹簫大沈注於博山兮蠅矩明於長宵六肴盤錯九醞危斟以此終身其樂如何鬻體不答但聞樵歌

與申企齋光漢同賞古館梅花聯句

眞珠古館春早廻眞珠館梅知誰栽霜刀巧剪青女勞昌玉容寂寞姑射來清香寒夜露微

微月色在枝春徘徊之漢道高意遠淑且真把酒自幸清夜陪近之可遜不可慢邦昌明道先生

今在哉瞻前忽後影凌亂欲見真面心難裁之漢好靜不厭讀書聲騷人疊跡傾金疊誰能採

之貢玉堂邦昌美人渺渺維永懷蘭盈九畹氣蕭瑟蕙己充房香亦摧之漢君有好速廣漢妃禮

以自防無所埃天寒雪下蝶不到邦昌古意寂寂城西隈明朝門掩人亦散忍看落藥黏蒼苔

之漢

去歲西樓倒玉卮今宵古館著清詩邦昌梅花樹下悠然意明日山西幸見思之漢

### 凌波臺聯句

納納萬川不見溢世間洪量壯東溟前波欲折羲和軸邦昌遠勢明侵太白星漠漠稍分雙度

鳥飄飄難著一浮萍之漢南鵬怨濕垂雲翼玉兔愁寒倚月櫺海雲蓬島隱萬疊千尋弱水日

輪傾邦昌天門此去知何許大壑如今恐己盈晴日轟雷聲拔岬炎天崩雪爽携瀛之漢遙看白

浪中天蘸幾度黃塵桑下生邦昌古石凌波磨不盡高臺度劫兀呈形宵吞雲夢誰言瀾眼過

扶桑自覺明之漢金罍滿春欸美醪玉盤堆雪膾長鯨己招黃鶴躡前舞欲採蟠桃了未成邦昌

王母不傳青鳥信海翁聊與白鷗盟之漢羨門子晉同酬酢白鳳驪龍剩灸烹邦昌雲遇洪濤游

雀躍風驅御寇步跼跼之漢釣船欲繫珊瑚樹詩句能收島嶼青邦昌天外擬看銀闕湧雲間初

覺白毫橫

漢

雄篇傑作啼幽魅虎笑誇談徹太清邦昌醉眼襯霞高興動歸程回首衆山平之

阿鳴促膝馮夷笛玉女牽衣不能成邦昌

問字畫之作肇自邃古聖人制作何所取象籀篆科斗崩雲垂露鍾鼎盤彝所傳不一果皆合於聖人制作之初意歟响嘯之碑岐山之鼓其字體亦有依放歟歷代名家者多矣可歷數而言之歟子雲之識奇介甫之字說不免後世之議其所敷衍傳授失於聖人之遺意而然歟清濁之分五音之辨出於後世曲士創見而操觚者世守以爲格律抑有說乎鍾王書法冠絕今古而識者無取灑洛諸儒該究物理而不及字畫何歟字畫粹駁果無關於治道歟諸生游心六藝講劘於此久矣願聞的確之論策

進士敏中

對糞土愚生窮居草澤之中從事六藝之間亦有理會而粗得者矣執事先生發策秋圍舉字畫制作之意論歷代書法之異欲聞的確之論愚生淺見安敢不盡於今日乎竊謂邃古之初睢盱混茫制度之未作文爲之未具標枝野鹿之俗醇樸無爲而結繩之政簡如自然之化純如天地造化之妙人物性情之理冲漠而不露混融而無著及其聖人神會於俯仰之際心悟於觀察之間虫書鳥篆之法有設形象措事之體有立然後道之茫爾隱者彰焉

理之冥然藏者開焉禮樂刑政有所藉三綱五常有所賴萬世文明之化蓋亦濬源於斯然則聖人制作之意實爲載道之器而已明理之具而已務技者點畫之爲工攻藝者形象之爲奇鸞翔鳳翥無補於實用銀筋玉畫只歸於未能而聖人制作之本意蕩然毀裂而不復存矣是以負一代鴻儒之望懷明體適用之學者探物理之會窮性情之原錢穀甲兵禮樂射御出其理會踐履而字畫之奇古書法之精妙初未嘗用力於其間而臨寫之際志不放肆胡亂而止則夫聖人制作之本意歷代名家之取舍亦可得以容吾喙矣夫萬事萬物莫不各具一段之理而聖人之心至明而不暗聖人之目炯然而不蔽故見一物之象制一物之字見一事之著創一事之字字不離物物不違字使天下萬物皆會於字畫之中則其當日取象之旨蓋可想見於今日而其爲明理載道之具亦可因是而推也其曰籀篆者史籀之所作也其曰科斗者高辛之所制也崩雲創於軒轅垂露始於大禹字體有不同形象有不一而其所以制作之意皆出於明理載道之具則前聖後聖初未嘗不同也若夫峒嶺之碑岐山之鼓其字畫書法亦皆高辛之科斗是則史籀之大篆是放焉是豈無祖述而然歟然其明理載道之意亦不全在於斯也秦之李斯漢之蔡邕嶧山之碑鴻都之賦卓越千古後莫或能及焉則歷代書法名家者亦可歷數而指陳也然其點畫之爲工而載道之意則

失筆法之爲務而明理之旨則毀愚不敢爲執事道也漢有楊雄識奇字宋有安石辨字說一則委身新莽而君臣之義蠹一則引奸誤國而行道之志蠹其識奇字者雕虫而已篆刻而已何有於載道也辨字說者執拗而已穿鑿而已何有於明理也然則其敷衍傳授之有失於前聖之意不待辨說而知也夫清濁之有分五音之有辨亦出於自然之理故古昔聖人節諸歌詩協於律呂以爲交神明養性情之具如二南二雅是己是則理之所明道之所具而深得夫制字之本意也惜乎黍離降爲國風而正音大有所晦徒持音韻之高下以爲吟風詠月之資執筆操觚者世習世守自以爲格律之高致考諸文理交神明養性情之具則蔑蔑乎無聞而明理載道之意曾何足與道也哉鍾王二子但精筆隸既以名播一時又以流傳後世書法之妙則固有如稱者而明理載道之具謾不省爲何事聖人制作之意初無絲毫之有相關涉矣是宜識者之無所取於斯人也夫字畫之工無補於明理載道之具如是故灑洛羣哲知小技之不足事識大本之有所在仁義是修禮樂是習法度是束而發諸胸中之蘊施諸聖人之學則一字有足以爲終身之規者如溫公之誠字是己隻句有足以爲後世之式者如程子之敬字是己皆明理之器載道之具而知聖人制字之本意真能有所不失矣然則明字畫之理而爲明理載道之具者君子之學文也工字畫之體而爲悅

人觀視之具者曲士之小技也其爲治道之有關於否據此亦可得而知也噫夫字畫之作本爲明理載道之具故雖古今字畫之大相不同而堯舜之欽明執中禹湯之勤儉寬仁科斗垂露旣足以載之籀畫隸書亦足以明之初未嘗以此而有所晦歷明萬古而爲冥道之日月焉是以字畫雖六藝之一而愚生平日用力亦知當務之爲急不敢有所事於斯也妄以明理載道之具亦擬於濂洛羣儒也執事恕其狂僭謹對

# 訥齋先生附集 卷二終



# 訥齋先生集跋文

訥齋朴先生歸然爲己卯完人其文章尤齷齪瑰奇絕世世顧罕覩其全稿先君子謫朗州訪於先生六代孫晶而得之幾佚其半獨先生弟六峰公祐嘗就全稿刪定爲六編此尙保完而板本則皆毀久矣先君子惧其久益放失也遂取二本合而釐之以六峰所編者置前而其餘爲續集既繕寫屬湖南方伯李公師命李公濡授剞劂于光山會值己巳之禍垂成而廢今方伯崔公奎瑞聞而慨然甫下車卽董成之且取先生伯氏生員公禎及六峰公與先生次胤進士公敏中六峰伯胤烟波公旣詩賦若干篇附刻於下用以備一家文獻亦其後人所嘗講於先君子者也工旣訖謂昌協忝爲先君子牛馬走與聞本末俾書卷後昌協不敢辭因竊惟念先生始終名德固焯々昭著而其請復 慎妃一疏大義較然可以埃百世而不惑矣而當時言者反欲論以大何々其慎也然而先生之名因此益彰則以天下自有真是非也彼蠅螬於一時者又何足道哉疏文成於冲庵之手而先生與之聯名蓋東坡於范內翰古事也故今集中不載云

崇禎紀元後六十七年甲戌九月安東金昌協謹書





批選龜峰先生詩集



# 龜峰先生詩集後序

先生之詩膾炙於人口雖一時文章鉅公無不推讓不敢與并而顧余於詩昧昧焉有同瞽者之於綵繡加以六七年來塊處荒野不與知舊接無由蒐集遺篇以慰樛摧之慟而時得一二於傳誦者詠歎之淫泆之而已同門友沈君士敬宰鴻山收得長篇短律五七言各若干首艱鳩材力剗剔之以一通貽余且屬余序其後余手披目閱口詠心惟累日不但灑然如狃寒門而濯清風恍若復承警咳於臯比之下不禁涕淚自潛然也因念先生自七八歲凡下筆語輒驚人與李鵝溪李栗谷諸人並號爲文章而其詩格之清爽奇絕先生獨登壇焉及長不樂於京都朋儕間家于高陽龜峰下遁光晦彩沈潛乎經籍體之於心驗之於身所期者第一等事則其於文墨舊娛不暇爲也亦不屑爲也然或於晚年感物寓懷或於羈旅顛沛之中紀行酬人者渾然天成不假雕琢而自契乎風雅之旨矣清而不隘奇而不整樂而不放憂而不怨邇而遠隱而顯豐而切約而盡一字一句皆出於性情之正根於義理之奧得意於上下同流之妙寄興於陰陽變化之態貧賤泥塗之中而氣猶健縹緲死生之

際而語益平信乎有德者必有言也世之論詩者尊古而卑今雖名家大手無不求疵至於先生則吃噴噴咸曰盛唐之清調堯夫之自得兼焉先生之偶發於吟詠詞句之間者若此則其稟氣之高造理之深所養之厚蓋可想矣噫余於是尤有所感焉以先生英特之氣博古之學蘊之於心吐之爲言論者出爲世用則其施諸事業者當如何而卒老於蓬華簞瓢之中又爲當路仇栗谷者所移乙流離困辱之狀有不忍言者易簣之後今且餘二十年而門人弟子又不克發揚幽光使平生言之可矜式者與牛溪栗谷辨論精微之書皆泯泯無傳擬傳諸今與後者惟是先生不屑爲而偶發者則時耶命耶何先生之生死於世也其不遇之若是耶門人弟子亦不得辭其責矣雖然當時樞衣於函丈者惟士敬暨余三四人在世而士敬清操惠澤歌頌一境則其持身及物者可謂不負所學而又能廣拾遺稿於兵火飄散之餘割俸鑿梓圖永厥傳亦庶幾不負教育之恩矣若余者早承提撕行之不力汨沒侵尋今則兀然爲庸人將無以發明先師之學於門人弟子不得辭其責者余其尤者今因士敬之懇把筆臨紙不覺愧汗之沾衣也天啓二年七月日門人資憲大夫行龍驤衛

司直鄭暉謹序

# 批選龜峰先生詩集 卷之一

門人竹西沈宗直纂集

## 五言古詩 十三首

### 雨後登山

天近日月明便通騰身積霧中高曠特出連峯碧無盡幽壑深不窮深窈林虛籟歸寂水定淵涵

空脩然有朗吟倚曾壁長袖拂彩虹曠望極人目地遠來清風四句軒舉有天門勢漸逼九扇

何處通回看舊時伴鸞鳩藏蒿蓬有李諫仙清韻

### 聞京報走筆別親舊

萬世在吾後百世在吾上此身立其中浩然一俯仰達觀河決事業豈不大無窮非與是齊得小

少慕先師孝孝勤佇趾不讓第一等一欲止所止期待自今古異其道虛名增謗毀練世以

無為我有不為謂我為刺骨賢哲自古然於吾君莫悲自警求生固非道輕死亦非義安於

文集自古作古亦

其間有至理毫差謬千里休將禍與福於學爲勸沮亦朝聞夕死之意昂哉歲暮心無忘臨別語

有懷

衆草翳孤芳幽香何損益君子自修不求人知白露滴夜半清風吹日夕真心空自持不許傍人識調古思幽

又

吾友謂吾曰古人吾可期有爲即其人古今無異時有爲者亦若是出言戒無信行身惟不欺道此外此

成已又成物吾道其在茲吾友忽先逝大志中道虧好學今也無傷心非爲私深悲之語相觀更

無質隻影吾亦衰此悲粟谷早亡之作

晚題

山家值晚晴池面息纖纈天容落其中一色同下上池雖上含天天遠九萬里終然天隔池

生風池不止語語透理風定豈無時定時天可逢平子絕倒池既不改清天亦不改容不了語好

別人

人生豈無別此別令我悲白髮去留心相見何年時金多醜作妍天外愁蛾眉自古賢聖皆有此嘆何獨今日

急節邁流水貞心無遷移棄捐玉何言卞氏空淚垂

次謫仙韻

寂寞青樓女單居白雲端玉齒未曾啓芳春無所歡有節何人識無言片心丹重重翠雲屏  
不許他人觀寫他自守之情却笑秦家女輕身乘彩鷺

寓羊馬村曉次李白淡玄韻

千山鳥聲曉幽人夢先覺歸雲流靜態落月掩寒貌露花濕不飛既落還有要林端白色生  
漸入窓間照何處得來盈虛只一理默契閑中妙言言透徹吠淡尊內守慕寂輕外召幽悍獨坐誰同賞  
無私豈異調遐想忽有會時或莞爾笑足不下庭戶何年事登眺暗合陶謝

走筆書懷

滿目干戈裏偷安一枝棲萍踪無遠近行伴是夫妻百結未掩骼風霜蕭瑟兮一飯祭不得  
臥聞烏夜啼骨肉斷音書生死隔東西極其流轉之苦白髮零落盡別久魂夢迷萬里同明月他鄉  
又鼓鼙農桑無舊業秋草任萋萋非古非律氣自淋漓

雲谷哀辭

人言吾弟死地是東海湄有生誰不死爾死爲最悲白頭四弟兄蓬轉各千里飢寒兩不知  
所慶惟不死情至意篤生時寄我書見書纔一句路遠言莫信欲問憑何人畏人哭吞聲淚滴聲  
相連吾家鶴鶴原汝年爲少年常擬我先死使汝藏我骨款眷憶在提哺時慈愛於汝別飲乳



汝最後含飯汝何先宛轉極悲汝病我必痛我病汝亦然慘裂今日死不知呼天天漠漠汝死不

我土孤骨委何壑辭情俱絕

其二

汝有三女子丁難未歸人汝有一男兒啼飢病嬰身旅櫬地盡頭家鄉知幾里死後即無知

文集  
有冤作有怨

臨絕情何已悲腸寸絕日色爲汝昏江流爲汝咽含聲哭不得有冤何時洩

其三

汝病不得救汝死不得哭一影落坎井千里悲骨肉吾門兄及弟少小情愛篤今春改先窆

孤墳土三尺相持哭一聲是哭爲永訣情極慘悽吾欲耐汝骨世亂何可必

其四

少我汝已死老汝吾能久寫得無限去春握汝手相視悲白首昔病今不病人皆謂汝壽生既不

我先死何不我後切切身病又時危無知羨汝夭委曲不厭死者或相逢終知別時少四篇俱苦心而此獨極痛之作

七言古詩 二首

在雲陽山中次友人見寄韻

清夜沉沉洞壑幽獨鶴頻驚松上雪曉風吹落何處鍾一聲迴度千峯月來得叩冰玄竇煎

茶遲小奚斷夢香烟濕山中住久道心全山外不信風塵急漸入佳境參差疊蠟埋早紅隔窓曙

色分又集造靜聞還嫌日月遲冲虛翻訝詩書澁卓然有見神仙只在方寸中休道鸞輪遠無及

看遍萬卷丹經不出此句中武陵終未絕世間有友却向蒼生泣結有調刺底意

### 足不足

君子如何長自足小人如何長不足立兩扇便奇拔不足之足每有餘足而不足常不足達理樂在有

餘無不足憂在不足何時足透見安時處順更何憂怨天尤人悲不足求在我者無不足求在

外者何能足言足一瓢之水樂有餘萬錢之羞憂不足古今至樂在知足天下大患在不足

大閱二世高枕望夷宮擬盡吾年猶未足唐宗路窮馬嵬坡謂卜他生曾未足匹夫一抱知

足樂王公富貴還不足天子一坐不知足匹夫之貧羨其足萬事棄除不足與足皆在已外物焉

爲足不足微而吾年七十臥窮谷人謂不足吾則足朝看萬峯生白雲自去自來高致足暮

看滄海吐明月浩浩金波眼界足春有梅花秋有菊代謝無窮幽興足一床經史道味深尙

友萬古師友足德比先賢雖不足白髮滿頭年紀足叙開多少足意同吾所樂信有時卷藏于

身樂已足俯仰天地能自在天之待我亦云足結得快活○此作用一足字爲押連用二十足字古無是格此爲初始而無砌疊無痕迹淋漓恣肆讀之不覺

文集  
經史作經書

批選龜峰先生詩集 卷一

其復猶飛龍乘雲不可模捉信一奇觀也主其觀  
破至理遠見如峽決河潰真有道者言豈徒文哉

批選龜峰先生詩集

卷之一

批選龜峰先生詩集 卷之二

五言律詩 七十六首

贈新寓隣人用杜詩韻

紉蕙成長珮裁荷作短裳以被服喻潔行無家常旅食不飲亦清狂任誕逃俗新識為親戚他山是故鄉

可秋天看更遠歸鳥帶斜陽甚突兀且寓歸思

宿歸鶴亭

歸鶴亭猶在亭空鶴不留壇明天漢近簾重海雲流自是烟霞語月落泉鳴夜山高露滴秋景佳無

由聞遠笛岐路雪盈頭

又

吾友客南國高亭墨尚留孤舟無繫處風海憶安流意有指別裏看明月愁邊又一秋情眷隱約浮

雲連漢樹遙夜幾回頭

宿赤壁村

倦客投寒店踈篔簹薄暮風一僧歸野寺幽鳥下蘆叢玄遠有致布席雲霞濕開門水月空高主人來問姓相對兩衰翁

其二

小屋隣殘寺踈鍾隔岸風便自歸心隨逝水孤夢倚寒叢迥外月入秋山靜鷄鳴曉洞空欲行前路遠重問主人翁

雪

無等山頭雪隨風落滿庭豪縱不羈近窓催曙色入竹助寒聲又浩渺迷關路續紛惹客情霽天東海月何事又來明結得甚新

旅館晴曉

幽人自無夢雨過虛室寒蕭散脫凡花濕明新旭竹低多遠山天趣自在塵心窮處盡真味靜中看到便佳半世交游事浮雲聚散間

文集  
虛室作虛堂

獨坐松樓

雲散前宵雨樓高霽色明便一年今夜月千里未歸情唐人高處檐豁羣峯小庭虛曲水清阨窮

猶自適無愧笑書生

送潭伯金汝物移守錦城

僉望歸高智移旌壓遠夷峭峻威聲秋渡海浩氣月臨陴軒壯志三韓小孤忠一劔知不沉蕭簡  
書增彩色誰復嘆時危

又

綺黃非避世夫子欲居夷自待亦厚塞雨迷秦樹秋雲映楚陴道違今日用名許後人知自寬自悲  
壑慙多逸兜鑿嘆獨危

客中用杜詩韻

海近雲連竹裘寒夕翠霏入峭語亦妙溪聲穿落葉秋色下重簾勁悍有思地盡青山遠時危白髮添北  
窓歸未得何處臥陶潛好殊

秋夜宿剛泉寺即詢齋冲菴裂疏處

氣肅千峰靜天虛萬象懸打破虛空那知興國寺更滯問津人鳳去悲今世言危悼昔賢引古淳  
風何寂寞塵外羨秦民

曉自剛泉過蓮臺上月淵臺

雨散蓮臺曉餘寒掛石門林搖秋色落鳥起磬聲分如水月鏡花不可捉壺酒緣蒼壁囊詩上白雲漸

高天宇大不必嘆離羣此作極幽勁

文集  
主人初度作  
士人初度日

九九之明日投士人村居云是主人初度子中司馬新婚獻鵲

泛菊重陽節明朝是吉辰枕涼藏舊扇堂穩戲新斑引事無迹婦德天中鳳君恩律外春慙慙

詩禮訓慶溢壽盃間語有劑量

曉雪

窓虛夢自驚冰厚水無聲古人不會道竹壓禽頻起僧寒磬不鳴寫得十分清絕寂默心魂定迢遙世界

明森然成獨坐真味孰能爭

曉起見故人書

客睡未曾洽夜長聞遠灘萬城可掬晨光連雪白行橐帶雲寒輒出表有守窮猶泰無憂險亦安遺排

好大明能照物親舊莫深嘆

念弟

孤夢猶關塞人傳繫洛師生存皆聖澤不罪信明時獨鶴歸無托殘梅折寄誰割恩終未

得溝壑有啼兒情到語平平亦佳

夜登廣寒樓

靈光生別島仙篆在方塘他人所得獨立愛山靜步虛耽夜涼閑遠白連天色遠清入水聲長致思

別過風落霞如雪紛紛映羽裳大抵是別調

偶題

道直恩先貸情深枉易分功將天鎮物事以靜持喧淵悍有信雲中日大明無私無形霽後氛雲浮

世事是非真不隱休歎若絲棼極幽極壯

書懷

文集尊中守作遵中守千里又千里白頭爲楚囚天同春一色入山妙山換水西流奇語信道尊中守遺名斷外求名念時

空達曙不是故鄉愁

獨坐

芳草掩閑扉綱川佳境出花山漏遲柳深烟欲滴池靜鷺忘飛簡淨有恃輕年暮無爭任彼爲深理

升沉千古事春夢自依依

客中

文集難信作誰信旅鬢渾如雪交情總是雲艱危明物理寂寞見心源非知道者語難到此世遠言難信蹤孤謗未分可山



花開又落江月自虧圓付之無可奈何

靜坐

味淡無夷險情輕任去留意到語好 功程看草長世道付江流何等達識 物外莊生馬人間范蠡舟高

翔雖可樂靜坐亦忘憂消遣之語

道上

曠野悲風急蕭條閭井稀時危門閉早山遠客行遲落照孤雲外長天一鳥歸翩然 東南居未

定惆悵更臨歧辭極高邁

有托

有托捐思慮冲虛道味長水逢深處定荷到靜時香默喻為學功程 高枕山禽斷開簾夏夕涼神仙

非物外成毀總亡羊

尋蛟龍山

一路緣流水窮源入翠微鹿閑眠草久人醉出花遲閑雅有孟巖韻 巖護經朝雨林藏未夕暉造語入神

仙風吹老鬢玄我短長絲結得險絕

獨立

向晚洞門靜 一聲何處鍾  
孤眠溪上石 醉起竹間風  
落照映疎雨 晴雲開遠峯  
澄心空竚立 飛鳥入長空

夷曠快活可見此  
老胸襟有林下風

### 更滯松樓

有命安吾義 無私樂彼天  
客窓藏寶釵 世道付閑眠

五字極  
曠達

五落楚江葉 三爲吳市仙  
去留何計較 遲速任當然

### 秋夜

地僻犬猶吠 村荒門不扃  
臨溪有老樹 半夜連寒聲

不縛古  
却高古

獨客耿無夢 懷鄉瞻遠星  
龜峯

綠蘿月應向 舊池明

龍矯  
雲霄

### 獨坐寓中用李白韻

文集  
滌塵作蕩塵

夕風吹片雨 寒日照孤城

高致  
雅語

隔島有蕭寺 響雲來磬聲  
蕭曠然凝道 想默坐滌塵  
情身老

轉無事時危 空遠征

文集  
夜臥作夜宿

### 夜臥豆陵溪上

短夢溪頭石 冷冷入夜清

便覺  
清奧

谷深一杵響 村遠數燈明

幽渺  
蕭瑟

鬢上寒螢度 衣中白露生

景卽

雖非銓古 無家來伴爾  
宿鳥莫相驚

亦好

秋夜

夢寒驚落葉身遠愴飛霜次白髮餘無幾黃花又異鄉  
虛名憎一世儒術慕三王夜起看孤劍雄心萬里長

客中

有路吾何適無家夢不歸可避人非遜世言志豈爲詩刺骨  
道在才難試時危計轉違出圖嗟已矣浮海慕先師悲

贈友人

文集  
音書作音容

塵寰聞弱水仙界有銀河一別音書斷相思鬢髮華  
良辰如夢裏跬步即天涯好會秋期近傍人莫怨嗟

謫熙川道中

文集  
夜析作夜析

隻影捐親愛雲山路幾千隨身唯白髮識面但青天佛而  
夜析同南北方言異後前深傷心箕子國無跡問遺賢

香山

山嶽威靈赫田原雨露均日星休往復天地失昏晨許大  
寶閉千年雪花開五月春康衢歌

帝德聞昔降神人

春晝獨坐

晝永鳥無聲  
雨餘山更青  
事稀知道泰  
居靜覺心明  
非透心地  
安有此語  
日午千花正  
池晴萬象形  
景中  
寓理

山中寓久

大樸藏聲臭  
心閑得自如  
盤中供藥草  
夢裏見詩書  
自悼  
泉闕人多壽  
山靈虎不居  
桃源非卜地  
仙子是秦餘

文集  
主人翁作主

宿開平村曉別主人翁

片月隱西山  
行人愁路難  
高古  
翁言胡野外  
曙色來雲端  
縹緲  
玲瓏  
縹緲星河落  
分明世界寬  
狀得

文集  
章中作樽中

靜中

心安身自泰  
分定又何希  
松下閑眠久  
溪邊獨步遲  
還將無事樂  
吟作有聲詩  
吾道同今古  
誰煩說伏羲  
和平恬淡真樂  
天知命者之言

吾年

吾年六十一日覺俗緣空有壽仙何學無愁酒不功十分曠識養多心轉靜看久理逾通非自下手亦難膚說  
末路相知少超然出世翁

寓在遂安山村

居高仙縹緲心遠契從容賓斷鶴無報花閑山不風刻而林明川受月透理窓黑洞移龍閃條  
孤坐多深省神遊變態中

楮塞旅寓

何地寄餘生日聞金鼓鳴家鄉無處所遠近不關情用老杜而亦自多感海上猶傳箭池中亦弄兵想優未退

而土賊白頭逢世難妻子笑窮經嘯聚

宿瑞興之五雲山寺

仙境遺塵跡迢迢鎖玉扃沉吟秋欲老高臥醉初醒然天流水無留響閑雲不定形種種奇絕道心  
隨鶴去天遠入冥冥

文集  
雲二字無

姜德輝期會山寺雲五姜時却賊成功余自謫所初歸

百戰三年別長沙一影還相思餘白髮有約宿青山知止鳥飛急勉其無心雲去閑自說解網閑  
忙皆自得斜日獨憑闌不遺題意却自不粘音格俱至

文集  
獨宿作獨寄

獨宿山寺次前二韻

千峯雲作戶一石月爲扇玉篆迷難記仙桃醉不醒風清天送笛霞斷鶴呈形碧落深如水

文集  
杳冥作渺冥

銀橋掛杳冥

攄况杳茫

其二

風御本無迹仙遊自往還天開明一月水止映千山  
此老爲學所得獨立中宵靜高眠盡日閑有期  
人不至乘醉倚華闌

宿廣坪金村

探遠結蘿戶選幽治藥欄草長牛不返松老鶴高眠  
閑適月映深秋水天開過雨山  
險絕自得十年  
湖海夢人世有神仙

旅中

文集  
杳無作渺無

西塞仍留迹南州未息戈居深天見少山靜雨聞多  
巧而不琢白髮又千里黃花餘幾家連城秋  
寂寂蒿荻杳無涯

懷海中人

用李白韻

悵望人何在瓊臺浩渺中白雲生暮海黃葉落秋風  
何減王岑山盡天形遠波深月影空高蹤追

不及霞外有冥鴻

寓新坪次隣人韻

文集  
隣人韻作隣人

蝶夢家千里萍蹤海一阮信天心自得安分物無求在對月看圓缺依雲任去留逢人唯盡醉世道付悠悠

偶題

文集  
偶題作次楓崖韻二首

亂後人烟少沿江一二門松高聞落雪天迥見歸雲理在阿堵中白髮親交盡青山故國存繫舟

心萬里憂道淚雙痕杜迥

又

慮稀夜夢息嗜淺天機深至人悲涼一時事快活萬古心自悲自解江空唯見月山靜不聞禽休

嘆知音少昭文未鼓琴

獨臥

閑居耽獨樂林外曠幽期窓靜歸雲盡沙明落照移寫景性隨天色淡心與水聲遲如是如是高

枕羲皇上安危莫問時

獨坐

泠泠入耳聲隔窓春水生古蘊真山寂寞耽道歲崢嶸分定形骸逸神凝志慮清遙看雲出  
岫來去任無情

不吟

每欲除吟詠終難自不吟題時徒信筆得處亦無心自寓其興故不天遠清風至江空月色深

文集  
尊酒作樽酒

此發  
興處此間多逸興尊酒莫頻斟

春曉

寶鴨香猶在金壺夜易闌夢長塵事懶簾閉曉雲閑聽草將尋藥留僧更問山閑人  
雅態前湖春

浪急無意把長竿

對月吟

雲斂千峰靜江空夜氣清孤懸惟一照悵望却多情宛轉  
有情天上無圓缺人間有晦明通理寧從

高樹隱莫許衆星爭意有  
指

溪上觀魚有感

雲晴俯可數蒲短不藏身避網風生鬣跳波日映鱗游梁誰問樂登級未通神東海今無釣

相忘萬里春詠物亦自襯切  
而引事處無痕



與友人新卜幽居

避亂兼辭世幽棲竝祝雞花閑香覆水松老綠藏谿境靜天還近機忘物欲齊從今無甲子  
休嘆久蟠泥

海曲逢故人

海隔人間暑風傳島外秋兵塵憂萬國落日倚孤舟沉着有別皆黃壤相逢亦白頭人事可傷無心  
同所樂長向古賢羞

病中

潮生畫扉白潮退暮島青隱約如見空林來遠籟踈屋見寒星月過山分影天隨水作形形容底神奇  
一床饒靜味經歲不遊庭

次醉翁韻

青春辭漢早白日臥雲深一鳥桃花雨長空海鳥心醉鄉愁不到仙鬢雪難侵塵世相忘久  
維舟莫浪吟

獨坐

隱几深雲水窮經長薜蘿不求知事少有守得天多操志若是何患阨窮山靜香生草江澄月在波心源

虛已久無嘯亦無歌

幽居

春草上巖扉幽居塵事稀花低香襲枕山近翠生衣新而雨細池中見風微柳上知巧而天機無迹處淡不與心違

睡

衆鳥歸飛盡清風生夕林人眠石上月露滴花間琴高古一水天機遠千峰靜味深古今誰不睡高致少知音

晴曉

碧濕雲連草紅低雨壓花暗泉鳴遠谷初日在深霞描寫獨臥巖爲席無門樹作家叙暴露狀甚楚楚千峰迷去住長嘯倚天涯

高臥

高臥養玄牝霞棲傍寂寥林聲晴作雨江色夜連朝厄味山靜春期遠天長鶴路遙寄懷雲漢表風御任迢迢

所居

幾落秦關葉三逢楚水春所居皆樂土何往不安身坦夷和暢寄興山河遠無求志願伸一瓢真  
有樂先聖豈欺人

病起訪隱

清羸艱一出窺戶占無風白髮新秋恨青山舊日容碧窮歸鳥鶴紅映倒江楓行路人多少  
誰尋物外蹤

曉坐憶親舊

孤月當檐上寒潮動曉扉出山知世亂浮海覺吾衰冠冕典則白首猶憂道青春又夢歸兵戈連  
十載不獨恨分離

靜中

一鶴雲天遠千岐世路難高氣其琴藏揮客問門掩樹春寒老益幽居樂貧添靜者安有味泥塗  
類甲子無得是爲驩

偶題

白髮青山遠兵戈歲易流一聲江上笛千里月中舟洽然有情盃酒唐虞志殘經四海憂折梅無  
可贈雲漢政悠悠

又

午枕驚黃鳥巖扉映竹林水村橋上市如山郭雨中砧時危輕別恨身病減鄉心自得慕古終遠世幽居不卜深

渡大津

津吏迎行拜論程却自愁死生天有命忠信海安流篤厚款至波外千山盡雲中一影浮寫得濶大險夷知在我平地亦多憂訓名

寓在控海堂

虛澄爲聖域人斷是仙家意表得此玩易開朝閣携琴下晚沙坐看雲出岫行迹下字巧水浮花無事真天放何勞上漢槎

五言排律 五首

偶題

文集  
羈愁作羈懷

望北猶馳檄來南亦點兵邊愁迷旅泊高貴媚昇平鄉路圖中近羈愁夢裏輕丁徭搜寡婦戊籍到書生時事可悲田廢連衰草村虛但月明夜長人事少寒露滴蛩聲

贈兄子歸自漢北

旅食踰千里巖棲寄一城  
 憐渠頭盡雪尋我跡浮萍  
 故國悲長歎秋窓憶聚螢  
 沙虛鷺共宿  
 江遠雨同行白眼辭人世  
 黃花趁月明琴藏絲久斷  
 龍蟄劔孤鳴境僻風霜苦  
 時危歲月驚  
 還醒通少 綸音求武士天意薄書生亦多 世外秦遺老人間漢客星奇慕有深意 相看天欲暮風急醉

無書

文集裁雲作裁雲

玉笈曾連屋丹書未滿囊  
 紗寒螢不照月落漏空長  
 喜易編誰絕裁雲葉自香  
 吾衰言莫記  
 世遠壁無藏自待良厚 挾冊徒除禁尊經謾設床  
 人文將寂寞 王業轉悲涼隱然有扶植世教之意

送人秋戌

降虜傳蕃事 君王更築壇  
 一心持漢節何路出秦關  
 草盡眠依雪水輕戰在山狀他艱苦 月隨  
 弓影遠霜拂劔光寒峭麗 麟閣功誰記龍沙夢獨還  
 蛾眉空出塞金幣未成驩末諳和論

寓居病中

文集希開作稀開

窮陰生獨樹秋葉響空壇  
 慕道希開戶耽閑只對山  
 王風歸寂寞儒術轉艱難  
 殘月隨潮落  
 孤雲傍鳥還名藏吳市遠  
 夢入楚江寒一疾緣憂世  
 干戈鬢自斑非老杜非盛唐自是無上品

批選龜峯先生詩集

卷之二

五言排律



# 批選龜峯先生詩集 卷之三

## 七言律詩 五十五首

客中

食披叢竹宿依霞行計蕭然只一蓑山近雞籠秋氣早江連白馬夕陽多路通南北 君恩  
足回護身歷艱危學力加處患不失常子在秦城兄塞外夢中歸去亦無家然

次湖南按使韻

醉裏光陰本不忙謫仙來伴賀知章樽中明月知心少竹外清風引興長當戶晴峰看不厭  
近床幽鳥坐相忘披雲更臥松間石露滴秋香入羽觴

赤壁暮泛

清風吹送下灘舡一影浮空謝世牽山色淨無雲斷隔天光遙與水相連嚴力悍壺中既自藏  
明月物外何煩羨挾仙回首塵寰今古態蜀蠻興廢夢依然



次松江所贈韻

松風竹月真消息，澗飲霞棲亦夙緣。終恠達人離道遠，更知窮處雅懷堅。綉嬌不縛他鄉萍水悲  
衰鬢京國烟花隔，舊年萬事浮雲空。起滅澹然相照此心全。

秋日憶兄弟

無家何處尋生死，仁覆恩深亦一天。南菊再開人臥病，北鴻三返信難傳。婉變甚切魂隨亂葉流  
江外夢逐歸雲落日邊，霜露變遷香火斷。白頭孤恨到幽泉。

有懷

帶方山下廣寒殿，每欲登臨宿計違。今日楚囚吟老漁，一春仙夢隔烟霏。銀橋近上星辰大  
桂檻浮空海嶽微。星星仙語無地人間堪着足，願驂孤鶴脫塵鞿。

歸光山道中

梅花消息阻秦關，雨濕行裝旅夢寒。今日餘生歸白首，昔年爲客記青山。委曲有情一天之下皆  
安土萬事無心是最閑。自解處殊快活人或勝時時或勝，先師虛老路歧間。引喻轉高

客裏逢秋

自注時通信使回日本多有可愛之編

會驚胡虜過臨洮，日下舟迴嘆轉驕。春燕歸林傷古語，秋鴻無信怨新騷。南來地盡滄溟濶

文集  
胡虜作胡牧

北望天長故國遙一箭在腰猶未發時人誰識魯連高

亦有斤兩

秋夜風雨次人

文集  
故字作舊字

紛紛成毀寄南柯枕外秋聲夜更多

蕭瑟  
可人

楚澤羈人懷故宇漆園歸計負無何風摧秀色傷

孤栢雨湜餘香惜晚荷

景中  
寓意

偶語非爲明世禁隔門傳意費吟哦

白馬江

文集  
湖舟作湖遊

百年文物總成丘歌舞烟沉杜宇愁投馬有臺雲寂寂落花無迹水悠悠孤舟白髮傷時淚

一笛青山故國秋

僧古  
感慨

欲吊忠魂何處是令人長憶五湖舟

客裏偶題

大雅微茫竟不陳回看東土又荆榛雞鳴狗吠三千里把酒吟詩二百年蘭珮黃昏悲改路  
桃源明月嘆迷津秋風白髮曾無約何事相尋萬里天

諷而  
怨

懷人

文集  
孤松作高松

獨鶴忍飢焉啄粟孤松雖折不憂霜

志槃  
福強

思君淚盡千山遠報國心懸一夢長月下如聞傳

玉漏風迴時記送天香蒼生有問知前席司馬何年返洛陽

夢見亡友

文集  
心契作深契

初如明月隔輕烟狀得條閃言笑開來漸沛然委曲冲淡精神雲外鶴從容光彩水中蓮風霜歲暮偏侵竹成毀人間不到仙明切何等憂道十年頭共白歎將心契付閑眠非粟谷不能當此

對博山香火有感

文集  
寒燈作寒窻

坐對寒燈靜不言隔簾秋葉落紛紛蕭爽可掬四環波向三峰合指爐形雙縷烟從一體分極妙爐到

成塵心獨苦香猶留帶氣能薰透道之見片時相煖終難保思入妙長夜辛勤謾自焚

尋燕巖亭

紅蓼花殘掩竹扉亂山深處一僧歸危欄獨立愛秋色寒磬數聲來夕暉露厲不寒金柱影翻疎

雨過碧羅紋破白鷗飛稍俚紛紛爭取無閑物清境如何有主稀好思

見京報題贈沙翁

心欲安來身不安生今慕古事多艱鳳凰肯顧鴟鳶嚇松栢難為桃李顏龍性難馴晝臥清風松

下石夜吟明月雪中大自在十年蹤跡烟霞外笑許浮名滿世間

謝贈主人

爭開新釀慰吾衰到處逢人若舊知人情宛至一世有名難避迹百年無伴獨吟詩雨收殘角投

江島風引餘霞落酒卮看他下字嚴悍寫景不靡有月何須愁日暮坐苦隨意告歸遲

春晝睡起

春隨逐客度千山便爾花似長安帶笑看情有直道難容會愧柳曲肱為樂晚希顏自負魂迷

芳草香生夢極似岸挾桃花錦作灘又午醉欲醒雲漏日不知微雨過林間備然

夜雪次韻

文集  
夜雪次韻作  
里雲作層雲

風驅神氣壓曾雲悍而雪作長冰鎖海門玉劔增光迴日月龍旂添彩耀乾坤想望中興之意

朝看亂轍林無伏夜縛元凶虜不喧暗用入盈尺呈祥誰賣劍家家持酒待吾君

春後書懷

春歸愁不逐春歸用稼軒詞語此却簡切愁惹閑眠更上眉雨滴幽簷魂斷續花連香霧夢依稀江南金

鼓無消息塞北風沙恨別離故國傷心烟火盡滿城芳草鳥空飛

亂離後友人以山莊相贈詩以謝之

文集  
謝之有三首  
山莊作

物外田園隔戰塵桃源仙客是秦人初驚燕子巢林語還作堯天擊壤民一枕輕風微雨夕  
數聲啼鳥落花春閑耕雲未畢先謀酒頭上從今不負巾

其二

吾今已遂歸山計休向風塵更問岐浪把齊治為已任不知舒卷屬天時知天命扁舟江上烟

波靜千樹花中日月遲莫道閑人無所事北窓長嘯傲軒羲

其三

白首青山不掩扉看花出洞獨吟詩童隨流水携琴遠鶴愛清風引步遲洗去色澤簡淡玄遠有道心懷

無戀慕忘機身世少營爲烟霞亦在人間物唯喜仙家斷是非三篇皆似香山蓋集中之較和緩者

詠閑

文集  
盡掩作竹掩

洞門何處別尋春花映千峰晝掩關老後讀書知至樂靜中觀物得天真氣自和平溪沙有月乾

坤大仙峽無風草木閑曠懷君子屈伸皆是道豈將巢許繼清塵閑趣

寄牛溪

文集  
大平作太平

安土誰知是大平白頭多病滯邊城曾中大計終歸謬天下男兒不復生感憤花欲開時方到底  
有色水成潭處却無聲諷諭千山雨過琴書濕依舊晴空月獨明經許多患難而心地蓋自如○自注牛翁少有重名亂後赴行

在無所建明時勢然也

夕泛

文集  
濕寒作滴寒

酒盡孤眠倚斷霞花搖紅露濕寒養狀得夢迴蘋末香初散蓬揭天心日已斜寫景清而不膩待月  
幾時舟可泊有風何處水無波諳歷河流清濁休來問興在冥冥上漢槎

偶題

不虧何用更求全，休向危中說此安。  
富貴在天無一念，屈伸由我任高眠。  
月方生處携琴待，花正開時把酒看。  
誰問世間經濟事，有莘耕叟未幡然。  
真知道之言

靜中有感

物情每嘆賓爲主，世態難堪假不歸。  
刺骨之談固有命焉求豈得，莫非天也更何疑。  
照了萬象俱空意時常獨坐到無形處，只心知。  
酷有擊壤風致遠山自保天然色，鏡裏何嫌學畫眉。  
結有含蓄

偶得寄牛溪

萬物從來備一身，山家功業豈云貧。  
經綸久斷塵間夢，詩酒長留象外春。  
閑曠自遠氣有閒開麟異馬，理無深淺舜同人。  
祥雲疾雨皆由我，更覺天心下覆均。  
高處非等閑詞客所及

靜中

看盡千山掩竹扉，靜中真得老何疑。  
只爲分內當爲事，莫問人知與不知。  
談理透骨不害無偶天理洞觀無厚薄，世情休問有公私。  
白鷗與我相忘久，兩兩連羣立釣磯。  
結得翩然

荅人

殘夢悠悠不可尋，楚凡成毀古猶今。  
落花流水渾無迹，秋月春風豈有心。  
令人萬事灰心萬里報讐

如咫尺一簞酬德費千金盈虛往復皆關數恩怨何人較淺深

有感時路出轅門

文集有感下五字書以小註

烟開日出啓重門畫角聲高劔戟分稱境語壯外府珍膏堆似土內庭珠翠擁如雲有風刺虫生虎

鷓鴣功誰記淚落塵沙怨不言山上楚烽猶報急繡閨孤夢謾慇懃

追記晚生多病以寄伯仲二兄

文集情罔作天罔

有子雖同撫育恩吾親於我最辛勤免懷當日先憂疾問禮中年未畢婚情至款厚詩廢蓼莪情

罔極慕深霜露血成痕哀慕切至平生風樹傷心處鶴髮明時始學言辭情俱絕

記夢

文集風賦作風御彩雲作彩霞

大羅如海莫沿洞風馭飄然不受埃餌遠蓬壺瑤草拾服輕銀漢彩雲裁網簷猶記凌雲字瓊府微醒飲月盃始信三天真契熟一朝那得任徘徊

客中贈人

文集鼓鞞作鼓擊

年年湖外鼓鞞聲每算歸程鬢髮明故國閑花飛欲盡驛亭殘柳折還生婉曲有情宿客避人猶隱姓山禽何事更呼名兵塵到處無安土沮溺那能老耦耕

浮舟南歸贈人

文集  
青山作千山

欲謝難謝叔季世未愁如愁別離腸之深語青山卜築踏將遍碧海乘桴歸興長白髮再經年

甲午黃花又見節重陽古人不壯心不逐光陰老嘯向扶桑倚夜檣曾道者

泛海

衆山收盡渺無碍日月高懸晝夜燈西指帝京雲一點東看徐島水千層治河有迹源猶

近浮海空言竟未能今夕始知經緯大浩然如跨九霄鵬自氣魄大

寓居海村

畫角聲中霜鬢催故園花竹鳥空啼客簷橋過潮初落別浦林昏瘴不開重天外片雲纔卷

兩島邊殘照又生霓俱佳丹砂有契嗟吾晚渡海傳書鶴不來

南賊方劇北寇又至與同志隱居海上依韻敢題二首

文集  
隱居上有將  
其字依字下有

何山無獸水無魚獨恨吾民不奠居投壁幾人知負子弊廬無壁可藏書可憐車顛有粟來飢

鳥肉敗猶羶聚衆蛆鑿井耕田遺迹在臥看天月自盈虛

其二

文集  
大海作碧海  
回首作此日

風花一散不歸樹覆水再收難滿壺魯聖傷時浮大海晉狂迷醉泣窮途人間回首多難事

天下何時有丈夫杭概濟世未能終避世桃源休說是仙區



贈人

文集  
贈人下書註  
歸自  
長沙

松存君臥淵明宅酒盡吾師屈子醒謾讀詩書逢世亂歎無功力及生靈真儒者之言一輪明月

心中事千疊青山世外情籬下波連滄海水扁舟身世白鷗輕

客去後獨坐書懷

文集  
高吟作孤吟

物理同源無厚薄世情多徑有猜疑携琴遠望雲歸處枕石高吟月出時亦自閑適邪說豈留君

子耳閑愁難近達人眉是豈戚戚於得失者身安更覺茅齋大不獨仙宮刻漏遲

文集  
獨望作獨坐

聞京報春曉獨望

歸棹聲高江水急登樓迢迢遠故園心一春開物無先後百草生香有淺深宜觀物理青山盡出逢

朝霧白日孤昇解宿陰輒是快活壯志欲窮滄海遠男兒何必費長吟

海畔與諸公飲酒

芳洲香濕曉雲輕春草連空宿雨晴白首孤舟千里客清尊湖海十年情淺中有味謾將花月絃

歌耳厭聽風塵鼓角聲袖裏龍泉光射斗皇華城下愧尋盟時蓋天朝決和

亂後寓居寄人

空餘舊物鬢邊絲一掩柴扉萬事稀君意如川無斷續世情同月易圓虧致語委曲池虛天大荷

初破林壓山長果已肥杰而時序變遷懷正苦靜中真味只心知

酬醉翁時醉翁不赴召命

文集  
醉桃作醉挑  
翁猶健下注  
書一作雲深  
北極魂猶

醉桃天上玉欄空下謫爲仙隱酒中日日携壺芳草路家家推枕落花風歸能騎馬翁猶健  
月在西山夜未終尊裏四時春一色鶴書來往謾忽忽

偶題

章裏作樽裏  
去

悠悠萬事任蒼天醉倚幽花樹樹眠曲盡閑態學道非求今世用吟詩無意後人傳喜可時危鼓角

青山外春盡江湖白髮前似杜陵志氣未衰年已晚夢魂來往伏羲先

金希元有書海西遠賊稍安來同避亂云

桃花流水混真源天外矯頭只斷魂醉睡不知山過雨醒來猶記海生雲景佳紅葉乍妍悲晚

節夕陽雖好近黃昏含意自遠曳兵遐邇皆同走定脚何人守此門

送人入洛

文集  
池花作池荷  
文集  
天南作南天

日暮靈臺影半摧夷陵何處吊秦灰方城漢水空傳險堤柳池花只助哀盛世綺羅春一夢

昔年親舊鶴重來殊自感恨蕭條閭井投無所回首天南鼓角催

閑居

逃世深居獨不群  
兵戈遙聞辟去血紛紛  
瑤琴乍拂荷香入  
海鳥初歸竹影分  
斜日尙留花下照  
層陰還結嶺頭雲  
語亦憂先天下雙行淚  
爲寄東風掃宿氛

偶題

半輪明月一枝梅  
長占無爲造物猜  
虛室白非由外得  
喻梅滿堂春不自天來  
弄丸手風花勢利須臾盡  
河海曾襟萬古開  
佳亦客至休論治亂事  
唐虞謙讓酒三盃

靜中聞松聲

老來浮念隨雲滅  
安命非關學有功  
髮盡何須憂鬢白  
尊空無意借顏紅  
善講自樂到頭齊得喪  
不爭誰復問雌雄  
亦名松風猶學高低態  
葉葉寒聲笑不同  
蓋以世變

憶牛溪

病時有書  
死後得見

一封書到淚漣漣  
病裏情言死後傳  
浩氣平生爭白日  
斯文此夕閉黃泉  
荷傾玉露三更月  
門掩秋江萬里天  
風物却隨人事變  
神交冥漠只依然

馬羊村

村多  
古迹

耕釣悠悠去不還  
綺黃非獨避狂秦  
花藏靈液沉丹井  
鶴啄餘香擣藥塵  
少日只期行此道  
暮年方信守天真  
東周夢斷追仙迹  
一臥空山萬樹春

文集  
冥漠作漠漠

控海堂

桃源來客本無期，偶繫孤舟宿翠微。  
思遠中海鶴夜歸松月靜，天仙朝下彩雲飛。  
波搖華表乾，坤大門接扶桑刻。漏遲興到長笛一聲秋色遠，半空疎雨落瑤碁。

批選龜峰先生詩集 卷之三



批選龜峰先生詩集 卷之四

五言絕句 十三首

文集  
松江下  
無板  
字

泉源驛樓次松江板韻

路窮南極海心逐日邊雲遙憶松江老清時掩竹門

原作

驛樓殘日酒征馬楚山雲樓下濺濺水隨人出洞門

雨夜

獨客耿無夢竹間山雨寒還如倚孤棹秋夜宿沙灘

詠捷霞寓客

念時生白髮閉戶落寒梅京友斷書札山禽惟去來  
感情

暮詠

五言絕句

脩竹翳寒烟涼生近夕天一身千里外無事是神仙

偶吟

我似梅花樹南移厭北還長安桃李日誰復問孤寒可慨

竹

遠保千年碧他時鳳下來三春能幾日桃李夢中開嘲俗而自高

南溪暮泛

一棹依芳渚千峰看白雲回頭換酒處花雨落紛紛歎時事易彰

又

文集歸棹作歸鳥

迷花歸棹晚待月下灘遲醉睡猶垂釣舟移夢不移心不為境所奪

靜坐

文集未形前下有小註數行

不出南程畔遊觀唯敬天心中無一物默契未形前擊壤舊氣

川上

長風吹夕霞微月動川華白露落高樹香生幽谷花

次韻

沉吟成一醉孤夢倚晴霞睡起香生石無風落晚花

祖師禪語

又

極目晴天外歸禽伴落霞

浩浩思

他鄉春又過飛盡洛陽花

江上

寒角斜陽外江村一二家乘桴吾豈敢滄海亦風波

憂時之懇

### 七言絕句 五十首

曉起

吹角孤城月影沉池荷香濕曉雲深幽人初罷秦關夢脉脉憑欄無限心

曉霽

秋空寥廓鳥驚棲餘滴玲瓏竹影低

新語

曉雲含雨歸前島落月猶留古堞西

秋夜

那堪千樹葉皆飛一別經秋夢亦稀家落

字有深意

海西消息斷月明何處搗寒衣

對梅懷人



迢遶江南信使稀幾宵歸夢月明時攀枝欲寄春風晚不是梅花舊意移思

流離中用謫仙韻

人語傷心殊處處山禽猶作故園啼語甚宛曲為傭笑未除前習老妾愁眉與案齊自比

又

欲祭吾親家萬里隔窓愁聽夜烏啼來時手植庭前樹聞道如今與屋齊

憶兄弟

今在何州望亦虛夢傳書信覺還無前提後哺當時事念及辛勤淚滿裾

又

心非一事書難盡居轉東南夢亦遶嗟我後生今白首共攀松栢更何時俱悲切

籠鶴為村童所傷

多情湖叟勤籠護無意街童擢羽毛恩怨世間渾不省碧霄歸夢政迢迢良以自悼

又

九臯清響反戕身飲啄無心近世塵軒上殊恩非所養更投砂礫是何人命意轉佳

見梅懷人

文集  
見梅作對梅

開何不早落何忙喻賢者不逢時昨夜狂風滿地香北望佳人頭欲白一年春盡又他鄉

過清溪峽用張潮韻

繁花飄落一溪紅白鳥雙飛錦繡中醉客無心尋道士小舟浮在去來風結亦別調

睡起

文集尊前作樽前

千里蓬飄六尺身十年虛負洛陽春尊前醉夢真吾土窗外青山是故人

廣寒前溪夜泛

滿缸風露夜淒淒何處青山杜宇啼烏鵲橋通銀漢水一天花月使人迷十分清麗

又

一溪移棹夜雲長兩岸幽花拂面香扶醉下缸渾不記夢回沙渚月盈裳

秋夜蓮堂

池荷蕩漾珠難定堤柳顛狂影不留月到晴天應更好片時風雨亦堪愁有憂患終必有喜

又

文集尊中作樽中簾外狂風落晚荷尊中綠酒漾微波世間揔是無情物休問傍人夜幾何逢憂患只當任之而已

又

風欲還時雨點稀一盃傾處百憂微回舟不待雲中月爲惜紅芳逐棹飛否去泰來亦可窮其樂

又

文集莫留思下有小註數行

玉盃美酒全無影雪頰微霞乍有痕無影有痕皆樂意樂能知戒莫留思戒故人以酒深遠四首皆用意深遠

次金希元黃山亭韻

文集琴尊作琴樽

散擲琴尊倚小亭池荷香動醉魂清沙明十里映疎雨日照千林猶晚晴

又

天容雲彩撼山亭石鑿方塘活水清休道此翁無可友一雙幽鷺下秋晴

又

秋光濃翠滴幽亭晚醉醒來枕簟清平遠清暢遙想夜深奇絕事一輪明月萬山晴

睡起郵亭

客夢頻驚聽早鷄曉天殘月影高低道平如砥愁辛苦風作飛塵雨作泥

不欲見人家兄勸見之敢題

靜中真味晚逾深微醉醒來柳轉陰琴自無絃絃不斷世間非謂少知音

謫在威城 龍御西移衣冠多死對鏡吟得以贈故人

洛陽花發春無主千里長沙作帝畿廻首昔年知舊裏幾人能得鬢邊絲所謂老亦不易者語甚悲愴

獨臥

何人能復濟生靈隱几堂中萬里情春夢半隨風雨散洛陽花月未分明方自多感

春晝

雲謠在手枕金疊夢裏尋仙醉未廻山鳥不鳴春寂寂閑花移影下層臺

化鶴樓

池面烟銷柳影齊一聲長笛夕陽低朱欄縹緲人猶醉仙夢初回海島西

新到經亂地次人

數村殘柳夕陽天芳草閑花覆古阡啼鳥一聲寒食後孤城何處見新烟何減隋州左司乎

山中

獨對千峰盡日眠夕嵐和雨下簾前偶然興到語耳邊無語何曾洗偶青鹿來庭飲碧泉

次擊壤韻

林間無物撓清懷天月流光入酒盃何處仙翁調鶴過數聲風笛落雲街

中秋月寄牛溪

本集  
來庭作來遊

文集  
數村作數株

文作  
紛續作紛紛

文集  
大平作太平

爲雲爲雨任紛續富貴繁華換主頻獨有中秋天上月年年依舊屬閑人況亦有

有感

花竹成生雨露天心期誰信雪霜前大平同樂非難事窮處方知雅守堅

贈人

午夜承歡下九天羅衣香帶御爐烟花容如昨恩還斷盛色休言未十年也

獨臥

入簾山色碧依依盡日微吟掩竹扉臥笑白雲無定態微甚既西何事又東歸以譏世人之喜翻覆

江上吟

耳聞目見殊深淺口說身行有易難爲學者說些功程戶外屢隨春夢散滿江風露一襲寒

又

先聖見心難見面世人知面不知心春風萬里無相問構得空中樓閣江月悠悠照玉琴

雪曉

鍾鳴古寺僧初起篷掩孤舟釣不歸一點孤松埋未盡獨看寒碧映朝暉也

無題

文  
集  
怨  
芳  
魂  
作  
有

荔支一個江南草連理無情半夜言男子幾人還固寵香羅巾下怨芳魂非謂妃子

曉起

鴈行零落江天遠姜被淒涼曉月寒十載弟兄雲外隔故山松栢夢中攀

贈同約避寇人

雲外行裝月一養輕舟隨處足生涯傍人錯訝漁郎至懶惰無心又種花用意甚好

尋連山新都

人和當日棄龍盤仙迹猶存萬歲山回首漢南春寂寂夕陽高掛五雲寒

病中寄人

病怯秋聲簾不開懶懶可想隔簾看月月應猜年年減却前年事誰對黃花把酒盃

曉起

幽夢初回海日明落花啼鳥掩山扃白雲深處堪伸脚誰向君門作客星未免俗態

朝起獨坐

春花落盡曉窓寒唯放風琴出竹關清冷泓澄白雲來宿還歸去應恁經年不下山

望月

未圓常恨就圓遲  
圓後如何易就虧  
三十夜中圓一夜  
百年心事摠如斯

詠閑

微吟徐步養天真  
盡日山中不見人  
松上白雲松下水  
世間高致在清貧

獨臥

芳草如烟對鹿眠  
落花流水夕陽邊  
無爲更覺爲真樂  
誰信閑中別有天

在自

見地圖黃河水有感

禹跡荒涼不可尋  
見清何日只長吟  
臨流有歎無人識  
萬古誰傳未濟心

寓意甚厚

偶吟

千峯白雪靜無塵  
一炷香烟伴此身  
山外催租官事急  
不知人世有閑人

批選龜峰先生詩集

卷之四

# 批選龜峰先生詩集 卷之五

## 外 錄 四十七首

### 遊南嶽

衣草人三四於塵世外遊併洞深花意懶山疊水聲幽斷嶽盃中畫長風袖裏秋白雲巖下

起歸路駕青牛

### 雲庵次友人韻

連宵寒雪壓層臺僧到何山宿未廻小榻香燒靈籟靜獨看晴月過松來

### 龜山道中

無心進取坐忘行秣馬松陰聽水聲後我幾人先此路各歸其止又何爭少日已具道眼

### 宿江村

過飲村醪臥月明自宿雲飛盡曉江清便脫同行催我早歸去恐被主人知姓名此儘絕倡

箕雅山忘山行坐  
山行忘山坐  
忘行忘坐  
陰聽水聲後  
我幾人先我  
去各歸其止  
又爭



有思

學古生今世莫親杜門非爲病纏身已自空洲漠漠起幽思芳草萋萋愁遠人尊酒莫辭連

日醉風花難住一年春有晚來琴弄猗蘭曲栗里深憂不在貧甚適

龜山道中

過盡前溪宿雨晴海棠花色漸分明點綴籬邊細草眠黃犢牧笛時聞弄大平淡雅

宿山寺

坐對孤僧兩不寐焚香一夜聽蕭蕭曉雲滿壑歸無路童子開門掃石橋

立春後

靜榻初驚日影差觀書還喜晝功多庭梅春意無偏化不別南柯與北柯

七月初一日

乙巳終天痛于今二十秋年年今日淚一一爲民流

曉行

夷險無人問高低任馬行鳴鍾何處寺流水隔林聲語有徑轉孤星沒天開遠岫生入遙看

滄海日此路喜重明理窟

本集  
作寒鍾

本集  
無歸路

宮怨

文集  
青天作黃昏

幾處承驩樂未休夜深歌管向西樓  
宮中一樣青天月纔到長門便作愁

詠君山鐵笛

文集  
柴荆作紫荆

鐵笛柴荆曲洞庭湖上山引風經  
鴈背和月落雲間數閱腸能斷  
三成鬢欲斑孤舟何處客  
千里未曾還

曉詠

曉露霑花滴滴香入簾  
山色滿衣裳柴扉日上無人喚  
不信塵寰萬事忙

偶吟

人間悲白髮天外望仙槎  
芳草起嵐氣夕風增水波  
已自  
蒼憚長空獨鳥沒落日青山多  
高  
古野立  
有遙想幽期無奈何

宿水鍾寺

斜陽橫笛入孤寺眼力無窮思  
渺然軒倚龍門山上月窓開斗尾  
水中烟雲含夜雨樓層砌  
風引晨鍾落九天兩道漁燈分小  
嶼逆灘多少未歸舡

郊居述懷

數滴梧桐雨高眠曉氣清家貧花自發人臥草偏生幽思冷然寂寞心無累繁華夢亦驚省中真

有悟身外總虛名已有自家意

贈叔獻家相逢詩釋

為訪詩仙到洛中烟霞猶惹下山筇無端夜雨梅花發夢入清溪第幾峰

宿楮子島

舟泊春灘下眠依躑躅花香烟迷醉夢風露滴漁蓑未曉人猶語回橋月欲斜計程知幾夜

雲水入無涯

文集  
弗蒼作茅蒼

雜詠

日過茆簷掩短扉叩冰炊食午烟遲不知夜雪埋寒竹步出東橋問小兒

觀瀾臺

飄落平丘夜花連斗尾春半江殘月影孤棹獨眠人開天是灘急聲依枕山長翠濕巾沙禽驚

短語下一字  
別

短夢曙色起青蘋楚楚短語  
醒人嘆

讀孟子說滕以井田之制掩卷有感

商周寂寞困蒼生孟氏當年志未成儂後橫渠嗟又遠謾將王制付殘經大志

尋老隱丈

即鵝溪嚴君也

繫纜清江曲騎驢日欲斜一溪南北岸垂柳兩三家

隱約如畫

野鹿眠芳草山禽落晚花

亦清幽

居知漸近小路入晴霞

又

一水面通萬疊山閑花浮出碧雲間

佳境

幽人採藥前山去芳草連溪掩竹關

無題

一行垂柳掩紅簷畫罷雙眉月樣纖自折嬌花嘲外客伴羞還下水精簾

意諳世習

文集嘲外作調外

田家

映水疎籬三四家微風吹送小桃花田翁排戶望官道兒子不來山日斜

曉

童子穿林叩薄冰慙慙烹茗留去歸僧主人窓下足春睡山外不知朝日昇

謝人寄花

仙壺貯得清江水插寄寒香病臥家堪笑一春渾似夢夢中還對夢中花

文集還對作還待

桃村晚起宿客已歸矣

春鳥催人睡起遲日高猶未啓山扉閑致可想閑居寂寞休烟火慚愧詩仙半夜歸

楮子島次友人

弄月平湖懶上山滿缸風露一蓑寒峭而亮醉來歸臥松根石盡夜無眠聞遠灘

江上別詩僧

白鷗同伴宿孤島夜雲隈笠重西郊雪筇香古寺梅格是標外尋真忘歲月留鶴守蓬萊語行止

皆無地從今幾日廻

去喪同兄弟侍母獻盃

泣血三年未死身還將絲管慰孀親海山秋色渾依舊含淚相看白首人情切動人

雜詠

門閑獨鳥下空庭人臥松陰醉未醒邊字妙而琢水有花風政急春光流過幾山青思甚淵未易到處

日夕寄人

危樓寂寞倚斜暉芳草連天靄所思人斷小橋垂柳合眼窮孤堞暮鴉遲懷君萬里此時恨

長笛一聲何處吹滿掬幽蘭無可贈白頭惆悵少相知非唐非宋自穠自亮

夜行

文集  
西郊作  
西村  
郊一作

風雪窮山路騎牛夜獨過村遙深見火江靜逾聞波幽雅

宿山寺曉出

萬壑雲生去路迷一聲清磬斷橋西清思人前林月落僧歸院獨上層巖聽曉溪

下山

殘夜鳴清磬携筇下碧山巖花猶惜別隨水出人間

暮江獨坐

憑高心思政茫茫塵世空悲雙鬢蒼望眼欲窮暮帆遠鳥飛不盡秋江長何等平沙烟氣沒

孤島古寺鍾聲來夕陽亦自清遠吟罷悠然迷去路黃花坐久衣生香結響較緩

送僧謁蘇齋

相思一夜鬢毛斑雲水迢迢道路難落葉滿城僧獨去不堪秋日下前山

舟中睡起

棹歌一曲廣陵西芳草萋萋日欲低過盡名山渾不省夢隨流水入晴溪

次韻謝人來訪

海曲飛黃葉柴扉掩落暉道心塵外見人事靜中稀造理鳥入連天水雲生坐石衣有別般思山深

文集  
此詩無

前路遠匹馬慎君歸

秋暮

策策鳴黃葉寥寥傷我心  
暗雲隱夕月獨樹來棲禽  
韋錢淡韻 入戶近明燭對書空正襟追思昔  
年志白首愧如今

山居

雨過山逾靜佳境便風閑柳倍垂雅妙泛花流水慢看下他字擇樹鳥聲移極雅幽病久人來少居閑日  
過遲無心年去住不賦送春詩

偶吟

長堤雲卷露初晞  
溪水分流小柳垂  
行見好花無意賞  
偶逢樵者不因期  
閑遠自在 由來心上營  
爲息更覺山中日月遲  
親舊風塵多佩綬  
浮名贏得鬢邊絲

次栗谷韻

微霜一夜早涼生  
千樹隨風落葉輕  
窗外孤松籬下菊  
無情還似有深情

原韻

風塵局促二毛生  
一葦歸來萬事輕  
江上秋山相不厭  
世間交道在無情

文集  
局促作局束

文集  
雲卷作雲捲

謝人送菓

嚼未吞之可傲仙花開何必待三千囊歸海上吾多計莫學林中鑽核賢

獨坐

隱几愁將夕秋陰滿小樓流螢欺白日穿樹各爭頭指有

纍在秋府

年踰四十心初定素位猶存死亦安義與義經論未易仁深湯網解何難辭意甚鮮腴一生身服

古人禮三日頭無君子冠諷落盡春花山下宅曉天歸夢水雲間甚閑暇

附和韻

閱世身登百尺竿目觀尖物已能安明夷隨處稱停熟義理何言運用難斷斷夏侯猶授學  
肫肫由也又纓冠祝望極尊丁寧一誦古人事泣向吾兄伯仲間  
牛溪



批選龜峰先生詩集

卷之五

詩本性情隨感而發其善惡之不可掩昭々也誦其詩讀其書而不知其人可乎先師平日  
讀聖賢書講說程朱以小學自律文詞特其緒餘耳迹其詩高雅簡逸悠然自得皆自學問  
中出非吟風詠月者之所可髣像其萬一信有德者之言也惜其坐與栗谷牛溪松江相善  
重被媚嫉者移怒巧設禍機擠陷不測坎軻不容於世而終人心之險乃如此可懼也夫詩  
集見拋久同門友沈君士敬爲鴻山之數月卽刊行之庶或有後世子雲能知之耳

皇明天啓二年壬戌七月 日

門生光山後人金長生謹跋



余不得見龜峰而得龜峰詩稿於竹西所見之真所謂一唱三嘆而有遺音者也才高而意曠趣逸而調絕出於性情而不侈以文也根於天得而不絢以色也紆乎其餘也泰乎其舒也和平寬博之旨不失於羈窮流竄之際優游涵泳之樂自適於風花雪月之間其庶乎安時處順哀樂不能入者矣竹西云材取盛唐故其響清義取擊壤故其辭理余觀之信然恨不及其在世時提安樂窩中經世大法一討之九原不可作噫

天啓二年孟秋上浣

東陽申欽書于黔浦書舍

